

平成 29 年度 厚生労働省
子ども・子育て支援推進調査研究事業

課題番号 14

「里親家庭における養育実態と
支援ニーズに関する調査研究事業」

報 告 書

事業担当者 伊藤嘉余子
(大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科)
2018(平成 30)年 3 月

平成 29 年度 厚生労働省
子ども・子育て支援推進調査研究事業

課題番号 14

「里親家庭における養育実態と
支援ニーズに関する調査研究事業」

報 告 書

事業担当者 伊藤嘉余子
(大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科)
2018(平成 30)年 3 月

目 次

序 章 研究事業の背景と事業要旨	1
1. 研究の背景と問題の所在	1
2. 本事業の目的と期待される効果	1
1) 本事業の目的	
2) 期待される効果等	
3. 本事業の実施内容	2
4. 本事業の実施体制	4
 第 1 章 里親家庭における養育実態と支援ニーズに関するアンケート調査	5
1. 調査目的	5
2. 調査方法	5
3. 調査結果 1：里親家庭の状況・満足度	5
1) 回収率と有効回答率	5
2) アンケートのご記入者	5
3) 里親家庭の状況	6
4) 現在受託している里子の特徴	11
5) これまでの里親経験	12
6) 里親世帯の平均月収	16
7) 里親になろうと思った動機	16
8) 未委託期間	17
9) 里親への養育支援の状況について	18
10) 里親と里子の状況	25
11) 里親不調	31
12) 里親・里子アウトカムにおける相関関係	32
13) 里子が 1 人の家庭における里子の就学状況と 里親・里子アウトカムとのクロス集計	34

4. 調査結果 1 の考察	40
1) 里親家庭の状況	40
2) 里親の幸福度・満足度・負担感	44
5. 調査結果 2：里親家庭の家計収支の状況	46
1) 回収率と有効回答率	46
2) 里子の現在の年齢	46
3) 里子の現在の就学状況	47
4) 平成 29 年 11 月の 1 ヶ月間に支給された里親委託にかかる 委託費の収入の状況	47
5) 平成 29 年 11 月の 1 ヶ月間の里親委託児童にかかる支出（教育関連）	49
6) 住まいと設備投資	52
7) 通信関係の費用	52
8) 自立支援（アフターケア）に向けての預貯金の有無	53
9) 特別な出費	53
6. 調査結果 2 の考察	56
1) 里親委託にかかる委託費の収入と里親委託児童の教育関連にかかる支出	56
2) 住まいと設備投資	57
3) 通信関係	57
4) 自立支援（アフターケア）にむけての預貯金の有無	57
5) 特別な出費の実際	58
章末資料（1）調査結果 2：里子 1 人世帯における調査結果	59
章末資料（2）調査結果 2：里子 2 人世帯における調査結果	85

第2章 里親養育の実態と支援ニーズに関するインタビュー調査……………172

1. 調査の目的	172
2. 調査の方法	172
1) 調査対象と方法	172
2) 調査内容	174
3) 倫理的配慮	174

3. 調査結果	175
I. 里子の特性に起因する養育支援ニーズ	175
事例1 実親への思いが強い発達障がいの子どもの養育	175
事例2 共働き里親による発達障がいの子どもの養育	177
事例3 発達障がいと愛着の問題を抱える子どもの養育	179
事例4 学習面でのつまずきから不登校になった子どもの養育	181
事例5 不登校や非行などの行動上の問題のある子どもの養育	183
事例6 試し行動や反社会的行動が多い里子の長期養育	185
事例7 性的虐待の被害による影響を抱えた子どもの養育	187
事例8 不十分な生活力、人間関係形成力への働きかけ	189
II. 里親家族内の関係性に起因する支援ニーズ	191
事例9 同じ年齢の里子養育で生じる子ども同士の葛藤	191
事例10 愛着障がいと思われる幼児と実子の子育ての両立	193
事例11 委託後に実親との交流が始まった里子の養育	195
事例12 実親との接点があり、家庭支援を行っているケース	197
事例13 長期養育前提で受託した里子への真実告知と親子関係構築	199
事例14 実母との交流、委託解除後も親子との関係を継続した養育	201
III. 里親種別に起因する支援ニーズ	203
事例15 他施設や里親家庭からの措置変更を経験した親族の子の養育	203
事例16 里親として育てることへの決断から生じた葛藤	205
事例17 複数の子どもを養育する養育（親族）里親	207
事例18 一時保護委託を長期間に渡って定期的に受託	209
IV. 経済的支援ニーズ	211
事例19 大学進学を目指す里子の養育	211
事例20 子どもの器物破損により弁償が必要な状況での養育	213
V. 委託のプロセスで発生するニーズ	215
事例21 登録からマッチング期間における時間/経済/心理的負担	215
事例22 激しい子どもの試し行動と向き合い育てるための支援ニーズ	217
事例23 里親から里親への措置変更で生じる支援ニーズ	219
事例24 「里親養育」と「子育て」の間に生じる葛藤	221
事例25 短期の乳児の養育から特別養子縁組に至った里子の養育	223
VI. 委託解除後の支援ニーズ	225
事例26 里親不調で委託解除になった後の支援ニーズ	225
事例27 委託解除後の里親の感情のコントロールや里子ロスへのケア	227
事例28 委託解除後の里子へのアフターケア、実家役割	229

4. インタビュー調査結果の考察	231
1) 事例の分類ごとにみえてきた課題	231
(1) 里子の特性に起因する養育支援ニーズ	231
(2) 里親家族内の関係性に起因するニーズ	232
(3) 里親種別に起因するニーズ	233
(4) 経済的支援ニーズ	234
(5) 委託のプロセスで発生するニーズ	234
(6) 委託解除後の支援ニーズ	236
2) インタビュー調査全体の考察	238
(1) 里親に委託される子どもの抱える課題の深刻さ	238
(2) 里親研修や里親類型の見直しの必要性	239
(3) マッチングから委託後支援までのケースワークの課題	240
(4) アウトリーチ型の委託後支援の重要性	241
(5) レスパイトケアの周知と活用	242
(6) 保護的なセーフティ・ネットワーク	243

終 章 本研究の結論と今後の課題.....244

1. 本調査研究の総合考察	244
1) 高齢児童を養育する里親に対する支援の充実の必要性	244
2) 委託期間外（委託前/委託解除後）の支援の充実の必要性	244
3) 委託前の里親/子どもに関するアセスメントのあり方の検討	245
4) 里親が支援を活用しながら里子の養育を続けられるような仕組み作り	246
2. 本調査研究の限界と今後の課題	247
1) 本調査研究の限界	247
2) 今後の課題	247
3. 本調査研究事業の成果の公表方法	248

謝 辞.....249

巻末資料.....250

1. アンケート調査票	251
2. インタビューガイド	263

序 章 研究事業の背景と事業要旨

1. 研究の背景と問題の所在

2016（平成 28）年 3 月 10 日、「新たな子ども家庭福祉のあり方に関する専門委員会報告（提言）」がとりまとめられ、里親制度の充実・強化の必要性が示された。また、同年の通常国会で成立した改正児童福祉法において、家庭における養育が困難または不適切と判断される場合には、まず里親委託を優先的に検討する旨が示されるとともに、里親開拓から委託児童の自立支援まで、一貫した里親支援を行うことが、都道府県（児童相談所）の業務として位置づけられた。

さらに、2017（平成 29）年 8 月には「新しい社会的養育ビジョン」が発表され、社会的養護を必要とする子どものうち 3 歳未満児については 5 年以内、それ以外の未就学児については 7 年以内に里親委託率を 75%以上にするとともに、学童期以降の子どもについては 10 年以内に 50%以上とするという目標値が示された。

里親委託を推進していくためには、社会的養護を必要とする子どものニーズに応えることのできる多様な里親の確保が必要であり、里親の質・量の両面からの拡充が必要である。さらに、現在既に委託児童を養育している里親への支援を含めた里親支援体制の拡充も大きな課題である。

里親委託（家庭養護）が推進される中、被虐待児童や障がいのある児童等、養育が困難な児童が増加し、こうした児童が里親に委託されるケースも増加しており、きめ細やかな里親支援が必要とされている。また、短期の委託や一時保護委託で直面しやすい課題、長期養育委託ケースで直面する課題など、個々の養育家庭のニーズに即した適切な支援が必要である。

2. 本事業の目的と期待される効果

1) 本事業の目的

上記のような背景を踏まえ、本研究事業では、全国で実際に里子の養育を受託している里親家庭を対象に、里親家庭における養育の実態把握および支援ニーズの把握と分析を目的として調査を実施する。

量的調査によって、全国的な傾向や全体像等を把握するとともに、抽出した家庭を対象としたインタビュー調査を実施することによって、里親が養育プロセスで直面しやすい課題や求めている支援等について詳細に把握することを目指す。

さらに、里親種別や、委託されている児童の背景（年齢や特性など）、里親家庭の家族構成（実子の有無など）等についても整理し、各里親家庭が必要とする支援に確実につながることができるような里親支援体制のあり方について考究したいと考える。

2) 期待される効果等

本調査研究事業を通して、里親養育の実状について具体的かつ詳細に把握することによって、里親家庭の子どもや里親たちが置かれている状況が明らかになり、必要な支援や施策の改善すべき点等が詳らかになると考える。

また、里親家庭の状況（里親/子の年齢、里親の就労状況、委託期間、実子の有無、地域資源など）と、把握された支援ニーズの内容とを照合し、分析することによって、個々の里親家庭の状況に応じた支援のあり方について検討することができると考える。

3. 本事業の実施内容

本研究事業では、以下の3つの調査研究事業を実施した。

- (1) 「里親家庭における養育実態と支援ニーズに関する検討会」の設置
- (2) 全国の養育受託中の里親を対象とした、養育実態を把握するためのアンケート調査
- (3) 養育受託中の里親を対象とした、養育実態や支援ニーズを把握するためのインタビュー調査

(1)「里親家庭における養育実態と支援ニーズに関する検討会」の設置

本事業を円滑かつ有機的に実施するために、本調査研究対象となる里親、里親支援に関する実践者、里親をはじめとする社会的養護に明るい学識経験者で構成する「里親家庭における養育実態と支援ニーズに関する検討会」（以下、検討会）を設置した。検討会構成メンバーは、表：序-1のとおりである。

本検討会は合計5回開催した。開催日時と内容については、表：序-2に示したとおりである。

表：序-1 里親家庭における養育実態と支援ニーズに関する検討会メンバー

氏 名	所 属
伊藤 嘉余子	大阪府立大学 教授
野口 啓示	福山市立大学 准教授
福田 公教	関西大学 准教授
石田 慎二	帝塚山大学 准教授
小池 由佳	新潟県立大学 准教授
千賀 則史	名古屋大学 ハラスメント相談センター 講師
石田 賀奈子	立命館大学 准教授
安藤 藍	首都大学東京 助教
梅原 啓次	大阪市里親会会長 専門里親
新邨 晃子	大阪府東大阪子ども家庭センター 育成支援課長
瀬里 徳子	福岡市こども総合相談センター こども支援課里親係長
橋本 直子	児童養護施設アメニティホーム広畑学園 里親支援専門相談員
木内 さくら	大阪水上隣保館乳児院 里親支援専門相談員
島谷 信幸	乳児院聖母託児園 児童指導員
岩佐 和代	大阪市こども相談センター 相談支援担当課長代理
姜 民護	同志社大学 助手
高橋 順一	同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程

表：序-2 里親家庭における養育実態と支援ニーズに関する検討会

	日程	会場	内容
1	2017 年 7 月 29 日（土）	大阪府立大学 I-site なんば	○本研究事業の目的と内容の確認 ○里親支援に関する現状と課題 ○アンケート調査の項目の検討 ○インタビューガイドの検討
2	2017 年 8 月 26 日（土）	大阪府立大学 I-site なんば	○アンケート調査票の検討 ○調査協力依頼の方法の検討 ○インタビュー調査対象とする事例の検討
3	2017 年 11 月 26 日（日）	大阪府立大学 I-site なんば	○インタビュー調査結果の報告 ○インタビュー調査の進め方の確認 ○アンケート調査の進捗状況報告
4	2018 年 1 月 27 日（土）	大阪府立大学 なかもず キャンパス	○アンケート調査の単純集計結果の報告 ○インタビュー調査結果の報告 ○インタビュー調査の事例分類の再検討
5	2018 年 3 月 4 日（日）	大阪府立大学 I-site なんば	○インタビュー調査結果のまとめ方の確認 ○アンケート調査クロス集計結果の考察 ○報告書の執筆分担

(2) 全国の養育受託中の里親を対象とした、養育実態を把握するためのアンケート調査

全国の里親会の支部等の協力を得て、現在、委託児童の養育を行っている里親を対象としたアンケート調査を実施した。詳細は第 1 章において述べる。

(3) 養育受託中の里親を対象とした、養育実態や支援ニーズを把握するためのインタビュー調査

検討会メンバーが関係する自治体や里親会を中心に協力を得て、現在、委託児童の養育を行っている里親を対象としたインタビュー調査を実施した。詳細は第 2 章において述べる。

4. 本事業の実施体制

先述した検討会メンバー間で役割分担をして、表：序-3 のような体制で、本事業を実施した。

表：序-3 本事業の実施体制

事業責任者：伊藤嘉余子	
アンケート調査班 ◎野口 啓示 石田賀奈子 高橋 順一 姜 民護 島谷 信幸	インタビュー調査班 ◎福田 公教 千賀 則史 安藤 藍 小池 由佳 石田 慎二 伊藤嘉余子
考察・分析・助言等 新籾晃子、梅原啓次、瀬里徳子、岩佐和代、橋本直子、木内さくら	

第1章 里親家庭における養育実態と支援ニーズに関するアンケート調査

1. 調査目的

本調査では、全国で実際に里子の養育を受託している里親家庭を対象に、里親家庭における養育の実態把握および支援ニーズの分析を目的としてアンケート調査を実施した。

これらの目的を達成するため2部構成のアンケート用紙を作成した。第1部では、里親家庭の状況（里親・子の年齢、里親の就労状況、委託期間、里子の障がいや被虐待経験の有無など）や里親支援の状況、および満足度を尋ねた。また、第2部では、家計の収支の状況を尋ねた。2017（平成29）年11月1日～11月30日までの1か月あたりの収支の状況を答えていただいた。

2. 調査方法

郵送法によるアンケート調査を実施した。実際に里子の養育を受託している全国の里親家庭4,000か所に「里親家庭における養育実態と支援ニーズに関するアンケート調査票」を配付した。アンケート調査票は全国の里親会支部66か所に協力してもらい、各会員の里親宅へ配付していただいた。2017年11月の第2週に各里親会から発送してもらった。2017（平成29）年11月8日～2018（平成30）年1月10日までに返送いただいたものを分析対象とした。なお、倫理的配慮については、大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科設置の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

3. 調査結果1：里親家庭の状況・満足度

1) 回収率と有効回答率

1,726家庭から回答を得た。回収率は43.2%であった。しかし、第2部の家計の収支の状況を尋ねたアンケートで委託費の合計が非常に高くファミリーホームだと考えられる回答者や、里子の年齢が20歳を超えている回答等を除くデータクリーニングを行った結果、有効回答としては、1,214家庭そして有効回答率は30.4%となった。

2) アンケートのご記入者

里母が896人（74.4%）となった。里親を対象としたアンケートを実施した場合、里母が答える傾向にあるが、本アンケートも同様の結果を示した。

表1-1 アンケートのご記入者

アンケート ご記入者	里母	里父	その他
人数	896	292	16

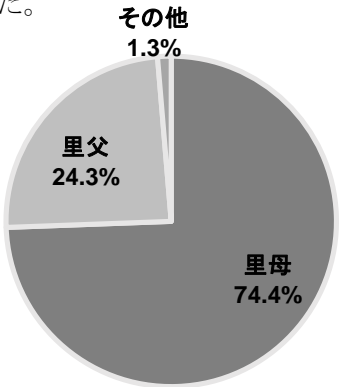


図1-1 アンケートのご記入者

3) 里親家庭の状況

(1) 里母の年齢・就労・最終学歴

(1-1) 里母の年齢

年齢は40代が405人(33.8%)と一番多かったが、50代も401人(33.4%)であった。その次が60代(254人、21.2%)となっており、30代(75人、6.3%)・20代(3人、0.3%)といった若い世代が少なかった。

表1-2 里母の年齢

里母の 年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70歳 以上
人数	3	75	405	401	254	61

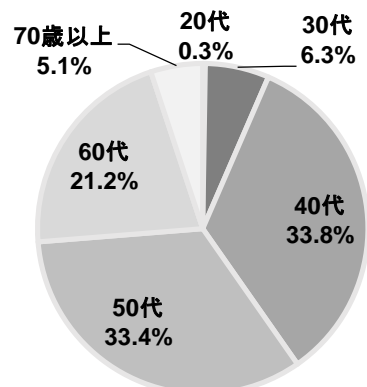


図1-2 里母の年齢

(1-2) 里母の就労状況

無職(専業主婦を含む)が一番多く、554人(46.3%)であった。しかし、正社員が139人(11.6%)、自営業が138人(11.5%)となっており、パート・アルバイトなどの非正規雇用で働いている人(311人、26.0%)を含めると49.1%の人が働きながら里子養育を行っていることが示された。

表1-3 里母の就労状況

里母の 就労状況	正社員	パート・アルバイト などの非正規雇用	自営業	無職 (専業主婦 を含む)	学生	その他
人数	139	311	138	554	0	55

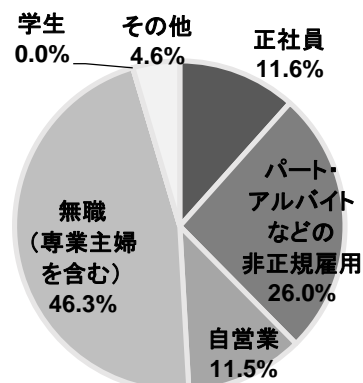


図1-3 里母の就労状況

(1-3) 里母の最終学歴

里母の最終学歴については、短期大学(専門学校・高等専門学校を含む)が489人(40.9%)と一番多く、次いで高等学校が371人(31.0%)、大学が242人(20.2%)となった。

表1-4 里母の最終学歴

里母の 最終学歴	中学校	高等学校	短期大学(専門学校・ 高等専門学校を含む)	大学	大学院	その他
人数	42	371	489	242	37	16

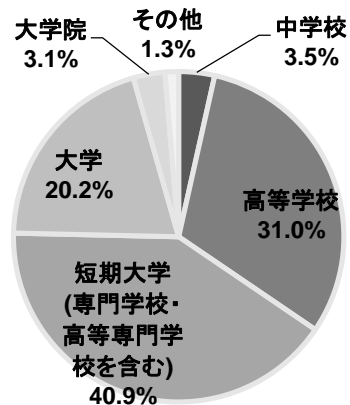


図1-4 里母の最終学歴

（２）里父の年齢・就労・最終学歴

（２－１）里父の年齢

年齢は50代が347人（30.7%）と一番多かった。次いで、40代323人（28.6%）、60代283人（25.0%）となった。30代（73人、6.5%）・20代（0人、0%）と、里母と同様に若い世代が少なかった。

表1-5 里父の年齢

里父の 年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70歳 以上
人数	0	73	323	347	283	104

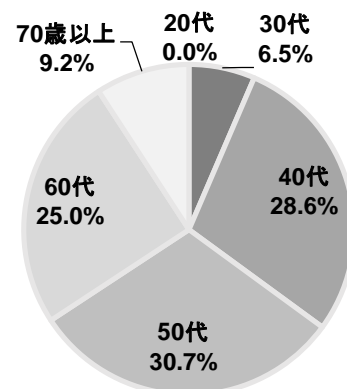


図1-5 里父の年齢

（２－２）里父の就労状況

会社員が一番多く、600人（53.0%）であった。次いで、自営業の231人（20.4%）となり、パート・アルバイトなどの非正規雇用で働いている人が84人（7.4%）、無職が96人（8.5%）となっていた。パート・アルバイトや無職の人は定年退職後に年金で暮らしているのではないかと考えられる。

表1-6 里父の就労状況

里父の 就労状況	正社員	パート・アルバイト などの非正規雇用	自営業	無職 （専業主婦 を含む）	学 生	その他
人数	600	84	231	96	1	120

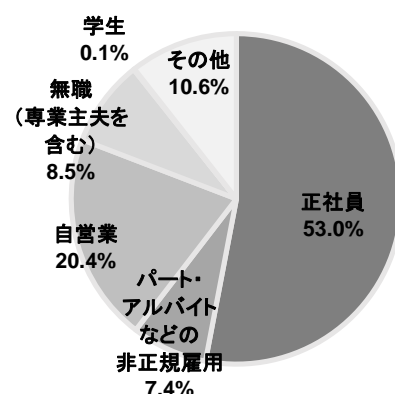


図1-6 里父の就労状況

（２－３）里父の最終学歴

里父の最終学歴については、大学が433人（38.3%）、次いで高等学校が400人（35.4%）となった。短期大学（専門学校・高等専門学校を含む）は168人（14.9%）、大学院は63人（5.6%）であった。

表1-7 里父の最終学歴

里父の 最終学歴	中学校	高等学校	短期大学（専門学校・ 高等専門学校を含む）	大学	大学院	その他
人数	56	400	168	433	63	10

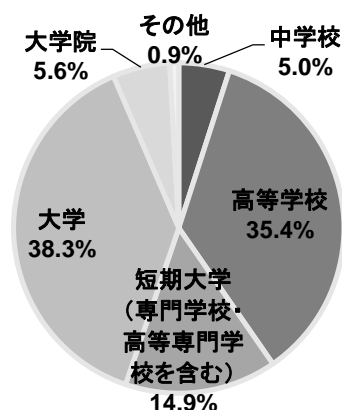


図1-7 里父の最終学歴

（３）里親登録年とその時の里親の年齢について

（３－１）里母の里親登録年

里母の里親登録年を見てみると、里親委託を優先する方針が出される 2011 年前後から右肩上がりに上昇しているのがわかる。2016 年の登録数は 122 件と過去最高を示した。また、登録年数を見てみると、戦後から昭和の後期にかけて登録をされたという方が 50 名ほどおられた。

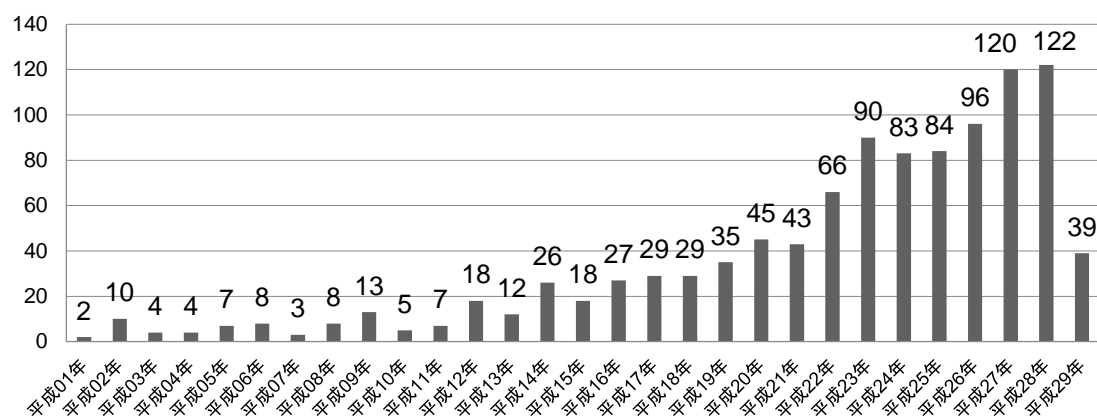


図1-8 里母の里親登録年

表1-8 里母の里親登録年

里親登録年	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
	平成01年	平成02年	平成03年	平成04年	平成05年	平成06年	平成07年	平成08年	平成09年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
人数	2	10	4	4	7	8	3	8	13	5	7	18	12	26	18
里親登録年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	
人数	27	29	29	35	45	43	66	90	83	84	96	120	122	39	

（３－２）里親登録時の里母の年齢

里親登録時の年齢は 40 代が 587 人（50.1%）と一番多かった。次いで 30 代と 50 代がともに 240 人（20.5%）となっていた。20 代や年齢の高い 60 代・70 代での登録という方もおられた。

表1-9 里親登録時の里母の年齢

里母登録時の年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
人数	20	240	587	240	75	10

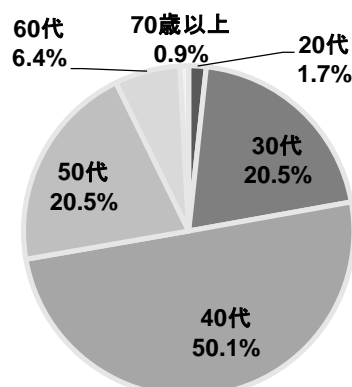


図1-9 里親登録時の里母の年齢

(3-3) 里父の里親登録年

里母と同様に、2011 年前後から右肩上がりに登録数が伸びていた。2016 年の登録数は 109 件となっていた。戦後から昭和の後期にかけて登録されたという方が 25 名ほどおられた。

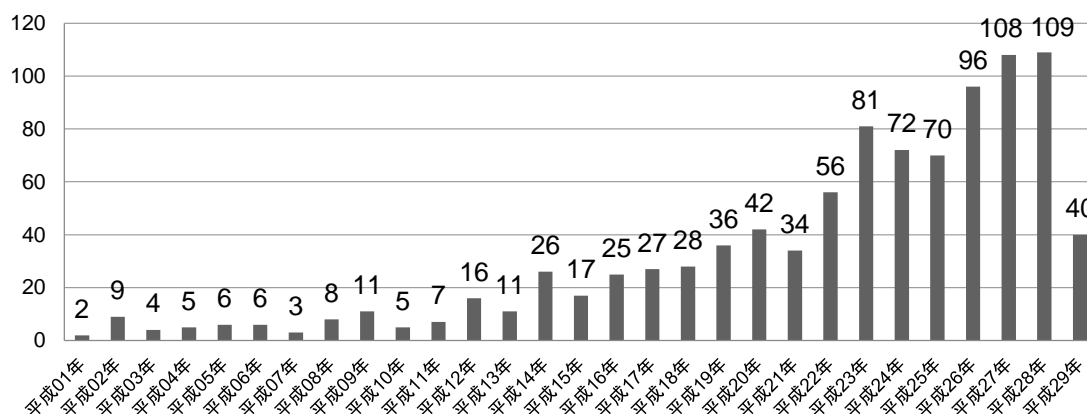


図1-10 里父の里親登録年

表1-10 里父の里親登録年

里親 登録年	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
	平成 01年	平成 02年	平成 03年	平成 04年	平成 05年	平成 06年	平成 07年	平成 08年	平成 09年	平成 10年	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年
人数	2	9	4	5	6	6	3	8	11	5	7	16	11	26	17
里親 登録年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	
人数	25	27	28	36	42	34	56	81	72	70	96	108	109	40	

(3-4) 里親登録時の里父の年齢

里父の登録時の年齢も 40 代が多く（497 人、46.4%）、次いで 50 代の 249 人（23.2%）、30 代の 202 人（18.9%）となった。里母と同様に 20 代や 60 代・70 代で登録された方もおられた。

表1-11 里親登録時の里父の年齢

里父登録時の 年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70歳 以上
人数	12	202	497	249	98	13

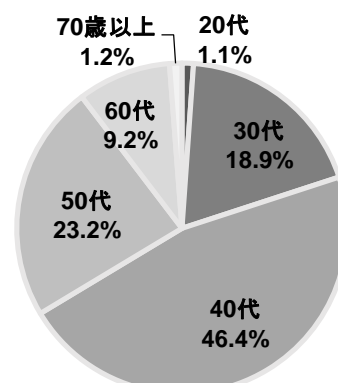


図1-11 里親登録時の里父の年齢

（４）現在、登録している里親種別（複数回答）

養育里親が 1,045 人、次いで養子縁組里親が 345 人、専門里親が 126 人、そして親族里親が 55 人となった。

表1-12 現在、登録している里親種別

現在、登録されている 里親種別	養育 里親	専門 里親	親族 里親	養子縁組 里親
人数	1045	126	55	345

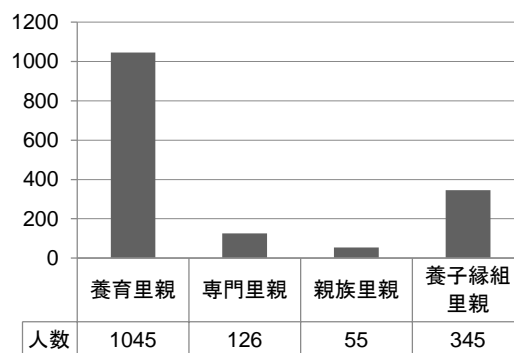


図1-12 現在、登録している里親種別

（５）同居している家庭構成

同居している家庭構成を見てみると、3 人が 477 家庭と一番多く、次いで 4 人が 264 家庭、5 人が 142 家庭、6 人が 58 家庭となった。比較的サイズの小さい家庭で里子が養育されていることが示された。

表1-13 同居している家庭構成

同居人数	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	13人
人数	477	264	142	58	30	24	9	7	2

表1-14 同居人数の平均値等

同居人数	
平均値	4.07
標準偏差	1.454
最小値	3
最大値	13

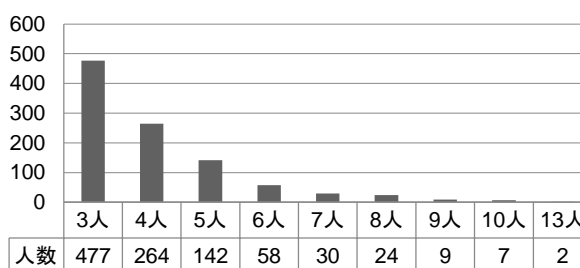


図1-13 同居している家庭構成

（６）現在受託している里子の人数

1 人を受託している里親が一番多く 910 人、次いで 2 人の 217 人となった。3 人では 26 人と数は激減した。

表1-15 現在受託している里子の人数

現在、受託している 里子の人数	1人	2人	3人	4人
人数	910	217	26	9

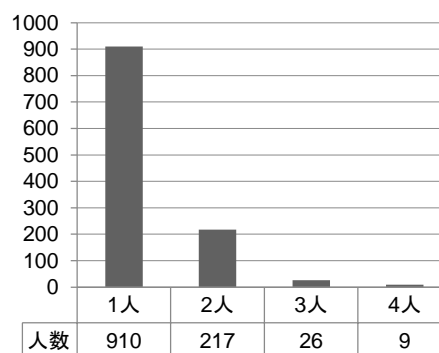


図1-14 現在受託している里子の人数

4) 現在受託している里子の特徴

(1) 現在受託している里子の性別

性別は男児が 789 (52.4%)、女児が 716 (47.6%) であった。

表1-16 現在受託している里子の性別

現在、受託している 里子の性別	男	女
里子数	789	716

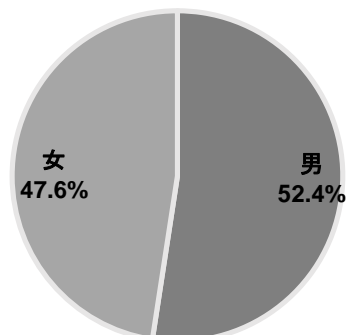


図1-15 現在受託している里子の性別

(2) 現在受託している里子の年齢

3～5 歳の里子が多いようであるが、どの年齢にもあまり人数の差がみられない。これは厚生労働省から報告されるプロフィールと一致している。なお、平均値は 8.9 歳（標準偏差は 5.63）であった。

表1-17 現在受託している里子の

年齢の平均値等

平均値	8.9
標準偏差	5.63
範囲	0～19 歳

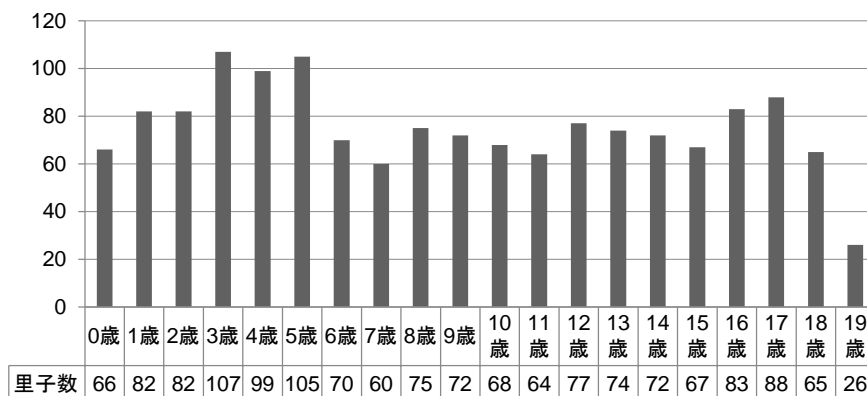


図1-16 現在受託している里子の年齢

(3) 現在受託している里子の受託時の年齢

里子の受託時の年齢は 0～4 歳が多かった。一番多いのは 0 歳の 269 人で、次いで乳児院からの措置変更が多い 2 歳が 216 人と多かった。年齢とともに、委託される人数は減っていくが、高校に進学する 15 歳で少し人数が増えていた。

表1-18 現在受託している里子の受託時の

年齢の平均値等

平均値	5.0
標準偏差	4.94
範囲	0～18 歳

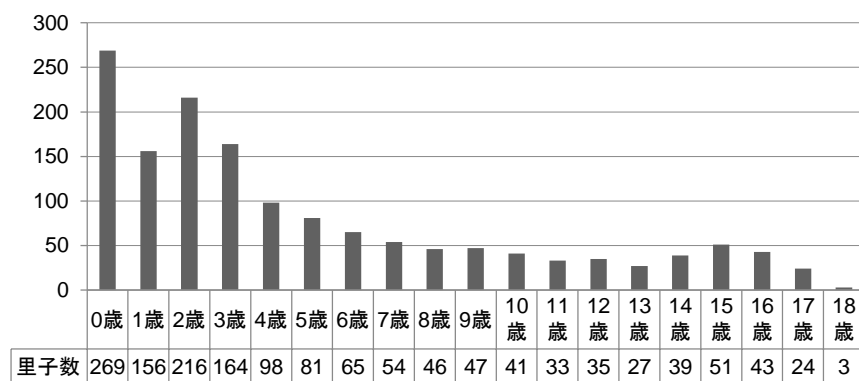


図1-17 現在受託している里子の受託時の年齢

（４）現在受託している里子の障がいの有無

障がいがあると答えたのは 310 人（21.2%）であった。これは厚生労働省の「児童養護施設入所児童等調査結果」（平成 25 年 2 月 1 日現在）の里親委託児童の障がいがある児童の割合（20.6%）とほぼ同じ数字になった。

表1-19 現在受託している里子の障がいの有無

現在、受託している 里子の障がいの有無	ある	ない
里子数	310	1154

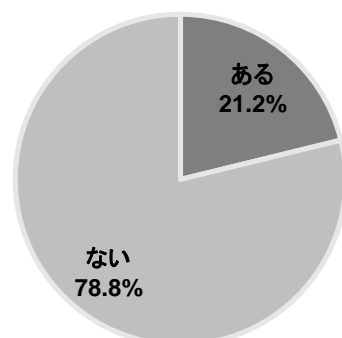


図1-18 現在受託している里子の障がいの有無

（５）現在受託している里子の被虐待経験の有無

被虐待経験があると答えたのは 469 人（33.1%）であった。これは厚生労働省の「児童養護施設入所児童等調査結果」（平成 25 年 2 月 1 日現在）の里親委託児童の被虐待経験がある児童の割合（31.1%）とほぼ同じ数字になった。

表1-20 現在受託している里子の被虐待経験の有無

現在、受託している 里子の被虐待経験の有無	ある	ない
里子数	469	949

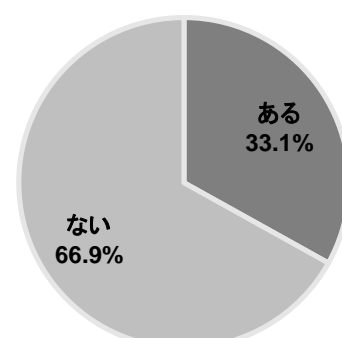


図1-19 現在受託している里子の被虐待経験の有無

5）これまでの里親経験

（１）これまで登録されたことのある里親種別（複数回答）

養育里親が 999 人で一番多く、次いで養子縁組里親が 365 人、専門里親が 110 人、親族里親が 35 人となった。現在登録している里親種別と同じ傾向を示した。

表1-21 これまで登録されたことのある里親種別

これまで登録された ことのある里親種別	養育 里親	専門 里親	親族 里親	養子縁組 里親
人数	999	110	35	365

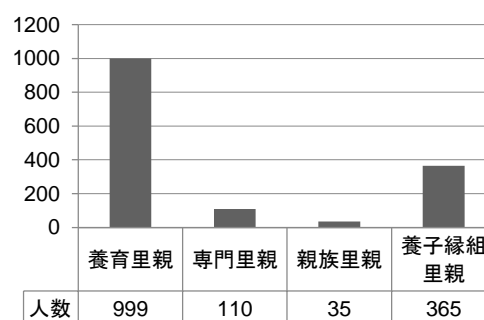


図1-20 これまで登録されたことのある里親種別

（２）これまで養育を受託した里子の人数（里親の４種別をトータルしたもの）

1 人が一番多く 525 人、次いで 2 人の 236 人と半減し、そのあとも 3 人の 86 人とさらに半減したのち、徐々に少なくなっていっていった。20 人以上の方が 13 人おられた。

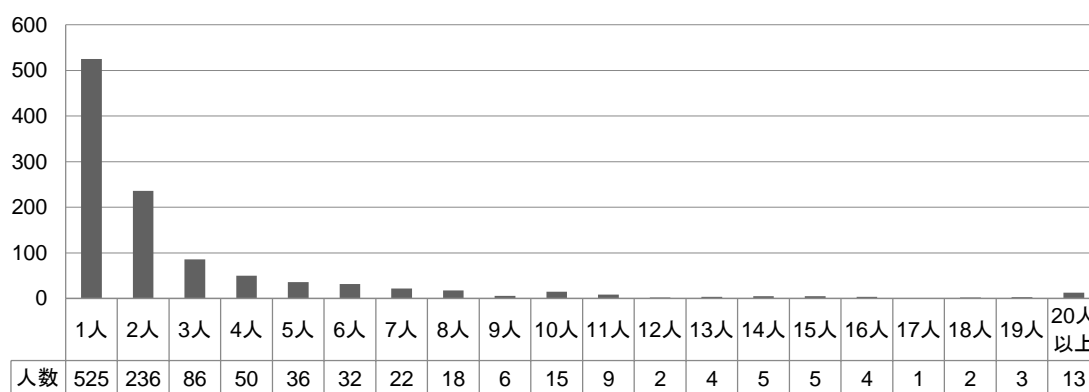


図1-21 これまで養育を受託した里子の人数

（３）これまで養育を受託した里子の人数（養育里親）

1 人が 439 人と一番多く、2 人で 186 人となり、3 人では 75 人となっていた。20 人以上の方が 12 人おられた。

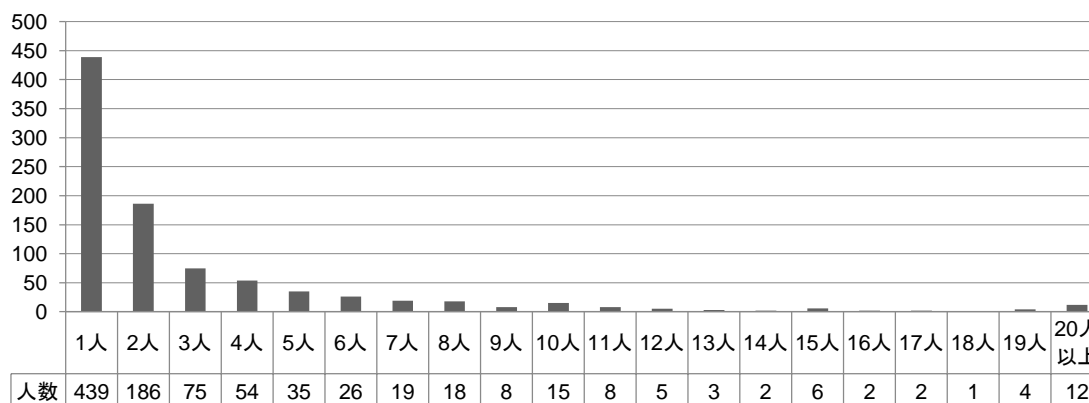


図1-22 これまで養育を受託した里子の人数（養育里親）

（４）これまで養育を受託した里子の人数（専門里親）

1 人が 34 人と一番多く、次いで 2 人が 21 人、3 人が 11 人となっていた。専門里親の制度ができてまだそれほど時間が経っていないにもかかわらず、複数名受託している里親が見られるのは、ベテランの里親が専門里親になっているケースが多いことが関係していると考えられる。

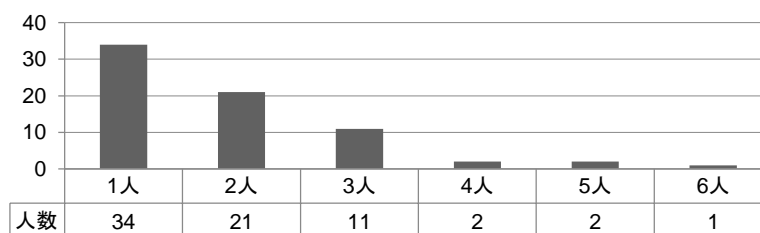


図1-23 これまで養育を受託した里子の人数（専門里親）

（５）これまで養育を受託した里子の人数（親族里親）

親族里親でも一番多いのは1人の18人であった。しかし複数の里子を受託された経験を持つ里親も見られた。

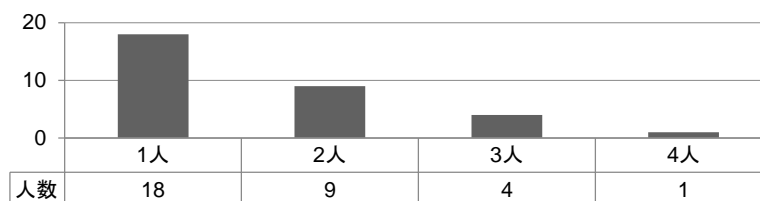


図1-24 これまで養育を受託した里子の人数（親族里親）

（６）これまで養育を受託した里子の人数（養子縁組里親）

養子縁組里親でも、1人が多く（209人）、その割合も高かった。しかし、複数名受託された経験を持つ里親も見られた。

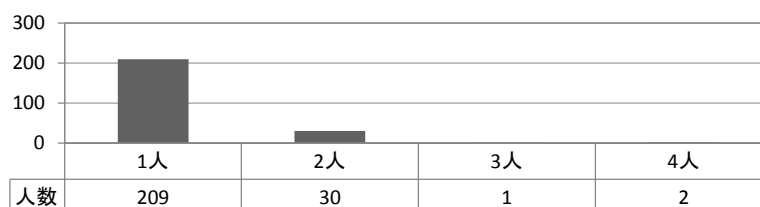


図1-25 これまで養育を受託した里子の人数（養子縁組里親）

（７）これまで養育を受託した里子の障がいの有無

これまで障がいのある里子を受託したことのある里親は399人（34.4%）であった。

表1-22 これまで養育を受託した里子の障がいの有無

これまで養育を受託した里子の障がいの有無	障がいがあった	ない
人数	399	762

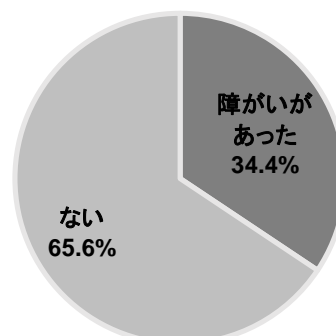


図1-26 これまで養育を受託した里子の障がいの有無

（８）これまで養育を受託した里子の障がいの種類

障がいの種類をしてみると、発達障がい（281人、52.9%）が一番多く、次いで知的障がい（171人、32.2%）、身体障がい（42人、7.9%）、精神障がい（37人、7.0%）であった。

表1-23 これまで養育を受託した里子の障がいの種類

障がいの種類 〔複数回答可〕	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい
人数	42	171	37	281

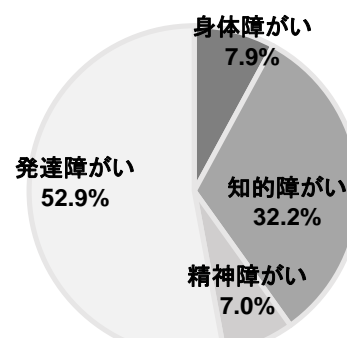


図1-27 これまで養育を受託した里子の障がいの種類

(9) これまで養育を受託した里子の疾病の有無

これまで疾病のある里子を受託したことがある里親は 266 人（23.3%）であった。

表1-24 これまで養育を受託した里子の疾病の有無

これまで養育を受託した里子の疾病の有無	疾病があった	ない
人数	266	877

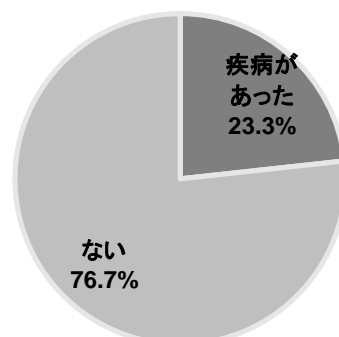


図1-28 これまで養育を受託した里子の疾病の有無

(10) これまで養育を受託した里子の被虐待経験の有無

これまで被虐待経験を持つ里子を受託したことがある里親は 494 人（42.2%）であった。「ない」と答えたのは 556 人（47.5%）、「わからない」と答えたのは 121 人（10.3%）であった。

表1-25 これまで養育を受託した里子の被虐待経験の有無

これまで養育を受託した里子の被虐待の経験の有無	経験があった	ない	わからない
人数	494	556	121

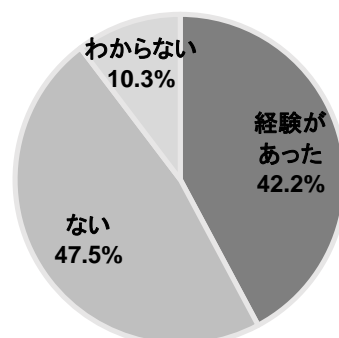


図1-29 これまで養育を受託した里子の被虐待経験の有無

(11) これまで養育を受託した里子の被虐待経験の種類（複数回答）

被虐待経験の種類を見ると、ネグレクトが 346 人と一番多く、次いで身体的虐待が 230 人、心理的虐待が 165 人、性的虐待が 53 人であった。

表1-26 これまで養育を受託した里子の被虐待経験の種類

虐待の種類 〔複数回答可〕	身体的虐待	心理的虐待	ネグレクト	性的虐待
人数	230	165	346	53

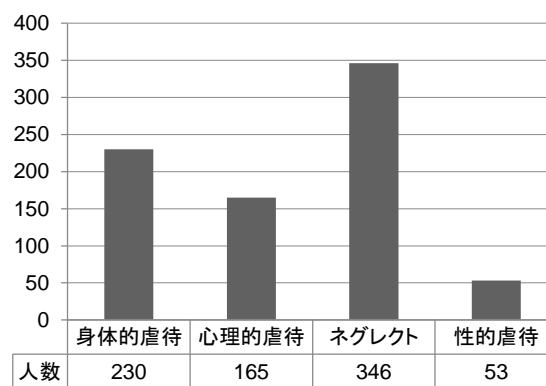


図1-30 これまで養育を受託した里子の被虐待経験の種類

6) 里親世帯の平均月収

里親世帯の平均月収を見ると、30 万円～40 万円の世帯が 308（25.6%）と一番多く、次いで 20 万円～30 万円の世帯が 289 人（24.0%）、50 万円以上が 216 人（18.0%）であった。40 万円以上の方の割合が 34.9%となり、高所得の方が多いことが特徴としてあがった。

表1-27 里親世帯の平均月収

世帯の平均月収 (手当等の国や 地方公共団体から の補助金は除外)	10 万円 未満	10～ 20 万円 未満	20～ 30 万円 未満	30～ 40 万円 未満	40～ 50 万円 未満	50 万円 以上
人数	43	144	289	308	203	216

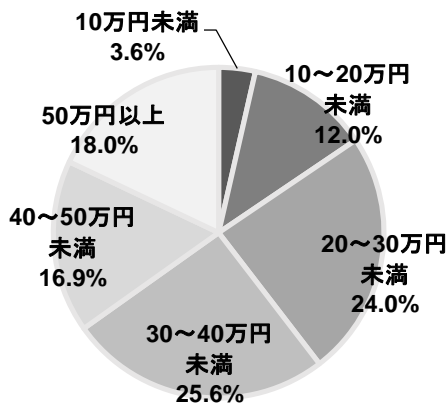


図1-31 里親世帯の平均月収

7) 里親になろうと思った動機（複数回答）

里親になろうと思った動機で一番多かったのが、「子どもが欲しかったため（養子の希望あり）」で 543 人であった。次いで「社会的に意義があると思ったため」の 521 人、「養護問題（虐待・孤児など）に関心があったため」の 384 人とこれら 3 つの項目が動機としては多いようであった。また、「実子の子育てがひと段落したため」が 179 人、「特別な理由はなく、子どもが好きだから」が 139 人、「周りに里親をしている方がいたため」が 126 人であった。「子どもが欲しかったため（養子の希望なし）」も 114 人おり、養子の希望ありも加えると、「子どもが欲しかったため」を動機とする方は 657 人に上った。

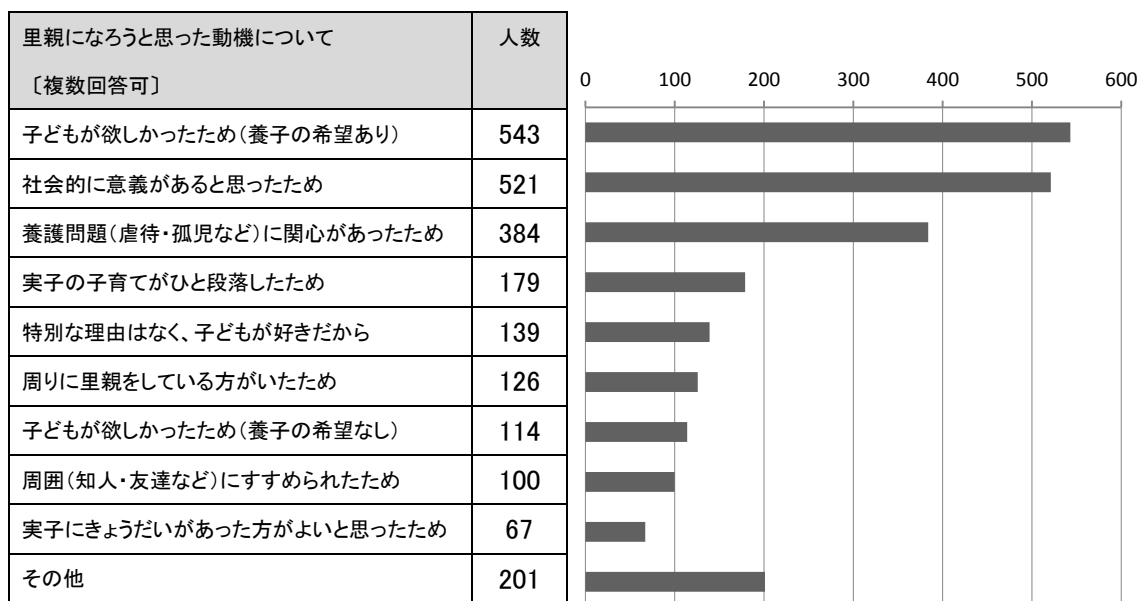


図1-32 里親になろうと思った動機について

8) 未委託期間

(1) 里親の登録から初めての委託児童までの期間（未委託期間）

一番多かったのは1年以上2年未満の方で250人、次いで1年未満の161人、2年以上3年未満の99人であった。比較的早い時期に委託されていると言える。しかし、4年以上の方も多くあり、中には12年以上の方もいた（11人）。

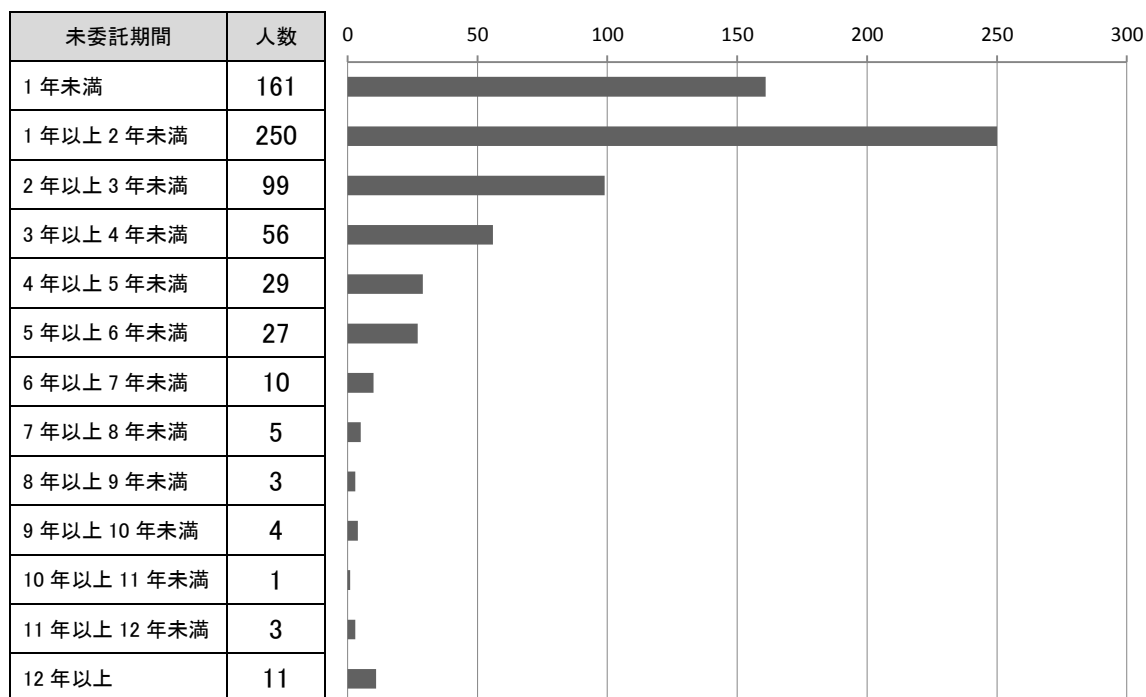


図1-33 里親の登録から初めての委託児童までの期間（未委託期間）

(2) 未委託期間が長かった理由（複数回答）

「里親として受託可能な子どもが中々見つからなかったため」が一番多くの人を選択した（174人）。次いで「面会交流や受託の打診があまりなかったため」が165人と多かった。「里親側の受け入れ体制が、中々整えられなかったため」が35人、「自分たちには養育はまだ無理だと児童相談所などから思われていたため」が31人、そして「里親や家族の急な事情で、受託できない時期があったため」が21人と里親側のなんらかの理由で未委託期間が長かったと答えている里親もいた。

その他の自由記述からは、「里親側の受け入れ体制が中々整えられなかった」背景として、家族の介護や、実子の受験など、現在の家族のライフイベントがあったため未委託期間があったという記述がみられたほか、いくつかの特徴的な記述がみられた。まず、「不妊治療と並行して里親登録、あらかじめ治療終了までは受入しないと伝えてあった」と、不妊治療をしていたためという記述が見受けられた。また、正社員としてフルタイム勤務を続け

ながらの受託を希望していたためという回答者からは、保育園利用がかなわず「預かりたくても社会的サポートが弱すぎて」できなかったという記述もあった。里親、特に里母のワークライフバランスのあり方を検討する必要があると推察される。

また、「わからない」という記述には「児童相談所からの説明がなかったため」事情がわからなかったという回答も多く、未委託期間が長引いている場合、里親登録者の不安に寄り添う支援が必要ではないかと考えられた。

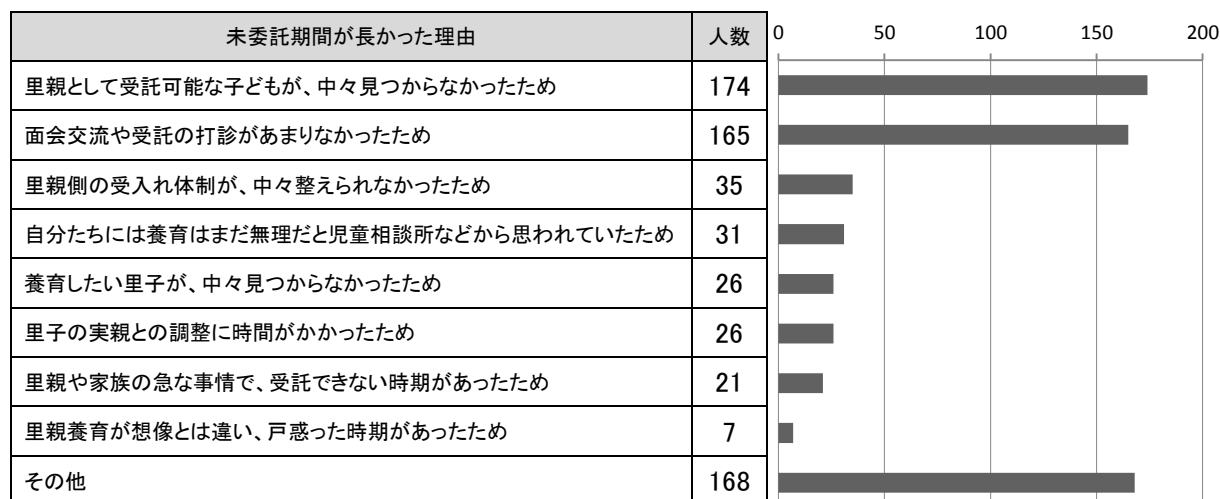


図1-34 未委託期間が長かった理由

9) 里親への養育支援の状況について

里親への養育支援の状況について尋ねた。ここでは、「里子が委託される前の里親への養育支援状況」と「里子が委託されてからの里親への支援状況」の二つを尋ねた。

なお、「里子が委託される前の里親への養育支援状況」については、「委託前支援」と「未委託里親への支援」の二つの理論的因子から構成されると捉え、これら二つの因子についてそれぞれ具体的な質問項目を15項目用意した。

また、「里子が委託されてからの里親への支援状況」については、「委託後の相談支援」「地域からの支援」「里親の相互交流」「養育状況の評価」「啓発研修」「里親への研修」「里親不調時の支援」の七つの理論的因子から構成されると捉え、これら七つの因子についてそれぞれの具体的な質問項目を35項目用意した。

(1) 里子が委託される前の里親への支援状況

里子が委託される前の里親への支援状況について尋ねた。質問は「里子が委託される前の里親への支援状況についてお聞きます（複数名の里子が委託されている場合は、直前に委託された里子の支援状況についてご回答ください）」と尋ね、「全くなかった」を1、「あまりなかった」を2、「少しあった」を3、「十分あった」を4として回答を得た。ここでは因子ごとに里親への支援状況を報告する。なお、得点の高いものから低いものへと並べ替

えを行っている。

（１－１）委託前支援

委託前支援に関しては、全体的に見て高い評価が得られた。「家庭訪問をして里子との関係を確認する支援」「委託予定児童の生育歴についての情報提供」「委託予定児童への、里親委託に向けての気持ちを確認する支援」といった項目の平均は 3.2 以上であり、これらの支援が実施されていることが示された。今回「情報提供」が実施されていると評価されていた。情報提供については、不十分であるということがよく言われているため、少し意外であった。個人情報の取り扱いについても里親のニーズに合わせて変化してきているのかもしれない。また、マッチング中の相談や、里子との関係を構築するための助言をもらう機会も増えているようである。

里親に委託される児童への理解を確認することは行われているようであるが、委託されて里親宅にいる児童や実子への配慮は少し低くなっているようであった。

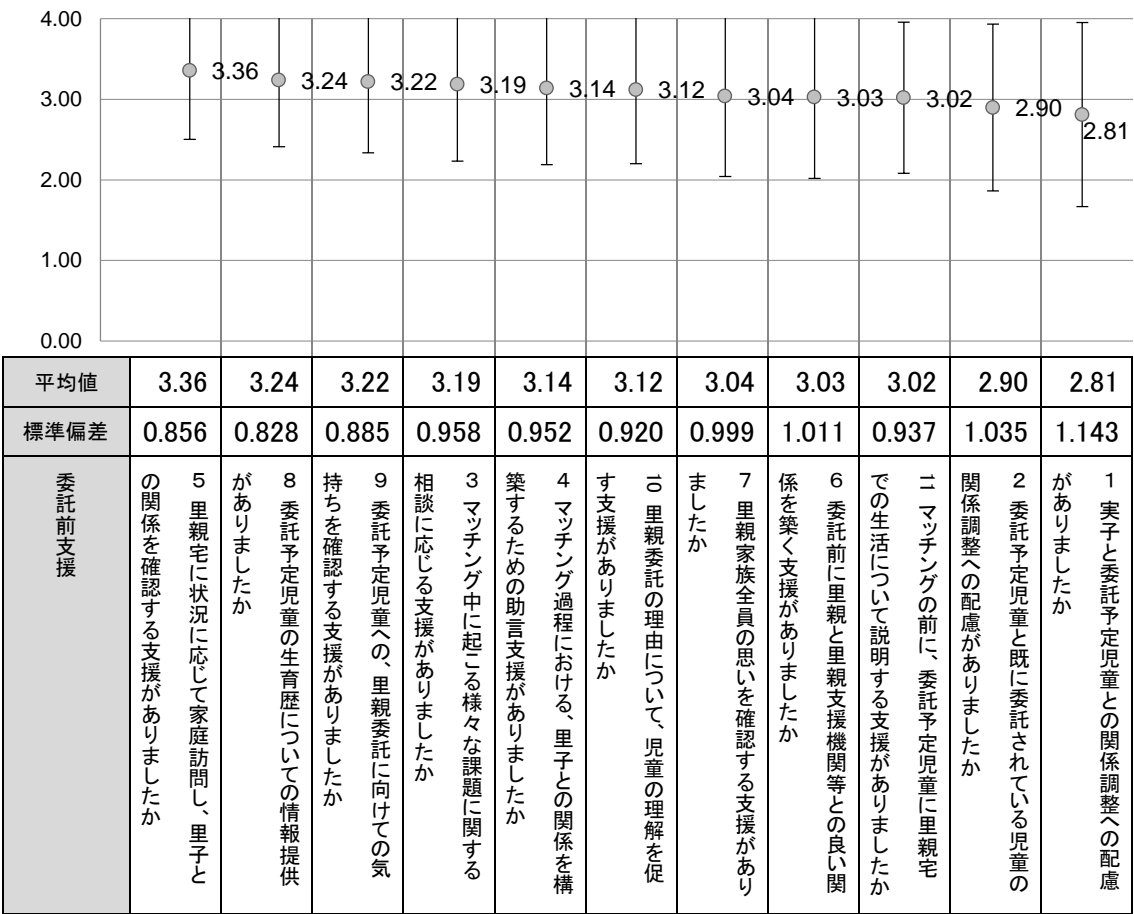


図1-35 委託前支援

（１－２）未委託里親への支援

未委託里親への支援に関しては「養育を学ぶ研修の機会」が 3.07 と 3 点を上回っていたのみで、「状況確認」「実習」「トレーニング」といった項目は 3 点を下回った。

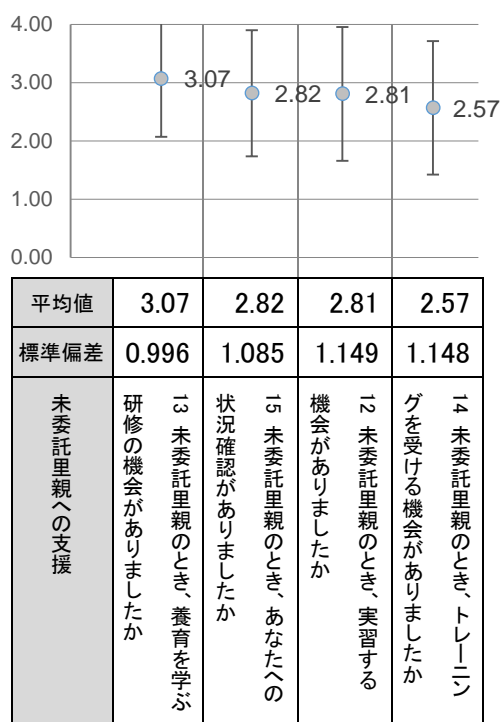


図1-36 未委託里親への支援

（２）里子が委託されてからの里親への支援状況

里子が委託されてからの里親への支援状況について尋ねた。質問は「里子が委託されてからの里親への支援状況についてお聞きます（複数名の里子が委託されている場合には、直近に委託された里子に限定するのではなく、現在の里親養育支援状況についてご回答ください）」と尋ね、「全くなかった」を 1、「あまりなかった」を 2、「少しあった」を 3、「十分あった」を 4 として回答を得た。ここでは因子ごとに里親への支援状況を報告する。なお、得点の高いものから低いものへと並べ替えを行っている。

（２－１）委託後の相談支援

委託後の相談支援に関しては、「生活上の相談」「進路選択についての相談」「里親の休息のための情報提供」が 3 点以上であった。これらの項目が里親養育支援として実施されていることが示された。また、「里子と実親との交流」「実親との関わり方への助言や支援」といった実親との関係に関する支援や「委託解除後」「里子の問題行動に対応するための具体的な目標を立てるなどの支援」といった項目が低い値を示した。

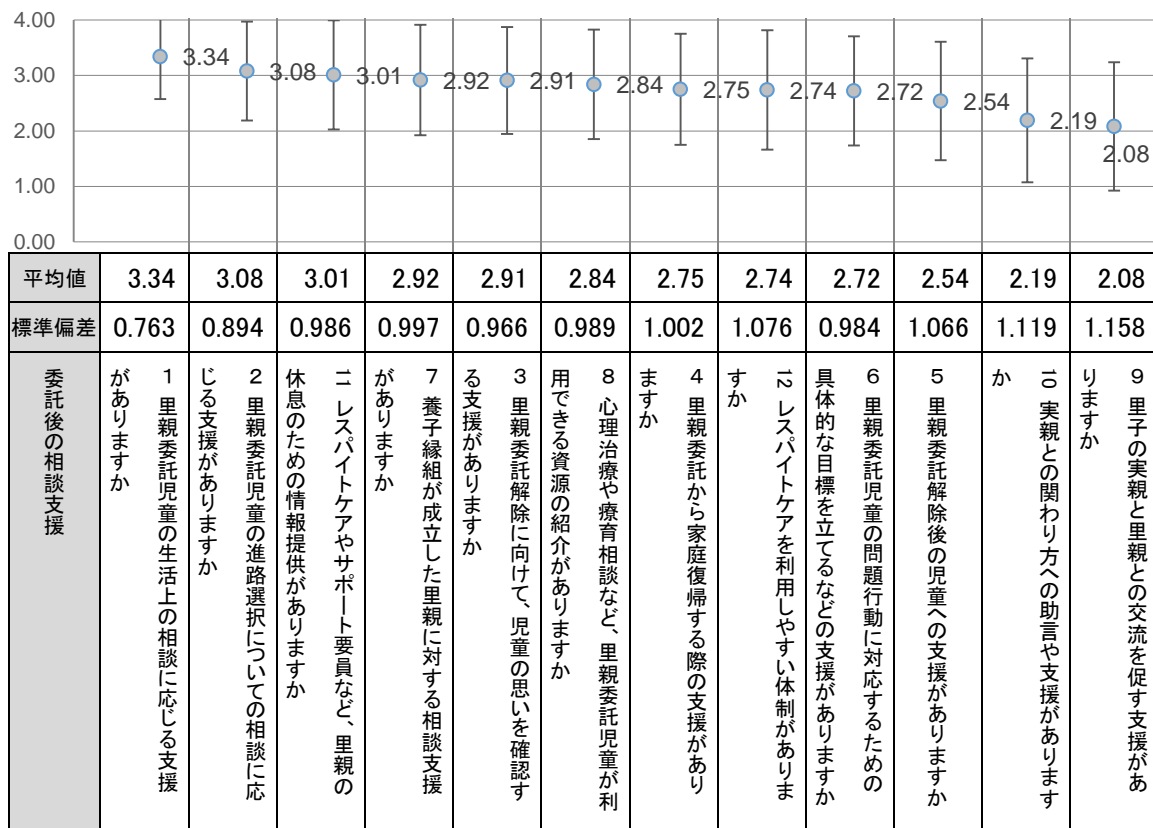


図1-37 委託後の相談支援

(2-2) 地域からの支援

「学校・園からの里親への理解や協力」や「里親を支えるネットワーク」といった項目については、3 点以上の高い評価であった。また、「近隣住民からの里親への理解や協力」といった項目も平均が 2.95 点と低い評価ではなかった。里親への理解といったものが進んできていると言える一方、「地域の関係機関とのケースカンファレンス」や「地域の支援機関の紹介」といった具体的な支援になると支援を受ける機会が低くなるようである。



図1-38 地域からの支援

(2-3) 里親の相互交流

里親の相互交流に関しては、「サロン」「参加できるイベントの開催」「里親同士で相談し合える体制」といった項目は高く評価されている一方で、「レスパイトを頼める他の里親との関係構築の支援」という項目は低い値となった。

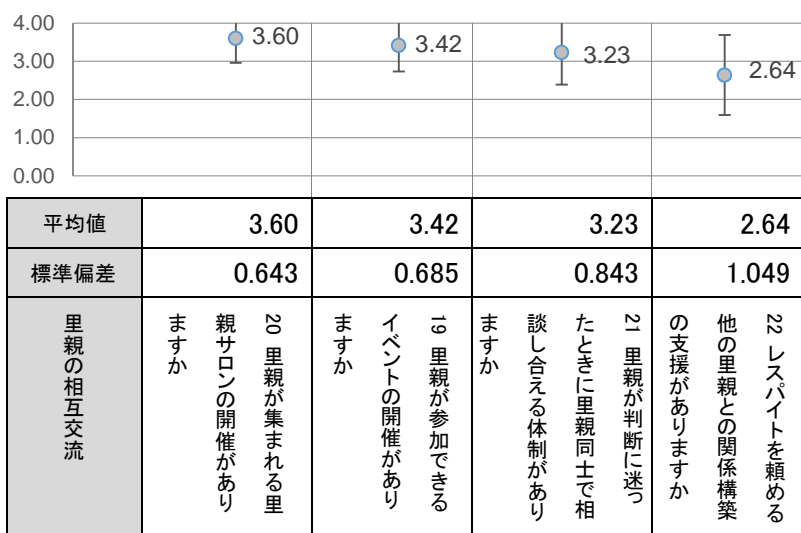


図1-39 里親の相互交流

(2-4) 養育状況の評価

養育状況の評価としては、「自立支援計画に里親の意見が反映されているか」と「自立支援計画の評価と見直し」という項目を尋ねたが、その両方で低い評価となった。

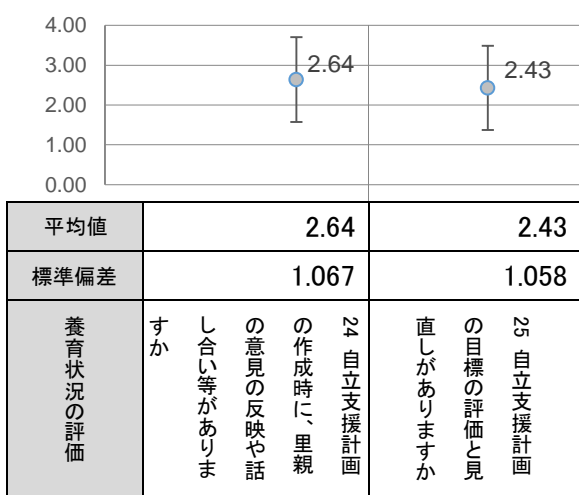


図1-40 養育状況の評価

(2-5) 啓発研修

啓発研修に関しては、「里親を開拓するための講演会がありますか」が 2.99 点、そして「里親を知ってもらうための講演会がありますか」が 2.95 点と決して低い値ではないが、3 点を超える点数にはならなかった。

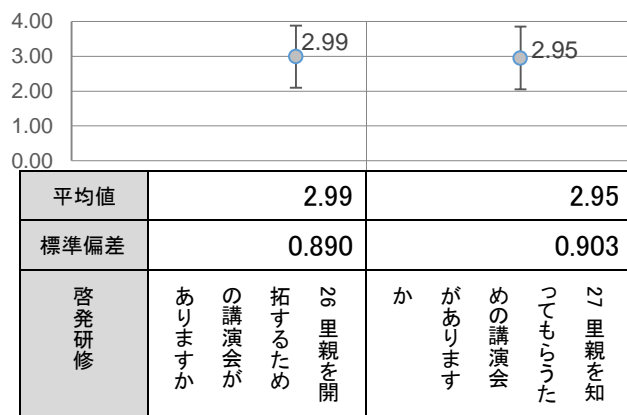


図1-41 啓発研修

(2-6) 里親への研修

里親への研修に関しては、「里親の養育技術を向上させる研修会」「里親のニーズに合わせた研修会」といった二つの項目が 3 点を上回った。そして「社会的養護の現状」「児童虐待」「発達障がい」が 2.97 点、「児童虐待」が 2.76 点、「発達障がい」が 2.73 点となった。

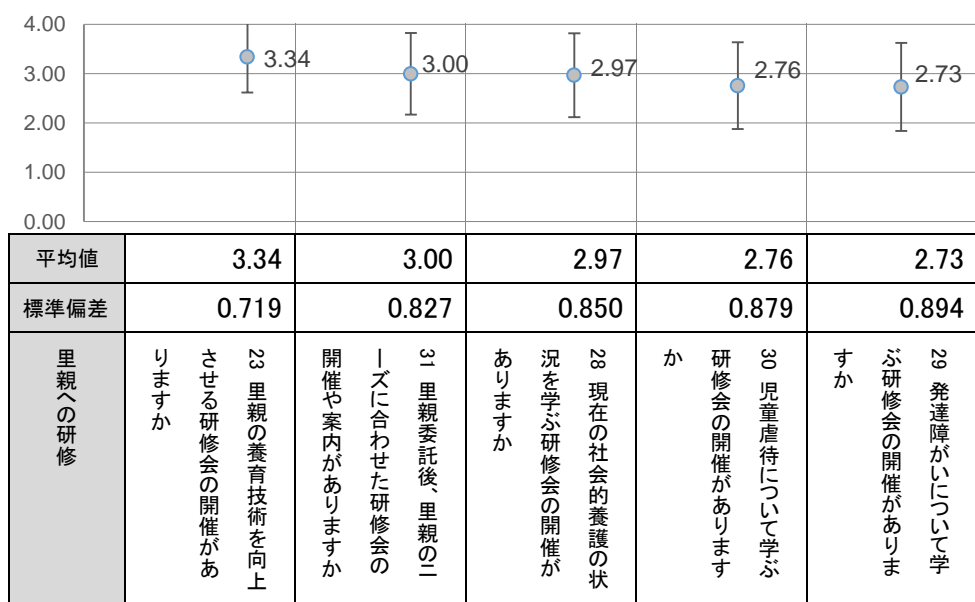


図1-42 里親への研修

(2-7) 里親不調時の支援

里親不調時の支援に関しては、全体的に低い値であった。里親不調時への対応、支援のあり方をどう持つのかについてはこれからの大きな課題であることが示された。

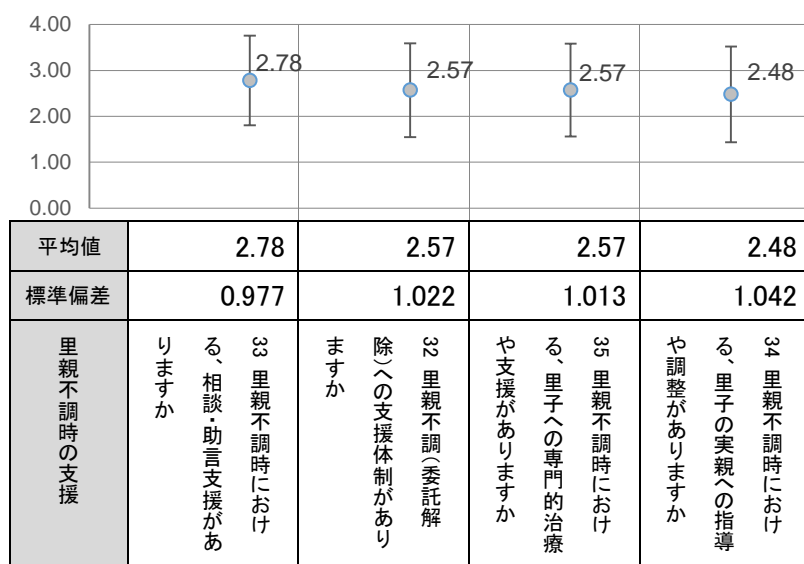


図1-43 里親不調時の支援

(3) 因子ごとの状況

それぞれの因子ごとの平均を比較した。その結果、「里親の相互交流」のみが3点を上回った。しかし、「啓発研修」「里親への研修」「委託前支援」については、その平均が2.9点以上であり、低い数値という訳ではなかった。「里親不調時の支援」「養育状況の評価」といった因子の得点が低くなった。

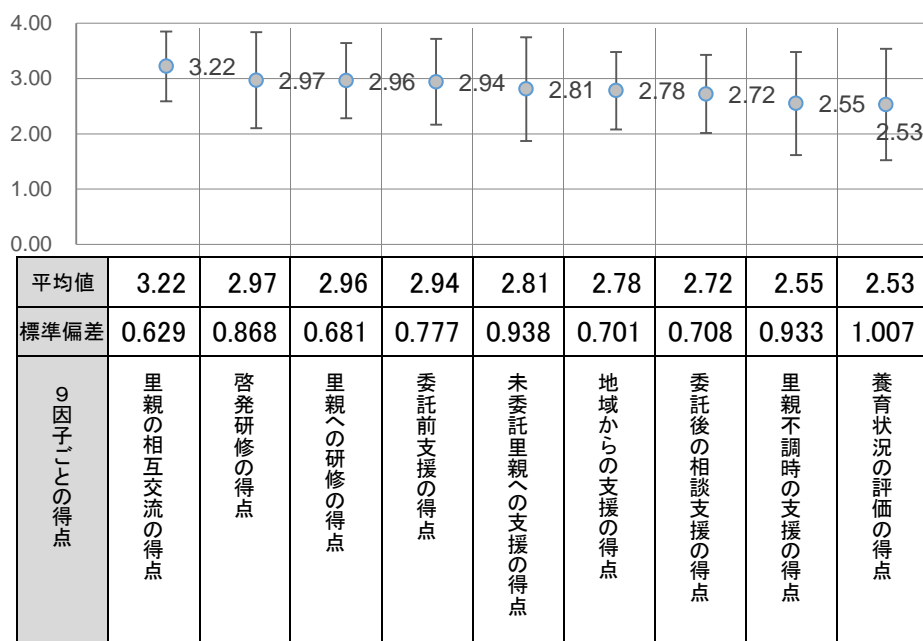


図1-44 9因子ごとの得点

10) 里親と里子の状況

(1) 里親の幸福度

里親の幸福度を「現在、あなた自身はどの程度幸せですか。『とても幸せ』を10点、『とても不幸』を0点とすると、何点くらいになると思いますか」という質問項目で評価してもらった。その結果、平均値は8.22点、中央値は8、標準偏差は1.871であった。非常に高い幸福度が示された。また、平成23年に内閣府が行った調査では6.41点となっており、一般のサンプルと比較しても幸福度が高かった。

表1-28 里親の幸福度

現在の幸福度	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)
人数	2	6	6	9	23	87	59	136	268	181	413

表1-29 里親の幸福度の平均値等

平均値	8.22
中央値	8.00
標準偏差	1.871
範囲	0～10

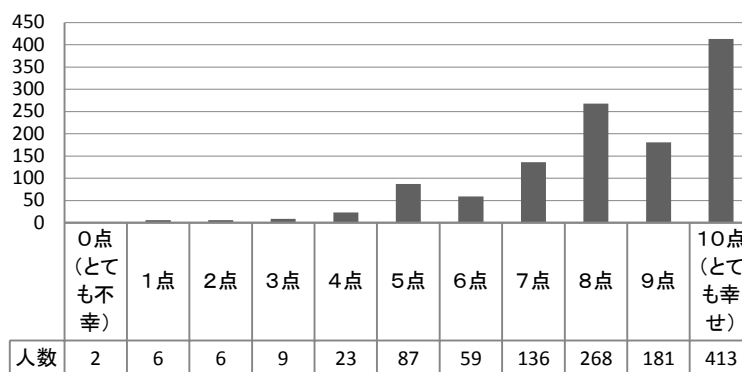


図1-45 里親の幸福度

(2) 里親の養育状況

ここでは、里親の満足度・負担感そして継続の意向を尋ねた。

(2-1) 里親の満足度

満足度については、各質問において、「全く満足していない」を1、「満足していない」を2、「満足している」を3、「とても満足している」を4として回答を得た。

その結果、「あなたは現在の里親支援※に、全体的にどのくらい満足していますか（※情報提供、相談、レスパイト、緊急対応、人や地域からの理解・協力など）」は、3点を下回る2.79となったが、その他の項目については、3点以上の平均となり、多くの里親が里子養育に満足や喜びを感じていることが示された。

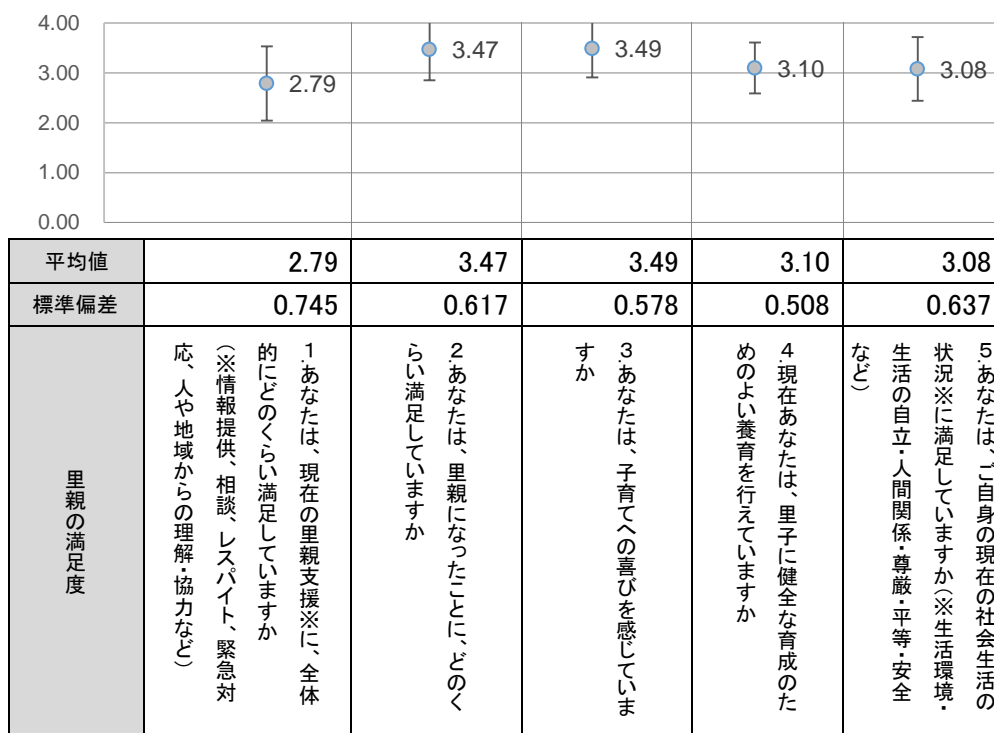


図1-46 里親の満足度

表1-30 里親の満足度

項目	回答カテゴリ			
1.あなたは、現在の里親支援※に、全体的にどのくらい満足していますか (※情報提供、相談、レスパイト、緊急対応、人や地域からの理解・協力など)	全く満足して いない 60 (5.1)	満足して いない 299 (25.2)	満足して いる 658 (55.4)	とても満足して いる 171 (14.4)
2.あなたは、里親になったことに、どのくらい満足していますか	全く満足して いない 8 (0.7)	満足して いない 54 (4.5)	満足して いる 497 (41.6)	とても満足して いる 635 (53.2)
3.あなたは、子育てへの喜びを感じていますか	全く喜びを 感じない 3 (0.3)	喜びを 感じない 41 (3.4)	喜びを 感じる 524 (43.8)	とても喜びを 感じる 628 (52.5)
4.現在あなたは、里子に健全な育成のためのよい養育を行っていますか	全行えて いない 3 (0.3)	行えて いない 93 (7.8)	行えて いる 880 (74.0)	とても行えて いる 213 (17.9)
5.あなたは、ご自身の現在の社会生活の状況※に満足していますか (※生活環境・生活の自立・人間関係・尊厳・平等・安全など)	全く満足して いない 15 (1.3)	満足して いない 156 (13.0)	満足して いる 751 (62.6)	とても満足して いる 277 (23.1)

単位:名(%) ※名は、有効回答のみ

(2-2) 里親の負担感

負担感については、各質問において、「全く感じていない」を1、「感じていない」を2、「感じている」を3、「とても感じている」を4として回答を得た。

その結果、すべての項目において、平均が2.5以下となった。全体的には低い平均値になったが、「体力的な負担」と「自由や時間が制限される負担」においてやや値が高くなった。また、「経済的な負担」が一番低い値となった。

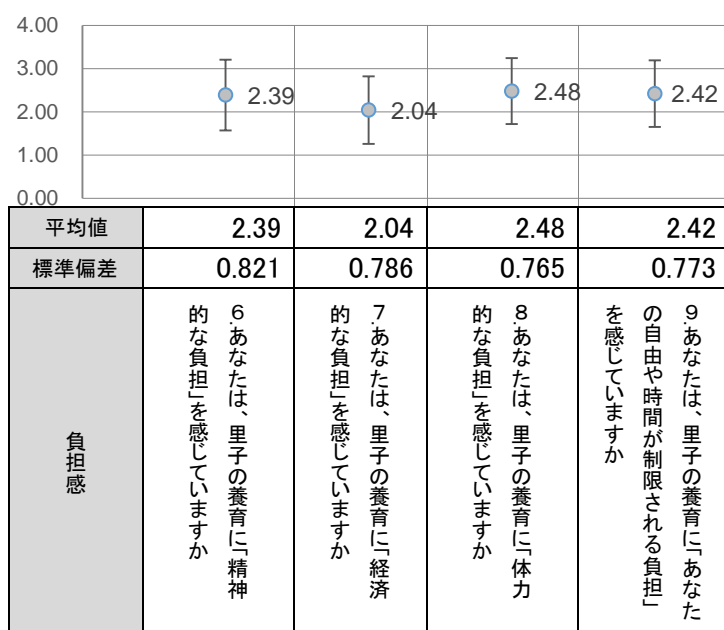


図1-47 里親の負担感

表1-31 里親の負担感

項目	回答カテゴリ			
	全く感じていない	感じていない	感じている	とても感じている
6.あなたは、里子の養育に「精神的な負担」を感じていますか	187	426	508	73
	(15.7)	(35.7)	(42.5)	(6.1)
7.あなたは、里子の養育に「経済的な負担」を感じていますか	300	594	257	46
	(25.1)	(49.6)	(21.5)	(3.8)
8.あなたは、里子の養育に「体力的な負担」を感じていますか	118	469	528	83
	(9.8)	(39.1)	(44.1)	(6.9)
9.あなたは、里子の養育に「あなたの自由や時間が制限される負担」を感じていますか	141	487	496	71
	(11.8)	(40.8)	(41.5)	(5.9)

単位: 名 (%) ※名は、有効回答のみ

(2-3) 継続の意向

継続の意向については、「あなたは里親を続けたいと思いますか」の質問に、「全く思わない」を1点、「続けたいと思わない」を2点、「続けたいと思う」を3点、「とても思う」を4点として回答を得た。

その結果、平均値は3.36となり、多くの人が里親養育を継続していきたいと思っていることが示された。

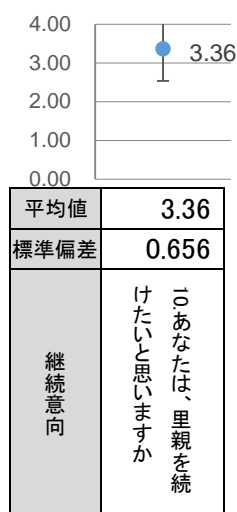


図1-48 継続の意向

表1-32 継続の意向

項目	回答カテゴリ			
	全く 思わない	続けたいと 思わない	続けたいと 思う	とても 思う
10.あなたは、里親を続け たいと思いますか	15 (1.3)	74 (6.2)	573 (48.1)	530 (44.5)

単位:名(%) ※名は、有効回答のみ

(2-4) 里親の負担感と里親支援満足度と継続の意向

ここでは、里親の感じる負担感と里親支援満足度と継続の意向との関係を、スピアマンの順位相関係数を用いて検討した。なお、支援満足度は、里親の満足度の項目の1の「あなたは、現在の里親支援に全体的にどのくらい満足していますか」の点数を用いた。その結果、里親の感じる負担感と里親支援満足度および継続の意向の得点が負の相関にあった。負担感が少ないほど、支援満足度、継続の意向が高まることが示された。精神的な負担との相関が最も高かった。支援満足度に関しては、経済的負担が2番目に高かった。継続の意向に関しては、自由や時間が制限される負担が2番目に高くなった。

表1-33 里親の負担感と里親支援満足度と継続の意向における相関関係

	支援満足度	継続の意向
精神的な負担	-.289**	-.334**
経済的な負担	-.269**	-.205**
体力的な負担	-.194**	-.146**
自由や時間が制限される負担	-.204**	-.248**

** $p < .01$

(3) 里子の状況

里子の状況について、特に里子の成長といったことについて里親に評価してもらった。質問は「現在委託中の受託年数が最長の里子の現在の状況についてお聞きします」との質問に、「全く思わない」を1、「思わない」を2、「思う」を3、「とても思う」を4として回答を得た。

その結果、すべての項目の平均値が3点を上回っていた。里子の成長について、里親は肯定的に捉えていることが示された。

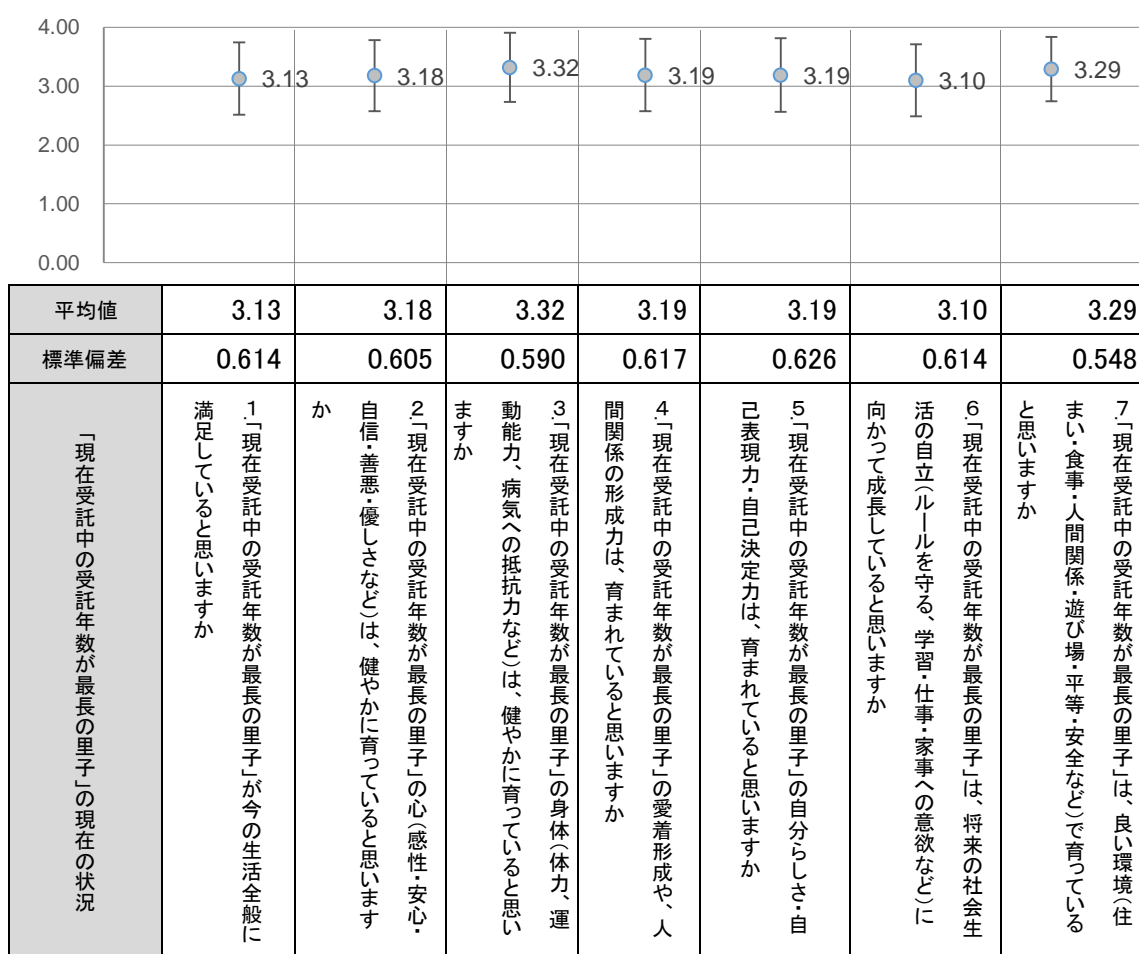


図1-49 里子の状況

表1-34 里子の状況

項目	回答カテゴリ			
	全く 思わない	思わない	思う	とても 思う
1.「現在受託中の受託年数が最長の里子」が今の生活全般に満足していると思いますか	11 (1.0)	116 (10.2)	724 (63.5)	290 (25.4)
2.「現在受託中の受託年数が最長の里子」の心(感性・安心・自信・善悪・優しさなど)は、健やかに育っていると思いますか	6 (0.5)	104 (9.2)	700 (61.7)	325 (28.6)
3.「現在受託中の受託年数が最長の里子」の身体(体力、運動能力、病気への抵抗力など)は、健やかに育っていると思いますか	6 (0.5)	57 (5.0)	648 (56.9)	428 (37.6)
4.「現在受託中の受託年数が最長の里子」の愛着形成や、人間関係の形成力は、育まれていると思いますか	8 (0.7)	104 (9.2)	687 (60.5)	337 (29.7)
5.「現在受託中の受託年数が最長の里子」の自分らしさ・自己表現力・自己決定力は、育まれていると思いますか	10 (0.9)	107 (9.4)	683 (60.0)	338 (29.7)
6.「現在受託中の受託年数が最長の里子」は、将来の社会生活の自立(ルールを守る、学習・仕事・家事への意欲など)に向かって成長していると思いますか	15 (1.3)	119 (10.5)	740 (65.4)	258 (22.8)
7.「現在受託中の受託年数が最長の里子」は、良い環境(住まい・食事・人間関係・遊び場・平等・安全など)で育っていると思いますか	3 (0.3)	44 (3.9)	708 (62.2)	383 (33.7)

単位:名(%) ※名は、有効回答のみ

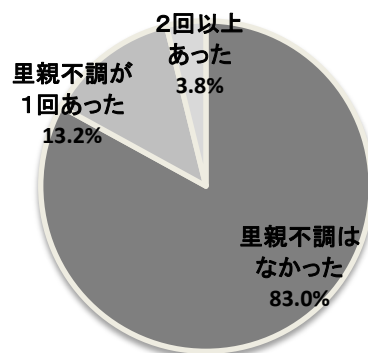
11) 里親不調

(1) 里親不調

里親不調（委託解除となった）の経験を尋ねた。その結果、里親不調がなかった人が 927 人（83.0%）であった。また、里親不調を 1 回経験された方が 147 人（13.2%）あり、2 回以上の里親不調を経験された方が 43 人（3.8%）であった。

表1-35 里親不調

里親不調	里親不調は なかった	里親不調が 1回あった	2回以上あった
人数	927	147	43



(2) 里親不調の原因

図1-50 里親不調

次に、里親不調になった原因を尋ねた。一番多かったのが、「障がい児や被虐待児などのケアに対応しきれなかったため」の 45 人、次いで「里親家庭に危害（暴力、器物破損、性被害など）が及んだため」の 36 人となり、里子の問題行動から里親不調になったケースが多いことが示された。

また、「里子が家庭復帰を強く望むようになったため」の 28 人といった里子と実親との関係、そして「マッチングの相性がよくなかったため」の 22 人といったケースワークの問題なのではないかと思われるケースもあった。

「里親側の養育に不適切な箇所があったため」の 10 人といった里親に問題があったケースや「経済的な負担が重くなったため」の 5 人と、数は多くないが、里親側の問題で、里親養育を諦めざるを得ないケースがあった。

自由記述からは、中学生、高校生といった思春期の課題に里親が対応することの困難さが語られる記述が多く見受けられた。「お財布から札を全部取ってしまう」、「道具の破壊、壁に穴あちこち」というように家庭の中での行動を原因とする場合もあれば、「万引き」、「高校を退学」、「家庭では普通でしたが学校で先生に暴力を振ったり」と学校や地域での問題に対応をしたものの不調となった場合もあった。

このような背景には、「委託後に里子の詳しい説明があった」など、児童相談所から委託前に必要な情報を得られなかったなど、アドミッション段階の課題もあると思われる。

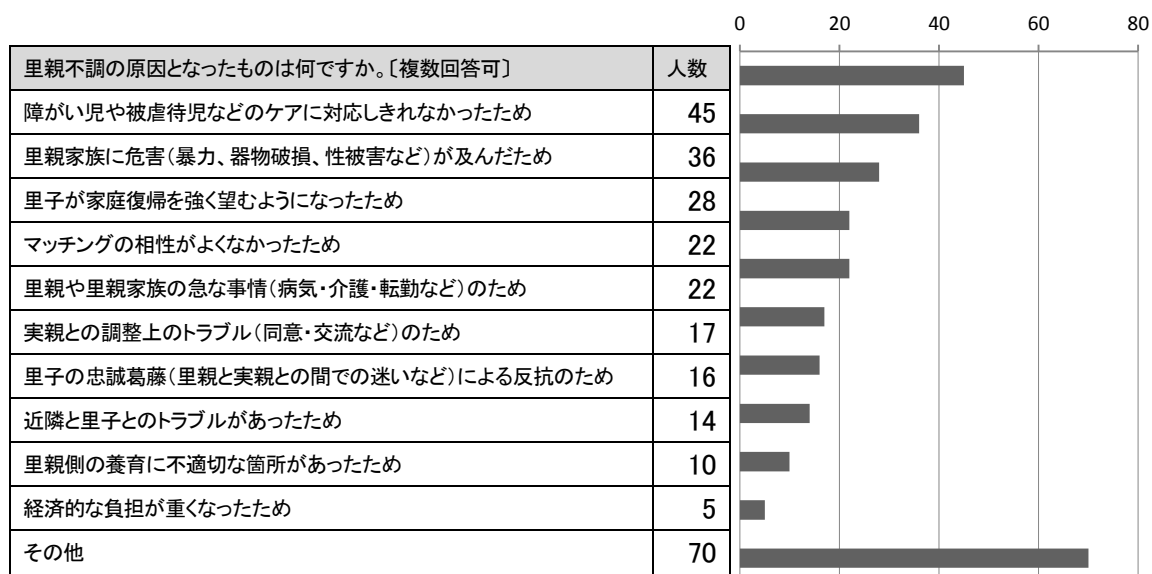


図1-51 里親不調の原因

12) 里親・里子アウトカムにおける相関関係

里親・里子アウトカム（里親の幸福度、里親支援満足度、里親養育の負担4項目、里親継続の意向、里子の生活満足度）に関する実践的で幅広い知見を得るため、偏相関や因果関係等の検討に先立って、シンプルな統計手法としての相関分析を行った（スピアマンの順位相関係数）。なお、里子の生活満足度は、里親による回答である。

その結果、すべて有意な相関関係が示された。特に里親の幸福度と精神的な負担との相関が中程度（ -0.433 ）であり、精神的負担の大きい里親ほど幸福度が低いという傾向がみられた。幸福度と、里親継続の意向、里子の生活満足度、里親支援満足度などは、やや弱い相関があり、里親が幸福なほど、他のアウトカムも良好である傾向がみられた。

里親養育の負担4項目の内部における相関は 0.312 から 0.537 であり、それぞれの負担が相互に関連していることが示された。

その他、精神的負担と、里親継続の意向、里子の生活満足度の相関は -0.334 、 -0.305 となっており、精神的負担の大きい里親ほど、里親継続の意向と里子の生活満足度を低く評価していた。

これらの相関関係ならびに、記述統計で多くの里親が精神的負担を感じていたことを勘案すれば、精神的負担を軽減するための相談やレスパイト、情報提供、研修、アウトリーチなどの支援が特に重要であると思われる。また、里親の幸福度や精神的負担などと里子の生活満足度との間に相関関係があることを、支援や政策において考慮することも求められる。

表I-36 里親・里子アウトカムにおける相関関係

里親・里子アウトカム	問19. 現在、あなたはどの程度幸せですか	問20-1. あなたは、現在の里親支援※に、全体的にどのくらい満足していますか	問20-6. あなたは、里子の養育に「精神的な負担」を感じていますか	問20-7. あなたは、里子の養育に「経済的な負担」を感じていますか	問20-8. あなたは、里子の養育に「体力的な負担」を感じていますか	問20-9. あなたは、里子の養育に「あなたの自由や時間が制限される負担」を感じていますか	問20-10. あなたは、里親を続けたいと思いますか	問21-1. 「現在受託中の受託年数が最長の里子」が今の生活全般に満足していると思いますか
		.327**	-.433**	-.262**	-.210**	-.293**	.386**	.386**
			-.289**	-.269**	-.194**	-.204**	.196**	.175**
				.376**	.431**	.537**	-.334**	-.305**
					.348**	.312**	-.205**	-.193**
						.507**	-.146**	-.113**
						-.248**	-.225**	-.225**
							245**	245**

** $p < .01$

13) 里子が1人の家庭における里子の就学状況と里親・里子アウトカムとのクロス集計

第2部の里子の就学状況と、第1部の里親・里子アウトカム（里親支援満足度、里親養育の負担4項目、里子の生活満足度）を用いて、里子が1人のみの家庭における里子の就学状況と里親・里子アウトカムとのクロス集計を行った。

なお、特別支援や各種学校進学（専門学校、短大、専修学校、大学、大学院）の里子家庭のデータは約10ずつと少ない。「その他」は未就学以外の就学していない里子である。

（1）里子の就学状況と里親支援満足度

里子の就学状況と里親支援満足度とのクロス集計では、里親支援に満足していない以下の回答が、小学校、高校、各種学校進学、「その他」の里子の里親において約30%以上と高くなっていた。全く満足していないに着目すると、保育園、小学校、中学校、私立高校、「その他」の里子の里親で5%を超えていた。特に、年齢の高い里子の里親への支援を強化する必要があると思われる。

表1-37 里子の就学状況と里親支援満足度

	問20-1. あなたは、現在の里親支援※に、 全体的にどのくらい満足していますか				合計
	全く満足 していない	満足 していない	満足 している	とても満足 している	
未就学	5	23	97	32	157
	3.2%	14.6%	61.8%	20.4%	100.0%
保育園	6	22	60	28	116
	5.2%	19.0%	51.7%	24.1%	100.0%
幼稚園	2	17	60	10	89
	2.2%	19.1%	67.4%	11.2%	100.0%
小学校	11	56	102	21	190
	5.8%	29.5%	53.7%	11.1%	100.0%
中学校	5	17	58	13	93
	5.4%	18.3%	62.4%	14.0%	100.0%
国公立高校	2	26	38	10	76
	2.6%	34.2%	50.0%	13.2%	100.0%
私立高校	3	6	18	5	32
	9.4%	18.8%	56.3%	15.6%	100.0%
特別支援	0	2	8	0	10
	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
各種学校進学	0	4	5	1	10
	0.0%	40.0%	50.0%	10.0%	100.0%
その他	1	5	7	0	13
	7.7%	38.5%	53.8%	0.0%	100.0%
合計	35	178	453	120	786
	4.5%	22.6%	57.6%	15.3%	100.0%

（２）里子の就学状況と里親養育の負担（精神的負担）

里子の就学状況と里親養育の負担（精神的負担）とのクロス集計では、負担を感じている割合が全体的に高かった。小学校や中学校、国公立高校、特別支援、各種学校進学、「その他」の里子の里親においては、負担を感じている以上の回答が約 50%～70%と非常に高くなっていた。特に、小学校以降の里子の里親の精神的負担を軽減することが、里親制度における喫緊の課題であると示唆された。

表I-38 里子の就学状況と里親養育の負担（精神的負担）

	問20-6. あなたは、里子の養育に 「精神的な負担」を感じていますか				合計
	全く感じて いない	感じて いない	感じて いる	とても感じて いる	
未就学	37	76	42	2	157
	23.6%	48.4%	26.8%	1.3%	100.0%
保育園	28	48	41	0	117
	23.9%	41.0%	35.0%	0.0%	100.0%
幼稚園	20	26	37	6	89
	22.5%	29.2%	41.6%	6.7%	100.0%
小学校	23	67	84	15	189
	12.2%	35.4%	44.4%	7.9%	100.0%
中学校	12	26	50	5	93
	12.9%	28.0%	53.8%	5.4%	100.0%
国公立高校	10	18	41	8	77
	13.0%	23.4%	53.2%	10.4%	100.0%
私立高校	2	15	12	3	32
	6.3%	46.9%	37.5%	9.4%	100.0%
特別支援	1	2	6	1	10
	10.0%	20.0%	60.0%	10.0%	100.0%
各種学校進学	0	3	6	1	10
	0.0%	30.0%	60.0%	10.0%	100.0%
その他	1	6	6	1	14
	7.1%	42.9%	42.9%	7.1%	100.0%
合計	134	287	325	42	788
	17.0%	36.4%	41.2%	5.3%	100.0%

（３）里子の就学状況と里親養育の負担（経済的負担）

里子の就学状況と里親養育の負担（経済的負担）とのクロス集計では、負担を感じている以上の回答が、小学校以降の里子の里親で 25%を超えており、中学校の里子の里親で約 30%、国公立高校の里子の里親で 33.8%、私立高校では 37.5%、各種学校進学では 70%となっていた。小学校以降の里子の里親への経済的支援が不足していることが明らかとなった。特に、高校や各種学校進学の里子における学費や自立のための経済的支援の強化が求められる。

表1-39 里子の就学状況と里親養育の負担（経済的負担）

	問20-7. あなたは、里子の養育に 「経済的な負担」を感じていますか				合計
	全く感じて いない	感じて いない	感じて いる	とても感じて いる	
未就学	61	70	24	2	157
	38.9%	44.6%	15.3%	1.3%	100.0%
保育園	43	57	16	1	117
	36.8%	48.7%	13.7%	0.9%	100.0%
幼稚園	27	47	14	0	88
	30.7%	53.4%	15.9%	0.0%	100.0%
小学校	39	103	40	8	190
	20.5%	54.2%	21.1%	4.2%	100.0%
中学校	17	49	26	2	94
	18.1%	52.1%	27.7%	2.1%	100.0%
国公立高校	12	39	22	4	77
	15.6%	50.6%	28.6%	5.2%	100.0%
私立高校	7	13	11	1	32
	21.9%	40.6%	34.4%	3.1%	100.0%
特別支援	4	4	1	1	10
	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%	100.0%
各種学校進学	1	2	6	1	10
	10.0%	20.0%	60.0%	10.0%	100.0%
その他	5	6	2	1	14
	35.7%	42.9%	14.3%	7.1%	100.0%
合計	216	390	162	21	789
	27.4%	49.4%	20.5%	2.7%	100.0%

（４）里子の就学状況と里親養育の負担（体力的負担）

里子の就学状況と里親養育の負担（体力的負担）とのクロス集計では、全体的に、負担を感じている割合が非常に高くなっていた。特に、中学校以下の里子の里親において、負担を感じている以上の回答が約 50%以上となっていた。保育園、私立高校、特別支援、各種学校進学の子の里親においては、負担をととても感じているという回答が 9.3～12.5%であった。全体的に体力的負担を軽減する支援が重要であり、体力的負担が大きいことを考慮したマッチングやレスパイトなどが求められる。

表1-40 里子の就学状況と里親養育の負担（体力的負担）

	問20-8. あなたは、里子の養育に 「体力的な負担」を感じていますか				合計
	全く感じて いない	感じて いない	感じて いる	とても感じて いる	
未就学	20	57	74	6	157
	12.7%	36.3%	47.1%	3.8%	100.0%
保育園	12	36	59	11	118
	10.2%	30.5%	50.0%	9.3%	100.0%
幼稚園	10	31	42	6	89
	11.2%	34.8%	47.2%	6.7%	100.0%
小学校	15	81	79	15	190
	7.9%	42.6%	41.6%	7.9%	100.0%
中学校	11	34	45	4	94
	11.7%	36.2%	47.9%	4.3%	100.0%
国公立高校	6	39	29	3	77
	7.8%	50.6%	37.7%	3.9%	100.0%
私立高校	3	18	7	4	32
	9.4%	56.3%	21.9%	12.5%	100.0%
特別支援	3	4	2	1	10
	30.0%	40.0%	20.0%	10.0%	100.0%
各種学校進学	0	5	3	1	9
	0.0%	55.6%	33.3%	11.1%	100.0%
その他	2	7	4	1	14
	14.3%	50.0%	28.6%	7.1%	100.0%
合計	82	312	344	52	790
	10.4%	39.5%	43.5%	6.6%	100.0%

（５）里子の就学状況と里親養育の負担（自由や時間が制限される負担）

里子の就学状況と里親養育の負担（自由や時間が制限される負担）とのクロス集計では、「その他」の里子の里親以外のすべての里親において、負担を感じている以上の回答が40%以上と非常に高くなっていた。幼稚園や特別支援、「その他」の里子の里親においては、負担をとっても感じている割合が10%を超えていた。レスパイトなどすべての里親の自由な時間を作る支援が重要であると示唆された。

表I-41 里子の就学状況と里親養育の負担（自由や時間が制限される負担）

	問20-9. あなたは、里子の養育に「あなたの自由や時間が制限される負担」を感じていますか				合計
	全く感じていない	感じていない	感じて いる	とても感じて いる	
未就学	20	61	67	9	157
	12.7%	38.9%	42.7%	5.7%	100.0%
保育園	16	43	51	6	116
	13.8%	37.1%	44.0%	5.2%	100.0%
幼稚園	12	33	34	10	89
	13.5%	37.1%	38.2%	11.2%	100.0%
小学校	18	78	81	13	190
	9.5%	41.1%	42.6%	6.8%	100.0%
中学校	13	39	38	4	94
	13.8%	41.5%	40.4%	4.3%	100.0%
国公立高校	5	33	36	3	77
	6.5%	42.9%	46.8%	3.9%	100.0%
私立高校	4	14	13	1	32
	12.5%	43.8%	40.6%	3.1%	100.0%
特別支援	1	5	3	1	10
	10.0%	50.0%	30.0%	10.0%	100.0%
各種学校進学	0	4	5	0	9
	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
その他	2	7	3	2	14
	14.3%	50.0%	21.4%	14.3%	100.0%
合計	91	317	331	49	788
	11.5%	40.2%	42.0%	6.2%	100.0%

(6) 里子の就学状況と里子の生活満足度

里子の就学状況と里子の生活満足度とのクロス集計では、全体的に里子の生活満足度は高くなっていた。ただし、里子が生活に満足していると思わない以下の回答が、中学校、私立高校の里子の里親では約 20%、国公立高校の里子の里親では 27.7%、各種学校進学の子の里親では 33.3%となっていた。年齢の高い里子における思春期等の心身の状況や、地域や学校での状況を勘案した支援ならびに進学や自立に関する支援の強化が大きな課題であると思われた。

表1-42 里子の就学状況と里子の生活満足度

	問21-1. 「現在受託中の受託年数が最長の里子」が 今の生活全般に満足していると思いますか				合計
	全く 思わない	思わない	思う	とても 思う	
未就学	1	1	94	58	154
	0.6%	0.6%	61.0%	37.7%	100.0%
保育園	0	6	73	38	117
	0.0%	5.1%	62.4%	32.5%	100.0%
幼稚園	0	1	62	27	90
	0.0%	1.1%	68.9%	30.0%	100.0%
小学校	0	20	133	37	190
	0.0%	10.5%	70.0%	19.5%	100.0%
中学校	1	17	60	16	94
	1.1%	18.1%	63.8%	17.0%	100.0%
国公立高校	4	17	40	15	76
	5.3%	22.4%	52.6%	19.7%	100.0%
私立高校	0	7	22	3	32
	0.0%	21.9%	68.8%	9.4%	100.0%
特別支援	0	1	5	4	10
	0.0%	10.0%	50.0%	40.0%	100.0%
各種学校進学	0	3	6	0	9
	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
その他	1	1	10	2	14
	7.1%	7.1%	71.4%	14.3%	100.0%
合計	7	74	505	200	786
	0.9%	9.4%	64.2%	25.4%	100.0%

4. 調査結果 1 の考察

1) 里親家庭の状況

(1) 里父・里母の状況

アンケートの記入者は里母が 896 人 (74.4%) となった。里親を対象としたアンケートを実施した場合、里母が答える傾向にあるが、今回の調査でも同様の結果を示した。里母の属性を見ると、里母の年齢は 40 代が 405 人 (33.8%) と一番多くなった。次いで 50 代、60 代となっていた。受託している里子の数の大多数が 1 人の受託であることを考えると、長く里親をした結果、年齢が高くなった里親が多いわけではないと考えられる。実際、里親登録時の里母の年齢を見てみると、40 代が 587 人 (50.1%)、50 代が 20.5% となっており、不妊治療をしてきた夫婦が不妊治療の限界から里親を選択した人が多くいる可能性が示唆された。就労の状況を見ると、正社員が 139 人 (11.6%) とやや低めであるが、自営業、パート・アルバイトなどの非正規雇用で働いている人を含めると、49.1% が働きながら里子養育を行っていることが示された。国も里親支援機関事業の拡充として新しく共働き家庭里親委託促進事業を始めたが、働く女性が多くなるなか、里親委託向上にはこういった事業の充実が必要となろう。

里父の属性に関しては、就労状況のみ里母と異なる傾向を示したが、年齢や里親登録時の年齢はほぼ同じ傾向であった。ただ、夫婦の年齢は夫が高い場合が多いことが反映され、50 代や 60 代の人数がやや多くなった。また、就労の状況を見ると、正社員が 600 人 (53.0%)、自営業が 231 人 (20.4%) と多くの人定職についていることが示された。また、パート・アルバイトなどの非正規雇用や無職の人がいるのは、60 代・70 代といった退職後に年金暮らしをしながら里子養育をしている人が一定数いることが反映されたと考えられる。

次に里親登録の年次推移を見ると、里父・里母ともに平成の前半部分においては、少ない人数で横ばいの状況が続いていたが、2011 (平成 23) 年前後から登録者が急増する。これは、2011 (平成 23) に厚生労働省から「里親委託ガイドライン」が出され、里親委託の優先性が児童相談所に周知されたことが大きいと考えられる。

登録している里親に関しては、養育里親が 1,045 人と一番多く、次いで養子縁組里親の 345 人となった。

同居している家庭構成は 3 人が 477 人と一番多かった。4 人になると 264 人まで減少していた。受託している里子の人数も 1 人が 910 人と最も多く、2 人になると 217 人と大幅に減少していた。少ない子どもを核家族で養育している里親が多いことが示された。

里親世帯の平均月収をみると、30~40 万円の月収である世帯が 308 人 (25.6%) と一番多くなった。また、40 万円以上の月収である世帯が 419 人 (34.9%) となっており、比較的経済的に余裕のある世帯が多いことが示された。

以上のことをまとめると、比較的経済的に余裕のある 40 代以上の里親が、少ない里子を核家族で養育しているケースが多いことが示された。

里親になろうと思った動機を見てみると、「子どもが欲しかったため (養子縁組の希望あ

り)」が一番多く（543 人）、次に「社会的に意義があると思ったため」（521 人）、「養護問題（虐待・孤児など）に関心があったため」（384 人）と社会に貢献したという項目を動機としてあげる人が多かった。しかし、「子どもが欲しかったため（養子の希望なし）」も 114 名の人が動機としてあげており、養子の希望ありを含めると、657 人の人が「子どもがほしい」ということを動機としてあげていた。

これらのことを勘案してみると、比較的経済的に余裕があり、最先端の不妊治療に挑戦したが不妊治療の限界に直面し、里親養育を選ぶという世帯が多いということが考えられる。そうであるならば、里親の啓発そしてリクルートを福祉業界でのみ進めるのではなく、医療をうまく巻き込むことができれば、よりいっそうの里親開拓が効率よく進められるのではないと思われる。また、「周りに里親をしている方がいたため」ということを動機としてあげている人もおり、いかに身近に里親を知ってもらえるのか、そして感じてもらえるのかも、里親委託率の向上につながるのではないと思われる。

（２）里子の特徴

現在委託されている里子の性別をみると、男児が 789 人（52.4%）と女児を上回った。また、受託している里子の年齢をみてみると、3～5 歳の里子が多かった。しかし、どの年齢にも同じような数の里子が委託されており、全体的には年齢による人数の差はみられなかった。児童養護施設に在籍している児童については、高校年齢の 15 歳以降に在籍者数が減るのであるが、里親委託児ではそうはなっていなかった。その理由としては、里親には比較的長期養育が見込まれる児童が委託されていることが多く、家庭復帰する児童が少ないことが関係していると考えられる。

受託している里子の受託時の年齢は 0 歳が最も多かった。また、乳幼時期の委託が多いことが示された。2 歳児の委託が多いのは、乳児院からの措置変更、そして 15 歳での入所が多いのは、高校進学にともなう措置変更ケースがあるからだと考えられる。

現在受託している里子の障がいの有無を尋ねたところ、障がいがある」と答えたのは 310 人（21.2%）であった。これは厚生労働省の「児童養護施設入所児童等調査結果」（平成 25 年 2 月 1 日現在）の里親委託児童のうち障がいがある児童の割合（20.6%）とほぼ同じ数字となった。また、被虐待経験の有無に関しては、被虐待経験がある」と答えたのは 469 人（33.1%）となり、これも先ほどの厚生労働省の調査の 31.1%とほぼ同じ数字となった。

（３）これまでの里親経験

これまでに登録されたことのある里親種別は、養育里親が 999 人、専門里親が 110 人、親族里親 35 人、養子縁組里親が 365 人となった。また、これまで養育を受託した里子の人数は、1 人が 525 人、次いで 2 人の 236 人と半減し、そのあとも 3 人の 86 人とさらに半減したのちに徐々に少なくなっていくという傾向を示した。また一方で、20 人以上受託した

という方も 13 人いた。

これまで養育を受託した里子の障がいの有無については、障がいがある里子を受託したことがある里親は 399 人（34.4%）となり、現在受託中の里子の障がいがあるケースの 310 人（21.2%）より多くなった。また、障がいの種類を尋ねたところ、発達障がい 281 人（52.9%）、次に多いのが知的障がいの 171 人（32.2%）で、発達障がいの児童が多いことが示された。

また、これまで養育した里子の疾病の有無については、疾病のある里子を受託したことのある里親は 266 人（23.3%）となり、疾病を持つ里子を受託したことのある里親の数が決して少なくないことが示された。

これまで養育を受託した里子の被虐待経験の有無については、被虐待経験を持つ里子を受託したことのある里親は 494 人（42.2%）となり、比較的多くの里親が被虐待経験を持つ里子を養育した経験を持つことが示された。被虐待経験の種類を聞くと、ネグレクトが 346 人、身体的虐待 230 人、心理的虐待 165 人、性的虐待 53 人となった。児童養護施設に入所する児童とほぼ同じ傾向を示したが、性的虐待の割合が高かった。より個別なケアを求めて里親へ委託されているのかと考えられるが、性的虐待の経験を持つ児童の養育の難しさはよく知られていることであるので、里親へ大きな負担がかかっていることが考えられる。

（４）未委託期間とその理由

未委託期間については、1 年以上 2 年未満が 250 人と多く、次いで 1 年未満の 161 人、そして 2 年以上 3 年未満の 99 人となった。比較的早い時期に委託されていることが示された一方で、委託までに期間を要した里親が多くいることも示された。また、未委託期間が長かった理由としては、「里親として受託可能な子どもが中々見つからなかったため」が一番の理由として選択されたが（174 人）、「里親側の受け入れ体制が、中々整えられなかったため」（35 人）「自分たちには養育はまだ無理だと児童相談所などから思われていたため」（31 人）、「里親や家族の急な事情で、受託できない時期があったため」（21 人）と里親側のなんらかの理由で未委託期間が長かったと答えている里親もいた。

（５）里親への養育支援の状況

里子が委託される前の里親への支援状況では、全体的に見て高い評価が得られた。「家庭訪問をして里子との関係を確認する支援」「委託予定児童の生育歴についての情報提供」「委託予定児童への里親委託に向けての気持ちを確認する支援」といった項目の平均が 3.2 点以上となり、これらの支援が実施されていることが示された。今回「情報提供」が実施されていると評価されたのであるが、この項目については、これまで様々な調査で不十分であるということが指摘されてきたものであった。個人情報取り扱いについて、里親のニーズに合わせて変化してきたのかもしれない。

未委託里親への支援については、「養育を学ぶ研修の機会」が 3.07 点と 3 点を上回ったが、「状況の確認」「実習」「トレーニング」といった項目は 3 点を下回った。未委託里親への支援に関しては、昨年度に実施した全国の児童相談所の里親支援状況における調査において、唯一里親委託率の上昇に貢献していることが示された項目であった。国も里親支援機関事業の一つとして、里親トレーニング事業を予算化しているが、この事業の充実が必要とされていることが示された。

里子が委託されてからの里親への支援状況を含んだ 9 因子ごとにみると、「里親の相互交流」の得点の平均が 3 点を上回ったのみであったが、「啓発研修」「里親への研修」「委託前支援」についても 2.9 点以上であり、低い数値という訳ではなかった。今回上位にランクした項目は昨年度の調査において、児童相談所からの里親支援として実施されている項目としても上位にランクされるものであった。これらの支援の充実が図られてきていることが示された。

一方で、下位 3 つの因子に入ったのは、「養育状況の評価」「里親不調時の支援」「委託後の相談支援」であった。「養育状況の評価」は自立支援計画について尋ねたものであった。この項目が一番低く評価されていた。現状においては、自立支援計画が十分に活用されていないことが示された。国も自立支援計画策定等支援事業を新たな里親支援機関事業として始めたが、自立支援計画の策定および活用が今後の里親支援において重要になると考えられる。特に、今回「里親不調時の支援」も低く評価されていたのであるが、里親宅からの措置変更を予防するためにも、これらの支援の充実が求められるのである。

(6) 里親不調

上記において里親宅からの措置変更の予防が今後の支援の鍵であると報告したが、以下では里親不調の実態について検討する。里親不調については、里親不調を経験された方が 190 人 (17%) いた。そのうち複数回の里親不調を経験された方が 43 人 (3.8%) いた。厚生労働省の「児童養護施設入所児童等調査結果 (平成 25 年 2 月 1 日現在)」によると、児童自立支援施設の子どものうち、児童養護施設から措置変更された子どもは 14.1%、児童養護施設の子どものうち措置変更経験者は 32%で、そのうち 3 分の 2 が乳児院から (21.9%) となっている。これらの数字と比較すると、里親不調の 17%という数字は、社会的養護において措置変更になるケースとして想定される範囲であると考えられる。そのように考えると、この数字をいかに低くできるのかが今後の課題である。

また、里親不調の原因をみると、その原因で最も多かったのが「障がい児や被虐待児などのケアに対応しきれなかったため」の 45 人、次いで「里親家庭に危害 (暴力、器物破損、性被害など) が及んだため」の 36 人となり、里子の特性やそれにとまなう行動上の問題から不調となることが多いことが示された。

2) 里親の幸福度・満足度・負担感

(1) 里親の幸福度

里親の幸福度については、10 点満点中、その平均が 8.22 となった。2011（平成 23）年に内閣府が行った調査では、6.41 点となっており、一般サンプルと比較して非常に幸福度が高かった。内閣府の調査で幸福度に影響を与える要因としてあがっている「所得の高さ」「結婚している」といったことが多くの里親に当てはまることも幸福度が高くなった要因だと考えられるが、里親の幸福度が高いというのは注目されるべきことである。また、「子育てへの喜び」「里親になったことへの満足度」という項目においても高い平均点を示しており、全体的に見ると、里親養育を楽しんでいる人が多いことが示された。さらに、負担感に関しても「精神的な負担」「経済的な負担」「体力的な負担」「自由や時間が制限される負担」のいずれの項目においても低い平均値となった。

(2) 里子の状況

里子の状況についての里親からの評価についても、すべての項目の平均値が 3 点を上回っており、里子の成長について多くの里親が肯定的に捉えていることが示された。

(3) 里親の幸福度・里親支援満足度・里親養育の負担感・里親の継続への意向・里子の生活満足度における相関関係

里親の幸福度・里親支援満足度・里親養育の負担感・里親の継続への意向・里子の生活満足度において相関分析を行った。その結果、すべての関係において有意な相関関係が示された。特に、里親の幸福度と精神的な負担との相関が中程度（-0.433）となり、精神的負担の大きい里親ほど幸福度が低いという傾向が見られた。里親の幸福度と里親の継続への意向、里子の生活満足度、里親支援満足度などにおいても正の相関がみられ、里親が幸福なほど、他のアウトカムも良好であることが示された。里親の精神的な負担をどう軽減できるのかが重要な里親支援施策になることが示された。

(4) 里子の就学状況と里親・里子アウトカムとのクロス集計

里子の就学状況と里親・里子アウトカム（里親支援満足度・里親養育の負担感の 4 項目・里子の生活満足度）とのクロス集計を行った結果、全体的に里子の年齢が大きくなるほど、里親支援満足度は低くなり、かつ里親養育の負担感が高くなる傾向が示された。特に、経済的負担については、小学校の里子の里親で負担を感じている方が 25.3%であったのに対し、中学校では 29.8%、国公立高校で 33.8%、私立高校では 37.5%、各種学校進学では 70%となっていた。義務教育以降の経済的負担感の上昇は顕著であった。進学にまつわる経済的支援の必要性が示された。

また、すべてのアウトカム項目において、上記のような傾向を示しており、年齢の高い里子における思春期の心身の状況や、地域や学校での状況を勘案した支援ならびに進学や

自立に関する支援の強化が大きな課題としてあがった。

5. 調査結果 2（里親家庭の家計収支の状況）

1) 回収率と有効回答率

1,726 家庭から回答を得たが（回収率 43.2%）、第 2 部の家計の収支の状況への回答率が低かったため、第 1 部よりも入念なデータクリーニングを行った結果、有効回答としては、1,032 家庭（有効回答率 25.8%）となった。また、里子の数が 1 人の世帯が 801 件（77.6%）、2 人の世帯が 199 件（19.3%）、3 人の世帯が 17 件（1.6%）、4 人の世帯が 15 件（1.5%）であった。なお、本報告書では、里子の数が 1 人の世帯の家計収支の状況の報告のみを行う。また、就学状況により家計収支に差が生まれることが予測されることから、里子の現在の就学状況ごとに分けて、家計収支の分析を行った。家計収支の状況については、2017（平成 29）年 11 月 1 日から 11 月 30 日までの 1 か月あたりの収支の状況について尋ねている。

本研究班では里子 2 人、3 人、4 人の世帯についても分析は行ったが、欠損値が多く、分析結果の信憑性に疑問が生まれたことから、本報告書での報告は見送ることとした。なお、複数の里子がいる世帯の里子 2 人の世帯 199 件についてのみ章末資料に掲載する。里子 2 人世帯では、里子の就学状況の組み合わせにより 37 グループが生成されたので、そのそれぞれのグループごとに分析を行った結果となっている。

2) 里子の現在の年齢

里子の現在の年齢は 5 歳以下の未就学児がやや多いものの、すべての年齢にまんべんなく分布していた。里子の現在の年齢の平均値は 8.15 歳（標準偏差 5.78 点）となった。

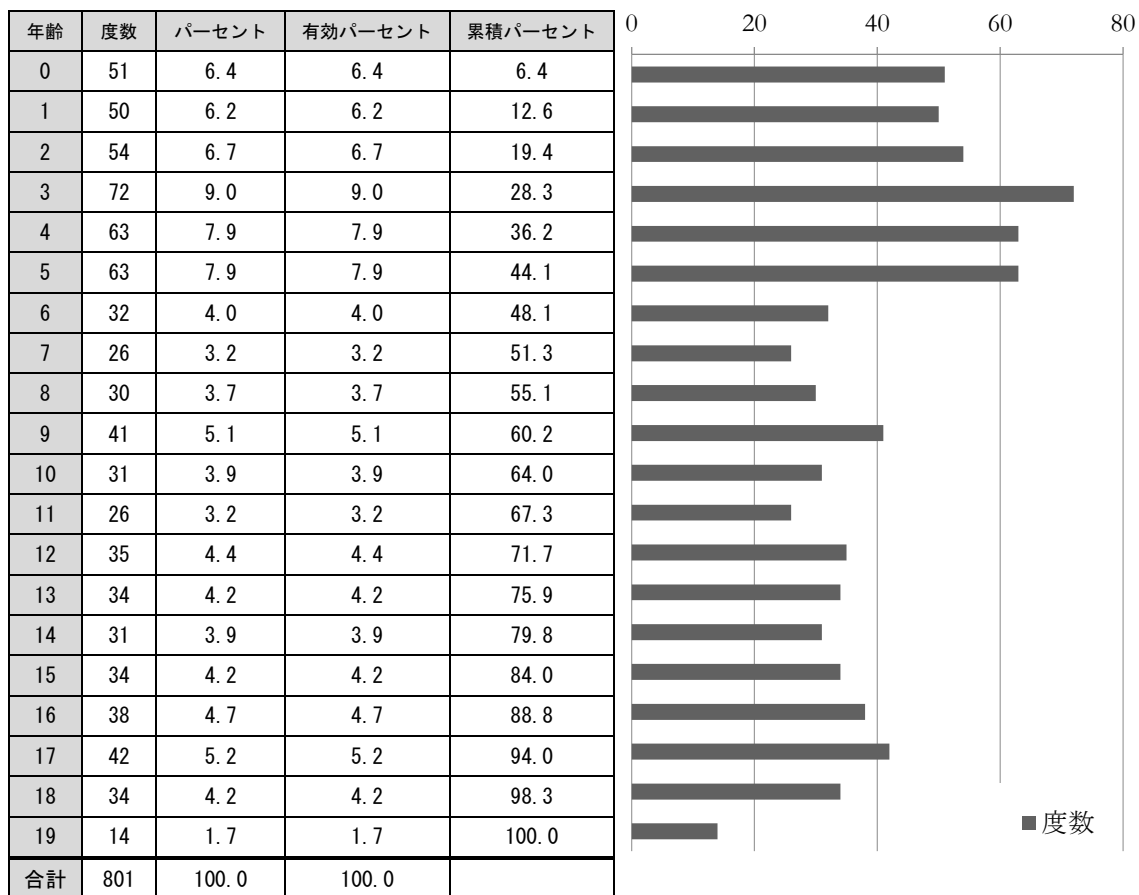


図2-1-1 里子の現在の年齢

3) 里子の現在の就学状況

里子の現在の就学状況については、一見すると小学校が多いように思われるが、保育園と幼稚園に行く児童の年齢がほぼ同じということと、高校に関しては国公立高校と私立高校で分けて属性を尋ねているので、やや中学校が少ないようであるが、属性によりその数に顕著な差があるわけではなかった。

表 2-1-1 里子の就学状況

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	未就学	159	19.9	19.9	19.9
	保育園	119	14.9	14.9	34.7
	幼稚園	91	11.4	11.4	46.1
	小学校	191	23.8	23.8	69.9
	中学校	98	12.2	12.2	82.1
	国公立高校	77	9.6	9.6	91.8
	私立高校	32	4.0	4.0	95.8
	特別支援	10	1.2	1.2	97.0
	各種学校進学	10	1.2	1.2	98.3
	その他	14	1.7	1.7	100.0
合計		801	100.0	100.0	

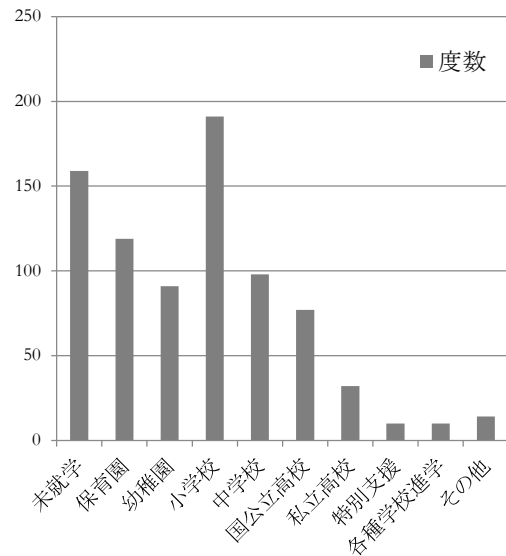


図2-1-2 里子の就学状況

4) 平成 29 年 11 月の 1 か月に支給された里親委託にかかる委託費の収入の状況

(4-1) 毎月決まって支給される里親関連の委託費

ここでは、毎月決まって支給される里親関連の委託費の支給状況を報告する。

(4-1-1) 毎月決まって支給される里親関連の委託費 (全体)

里親手当に関しては、専門里親も含んでしまっているので、全体の平均は 84,361 円となった。一般生活費は 50,938 円であった。その他の項目についてはそれぞれの就学状況において特徴が出てきているので、それぞれの項目で報告を行う。全体の項目での平均を示したのは、全体の平均点がそれぞれの就学状況で示される数値の高い・低いを判断する基準となると考えたからである。

なお、平均の合計を算出しているが、それぞれの就学状況において出されるもの、例えば教育費（高校生以外に支給）と特別育成費（高校生に支給）が二重に足されている等があるので、全体を代表する意味のある数値とはなっていないことを断っておく。あくまで参考の数値である。

（４－１－２）毎月決まって支給される里親関連の委託費（未就学）

未就学では、全体的にみてブランクが目立つ。委託費については学習関係が多いので、未就学児童については学習関連の収入が少なく、ブランクが多くなったと考えられる。里親委託児童通院費は全体では３件であったが２件が未就学であった。また、平均の合計は146,818円と一番低い支給となっていた。

（４－１－３）毎月決まって支給される里親関連の委託費（保育園）

保育園では、未就学と同様にブランクが多い。里親委託児童通院費の３件のうちの１件が保育園であった。平均の合計は２番目に低い147,198円であった。

（４－１－４）毎月決まって支給される里親関連の委託費（幼稚園）

幼稚園では、数は少ないが交通費として平均3,224円、学用品費として平均515円、そして学校給食費として平均3,013円があがっていた。保育園に比べると幼稚園は教育施設としての色が強く、教育費の支給が増えるのであろう。平均の合計も保育園より高い164,540円であった。

（４－１－５）毎月決まって支給される里親関連の委託費（小学校）

小学校では、里親手当が平均86,326円と平均を上回った。これは専門里親の割合が少し増えたことを示していると考えられる。小学校からは教育関連の支出が出てくるので、学習関連の収入が上がっていた。学習塾代を支出している自治体もあるようである。平均の合計は幼稚園よりも高い170,583円であった。

（４－１－６）毎月決まって支給される里親関連の委託費（中学校）

中学校では、里親手当が86,089円と小学校より高くなっていた。また、交通費や教育関連についての支出が多くなる分、収入が上がっていた。塾に関する支出への収入が大きい。平均の合計は小学校より高い193,625円であった。

（４－１－７）毎月決まって支給される里親関連の委託費（国公立高校）

国公立高校では、里親手当は、中学校より低くなっていた。この傾向は私立高校と同じであった。高校になると専門里親が少し減少していると考えられる。しかし、今中学校年齢である児童が高校に進学するようになると事情は変わる可能性はある。特別育成費が23,371円となり、また、中学校の塾代にあたる補修費等の支給があったので、平均の合計が211,057円となった。

（４－１－８）毎月決まって支給される里親関連の委託費（私立高校）

私立高校では、特別育成費が国公立高校より33,287円と上昇した分もあり、平均の合計が就学状況ではトップの215,448円となったが、私立高校への出費を考えると、厳しい状況である。

（４－１－９）毎月決まって支給される里親関連の委託費（特別支援）

特別支援では、里親手当が89,833円と高くなっていた。障がいがある児童が専門里親に

委託されていることが反映されたと考えられる。しかしながら、平均の合計は 159,340 円と低い値となった。

（４－１－１０）毎月決まって支給される里親関連の委託費（各種学校）

各種学校では、専門里親がいない分、里親手当の平均が 79,778 円であった。また、各種学校なので、教育費への支給もなく、平均の合計は 136,185 円と最低になった。しかし、実際には、授業料等は支払っており、里親にとって厳しい状況であることが示された。

（４－１－１１）毎月決まって支給される里親関連の委託費（その他）

その他の児童を委託されている里親も数が少ないので、これらの値が代表する値とはいえないが、所属もない分、入ってくる収入が少ないことが示された。また、里親手当に関しては、就学状況の中ではトップの 91,875 円であった。つまりは、行き場のない児童を専門里親が養育していることが示唆された。平均の合計は 171,352 円であった。

（４－２）その他、単発、臨時の委託費収入

その他の収入として、単発、臨時の委託費収入を尋ねたのであるが、答えられた方が非常に少なかったため、ブランクが目立つ結果となっている。また、11 月にも関わらず、「夏季等特別行事費」等の支給の欄を設けていたため、11 月というより、これまでに支給された単発、臨時の委託費収入を答えたのではないかと考えられた。「毎月決まって支給される里親関連の委託費」と同様に、就学状況ごとに分析を行ったが、特に顕著な特徴等を捉えることができなかった。詳細は章末資料を参照していただきたい。

５）平成 29 年 11 か月の 1 か月の里親委託児童にかかる支出（教育関連）

（５－１）就学に関する支出

ここでは、就学に関する支出状況について報告する。

（５－１－１）就学に関する支出（全体）

就学状況に応じて、かかる経費も異なるが、平均を算出することで、支出の高い・低い基準になるのではないかと考え、委託費の収入と同じく、まず平均の数値を示した。

（５－１－２）就学に関する支出（保育園）

保育園では、授業料（保育園利用料）の平均が 31,183 円となり、各種学校進学の際に高い数値となった。その他の経費に関しては平均より低く、平均の合計が 67,328 円となった。

（５－１－３）就学に関する支出（幼稚園）

幼稚園では、授業料は、1,650 円から 38,380 円に分布しており、平均は 18,778 円であった。また、保育園と比較すると、教材費やクラブ活動等の教科外活動費などの支出が増えるようである。平均の合計は 83,145 円となり義務教育機関である小学校・中学校よりも高い数値となった。

（５－１－４）就学に関する支出（小学校）

小学校では、授業料は 1,020 円から 50,000 円に分布しており、平均は 10,675 円であった。また、修学旅行・遠足・見学積み立て金は 192 円から 34,000 円に分布し、平均は 4,530 円となった。これらの項目においては高低の差が大きく、私学に通う里子が平均を上げる要因となったと考えられる。平均の合計額は 59,115 円と一番低い値となった。

（５－１－５）就学に関する支出（中学校）

中学校では、授業料は 1,530 円から 51,970 円に分布しており、平均は 16,096 円であった。また、修学旅行・遠足・見学積み立て金は 1,080 円から 60,000 円に分布し、平均は 13,993 円となった。小学校同様に高低の差が大きく、私学に通う里子が平均を上げる要因となったと考えられる。また、すべての数値が平均に近く、学用品やクラブ活動等の教科外活動費などの支出が増えていた。平均の合計は 79,474 円と高くなっていた。

（５－１－６）就学に関する支出（国公立高校）

国公立高校では、授業料は分布の幅も少なく平均は 7,063 円であったが、修学旅行・遠足・見学積み立て金は 2,500 円から 111,680 円に分布し、平均は 25,014 円となった。また、教科書費等の図書費、学用品・実験実習材料費、クラブ活動など教科外活動費、通学費、通学用品費、学校給食費などが高くなっており、平均の合計は 109,489 円となった。

（５－１－７）就学に関する支出（私立高校）

私立高校では、授業料は 7,000 円から 65,000 円で分布し、平均は 26,729 円であった。修学旅行・遠足・見学積み立て金は 5,000 円から 103,274 円に分布し、平均は 21,159 円であった。国公立高校と比較して、ほとんどすべての項目で支出が増えており、平均の合計額も 128,186 円と一番高い値となった。

（５－１－８）就学に関する支出（各種学校）

各種学校では、サンプル数は少ないのであるが、授業料は、10,000 円から 80,000 円に分布しており、平均は 45,000 円であるが、80,000 円の授業料は全体のサンプルでトップであった。また、多くの項目で平均より高い値を示した結果、平均の合計が 98,211 円となり、高い値を示した。

（５－２）就学以外の学習に関する支出

ここでは、就学以外の学習に関する支出について報告する。

（５－２－１）就学以外の学習に関する支出（全体）

全体の平均をみると、家庭教師費等、学習塾、スポーツ・レクリエーション活動、教養・その他の月謝等が高くなっていた。就学状況により差があることが考えられるが、全体の平均を算出することで、支出の高い・低いの基準になるのではないかと考え、まず平均の数値を示した。

（５－２－２）就学以外の学習に関する支出（未就学）

未就学においても、習い事等をさせおり、それらの支出も多かった。しかし、平均の合計は全体の平均より低い 82,782 円であった。保育園や幼稚園より高い数値になっていた。幼稚園等に行かせていない分、それだけ就学以外の学習等にお金をかけている可能性がある。

（５－２－３）就学以外の学習に関する支出（保育園）

保育園では、家庭内学習だけでなく、習い事等をさせている人の多いことが示された。学習塾に行かせている里親もいた。しかしながら、平均の合計は 76,036 円と一番低い値を示した。

（５－２－４）就学以外の学習に関する支出（幼稚園）

幼稚園では、家庭内学習だけでなく、習い事等をさせている人が多いことが示めされた。家庭教師や学習塾に通わせている里親もいた。平均の合計は保育園よりは高い 73,880 円であった。

（５－２－５）就学以外の学習に関する支出（小学校）

小学校では、家庭教師や学習塾の費用が保育園や幼稚園と比べると上昇していた。しかし、全体の平均よりは低い、85,542 円であった。

（５－２－６）就学以外の学習に関する支出（中学校）

中学校では、家庭教師や学習塾の費用が小学生からも上昇した分、平均の合計が高くなり、全体の平均を上回った（104,398 円）。ただ、習い事のようなものの数値が少し低くなっていた。習い事を辞めて、学習に力を入れ始める時期が中学生なので、これら事情が反映されたと考えられる。

（５－２－７）就学以外の学習に関する支出（国公立高校）

国公立高校では、家庭教師や学習塾の費用が高い数値を示していた。これらの費用は中学校と違って全額が支給されるものではないが、これらの費用についても支出されていた。また、全体的に支出が高くなり、平均の合計が 111,283 円となった。

（５－２－８）就学以外の学習に関する支出（私立高校）

私立高校では、家庭教師や学習塾の費用が高く、全体的に高い数値となったが、有効回答が少なく、全体的な傾向を捉えているとは言い難い数値となった。平均の合計は 194,634 円であった。

（５－２－９）就学以外の学習に関する支出（各種学校）

各種学校では、今まで大きな割合を占めていた家庭教師や学習塾の費用が報告されなかったこともあり、低い数値であった。また、習い事等も少なかった。これは年齢が関係していると考えられる。平均の合計は 29,440 円であった。しかし、全体的にサンプルが少なく、ブランクが多かった。

（５－２－１０）就学以外の学習に関する支出（その他）

学習塾への支出等もあったため、各種学校よりは高い 31,300 円であったが、全体的には低い数値となった。しかし、全体的にサンプルが少なく、ブランクが多かった。

6) 住まいと設備投資

里親養育をするために住環境を見直すことが考えられ、住環境の見直しには多額の資金が必要になる。その実態を尋ねた。

（６－１）現在の住まいの状況

現在、お住まいの住宅形態について尋ねた結果、賃貸住宅の世帯が 119 件（16.0%）、持ち家の世帯が 625 件（84.0%）であった。

（６－２）里親養育を行う中での必要性からの引っ越しの有無（賃貸住宅世帯を対象）

賃貸住宅にお住まいの里親に里親養育を行う中での必要性から引っ越しをしたことがあるのかについて、「里親養育を行う中で養育環境の手狭感、不足感など設備変更のために引っ越しをしましたか」と尋ねた。その結果、引っ越しをした里親は 24 件（20.3%）になった。里親をするために引っ越しをされた方が 2 割くらいおられた。

（６－３）里親養育を行う中での必要性からの設備投資の有無（持ち家世帯を対象）

持ち家にお住まいの里親に里親を行う中での必要性から設備投資をされたことがあるのかについて、「里親養育を行う中で養育環境の手狭感、不足感など設備変更のために設備投資をされましたか」と尋ねた。その結果、設備投資をした里親は 182 件（29.6%）になった。里親をするために増改築をされた方が 3 割くらいおられた。

7) 通信関係の費用

（７－１）電話・インターネット・郵便等

電話・インターネット・郵便等の通信関係の費用について尋ねた。その結果、委託児童に費やした電話・インターネット・郵便等の費用の平均は全体（n=177）では、3,366 円（標準偏差 4,544 円）であった。

就学状況別にみると、未就学（n=26）では 2,232 円（標準偏差 4,482 円）、保育園（n=18）では 2,726 円（標準偏差 3,628 円）、幼稚園（n=17）では 4,069 円（標準偏差 5,814 円）、小学校（n=43）では 2,164 円（標準偏差 2,893 円）、中学校（n=31）では 3,411 円（標準偏差 4,312 円）、国公立高校（n=26）では 4,783 円（標準偏差 5,730）、私立高校（n=9）では 6,544 円（標準偏差 5,171 円）、特別支援（n=2）では 5,500 円（標準偏差 4,950 円）、各種学校進学（n=3）では 7,167 円（標準偏差 6,292 円）、その他（n=2）では 2,520 円（標準偏差 3,224 円）となった。

（７－２）児童用携帯電話利用料

次に児童用携帯電話利用料の費用について尋ねた。その結果、児童用携帯電話利用料の

平均は全体（n=125）では、7,790 円（標準偏差 6,914 円）であった。

就学状況別にみると、未就学（n=1）では 3,000 円、保育園はなし、幼稚園（n=1）では 6,679 円、小学校（n=13）では 4,082 円（標準偏差 5,061 円）、中学校（n=28）では 7,962 円（標準偏差 9,451 円）、国公立高校（n=47）では 9,071 円（標準偏差 6,612 円）、私立高校（n=26）では 7,345 円（標準偏差 4,845 円）、特別支援（n=3）では 6,567 円（標準偏差 4,708 円）、各種学校進学（n=3）では 7,255 円（標準偏差 4,925 円）、その他（n=3）では 9,745 円（標準偏差 10,386 円）となった。

8）自立支援（アフターケア）にむけての預貯金の有無

措置解除に向けてなど、里親手当から委託児童の自立支援（アフターケア用）に預貯金を行っている方もいるとは聞かすが、実際にはどのような状況なのか、その実態を調査した。質問としては、「措置解除に向けてなど、里親手当から委託児童の自立支援（アフターケア用）に預貯金を行っていますか」と尋ねた。その結果、預貯金を行っている里親が 414 人（59.9%）いた。月額の前貯金額の平均は 37,124 円（標準偏差 35,293）であった。

9）特別な出費

過去 1 年間にあった特別な出費（例：修繕、備品（高額な家具、電化製品、車等）、大学等への進学等）について自由記述形式で尋ねた。その結果、大きく分けて、「住まい」「車両」「備品」「教育」「旅行」「七五三等の記念写真」「治療費」「運転免許」「その他」の 9 のカテゴリーに分類された。

（9－1）住まい

自宅購入や設備投資およびリフォームを行ったという里親が多数おられた。

（9－1－1）自宅購入

自宅の購入をされたという里親は 5 人であった。一軒屋を購入したという人が 4 名であった。それにより、子どもへ一人部屋を与えることができたと言われている人がいた。27,000,000 円から 10,000,000 円まで分布し、平均は 17,500,000 円であった。

（9－1－2）設備投資およびリフォーム

設備投資およびリフォームに関しては 117 件であった。最高値は家の改築（耐震補強等）の 10,000,000 円であった。光回線工事費の 20,000 円が一番低い値であった。キッチンやトイレ、お風呂のリフォームが多いが、里子の部屋の増築や改修のための支出と答えられた方が 10 名おり、これらの費用は 1,500,000 円から 100,000 円に分布していた。

1,000,000 円以上の設備投資およびリフォームが 33 件、1,000,000 円未満 500,000 円以上が 17 件、500,000 円未満が 67 件となった。高額な設備投資としては、エコキュートや太陽光発電の設置というものがあつた。

（９－２）車両

車両関係は以下の３つのカテゴリーに分けることができた。

（９－２－１）自家用車購入

自家用車購入は 73 件であった。5,500,000 円から 180,000 円に分布しており、平均は 1,746,630 円となった。里子が全員乗れるように買い替えたという意見が多く記載されていた。

（９－２－２）車関係の経費

車検や修理は 16 件であった。自家用車車検と修理の 344,000 円が最高で、最低値がバイクの修理代の 34,950 円であった。平均は 130,160 円であった。

（９－２－３）自転車

自転車は 44 件であった。そのうち 13 件が子どもの送迎用に電動自転車を購入したものであり、160,000 円から 83,000 円に分布していた。電動自転車を除く残りの 31 件は里子用であり、80,000 円から 10,000 円に分布していた。里子用の自転車の平均は 33,696 円であった。

（９－３）備品

10 万円以上の備品と 10 万円以下の備品に分けて報告する。

（９－３－１）10 万円以上の備品

10 万円以上の備品は 135 件であった。10 万円以上の備品としてあげられているもので多かったのはエアコンの設置であった。子ども部屋への増設と答えられる方が多かった。その他には、冷蔵庫、洗濯機、ガスコンロ、ピアノ、テレビ、カメラという項目が多かった。最高値はテーブル・イスの買い替えの 640,000 円であり、最低値はテレビの 100,000 円であった。平均は 167,702 円であった。

（９－３－２）10 万円以下の備品

10 万円以下の備品は 77 件であった。最高値は電子ピアノの 99,360 円、最低値はイスの 10,000 円であった。ベッド、学習机、エアコン、ストーブ、テレビ、掃除機、こたつ、ファンヒーター、たんす、といったものがあがっていた。

（９－４）教育

教育については、「大学進学等」「高校入学金等」「高校以外の入学金等」「学校生活関係」「部活」「パソコン等の教育費」「塾」「習い事」に分けて報告する。

（９－４－１）大学等進学等

大学等の進学の費用としては 47 件あがっていた。最高値は大学の授業料等の 2,000,000 円、最低値は専門学校入学金の 100,000 円であった。平均は 766,148 円であった。大学等の進学の費用として、500,000 円以上支出された件数が 31 件あった。

(9-4-2) 高校入学金等

高校の入学金等は 13 件であった。最高値は 800,000 円、最低値は 50,000 円であった。平均は 320,800 円であった。

(9-4-3) 高校以外の入学金等

私立の中学校や小学校、幼稚園へ里子を進学させている里親もいるようで、12 件あがっていた。最高値は私立小学校入学金の 700,000 円、最低値は幼稚園入園金の 30,000 円であった。平均は 239,833 円であった。

(9-3-4) 学校生活関係

学校生活関係としては 43 件あがっていた。高校の制服、修学旅行、定期等が多かった。最高値は高校の制服代の 200,000 円、最低値は体操服、算数セット、上履き等の 2,000 円であった。平均は 8,726 円であった。

(9-4-5) 部活

部活動費としては 11 件あがっていた。最高値はフルート購入の 360,000 円、最低値は部活用のスパイクの 12,000 円であった。バトミントンのラケットの 60,000 円、バトミントンのユニフォームの 60,000 円以外は遠征費であった。平均は 87,091 円であった。

(9-4-6) パソコン等の教育費

パソコン等の教育費としては 56 件あがっていた。パソコン、電子辞書、タブレット、ランドセルといった項目があがっていた。最高値はパソコンの 300,000 円、最低値は子どもが壊したパソコンのモニター購入の 10,000 円であった。平均は 93,905 円でパソコンが多かった。

(9-4-7) 塾

塾や家庭教師としては 10 件あがっていた。しかし、中学校の塾代はあがっていなかった。これは公費として補助されるからだと思われる。ここでの項目は中学受験のためや大学進学のためといったものであった。最高値は中学受験の 2,000,000 円、次いで大学進学のための 1,500,000 円となっていた。最低値は通信教育の 36,698 円となり、平均は 553,257 円であった。

(9-4-8) 習い事

塾以外の習い事としては 31 件あがっていた。高額なものは英会話教材であった。最高値は 100,000 円でトップ 5 がすべて英会話教材であった（最低値は 200,000 円）。その他としては、ゴルフクラブ、バレエ発表会、サッカー、スキー、空手、スイミング、楽器（琴）等であった。トップ 6 はゴルフクラブの 200,000 円、最低値は習い事の 7,000 円であり、平均は 148,305 円であった。

(9-5) 旅行

旅行に関する項目としては 69 件あがっていた。最高値は 700,000 円、最低値は 20,000

円であった。10 万円以上と記入された里親は 41 人おり、平均値は 165,655 円であった。海外旅行の費用もあがっていた。

（９－６）七五三等の記念写真

七五三等の記念写真としては全体で 35 件あがっていた。そのうち、七五三が 30 件、成人式が 4 件、短大卒業式の袴が 1 件であった。最高値は成人式の 200,000 円、最低値は七五三で 8,000 円であった。

（９－７）治療費

治療費としては 13 件あがっていた。治療費として多かったのが、歯列矯正で 6 件であった。500,000 円から 162,000 円に分布していた。その他は通院の交通費や作業療法、そして友人とのケンカでけがをさせてしまい 510,000 円支払ったというものもあった。最低値は通院の交通費の 10,000 円、平均は 211,913 円であった。

（９－８）免許

運転免許取得としては 17 件あがっていた。最高値は 370,000 円、最低値は 70,000 円であった。平均は 258,520 円であった。助成金がでたとの記述もみられたが、全額の補助ではなく、里親の持ち出しがあるようである。

（９－９）その他

その他としては、引っ越し（1,200,000 円）、アパート代（720,000 円）、里子が壊した神具の修繕費（500,000 円）、自立への支度品（350,000 円）、社会人用のスーツ等の就職への支度（120,000 円）、盗みの賠償（100,000 円）、カウンセリング（74,160 円）、器物破損の賠償（89,000 円）、菓子折り（20,000 円）などがあがっていた。その他は全部で 39 件、平均は 217,032 円であった。

6. 調査結果 2 の考察

1) 里親委託にかかる委託費の収入と里親委託児童の教育関連にかかる支出

里親委託にかかる委託費の収入、そして里親委託児童の教育関連にかかる支出のいずれもについて、上級の学校に進むにつれて委託費の収入、そして里親委託児童の教育関連にかかる支出が上昇する傾向にあった（各種学校進学(n=10)を除く）。

委託費の収入と里親委託児童の教育関連にかかる支出の差をみると、収入と支出の差は保育園で 3,834 円、幼稚園で 7,515 円、小学校で 25,926 円、中学校で 9,753 円、国公立高校で-9,715 円、私立高校で-107,372 円、各種学校進学で 31,689 円となり、高校ではマイナスの数値となった。調査結果 1 で行った里子の就学状況と里親の負担感とのクロス集計においても年齢があがるにつれて里親の負担感が高くなる傾向が示された。特にこの傾向は経済的負担において顕著であったが、今回の結果はそれを裏付けるものになったと思われる。

また、高校以外においても、差が小学校では 25,924 円、保育園・幼稚園でも 1 万円をきっており、データを見る限りでは、里親に十分な委託費が支払われているわけではないよ

うである。日常生活は教育関連費だけではなく、食費、光熱水費、消耗品費など、生活に必要な出費はたくさんあるので、収支の差としてはよりマイナスに近くなることが予測される。各種学校進学では収支の差が 8,534 円となったが、n=10 のデータ数であり、代表的な数値が確保できているとは言えない。

なお、今回の家計調査に関しては、回答してくれている人が少なく、またアンケートもブランクが目立っていた。各種専門学校進学だけでなく、すべての就学状況においても、代表的な数値が確保できているとは言えないことを補足しておく。

表 2-1-2 里親委託にかかる委託費の収入と里親委託児童の教育関連にかかる支出

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	国公立高校	私立高校	各種学校進学
委託費収入	147,198	164,540	170,583	193,625	211,057	215,448	136,185
就学の支出	67,328	83,145	59,115	79,474	109,489	128,186	98,211
その他の支出	76,036	73,880	85,542	104,398	111,283	194,634	29,440
支出合計	143,364	157,025	144,657	183,872	220,772	322,820	127,651
収支の差	3,834	7,515	25,924	9,753	-9,715	-107,372	8,534

2) 住まいと設備投資

現在のお住まいの住宅状態について尋ねるとともに、里親養育を行う中での必要性からの引っ越しの有無や持ち家での設備投資やリフォームの有無を尋ねた結果、引っ越しに関しては 2 割くらいの方が里親養育を行う中で引っ越しを行い、3 割くらいの持ち家世帯の方が設備投資やリフォームを行っていた。

今回の調査では、過去 1 年間での特別な出費についても尋ねたが、自宅購入された方が 5 人、設備投資やリフォームを行った方が 117 件あった。1,000,000 円以上のリフォームを行われた方が 33 件、1,000,000 円未満 500,000 円以上が 17 件であった。里親養育のために高額な設備投資やリフォームをされた方が多くいることが示された。

3) 通信関係

電話・インターネット・郵便等の費用の全体の平均は 3,366 円になっており、学年が上がっていくにつれて高い値になることが示された。また、この傾向は児童用携帯電話利用料でも同じであった。児童用携帯電話利用料の全体の平均は 7,790 円であった。里親委託の収入と収支の差において、里子の高校生年齢において、収支がマイナスとなっていたが、通信費等でも年齢が高くなるにつれて出費が多くなることが示された。

4) 自立支援（アフターケア）にむけての預貯金の有無

措置解除に向けてなど、里親手当から委託児童の自立支援（アフターケア用）に預貯金を行っている方が 414 人（59.9%）いた。また、月額の前貯金額の平均は 37,124 円であった。比較的多くの里親が里子のために前貯金をしていることが示された。

5) 特別な出費の実際

特別な出費については、自宅購入や設備投資およびリフォーム、そして車両や備品の購入といった生活に関わるものから、大学等への進学といった教育費、そして旅行や七五三の写真撮影といった行事まで、里子養育に関するさまざまな支出が報告された。さらに、その額は大きいものが多かった。里子を養育することの意味は家に子どもがやって来ることである。いっしょに生活するには、やって来た子どもを内包する器が必要なのであり、ハード面の対応も重要となる。これらのハード面の対応を里親が各自で行っていることが示された。

また、特別な支出として、教育関連の支出も多かった。大学等への進学といった教育費を里親がそれぞれに工面していることが示された。現在、社会的養護に在籍する子どもへの支給として奨学金の充実が図られているところであるが、里親も里子も無理のないような制度を生み出す必要性が今回の調査により明確となった。

今回の調査では、歯列矯正に 500,000 円から 162,000 円を支出したという報告が 6 件あった。これらは保険適応外であり、もちろん公費負担もないものである。里親委託になったからこそ、これらの治療が受けることができたと考ええると、支出された里親の愛情を感じる。また、旅行や七五三の写真撮影といったものへの支出も報告されており、里子の生活がより豊かなものになっていることが示された。調査結果 1 で示されたように所得の高い里親が多いということも関係しているとは思われるが、現在失われつつある家庭生活の余裕のようなものが里親宅で実現されているとしたら、その意味の重要性をより考慮しつつ、今後の社会的養護の制度の在り方を考えていかなければならない。

章末資料 調査結果 2 里子 1 人世帯における調査結果

【基本属性】

表 2-1-3 里子 1 人世帯における基本属性

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里子の現年齢	8.15	5.776	0	19	801	0
里子の委託時の年齢	4.51	4.937	0	18	801	0
現在の就学状況	3.65	2.095	1	10	795	6

表 2-1-4 里子の現在の年齢

年齢	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	51	6.4	6.4	6.4
1	50	6.2	6.2	12.6
2	54	6.7	6.7	19.4
3	72	9.0	9.0	28.3
4	63	7.9	7.9	36.2
5	63	7.9	7.9	44.1
6	32	4.0	4.0	48.1
7	26	3.2	3.2	51.3
8	30	3.7	3.7	55.1
9	41	5.1	5.1	60.2
10	31	3.9	3.9	64.0
11	26	3.2	3.2	67.3
12	35	4.4	4.4	71.7
13	34	4.2	4.2	75.9
14	31	3.9	3.9	79.8
15	34	4.2	4.2	84.0
16	38	4.7	4.7	88.8
17	42	5.2	5.2	94.0
18	34	4.2	4.2	98.3
19	14	1.7	1.7	100.0
合計	801	100.0	100.0	

表 2-1-5 里子の委託時の年齢

年齢	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	177	22.1	22.1	22.1
1	92	11.5	11.5	33.6
2	120	15.0	15.0	48.6
3	96	12.0	12.0	60.5
4	43	5.4	5.4	65.9
5	34	4.2	4.2	70.2
6	32	4.0	4.0	74.2
7	28	3.5	3.5	77.7
8	20	2.5	2.5	80.1
9	15	1.9	1.9	82.0
10	25	3.1	3.1	85.1
11	10	1.2	1.2	86.4
12	12	1.5	1.5	87.9
13	15	1.9	1.9	89.8
14	18	2.2	2.2	92.0
15	22	2.7	2.7	94.8
16	24	3.0	3.0	97.8
17	17	2.1	2.1	99.9
18	1	0.1	0.1	100.0
合計	801	100.0	100.0	

表 2-1-1 里子の就学状況（再掲）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	未就学	159	19.9	19.9	19.9
	保育園	119	14.9	14.9	34.7
	幼稚園	91	11.4	11.4	46.1
	小学校	191	23.8	23.8	69.9
	中学校	98	12.2	12.2	82.1
	国公立高校	77	9.6	9.6	91.8
	私立高校	32	4.0	4.0	95.8
	特別支援	10	1.2	1.2	97.0
	各種学校進学	10	1.2	1.2	98.3
	その他	14	1.7	1.7	100.0
	合計	801	100.0	100.0	

【 毎月決まって支給される里親関連の委託費 】

表 2-1-6 毎月決まって支給される里親関連の委託費（全体、n=801）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	84,361	11,482	72,000	137,000	521	280
	一般生活費	50,938	1,980	47,000	58,310	521	280
	幼稚園費	19,086	11,106	2,170	38,390	28	773
教育費	交通費	2,781	1,451	450	8,000	23	778
	学習塾費	20,951	14,628	1,344	50,220	29	772
	学用品費	3,132	2,035	515	16,201	101	700
	学習指導費加算	7,410	1,959	1,700	12,390	103	698
	学校給食費（収）	4,478	957	520	7,000	126	675
特別育成費	学用品費、通学費等	26,742	5,017	22,270	33,910	50	751
	補習費	17,500	6,124	15,000	30,000	6	795
	補習費特別加算費	18,001	10,042	2,500	33,910	11	790
	里親委託児童通院費	5,720	3,083	2,160	7,500	3	798
	職業補導費					0	801
	児童用採暖費	2,509	2,107	930	7,230	341	460
	その他の補助金など	6,136	8,280	350	40,000	115	686
	合計	269,746					

表 2-1-7 毎月決まって支給される里親関連の委託費 各合計

	全体				
合計	269,746				
	未就学	保育園	幼稚園	小学校	中学校
合計	146,818	147,198	143,810	170,583	193,625
	国公立高校	私立高校	特別支援	各種学校進学	その他
合計	211,057	215,448	159,340	136,185	171,352

「その他の補助金など1」の自由記述

里子指導費、特別育成費、社会参加促進費、児童手当、児童用採暖費、処遇改善費、生活諸費加算、生活指導訓練費、児童保護措置費、県独自生活指導 手当訓練、学校教育費、奈良県里親措置費、生活諸費加算、教材費、特別育成費、里子指導費、県加算金、高等学校在学児童（私立）生活費以外全費用、保育材料費、児童養護施設入所児童等処遇改善費、通院のための交通費、飲食物加算、特別教育費、高学年児特別夜食費、里親賠償保険料、医療費（予防接種）、里親会正会員費（7200 円控除）、期末一時扶助費、学習指導費、里親制度推進費養育費、賃借料加算、社会的自立支援対策費、被虐待児（障害児）受入加算費

表 2-1-8 毎月決まって支給される里親関連の委託費（未就学、n=159）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	82,800	5,909	72,000	88,000	75	84
	一般生活費	52,561	3,191	49,680	58,310	75	84
	幼稚園費					0	159
教育費	交通費					0	159
	学習塾費					0	159
	学用品費					0	159
	学習指導費加算	1,700		1,700	1,700	1	158
	学校給食費（収）					0	159
特別育成費	学用品費、通学費等					0	159
	補習費					0	159
	補習費特別加算費					0	159
	里親委託児童通院費	4,830	3,776	2,160	7,500	2	157
	職業補導費					0	159
	児童用採暖費	2,280	2,060	1,310	7,230	46	113
	その他の補助金など1	2,647	1,696	350	7,050	19	140
	合計	146,818					

表 2-1-9 毎月決まって支給される里親関連の委託費（保育園、n=119）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	83,658	8,923	72,000	137,000	73	46
一般生活費	50,879	1,706	49,290	58,310	73	46
幼稚園費					0	119
教育費	交通費				0	119
	学習塾費				0	119
	学用品費				0	119
	学習指導費加算				0	119
学校給食費（収）					0	119
特別育成費	学用品費、通学費等				0	119
	補習費				0	119
	補習費特別加算費				0	119
里親委託児童通院費	7,500		7,500	7,500	1	118
職業補導費					0	119
児童用採暖費	3,043	2,524	1,310	7,230	41	78
その他の補助金など ¹	2,118	2,219	350	7,690	9	110
合計	147,198					

表 2-1-10 毎月決まって支給される里親関連の委託費（幼稚園、n=91）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	81,672	6,564	72,000	88,000	61	30
一般生活費	50,858	1,699	49,000	56,600	61	30
幼稚園費	20,388	10,419	3,000	38,390	26	65
教育費	交通費	3,224	659	2,472	3	88
	学習塾費				0	91
	学用品費	515		515	1	90
	学習指導費加算				0	91
学校給食費（収）	3,013	1,124	1,500	5,000	7	84
特別育成費	学用品費、通学費等				0	91
	補習費				0	91
	補習費特別加算費				0	91
里親委託児童通院費					0	91
職業補導費					0	91
児童用採暖費	2,297	2,129	930	7,230	40	51
その他の補助金など ¹	2,574	1,889	500	7,200	14	77
合計	164,540					

表 2-1-11 毎月決まって支給される里親関連の委託費（小学校、n=191）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	86,326	14,151	72,000	137,000	132	59
	一般生活費	50,666	1,245	47,680	56,600	132	59
	幼稚園費	2,170	0	2,170	2,170	2	189
教育費	交通費	2,038	477	450	2,170	13	178
	学習塾費	7,340	2,249	1,344	8,090	9	182
	学用品費	2,175	199	1,340	3,520	65	126
	学習指導費加算	7,163	2,182	1,700	8,090	58	133
	学校給食費（収）	4,354	619	2,260	5,854	81	110
特別育成費	学用品費、通学費等					0	191
	補習費					0	191
	補習費特別加算費					0	191
	里親委託児童通院費					0	191
	職業補導費					0	191
	児童用採暖費	2,515	2,110	1,260	7,230	92	99
	その他の補助金など ¹	5,835	7,194	350	40,000	35	156
	合計	170,583					

表 2-1-12 毎月決まって支給される里親関連の委託費（中学校、n=98）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	86,089	14,508	72,000	137,000	66	32
	一般生活費	50,490	1,383	47,680	56,600	66	32
	幼稚園費					0	98
教育費	交通費	3,970	2,043	2,090	8,000	7	91
	学習塾費	27,076	13,637	2,500	50,220	20	78
	学用品費	5,089	2,601	2,368	16,201	33	65
	学習指導費加算	8,035	1,097	4,300	12,390	41	57
	学校給食費（収）	4,912	1,123	520	7,000	33	65
特別育成費	学用品費、通学費等					0	98
	補習費					0	98
	補習費特別加算費					0	98
	里親委託児童通院費					0	98
	職業補導費					0	98
	児童用採暖費	2,031	1,407	1,300	7,230	42	56
	その他の補助金など ¹	5,934	6,127	1,340	22,910	13	85
	合計	193,625					

表 2-1-13 毎月決まって支給される里親関連の委託費（国公立高校、n=77）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	83,846	12,601	72,000	137,000	65	12
一般生活費	50,287	1,105	47,000	56,600	65	12
幼稚園費					0	77
教育費	交通費				0	77
	学習塾費				0	77
	学用品費				0	77
	学習指導費加算				0	77
学校給食費（収）					0	77
特別育成費	学用品費、通学費等	23,371	1,502	22,270	33	44
	補習費	18,000	6,708	15,000	5	72
	補習費特別加算費	19,370	7,357	2,500	8	69
里親委託児童通院費					0	77
職業補導費					0	77
児童用採暖費		2,819	2,241	1,230	50	27
その他の補助金など ¹		13,363	12,006	1,340	16	61
合計		211,057				

表 2-1-14 毎月決まって支給される里親関連の委託費（私立高校、n=32）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	82,077	6,286	72,000	86,000	26	6
一般生活費	50,575	2,228	47,000	58,310	26	6
幼稚園費					0	32
教育費	交通費				0	32
	学習塾費				0	32
	学用品費				0	32
	学習指導費加算				0	32
学校給食費（収）					0	32
特別育成費	学用品費、通学費等	33,287	1,901	26,170	17	15
	補習費	15,000		15,000	1	31
	補習費特別加算費	14,350	16,949	4,000	3	29
里親委託児童通院費					0	32
職業補導費					0	32
児童用採暖費		2,419	1,900	1,310	17	15
その他の補助金など ¹		17,740	17,114	1,700	5	27
合計		215,448				

表 2-1-15 毎月決まって支給される里親関連の委託費（特別支援、n=10）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	89,833	17,186	72,000	123,000	6	4
一般生活費	50,273	460	49,680	50,570	6	4
幼稚園費					0	10
教育費	交通費				0	10
	学習塾費				0	10
	学用品費	4,300	4,300	4,300	1	9
	学習指導費加算	4,300	0	4,300	2	8
学校給食費（収）	6,110	907	5,000	7,000	4	6
特別育成費	学用品費、通学費等				0	10
	補習費				0	10
	補習費特別加算費				0	10
里親委託児童通院費					0	10
職業補導費					0	10
児童用採暖費	2,174	1,882	1,310	5,540	5	5
その他の補助金など ¹	2,350	1,909	1,000	3,700	2	8
合計	159,340					

表 2-1-16 毎月決まって支給される里親関連の委託費（各種学校進学、n=10）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	79,778	7,379	72,000	86,000	9	1
一般生活費	50,482	1,895	48,000	55,020	9	1
幼稚園費					0	10
教育費	交通費				0	10
	学習塾費				0	10
	学用品費				0	10
	学習指導費加算				0	10
学校給食費（収）					0	10
特別育成費	学用品費、通学費等				0	10
	補習費				0	10
	補習費特別加算費				0	10
里親委託児童通院費					0	10
職業補導費					0	10
児童用採暖費	4,225	4,080	1,340	7,110	2	8
その他の補助金など ¹	1,700		1,700	1,700	1	9
合計	136,185					

表 2-1-17 毎月決まって支給される里親関連の委託費（その他、n=14）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当		91, 875	18, 287	82, 000	137, 000	8	6
一般生活費		52, 529	3, 066	50, 000	58, 310	8	6
幼稚園費						0	14
教育費	交通費					0	14
	学習塾費					0	14
	学用品費	2, 170		2, 170	2, 170	1	13
	学習指導費加算	8, 090		8, 090	8, 090	1	13
学校給食費（収）		4, 000		4, 000	4, 000	1	13
特別育成費	学用品費、通学費等					0	14
	補習費					0	14
	補習費特別加算費					0	14
里親委託児童通院費						0	14
職業補導費						0	14
児童用採暖費		2, 688	2, 400	1, 300	7, 230	6	8
その他の補助金など1		10, 000		10, 000	10, 000	1	13
合計		171, 352					

【 その他、単発、臨時の委託費収入 】

表 2-1-18 その他、単発、臨時の委託費収入（全体、n=801）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
一時保護委託手当		39, 939	43, 196	4, 500	121, 200	9	792
教育費	教材費	2, 792	2, 148	548	9, 200	17	784
	部活動費	8, 700	8, 061	3, 000	14, 400	2	799
	資格取得等特別加算費	150, 000	141, 421	50, 000	250, 000	2	799
	自転車等購入費	20, 000		20, 000	20, 000	1	800
	入学時特別加算費					0	801
特別育成費	入学時特別加算費	93, 898	57, 513	47, 400	175, 580	4	797
	資格取得等特別加算費	40, 070	16, 840	22, 910	56, 570	3	798
医療費		6, 945	6, 776	30	31, 614	21	780
夏季等特別行事費		3, 090	0	3, 090	3, 090	4	797
期末一時扶助費		6, 121	3, 124	1, 340	13, 500	11	790
就職支度費		81, 260		81, 260	81, 260	1	800
大学進学等自立生活支度費		54, 913	37, 260	28, 566	81, 260	2	799
入進学支度金		131, 108	81, 876	29, 500	200, 000	4	797
見学旅行費		52, 830	42, 700	3, 000	111, 290	8	793
葬祭費						0	801
里親受託支度費		41, 186	10, 371	2, 300	43, 820	16	785
その他の補助金など 2		23, 475	36, 559	1, 310	118, 990	22	779

「その他の補助金など2」の自由記述

児童用採暖費、里親生活指導手当、各種学校等修学金、生活指導訓練費、飲食物加算、児童自立支援費、特別育成費（国公立）、新規受託費、被虐待児等受入加算、クラブ活動奨励費、学校教育費、処遇改善費、里子育成費、インフルエンザワクチン・ノロウィルス検査代、里親大会参加費の旅費補助、平成 29 年度埼玉県私立高等学校等奨学、3 日間家族体験、単価改定差額、入所施設児童等福祉対策費補助金、生活指導訓練士、学習塾代、児童自立支援費（県単費）

表 2-1-19 その他、単発、臨時の委託費収入（未就学、n=159）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	10,000		10,000	10,000	1	158
教育費	教材費	690		690	690	1	158
	部活動費					0	159
	資格取得等特別加算費					0	159
	自転車等購入費					0	159
	入学時特別加算費					0	159
特別育成費	入学時特別加算費					0	159
	資格取得等特別加算費					0	159
	医療費	10,100	6,094	3,500	16,000	4	155
	夏季等特別行事費					0	159
	期末一時扶助費	5,280	0	5,280	5,280	2	157
	就職支度費					0	159
	大学進学等自立生活支度費					0	159
	入進学支度金					0	159
	見学旅行費					0	159
	葬祭費					0	159
	里親受託支度費	43,751	207	43,200	43,820	9	150
	その他の補助金など2	2,748	2,835	1,310	7,000	4	155

表 2-1-20 その他、単発、臨時の委託費収入（保育園、n=119）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	93,710	29,825	62,000	121,200	3	116
教育費	教材費					0	119
	部活動費					0	119
	資格取得等特別加算費					0	119
	自転車等購入費					0	119
	入学時特別加算費					0	119
特別育成費	入学時特別加算費					0	119
	資格取得等特別加算費					0	119
	医療費	4,433	2,250	2,800	7,000	3	116
	夏季等特別行事費					0	119
	期末一時扶助費	3,335	2,821	1,340	5,330	2	117
	就職支度費					0	119
	大学進学等自立生活支度費					0	119
	入進学支度金					0	119
	見学旅行費					0	119
	葬祭費					0	119
	里親受託支度費	43,820		43,820	43,820	1	118
	その他の補助金など2	1,340	0	1,340	1,340	3	116

表 2-1-21 その他、単発、臨時の委託費収入（幼稚園、n=91）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	17,450	919	16,800	18,100	2	89
教育費	教材費	5,100		5,100	5,100	1	90
	部活動費					0	91
	資格取得等特別加算費					0	91
	自転車等購入費					0	91
	入学時特別加算費					0	91
特別育成費	入学時特別加算費					0	91
	資格取得等特別加算費					0	91
	医療費	3,526	3,014	30	8,000	5	86
	夏季等特別行事費					0	91
	期末一時扶助費					0	91
	就職支度費					0	91
	大学進学等自立生活支度費					0	91
	入進学支度金					0	91
	見学旅行費					0	91
	葬祭費					0	91
	里親受託支度費					0	91
	その他の補助金など2	5,847	4,027	1,310	9,000	3	88

表 2-1-22 その他、単発、臨時の委託費収入（小学校、n=191）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	16,800		16,800	16,800	1	190
教育費	教材費	2,558	2,431	548	9,200	10	181
	部活動費					0	191
	資格取得等特別加算費					0	191
	自転車等購入費					0	191
	入学時特別加算費					0	191
特別育成費	入学時特別加算費					0	191
	資格取得等特別加算費					0	191
	医療費	5,630	1,327	3,800	7,000	7	184
	夏季等特別行事費	3,090	0	3,090	3,090	3	188
	期末一時扶助費					0	191
	就職支度費					0	191
	大学進学等自立生活支度費					0	191
	入進学支度金					0	191
	見学旅行費	12,595	12,155	4,000	21,190	2	188
	葬祭費					0	191
	里親受託支度費	43,820		43,820	43,820	1	190
	その他の補助金など2	66,245	74,593	13,500	118,990	2	189

表 2-1-23 その他、単発、臨時の委託費収入（中学校、n=98）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当					0	98
教育費	教材費	3,220	1,539	1,000	4,300	5	93
	部活動費	8,700	8,061	3,000	14,400	2	96
	資格取得等特別加算費					0	98
	自転車等購入費	20,000		20,000	20,000	1	97
	入学時特別加算費					0	98
特別育成費	入学時特別加算費	69,520	31,282	47,400	91,640	2	96
	資格取得等特別加算費	40,730		40,730	40,730	1	97
	医療費	17,557	19,880	3,500	31,614	2	96
	夏季等特別行事費	3,090		3,090	3,090	1	97
	期末一時扶助費	6,954	3,659	5,280	13,500	5	93
	就職支度費	81,260		81,260	81,260	1	97
	大学進学等自立生活支度費	81,260		81,260	81,260	1	97
	入進学支度金	194,930		194,930	194,930	1	97
	見学旅行費	57,290	0	57,290	57,290	3	95
	葬祭費					0	98
	里親受託支度費	29,980	23,972	2,300	43,820	3	95
	その他の補助金など2	27,583	41,763	1,700	89,620	4	94

表 2-1-24 その他、単発、臨時の委託費収入（国公立高校、n=77）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	4,500		4,500	4,500	1	76
教育費	教材費					0	77
	部活動費					0	77
	資格取得等特別加算費	250,000		250,000	250,000	1	76
	自転車等購入費					0	77
	入学時特別加算費					0	77
特別育成費	入学時特別加算費	118,275	81,042	60,970	175,580	2	75
	資格取得等特別加算費	22,910		22,910	22,910	1	76
	医療費					0	77
	夏季等特別行事費					0	77
	期末一時扶助費	5,330		5,330	5,330	1	76
	就職支度費					0	77
	大学進学等自立生活支度費					0	77
	入進学支度金	150,000	70,711	100,000	200,000	2	75
	見学旅行費	111,290		111,290	111,290	1	76
	葬祭費					0	77
	里親受託支度費	43,820		43,820	43,820	1	76
	その他の補助金など2	1,310		1,310	1,310	1	76

表 2-1-25 その他、単発、臨時の委託費収入（私立高校、n=32）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	12, 120		12, 120	12, 120	1	31
教育費	教材費					0	32
	部活動費					0	32
	資格取得等特別加算費					0	32
	自転車等購入費					0	32
	入学時特別加算費					0	32
特別育成費	入学時特別加算費					0	32
	資格取得等特別加算費	56, 570		56, 570	56, 570	1	31
	医療費					0	32
	夏季等特別行事費					0	32
	期末一時扶助費	10, 000		10, 000	10, 000	1	31
	就職支度費					0	32
	大学進学等自立生活支度費					0	32
	入進学支度金	29, 500		29, 500	29, 500	1	31
	見学旅行費	111, 290		111, 290	111, 290	1	31
	葬祭費					0	32
	里親受託支度費	43, 820		43, 820	43, 820	1	31
	その他の補助金など 2	50, 420	43, 811	11, 000	89, 340	4	28

表 2-1-26 その他、単発、臨時の委託費収入（特別支援、n=10）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当					0	10
教育費	教材費					0	10
	部活動費					0	10
	資格取得等特別加算費	50, 000		50, 000	50, 000	1	9
	自転車等購入費					0	10
	入学時特別加算費					0	10
特別育成費	入学時特別加算費					0	10
	資格取得等特別加算費					0	10
	医療費					0	10
	夏季等特別行事費					0	10
	期末一時扶助費					0	10
	就職支度費					0	10
	大学進学等自立生活支度費					0	10
	入進学支度金					0	10
	見学旅行費	3, 000		3, 000	3, 000	1	9
	葬祭費					0	10
	里親受託支度費					0	10
	その他の補助金など 2					0	10

表 2-1-27 その他、単発、臨時の委託費収入（各種学校進学、n=10）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当					0	10
教育費	教材費					0	10
	部活動費					0	10
	資格取得等特別加算費					0	10
	自転車等購入費					0	10
	入学時特別加算費					0	10
特別育成費	入学時特別加算費					0	10
	資格取得等特別加算費					0	10
	医療費					0	10
	夏季等特別行事費					0	10
	期末一時扶助費					0	10
	就職支度費					0	10
	大学進学等自立生活支度費	28,566		28,566	28,566	1	9
	入進学支度金					0	10
	見学旅行費					0	10
	葬祭費					0	10
	里親受託支度費					0	10
	その他の補助金など2	38,100		38,100	38,100	1	9

表 2-1-28 その他、単発、臨時の委託費収入（その他、n=14）

全項目欠損につき、表を省略

【委託児童すべてにかかった就学に関する支出】

表 2-1-29 委託児童すべてにかかった就学に関する支出（全体、n=801）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	20,627	16,332	200	80,000	140	661
修学旅行・遠足・見学積立費	10,928	21,867	192	111,680	107	694
学級・児童会・生徒会費	1,345	1,573	34	7,700	65	736
P T A会費	932	1,226	100	10,000	161	640
その他の学校納付金	5,921	14,191	100	115,000	86	715
教科書費・教科書以外の図書費	2,224	2,765	50	16,201	68	733
学用品・実験実習材料費	2,593	3,141	50	20,000	117	684
クラブ活動など教科外活動費	5,872	7,789	100	50,210	70	731
通学費	7,426	6,079	200	27,000	88	713
通学用品費	5,298	8,817	108	50,000	51	750
学校給食費	4,625	2,733	410	31,920	246	555
その他	7,442	21,455	3	205,000	134	667
寄附金	2,653	4,339	10	15,000	15	786
制服費	10,358	11,711	270	42,054	25	776
合計	88,242					

表 2-1-30 委託児童すべてにかかった就学に関する支出 各合計

	全体				
合計	88,242				
	未就学	保育園	幼稚園	小学校	中学校
合計		67,328	83,145	59,115	79,474
	国公立高校	私立高校	特別支援	各種学校進学	その他
合計	109,489	128,186		98,211	

表 2-1-31 委託児童すべてにかかった就学に関する支出（保育園、n=119）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	31,183	21,042	200	72,000	23	96
修学旅行・遠足・見学積立費	2,366	2,302	300	6,300	7	112
学級・児童会・生徒会費	750	354	500	1,000	2	117
P T A会費	446	207	100	1,000	23	96
その他の学校納付金	1,334	1,881	250	5,900	8	111
教科書費・教科書以外の図書費	555	213	380	1,000	11	108
学用品・実験実習材料費	1,900	2,208	100	6,000	7	112
クラブ活動など教科外活動費	1,350		1,350	1,350	1	118
通学費	2,864	1,764	1,000	5,000	7	112
通学用品費	2,267	1,419	1,000	3,800	3	116
学校給食費	1,908	1,217	410	5,000	21	98
その他	2,028	2,689	21	14,175	33	86
寄附金	3,878	4,659	10	10,000	4	115
制服費	14,500	17,840	2,500	35,000	3	116
合計	67,328					

表 2-1-32 委託児童すべてにかかった就学に関する支出（幼稚園、n=91）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	18,778	10,373	1,650	38,390	61	30
修学旅行・遠足・見学積立費	2,830	1,007	500	4,500	12	79
学級・児童会・生徒会費	1,088	1,295	200	3,000	4	87
P T A会費	777	636	300	3,000	28	63
その他の学校納付金	12,351	28,591	100	115,000	19	72
教科書費・教科書以外の図書費	994	797	390	3,000	12	79
学用品・実験実習材料費	4,239	3,730	160	10,480	7	84
クラブ活動など教科外活動費	5,988	4,422	640	14,040	6	85
通学費	3,331	1,346	1,500	7,400	23	68
通学用品費	1,818	328	1,440	2,015	3	88
学校給食費	3,491	1,370	500	6,000	36	55
その他	17,937	44,721	10	205,000	28	63
寄附金	100		100	100	1	90
制服費	9,423	9,025	3,400	19,800	3	91
合計	83,145					

表 2-1-33 委託児童すべてにかかった就学に関する支出（小学校、n=191）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	10,675	14,567	1,020	50,000	11	180
修学旅行・遠足・見学積立費	4,530	6,992	192	34,000	38	153
学級・児童会・生徒会費	1,187	1,344	34	6,500	28	163
P T A会費	846	1,138	100	5,500	68	123
その他の学校納付金	3,374	3,010	150	12,000	20	171
教科書費・教科書以外の図書費	1,773	1,374	208	5,000	18	173
学用品・実験実習材料費	1,631	1,626	50	10,000	68	123
クラブ活動など教科外活動費	6,801	12,535	100	50,210	17	174
通学費	9,810	6,703	2,750	18,863	4	187
通学用品費	3,967	6,365	300	27,600	18	173
学校給食費	4,568	921	2,260	10,000	128	63
その他	4,196	4,564	10	19,000	36	155
寄附金	463	454	100	1,080	6	185
制服費	5,294	3,216	1,880	12,000	9	182
合計	59,115					

表 2-1-34 委託児童すべてにかかった就学に関する支出（中学校、n=98）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	16,096	18,323	1,530	51,970	9	89
修学旅行・遠足・見学積立費	13,993	18,092	1,080	60,000	19	79
学級・児童会・生徒会費	1,548	1,965	50	5,000	11	87
P T A会費	1,185	965	200	3,000	20	78
その他の学校納付金	3,231	2,981	250	10,000	13	85
教科書費・教科書以外の図書費	4,131	4,610	100	16,201	11	87
学用品・実験実習材料費	3,705	3,513	500	15,000	20	78
クラブ活動など教科外活動費	4,201	5,830	200	22,795	22	76
通学費	4,061	3,642	200	8,700	5	93
通学用品費	4,237	5,322	500	20,000	12	86
学校給食費	5,282	1,305	720	10,000	48	50
その他	2,412	2,363	25	7,560	9	89
寄附金	8,000	9,899	1,000	15,000	2	96
制服費	7,393	6,769	2,370	21,280	7	91
合計	79,474					

表 2-1-35 委託児童すべてにかかった就学に関する支出（国公立高校、n=77）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	7,063	2,920	1,200	9,900	12	65
修学旅行・遠足・見学積立費	25,014	37,792	2,500	111,680	20	57
学級・児童会・生徒会費	1,939	2,247	300	7,700	10	67
P T A会費	1,065	1,172	100	3,900	12	65
その他の学校納付金	4,241	4,923	260	16,300	17	60
教科書費・教科書以外の図書費	4,260	2,798	1,700	8,000	6	71
学用品・実験実習材料費	5,806	6,763	500	20,000	9	68
クラブ活動など教科外活動費	5,954	5,608	500	15,000	13	64
通学費	10,410	6,298	660	25,336	27	50
通学用品費	7,870	8,477	1,000	27,000	10	67
学校給食費	11,022	9,761	2,000	31,920	10	67
その他	9,302	6,917	3	20,160	20	57
寄附金	3,400		3,400	3,400	1	76
制服費	12,144	14,667	900	42,054	8	69
合計	109,489					

表 2-1-36 委託児童すべてにかかった就学に関する支出（私立高校、n=32）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	26,729	15,837	7,000	65,000	22	10
修学旅行・遠足・見学積立費	21,159	33,372	5,000	103,274	8	24
学級・児童会・生徒会費	861	903	200	3,000	8	24
P T A会費	2,688	3,292	500	10,000	8	24
その他の学校納付金	9,140	7,011	1,038	21,700	9	23
教科書費・教科書以外の図書費	1,523	1,469	50	3,930	7	25
学用品・実験実習材料費	4,223	3,086	1,113	8,000	5	27
クラブ活動など教科外活動費	8,293	5,859	2,000	16,500	8	24
通学費	8,763	6,278	1,000	26,108	16	16
通学用品費	13,102	24,605	108	50,000	4	28
学校給食費	9,000	4,243	6,000	12,000	2	30
その他	9,615	9,315	3,000	30,000	7	25
寄附金	2,000		2,000	2,000	1	31
制服費	11,090	16,433	270	30,000	3	29
合計	128,186					

【 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 】

表 2-1-37 委託児童すべてにかかった就学に関する支出（各種学校進学、n=10）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	45,000	49,497	10,000	80,000	2	8
修学旅行・遠足・見学積立費	3,722	2,529	1,000	6,000	3	7
学級・児童会・生徒会費	2,500	2,121	1,000	4,000	2	8
P T A会費	1,250	354	1,000	1,500	2	8
その他の学校納付金					0	10
教科書費・教科書以外の図書費	6,539	3,965	3,416	11,000	3	7
学用品・実験実習材料費	2,000		2,000	2,000	1	9
クラブ活動など教科外活動費	7,333	6,807	2,000	15,000	3	7
通学費	12,667	7,770	4,500	27,000	6	4
通学用品費	4,600		4,600	4,600	1	9
学校給食費	5,600		5,600	5,600	1	9
その他	2,000		2,000	2,000	1	9
寄附金					0	10
制服費	5,000		5,000	5,000	1	9
合計	98,211					

表 2-1-38 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（全体、n=801）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	3,451	4,977	200	36,109	131	670
家庭内学習費（図書費）	2,444	1,627	390	10,000	117	684
家庭教師費等	16,173	10,948	1,000	37,000	25	776
学習塾費	18,884	12,978	2,000	78,900	133	668
その他	8,716	11,142	500	60,720	47	754
体験活動・地域活動	4,694	5,272	100	20,000	62	739
芸術文化活動（月謝等）	6,484	3,405	500	17,280	70	731
芸術文化活動（その他）	5,663	6,040	300	20,000	24	777
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）	8,056	6,356	500	44,000	129	672
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	8,565	9,966	400	50,900	63	738
教養・その他（月謝等）	8,056	5,825	300	36,620	88	713
教養・その他（図書費）	2,474	2,281	350	15,000	81	720
教養・その他（その他）	6,914	11,606	216	78,000	57	744
合計	100,573					

表 2-1-39 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 各合計

	全体				
合計	100,573				
	未就学	保育園	幼稚園	小学校	中学校
合計	82,782	76,036	73,880	85,542	104,398
	国公立高校	私立高校	特別支援	各種学校進学	その他
合計	111,283	194,634		29,440	31,300

表 2-1-40 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（未就学、n=159）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	2,624	1,228	1,000	5,000	17	142
家庭内学習費（図書費）	2,265	1,441	390	7,668	27	132
家庭教師費等					0	159
学習塾費	5,440	3,329	2,160	8,600	4	155
その他	12,798	21,315	1,000	60,720	7	152
体験活動・地域活動	5,682	6,218	100	20,000	11	148
芸術文化活動（月謝等）	4,688	2,516	1,000	6,828	6	153
芸術文化活動（その他）	12,000	11,314	4,000	20,000	2	157
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）	5,707	2,160	1,500	9,050	14	145
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	6,157	6,538	1,000	20,000	7	152
教養・その他（月謝等）	7,389	5,635	300	19,746	20	139
教養・その他（図書費）	2,285	1,302	1,000	5,000	13	146
教養・その他（その他）	15,747	30,692	500	78,000	6	153
合計	82,782					

表 2-1-41 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（保育園、n=119）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	3,207	3,671	216	15,000	18	101
家庭内学習費（図書費）	2,529	1,369	500	5,000	19	100
家庭教師費等					0	119
学習塾費	11,943	8,339	3,000	26,960	6	113
その他	6,968	10,856	600	19,503	3	116
体験活動・地域活動	7,300	7,871	500	20,000	5	114
芸術文化活動（月謝等）	6,000		6,000	6,000	1	118
芸術文化活動（その他）	900		900	900	1	118
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）	10,515	8,898	3,000	34,000	11	108
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	12,700	12,153	1,800	26,000	4	115
教養・その他（月謝等）	9,562	7,497	2,000	26,892	11	108
教養・その他（図書費）	1,624	1,143	780	5,000	12	107
教養・その他（その他）	2,788	1,637	500	5,000	5	114
合計	76,036					

表 2-1-42 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（幼稚園、n=91）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	3,978	4,462	500	15,000	18	73
家庭内学習費（図書費）	2,677	2,278	600	10,000	17	74
家庭教師費等	7,000		7,000	7,000	1	90
学習塾費	9,680	4,349	5,000	14,480	6	85
その他	7,720	3,989	3,000	11,880	4	87
体験活動・地域活動	5,575	6,342	400	20,000	8	83
芸術文化活動（月謝等）	6,694	2,695	3,000	11,000	10	81
芸術文化活動（その他）	5,600		5,600	5,600	1	90
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）	8,987	4,860	2,267	20,000	22	69
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	3,240	3,156	500	7,200	5	86
教養・その他（月謝等）	8,170	4,734	2,500	21,000	18	73
教養・その他（図書費）	3,121	3,086	800	10,000	8	83
教養・その他（その他）	1,439	1,060	216	2,100	3	88
合計	73,880					

表 2-1-43 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（小学校、n=191）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	2,688	2,937	200	12,800	51	140
家庭内学習費（図書費）	2,178	1,401	500	6,000	32	159
家庭教師費等	13,744	11,657	2,000	36,000	8	183
学習塾費	11,547	6,521	2,000	28,000	54	137
その他	7,163	5,088	800	18,252	20	171
体験活動・地域活動	2,946	3,840	300	17,000	23	168
芸術文化活動（月謝等）	6,044	3,350	500	14,000	38	153
芸術文化活動（その他）	5,634	6,996	300	19,740	12	179
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）	8,262	7,199	500	44,000	68	123
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	8,580	11,793	400	50,900	29	162
教養・その他（月謝等）	8,077	6,793	1,500	36,620	28	163
教養・その他（図書費）	2,727	2,872	350	15,000	30	161
教養・その他（その他）	5,954	8,686	500	37,584	17	174
合計	85,542					

表 2-1-44 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（中学校、n=98）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	4,863	9,563	398	36,109	14	84
家庭内学習費（図書費）	2,648	1,903	500	7,000	12	86
家庭教師費等	16,386	7,396	7,500	30,000	9	89
学習塾費	28,450	11,986	6,000	62,856	44	54
その他	4,900	4,162	500	12,000	6	92
体験活動・地域活動	5,135	4,235	1,000	11,000	6	92
芸術文化活動（月謝等）	7,093	1,930	5,000	9,720	6	92
芸術文化活動（その他）	3,959	1,784	2,500	7,000	5	93
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）	6,011	3,344	1,500	10,600	10	88
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	11,646	9,402	1,000	26,170	8	90
教養・その他（月謝等）	6,344	3,177	1,000	10,800	8	90
教養・その他（図書費）	2,201	1,240	1,000	4,500	10	88
教養・その他（その他）	4,760	2,623	1,000	8,000	9	89
合計	104,398					

表 2-1-45 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（国公立高校、n=77）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	2,825	1,905	500	5,000	8	69
家庭内学習費（図書費）	3,089	1,836	1,000	7,000	9	68
家庭教師費等	17,150	13,541	1,000	35,402	6	71
学習塾費	21,288	5,337	12,000	29,224	12	65
その他	9,540	7,021	1,620	15,000	3	74
体験活動・地域活動	4,886	5,546	1,200	14,680	5	72
芸術文化活動（月謝等）	9,430	5,874	4,000	17,280	6	71
芸術文化活動（その他）	6,000	4,583	1,000	10,000	3	74
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）	7,000	2,646	5,000	10,000	3	74
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	7,417	3,323	2,000	10,000	6	71
教養・その他（月謝等）	12,000		12,000	12,000	1	76
教養・その他（図書費）	2,116	1,756	980	5,000	5	72
教養・その他（その他）	8,542	7,793	1,350	26,000	14	63
合計	111,283					

表 2-1-46 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（私立高校、n=32）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	15,436	15,301	5,000	33,000	3	29
家庭内学習費（図書費）					0	32
家庭教師費等	37,000		37,000	37,000	1	31
学習塾費	37,032	21,777	19,000	78,900	6	26
その他	50,000		50,000	50,000	1	31
体験活動・地域活動	9,000	8,485	3,000	15,000	2	30
芸術文化活動（月謝等）	8,000	2,828	6,000	10,000	2	30
芸術文化活動（その他）					0	32
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）	3,000		3,000	3,000	1	31
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	12,667	15,044	3,000	30,000	3	29
教養・その他（月謝等）	12,000		12,000	12,000	1	31
教養・その他（図書費）	5,500	3,536	3,000	8,000	2	30
教養・その他（その他）	5,000		5,000	5,000	1	31
合計	194,634					

表 2-1-47 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（各種学校進学、n=10）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	3,000		3,000	3,000	1	9
家庭内学習費（図書費）					0	10
家庭教師費等					0	10
学習塾費					0	10
その他	9,000		9,000	9,000	1	9
体験活動・地域活動	1,440		1,440	1,440	1	9
芸術文化活動（月謝等）	8,000		8,000	8,000	1	9
芸術文化活動（その他）					0	10
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）					0	10
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）					0	10
教養・その他（月謝等）	8,000		8,000	8,000	1	9
教養・その他（図書費）					0	10
教養・その他（その他）					0	10
合計	29,440					

表 2-1-48 委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（その他、n=14）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	1,100		1,100	1,100	1	13
家庭内学習費（図書費）	2,000		2,000	2,000	1	13
家庭教師費等					0	14
学習塾費	7,000		7,000	7,000	1	13
その他	4,000	2,828	2,000	6,000	2	12
体験活動・地域活動	5,000		5,000	5,000	1	13
芸術文化活動（月謝等）					0	14
芸術文化活動（その他）					0	14
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	14
スポーツ・レクリエーション活動（その他）	5,000		5,000	5,000	1	13
教養・その他（月謝等）					0	14
教養・その他（図書費）	850		850	850	1	13
教養・その他（その他）	6,350	5,162	2,700	10,000	2	12
合計	31,300					

【 お住まいに関して 】

表 2-1-49 お住まいの住宅形態

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	賃貸住宅	119	14.9	16.0
	持ち家	625	78.0	84.0
	合計	744	92.9	100.0
欠損値	57	7.1		
合計	801	100.0		

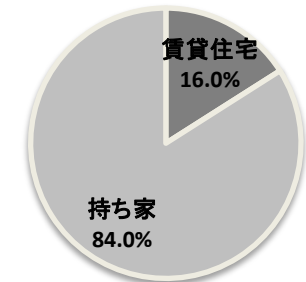


図2-1-3 お住まいの住宅形態

表 2-1-50 引っ越しの有無

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	引っ越しをした	24	3.0	20.3
	していない	94	11.7	79.7
	合計	118	14.7	100.0
欠損値	683	85.3		
合計	801	100.0		

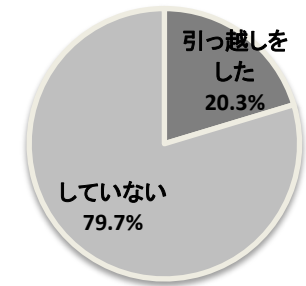


図2-1-4 引っ越しの有無

表 2-1-51 引越し時期（当時の長子の年齢）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	3	0.4	14.3	14.3
	1	1	0.1	4.8	19.0
	2	1	0.1	4.8	23.8
	3	2	0.2	9.5	33.3
	4	3	0.4	14.3	47.6
	5	1	0.1	4.8	52.4
	6	1	0.1	4.8	57.1
	7	3	0.4	14.3	71.4
	8	1	0.1	4.8	76.2
	10	1	0.1	4.8	81.0
	12	1	0.1	4.8	85.7
	13	1	0.1	4.8	90.5
	15	1	0.1	4.8	95.2
	16	1	0.1	4.8	100.0
	合計	21	2.6	100.0	
	欠損値	780	97.4		
	合計	801	100.0		

表 2-1-52 設備投資の有無

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	設備投資をした	182	22.7	29.6	29.6
	していない	432	53.9	70.4	100.0
	合計	614	76.7	100.0	
	欠損値	187	23.3		
合計		801	100.0		

表 2-1-54 設備投資の時期（当時の長子の年齢）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	15	1.9	8.9	8.9
	1	11	1.4	6.5	15.4
	2	14	1.7	8.3	23.7
	3	9	1.1	5.3	29.0
	4	14	1.7	8.3	37.3
	5	11	1.4	6.5	43.8
	6	14	1.7	8.3	52.1
	7	9	1.1	5.3	57.4
	8	8	1.0	4.7	62.1
	9	5	0.6	3.0	65.1
	10	11	1.4	6.5	71.6
	11	7	0.9	4.1	75.7
	12	8	1.0	4.7	80.5
	13	6	0.7	3.6	84.0
	14	8	1.0	4.7	88.8
	15	7	0.9	4.1	92.9
	16	5	0.6	3.0	95.9
	17	2	0.2	1.2	97.0
	18	1	0.1	0.6	97.6
	22	1	0.1	0.6	98.2
	23	1	0.1	0.6	98.8
	24	1	0.1	0.6	99.4
	36	1	0.1	0.6	100.0
	合計	169	21.1	100.0	
	欠損値	632	78.9		
	合計	801	100.0		

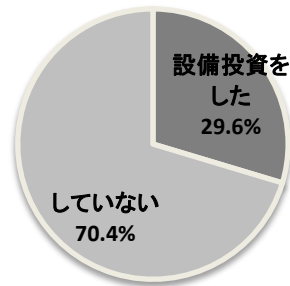


図2-1-5 設備投資の有無

【 里子 1 人世帯における通信関係に関する金額 】

表 2-1-55 通信関係の金額 (全体、n=801)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	3,366	4,544	82	20,000	177	624
児童用携帯電話利用料	7,790	6,914	980	52,089	125	676

表 2-1-56 通信関係の金額 各平均値

	全体				
電話・インターネット・郵便等	3,366				
児童用携帯電話利用料	7,790				
	未就学	保育園	幼稚園	小学校	中学校
電話・インターネット・郵便等	2,232	2,726	4,069	2,164	3,411
児童用携帯電話利用料	3,000	0	6,679	4,082	7,962
	国公立高校	私立高校	特別支援	各種学校進学	その他
電話・インターネット・郵便等	4,783	6,544	5,500	7,167	2,520
児童用携帯電話利用料	9,071	7,345	6,567	7,255	9,745

表 2-1-57 通信関係の金額 (未就学、n=159)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	2,232	4,482	82	20,000	26	133
児童用携帯電話利用料	3,000		3,000	3,000	1	158

表 2-1-58 通信関係の金額 (保育園、n=119)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	2,726	3,628	82	10,000	18	101
児童用携帯電話利用料						119

表 2-1-59 通信関係の金額 (幼稚園、n=91)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	4,069	5,814	84	20,000	17	74
児童用携帯電話利用料	6,679		6,679	6,679	1	90

表 2-1-60 通信関係の金額 (小学校、n=191)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	2,164	2,893	82	14,006	43	148
児童用携帯電話利用料	4,082	5,061	980	17,600	13	178

表 2-1-61 通信関係の金額 (中学校、n=98)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	3,411	4,312	100	20,000	31	67
児童用携帯電話利用料	7,962	9,451	1,000	52,089	28	70

表 2-1-62 通信関係の金額 (国公立高校、n=77)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	4,783	5,730	120	20,000	26	51
児童用携帯電話利用料	9,071	6,612	2,000	40,000	47	30

表 2-1-63 通信関係の金額 (私立高校、n=32)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	6,544	5,171	556	15,000	9	23
児童用携帯電話利用料	7,345	4,845	1,500	22,472	26	6

表 2-1-64 通信関係の金額 (特別支援、n=10)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	5,500	4,950	2,000	9,000	2	8
児童用携帯電話利用料	6,567	4,708	1,200	10,000	3	7

表 2-1-65 通信関係の金額（各種学校進学、n=10）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	7,167	6,292	500	13,000	3	7
児童用携帯電話利用料	7,255	4,925	2,000	11,766	3	7

表 2-1-66 通信関係の金額（その他、n=14）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	2,520	3,224	240	4,800	2	12
児童用携帯電話利用料	9,745	10,386	2,700	21,672	3	11

【アフターケアにむけて】

表 2-1-67 アフターケアに向けての預貯金の有無

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	預貯金をしている	414	51.7	58.9
	していない	289	36.1	41.1
	合計	703	87.8	100.0
欠損値	98	12.2	98	
合計	801	100.0	801	

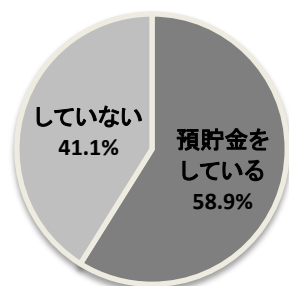


図2-1-6 アフターケアに向けての貯金有無

表 2-1-68 預貯金の金額（全体、n=801）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	37,124	35,293	1,500	154,830	369	432

表 2-1-69 預貯金の金額 各平均値

	全体				
毎月の金額	37,124				
	未就学	保育園	幼稚園	小学校	中学校
毎月の金額	50,693	37,637	39,440	36,224	26,857
	国公立高校	私立高校	特別支援	各種学校進学	その他
毎月の金額	34,500	35,294	15,000	23,333	31,875

表 2-1-70 預貯金の金額（未就学、n=159）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	50,693	40,961	10,000	145,650	59	100

表 2-1-71 預貯金の金額（保育園、n=119）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	37,637	34,099	4,500	137,910	51	60

表 2-1-72 預貯金の金額（幼稚園、n=91）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	39,440	33,710	5,000	120,000	47	44

表 2-1-73 預貯金の額（小学校、n=191）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	36,224	35,487	1,500	154,830	86	105

表 2-1-74 預貯金の金額（中学校、n=98）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	26,857	27,665	2,000	147,000	56	42

表 2-1-75 預貯金の金額（国公立高校、n=77）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	34,500	38,389	3,000	150,000	39	38

表 2-1-76 預貯金の金額（私立高校、n=32）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	35,294	31,448	10,000	100,000	17	15

表 2-1-77 預貯金の金額（特別支援、n=10）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	15,000	13,229	5,000	30,000	3	7

表 2-1-78 預貯金の金額（各種学校進学、n=10）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	23,333	5,774	20,000	30,000	3	7

表 2-1-79 預貯金の金額（その他、n=14）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	31,875	37,027	5,000	100,000	8	6

調査結果 2 : 里子 2 人世帯における調査結果

【 基本属性 】

表 2-2-1 里子 2 人世帯における里子一人目の基本属性

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里子の現年齢	10.78	4.975	0	19	199	0
里子の委託時の年齢	5.63	4.727	0	17	199	0
現在の就学状況	4.69	1.993	1	10	197	2

表 2-2-2 里子の現在の年齢

年齢	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	2	1.0	1.0	1.0
1	2	1.0	1.0	2.0
2	3	1.5	1.5	3.5
3	3	1.5	1.5	5.0
4	10	5.0	5.0	10.1
5	19	9.5	9.5	19.6
6	11	5.5	5.5	25.1
7	7	3.5	3.5	28.6
8	13	6.5	6.5	35.2
9	16	8.0	8.0	43.2
10	14	7.0	7.0	50.3
11	11	5.5	5.5	55.8
12	13	6.5	6.5	62.3
13	8	4.0	4.0	66.3
14	8	4.0	4.0	70.4
15	9	4.5	4.5	74.9
16	14	7.0	7.0	81.9
17	18	9.0	9.0	91.0
18	9	4.5	4.5	95.5
19	9	4.5	4.5	100.0

合計	199	100.0	100.0	
----	-----	-------	-------	--

表 2-2-3 里子（一人目）の委託時の年齢

年齢	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	16	8.0	8.0	8.0
1	16	8.0	8.0	16.1
2	36	18.1	18.1	34.2
3	20	10.1	10.1	44.2
4	19	9.5	9.5	53.8
5	15	7.5	7.5	61.3
6	10	5.0	5.0	66.3
7	9	4.5	4.5	70.9
8	9	4.5	4.5	75.4
9	8	4.0	4.0	79.4
10	3	1.5	1.5	80.9
11	9	4.5	4.5	85.4
12	5	2.5	2.5	87.9
14	7	3.5	3.5	91.5
15	8	4.0	4.0	95.5
16	6	3.0	3.0	98.5
17	3	1.5	1.5	100.0
合計	199	100.0	100.0	

表 2-2-4 里子（一人目）の就学状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	未就学	6	3.0	3.0	3.0
	保育園	19	9.5	9.6	12.7
	幼稚園	19	9.5	9.6	22.3
	小学校	70	35.2	35.5	57.9
	中学校	26	13.1	13.2	71.1
	国公立高校	24	12.1	12.2	83.2
	私立高校	13	6.5	6.6	89.8
	特別支援	8	4.0	4.1	93.9
	各種学校進学	7	3.5	3.6	97.5
	その他	5	2.5	2.5	100.0
	合計	197	99.0	100.0	
	欠損値	2	1.0		
	合計	199	100.0		

表 2-2-5 里子2人世帯における里子二人目の基本属性

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里子の現年齢	8.22	5.172	0	18	199	0
里子の委託時の年齢	4.92	4.974	0	18	198	0
現在の就学状況	3.78	2.008	1	10	198	1

表 2-2-6 里子（二人目）の現在の年齢

年齢	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	4	2.0	2.0	2.0
1	15	7.5	7.5	9.5
2	11	5.5	5.5	15.1
3	18	9.0	9.0	24.1
4	13	6.5	6.5	30.7
5	14	7.0	7.0	37.7
6	12	6.0	6.0	43.7
7	14	7.0	7.0	50.8
8	12	6.0	6.0	56.8
9	4	2.0	2.0	58.8
10	12	6.0	6.0	64.8
11	6	3.0	3.0	67.8
12	9	4.5	4.5	72.4
13	10	5.0	5.0	77.4
14	13	6.5	6.5	83.9
15	9	4.5	4.5	88.4
16	14	7.0	7.0	95.5
17	7	3.5	3.5	99.0
18	2	1.0	1.0	100.0
合計	199	100.0	100.0	

表 2-2-7 里子（二人目）の委託時の年齢

年齢	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	36	18.1	18.2	18.2
1	19	9.5	9.6	27.8
2	36	18.1	18.2	46.0
3	20	10.1	10.1	56.1
4	12	6.0	6.1	62.1
5	10	5.0	5.1	67.2
6	8	4.0	4.0	71.2
7	5	2.5	2.5	73.7
8	7	3.5	3.5	77.3
9	5	2.5	2.5	79.8
10	3	1.5	1.5	81.3
11	3	1.5	1.5	82.8
12	8	4.0	4.0	86.9
14	6	3.0	3.0	89.9
15	5	2.5	2.5	92.4
16	9	4.5	4.5	97.0
17	3	1.5	1.5	98.5
18	2	1.0	1.0	99.5
合計	1	0.5	0.5	100.0

表 2-2-8 里子（二人目）の就学状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	未就学	30	15.1	15.2	15.2
	保育園	30	15.1	15.2	30.3
	幼稚園	22	11.1	11.1	41.4
	小学校	57	28.6	28.8	70.2
	中学校	25	12.6	12.6	82.8
	国公立高校	16	8.0	8.1	90.9
	私立高校	9	4.5	4.5	95.5
	特別支援	4	2.0	2.0	97.5
	各種学校進学	2	1.0	1.0	98.5
	その他	3	1.5	1.5	100.0
	合計	198	99.5	100.0	
欠損値		1	0.5		
合計		199	100.0		

表 2-2-9 里子の就学状況からみた世帯別の数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1	二人とも未就学	6	3.0	3.0	3.0
2	二人とも保育園	13	6.5	6.5	9.5
3	二人とも幼稚園	6	3.0	3.0	12.6
4	二人とも小学校	32	16.1	16.1	28.6
5	二人とも中学校	4	2.0	2.0	30.7
6	二人とも国公立高校	8	4.0	4.0	34.7
7	二人とも特別支援	2	1.0	1.0	35.7
8	二人ともその他	2	1.0	1.0	36.7
9	未就学と保育園	2	1.0	1.0	37.7
10	未就学と幼稚園	11	5.5	5.5	43.2
11	未就学と小学校	9	4.5	4.5	47.7
12	未就学と中学校	1	0.5	0.5	48.2
13	保育園と小学校	13	6.5	6.5	54.8
14	保育園と中学校	5	2.5	2.5	57.3
15	保育園と国公立高校	3	1.5	1.5	58.8
16	幼稚園と小学校	11	5.5	5.5	64.3
17	幼稚園と中学校	3	1.5	1.5	65.8
18	幼稚園と国公立高校	4	2.0	2.0	67.8
19	小学校と中学校	16	8.0	8.0	75.9
20	小学校と国公立高校	4	2.0	2.0	77.9
21	小学校と私立高校	6	3.0	3.0	80.9
22	小学校と特別支援	2	1.0	1.0	81.9
23	小学校と各種学校進学	1	0.5	0.5	82.4
24	小学校とその他	1	0.5	0.5	82.9
25	中学校と国公立高校	4	2.0	2.0	84.9
26	中学校と私立高校	8	4.0	4.0	88.9
27	中学校と特別支援	1	0.5	0.5	89.4
28	中学校と各種学校進学	4	2.0	2.0	91.5

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
29	中学校とその他	1	0.5	0.5	92.0
30	国公立高校と私立高校	3	1.5	1.5	93.5
31	国公立高校と特別支援	1	0.5	0.5	94.0
32	国公立高校と各種学校進学	3	1.5	1.5	95.5
33	国公立高校とその他	2	1.0	1.0	96.5
34	私立高校と特別支援	4	2.0	2.0	98.5
35	私立高校と各種学校進学	1	0.5	0.5	99.0
36	未就学と欠損値	1	0.5	0.5	99.5
37	欠損値	1	0.5	0.5	100.0
	合計	199	100.0	100.0	

【 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費 】

表 2-2-10 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（全体、n=199）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	125,079	13,212	108,000	223,000	101	98
	一般生活費	101,571	2,814	95,000	113,200	101	98
	幼稚園費	25,724	21,727	4,340	78,860	9	190
教育費	交通費	5,070	1,005	4,340	6,470	4	195
	学習塾費	21,032	12,776	8,090	40,608	5	194
	学用品費	3,932	1,811	2,000	8,600	32	167
	学習指導費加算	11,822	4,804	4,300	23,220	43	156
	学校給食費（収）	7,158	2,888	908	14,000	40	159
特別育成費	学用品費、通学費等	37,039	14,603	22,910	56,820	12	187
	補習費	18,515	21,772	3,120	33,910	2	197
	補習費特別加算費	45,820		45,820	45,820	1	198
	里親委託児童通院費					0	199
	職業補導費	350		350	350	1	198
	児童用採暖費	5,476	4,921	1,310	14,460	67	132
	その他の補助金など	8,485	9,405	350	37,910	17	182
	合計	417,073					

表 2-2-11 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（未就学、n=6）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	118,500	12,124	108,000	129,000	4	2
	一般生活費	104,088	4,558	99,360	108,880	4	2
	幼稚園費					0	6
教育費	交通費					0	6
	学習塾費					0	6
	学用品費					0	6
	学習指導費加算					0	6
	学校給食費（収）					0	6
特別育成費	学用品費、通学費等					0	6
	補習費					0	6
	補習費特別加算費					0	6
	里親委託児童通院費					0	6
	職業補導費					0	6
	児童用採暖費	2,745	172	2,620	3,000	4	2
	その他の補助金など					0	6
	合計	225,333					

表 2-2-12 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（2人とも保育園、n=13）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	124,800	9,391	108,000	129,000	5	8
	一般生活費	100,784	796	99,360	101,140	5	8
	幼稚園費					0	13
教育費	交通費					0	13
	学習塾費					0	13
	学用品費					0	13
	学習指導費加算					0	13
	学校給食費（収）					0	13
特別育成費	学用品費、通学費等					0	13
	補習費					0	13
	補習費特別加算費					0	13
	里親委託児童通院費					0	13
	職業補導費					0	13
	児童用採暖費	8,555	6,819	2,620	14,460	4	9
	その他の補助金など	5,550	1,344	4,600	6,500	2	11
	合計	239,689					

表 2-2-13 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（2人とも幼稚園、n=6）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	112,200	9,391	108,000	129,000	5	1
	一般生活費	99,716	796	99,360	101,140	5	1
	幼稚園費	39,624	34,112	17,000	78,860	3	3
教育費	交通費					0	6
	学習塾費					0	6
	学用品費					0	6
	学習指導費加算					0	6
	学校給食費（収）					0	6
特別育成費	学用品費、通学費等					0	6
	補習費					0	6
	補習費特別加算費					0	6
	里親委託児童通院費					0	6
	職業補導費					0	6
	児童用採暖費	6,487	6,697	2,620	14,220	3	3
	その他の補助金など	5,100		5,100	5,100	1	5
	合計	263,127					

表 2-2-14 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（2人とも小学校、n=32）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	124,880	8,662	108,000	133,000	25	7
	一般生活費	101,310	3,257	95,000	113,200	25	7
	幼稚園費	4,340		4,340	4,340	1	31
教育費	交通費	4,340	0	4,340	4,340	2	30
	学習塾費					0	32
	学用品費	4,280	895	2,000	6,340	13	19
	学習指導費加算	15,097	3,923	7,000	23,220	17	15
	学校給食費（収）	8,932	1,889	5,000	14,000	18	14
特別育成費	学用品費、通学費等					0	32
	補習費					0	32
	補習費特別加算費					0	32
	里親委託児童通院費					0	32
	職業補導費					0	32
	児童用採暖費	4,637	4,521	2,620	14,460	18	14
	その他の補助金など					0	32
	合計	267,816					

表 2-2-16 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（2人とも国公立高校、n=8）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	130,000	2,000	129,000	133,000	4	4
	一般生活費	100,855	570	100,000	101,140	4	4
	幼稚園費					0	8
教育費	交通費					0	8
	学習塾費					0	8
	学用品費					0	8
	学習指導費加算					0	8
	学校給食費（収）					0	8
特別育成費	学用品費、通学費等	45,820	0	45,820	45,820	2	6
	補習費					0	8
	補習費特別加算費	45,820		45,820	45,820	1	7
	里親委託児童通院費					0	8
	職業補導費					0	8
	児童用採暖費	4,920	3,168	2,680	7,160	2	6
	その他の補助金など					0	8
	合計	327,415					

表 2-2-15 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（2人とも中学校、n=4）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-17 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（2人とも特別支援、n=2）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-18 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（2人ともその他、n=2）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	129,000		129,000	129,000	1	0
一般生活費	101,140		101,140	101,140	1	0
幼稚園費					0	1
教育費	交通費				0	1
	学習塾費				0	1
	学用品費				0	1
	学習指導費加算				0	1
	学校給食費（収）				0	1
特別育成費	学用品費、通学費等				0	1
	補習費				0	1
	補習費特別加算費				0	1
	里親委託児童通院費				0	1
	職業補導費				0	1
	児童用採暖費	14,460	14,460	14,460	1	0
	その他の補助金など				0	1
合計	244,600					

表 2-2-19 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（未就学と保育園、n=2）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	129,000	0	129,000	129,000	2	0
一般生活費	101,140	0	101,140	101,140	2	0
幼稚園費					0	2
教育費	交通費				0	2
	学習塾費				0	2
	学用品費				0	2
	学習指導費加算				0	2
	学校給食費（収）				0	2
特別育成費	学用品費、通学費等				0	2
	補習費				0	2
	補習費特別加算費				0	2
	里親委託児童通院費				0	2
	職業補導費				0	2
	児童用採暖費	14,460	14,460	14,460	1	1
	その他の補助金など				0	2
合計	244,600					

表 2-2-20 子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（未就学と幼稚園、n=11）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	118,000	10,173	108,000	129,000	5	6
	一般生活費	103,244	3,433	100,000	106,970	5	6
	幼稚園費	29,500	6,364	25,000	34,000	2	9
教育費	交通費					0	11
	学習塾費					0	11
	学用品費					0	11
	学習指導費加算					0	11
	学校給食費（収）	4,700		4,700	4,700	1	10
特別育成費	学用品費、通学費等					0	11
	補習費					0	11
	補習費特別加算費					0	11
	里親委託児童通院費					0	11
	職業補導費					0	11
	児童用採暖費	2,680		2,680	2,680	1	10
	その他の補助金など	350		350	350	1	10
	合計	258,474					

表 2-2-21 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（未就学と小学校、n=9）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	129,000	0	129,000	129,000	4	5
	一般生活費	101,140	0	101,140	101,140	4	5
	幼稚園費					0	9
教育費	交通費					0	9
	学習塾費					0	9
	学用品費	2,170		2,170	2,170	1	8
	学習指導費加算	8,090	0	8,090	8,090	2	7
	学校給食費（収）	4,632		4,632	4,632	1	8
特別育成費	学用品費、通学費等					0	9
	補習費					0	9
	補習費特別加算費					0	9
	里親委託児童通院費					0	9
	職業補導費					0	9
	児童用採暖費	5,290	6,146	1,340	14,460	4	5
	その他の補助金など					0	9
	合計	250,322					

表 2-2-22 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（未就学と中学校、n=1）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	108,000		108,000	108,000	1	0
	一般生活費	106,970		106,970	106,970	1	0
	幼稚園費					0	1
教育費	交通費					0	1
	学習塾費					0	1
	学用品費					0	1
	学習指導費加算	8,090		8,090	8,090	1	0
	学校給食費（収）					0	1
特別育成費	学用品費、通学費等					0	1
	補習費					0	1
	補習費特別加算費					0	1
	里親委託児童通院費					0	1
	職業補導費					0	1
	児童用採暖費	2,620		2,620	2,620	1	0
	その他の補助金など	23,350		23,350	23,350	1	0
	合計	249,030					

表 2-2-23 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（保育園と小学校、n=13）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	124,800	8,854	108,000	129,000	10	3
	一般生活費	100,808	702	99,360	101,140	10	3
	幼稚園費					0	13
教育費	交通費					0	13
	学習塾費					0	13
	学用品費	2,170	0	2,170	2,170	6	7
	学習指導費加算	8,083	15	8,060	8,090	4	9
	学校給食費（収）	3,842	1,352	908	4,750	7	8
特別育成費	学用品費、通学費等					0	13
	補習費					0	13
	補習費特別加算費					0	13
	里親委託児童通院費					0	13
	職業補導費					0	13
	児童用採暖費	7,235	5,374	2,680	14,460	8	5
	その他の補助金など	10,660		10,660	10,660	1	12
	合計	257,598					

表 2-2-24 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（保育園と中学校、n=5）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	129,000	0	129,000	129,000	2	3
	一般生活費	101,140	0	101,140	101,140	2	3
	幼稚園費					0	5
教育費	交通費					0	5
	学習塾費					0	5
	学用品費	4,300	0	4,300	4,300	2	3
	学習指導費加算	8,090		8,090	8,090	1	4
	学校給食費（収）	4,500		4,500	4,500	1	4
特別育成費	学用品費、通学費等					0	5
	補習費					0	5
	補習費特別加算費					0	5
	里親委託児童通院費					0	5
	職業補導費					0	5
	児童用採暖費	2,680		2,680	2,680	1	4
	その他の補助金など					0	5
	合計	249,710					

表 2-2-25 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（保育園と国公立高校、n=3）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	129,000	0	129,000	129,000	2	1
	一般生活費	101,140	0	101,140	101,140	2	1
	幼稚園費					0	3
教育費	交通費					0	3
	学習塾費	15,000		15,000	15,000	1	2
	学用品費					0	3
	学習指導費加算					0	3
	学校給食費（収）					0	3
特別育成費	学用品費、通学費等	22,910	0	22,910	22,910	2	1
	補習費					0	3
	補習費特別加算費					0	3
	里親委託児童通院費					0	3
	職業補導費					0	3
	児童用採暖費	2,640	57	2,600	2,680	2	1
	その他の補助金など					0	3
	合計	270,690					

表 2-2-26 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（幼稚園と小学校、n=11）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	123,750	10,500	108,000	129,000	4	7
	一般生活費	102,195	2,110	101,140	105,360	4	7
	幼稚園費	16,500	9,192	10,000	23,000	2	9
教育費	交通費					0	11
	学習塾費					0	11
	学用品費					0	11
	学習指導費加算	8,090	0	8,090	8,090	2	9
	学校給食費（収）	5,332		5,332	5,332	1	10
特別育成費	学用品費、通学費等					0	11
	補習費					0	11
	補習費特別加算費					0	11
	里親委託児童通院費					0	11
	職業補導費					0	11
	児童用採暖費	5,460	4,867	2,620	11,080	3	8
	その他の補助金など					0	11
	合計	261,327					

表 2-2-27 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（幼稚園と中学校、n=3）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	129,000		129,000	129,000	1	2
	一般生活費	101,140		101,140	101,140	1	2
	幼稚園費					0	3
教育費	交通費					0	3
	学習塾費					0	3
	学用品費	4,300		4,300	4,300	1	2
	学習指導費加算	8,090		8,090	8,090	1	2
	学校給食費（収）	5,000		5,000	5,000	1	2
特別育成費	学用品費、通学費等					0	3
	補習費					0	3
	補習費特別加算費					0	3
	里親委託児童通院費					0	3
	職業補導費					0	3
	児童用採暖費	14,460		14,460	14,460	1	2
	その他の補助金など					0	3
	合計	261,990					

表 2-2-28 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（幼稚園と国公立高校、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	129,000		129,000	129,000	1	3
一般生活費	101,140		101,140	101,140	1	3
幼稚園費					0	4
教育費	交通費				0	4
	学習塾費				0	4
	学用品費	4,300	4,300	4,300	1	3
	学習指導費加算	8,090	8,090	8,090	1	3
学校給食費（収）	5,000		5,000	5,000	1	3
特別育成費	学用品費、通学費等				0	4
	補習費				0	4
	補習費特別加算費				0	4
里親委託児童通院費					0	4
職業補導費					0	4
児童用採暖費	14,460		14,460	14,460	1	3
その他の補助金など					0	4
合計	261,990					

表 2-2-29 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（小学校と中学校、n=16）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当		126,000	7,937	108,000	129,000	7	9
一般生活費		100,886	673	99,360	101,140	7	9
幼稚園費						0	16
教育費	交通費	5,800	948	5,130	6,470	2	14
	学習塾費	33,534	10,004	26,460	40,608	2	14
	学用品費	5,865	2,712	2,050	8,470	4	12
	学習指導費加算	11,865	4,764	6,470	16,180	6	10
学校給食費（収）		9,700	1,779	8,000	12,600	6	10
特別育成費	学用品費、通学費等					0	16
	補習費					0	16
	補習費特別加算費					0	16
里親委託児童通院費						0	16
職業補導費						0	16
児童用採暖費		2,680	0	2,680	2,680	3	13
その他の補助金など		5,520	2,998	3,400	7,640	2	14
合計		301,850					

表 2-2-30 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（小学校と国公立高校、n=4）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当		128,000	1,414	127,000	129,000	2	2
一般生活費		107,170	8,528	101,140	113,200	2	2
幼稚園費						0	4
教育費	交通費					0	4
	学習塾費	11,545	4,886	8,090	15,000	2	2
	学用品費	2,845	955	2,170	3,520	2	2
	学習指導費加算	8,090		8,090	8,090	1	3
学校給食費（収）		4,000		4,000	4,000	1	3
特別育成費	学用品費、通学費等	22,910		22,910	22,910	1	3
	補習費					0	4
	補習費特別加算費					0	4
里親委託児童通院費						0	4
職業補導費						0	4
児童用採暖費		2,650	42	2,620	2,680	2	2
その他の補助金など						0	4
合計		287,210					

表 2-2-31 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（小学校と私立高校、n=6）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当		153,333	61,240	108,000	223,000	3	3
一般生活費		102,247	1,917	101,140	104,460	3	3
幼稚園費						0	6
教育費	交通費					0	6
	学習塾費					0	6
	学用品費	2,170		2,170	2,170	1	5
	学習指導費加算	8,090	0	8,090	8,090	2	4
	学校給食費（収）	4,150	71	4,100	4,200	2	4
特別育成費	学用品費、通学費等	33,910		33,910	33,910	1	5
	補習費					0	6
	補習費特別加算費					0	6
里親委託児童通院費						0	6
職業補導費						0	6
児童用採暖費		1,995	969	1,310	2,680	2	4
その他の補助金など		3,383	994	2,680	4,086	2	4
合計		309,278					

表 2-2-32 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（小学校と特別支援、n=2）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-33 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（小学校と各種学校進学、n=1）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当		129,000		129,000	129,000	1	0
一般生活費		101,140		101,140	101,140	1	0
幼稚園費						0	1
教育費	交通費					0	1
	学習塾費					0	1
	学用品費	2,170		2,170	2,170	1	0
	学習指導費加算	8,090		8,090	8,090	1	0
学校給食費（収）		4,000		4,000	4,000	1	0
特別育成費	学用品費、通学費等					0	1
	補習費					0	1
	補習費特別加算費					0	1
里親委託児童通院費						0	1
職業補導費						0	1
児童用採暖費						0	1
その他の補助金など						0	1
合計		244,400					

表 2-2-36 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（中学校と私立高校、n=8）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当		108,000		108,000	108,000	1	7
一般生活費		99,360		99,360	99,360	1	7
幼稚園費						0	8
教育費	交通費					0	8
	学習塾費					0	8
	学用品費					0	8
	学習指導費加算	4,300		4,300	4,300	1	7
学校給食費（収）						0	8
特別育成費	学用品費、通学費等	33,910		33,910	33,910	1	7
	補習費					0	8
	補習費特別加算費					0	8
里親委託児童通院費						0	8
職業補導費						0	8
児童用採暖費						0	8
その他の補助金など		1,700		1,700	1,700	1	7
合計		247,270					

表 2-2-34 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（小学校とその他、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-35 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（中学校と国公立高校、n=4）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-37 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（中学校と特別支援、n=1）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	108,000		108,000	108,000	1	0
一般生活費	99,360		99,360	99,360	1	0
幼稚園費					0	1
教育費	交通費				0	1
	学習塾費				0	1
	学用品費	8,600	8,600	8,600	1	0
	学習指導費加算	16,180	16,180	16,180	1	0
学校給食費（収）					0	1
特別育成費	学用品費、通学費等				0	1
	補習費				0	1
	補習費特別加算費				0	1
里親委託児童通院費					0	1
職業補導費					0	1
児童用採暖費	2,620		2,620	2,620	1	0
その他の補助金など	3,400		3,400	3,400	1	0
合計	238,160					

表 2-2-38 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（中学校と各種学校進学、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
里親手当	127,000		127,000	127,000	1	3
一般生活費	113,200		113,200	113,200	1	3
幼稚園費					0	4
教育費	交通費				0	4
	学習塾費				0	4
	学用品費				0	4
	学習指導費加算	8,090	8,090	8,090	1	3
学校給食費（収）					0	4
特別育成費	学用品費、通学費等				0	4
	補習費				0	4
	補習費特別加算費				0	4
里親委託児童通院費					0	4
職業補導費					0	4
児童用採暖費	2,620		2,620	2,620	1	3
その他の補助金など	8,100		8,100	8,100	1	3
合計	259,010					

表 2-2-39 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（中学校とその他、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-40 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（国公立高校と私立高校、n=3）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	129,000	0	129,000	129,000	3	0
	一般生活費	101,140	0	101,140	101,140	3	0
	幼稚園費					0	3
教育費	交通費					0	3
	学習塾費					0	3
	学用品費					0	3
	学習指導費加算					0	3
	学校給食費（収）					0	3
特別育成費	学用品費、通学費等	56,820	0	56,820	56,820	2	1
	補習費					0	3
	補習費特別加算費					0	3
	里親委託児童通院費					0	3
	職業補導費					0	3
	児童用採暖費	8,570	8,330	2,680	14,460	2	1
	その他の補助金など	2,680		2,680	2,680	1	2
	合計	298,210					

表 2-2-41 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（国公立高校と特別支援、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-42 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（国公立高校と各種学校進学、n=3）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	129,000	0	129,000	129,000	2	1
	一般生活費	101,140	0	101,140	101,140	2	1
	幼稚園費					0	3
教育費	交通費					0	3
	学習塾費					0	3
	学用品費					0	3
	学習指導費加算					0	3
	学校給食費（収）					0	3
特別育成費	学用品費、通学費等	56,820		56,820	56,820	1	2
	補習費					0	3
	補習費特別加算費					0	3
	里親委託児童通院費					0	3
	職業補導費					0	3
	児童用採暖費	2,680		2,680	2,680	1	2
	その他の補助金など	37,910		37,910	37,910	1	2
	合計	327,550					

表 2-2-43 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（国公立高校とその他、n=2）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-44 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（私立高校と特別支援、n=4）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	129,000		129,000	129,000	1	3
	一般生活費	101,140		101,140	101,140	1	3
	幼稚園費					0	4
教育費	交通費					0	4
	学習塾費					0	4
	学用品費					0	4
	学習指導費加算	8,090		8,090	8,090	1	3
	学校給食費（収）					0	4
特別育成費	学用品費、通学費等					0	4
	補習費	33,910		33,910	33,910	1	3
	補習費特別加算費					0	4
	里親委託児童通院費					0	4
	職業補導費					0	4
	児童用採暖費					0	4
	その他の補助金など	14,830		14,830	14,830	1	3
	合計	286,970					

表 2-2-47 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（2人とも欠損値、n=1）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	里親手当	129,000		129,000	129,000	1	0
	一般生活費	101,140		101,140	101,140	1	0
	幼稚園費					0	1
教育費	交通費					0	1
	学習塾費					0	1
	学用品費					0	1
	学習指導費加算	22,520		22,520	22,520	1	0
	学校給食費（収）					0	1
特別育成費	学用品費、通学費等					0	1
	補習費					0	1
	補習費特別加算費					0	1
	里親委託児童通院費					0	1
	職業補導費					0	1
	児童用採暖費					0	1
	その他の補助金など	7,260		7,260	7,260	1	0
	合計	259,920					

表 2-2-45 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（私立高校と各種学校進学、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-46 里子2人世帯における毎月決まって支給される里親関連の委託費（未就学と欠損値、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

【 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費 】

表 2-2-48 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（全体、n=199）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	108, 873	72, 706	19, 110	216, 670	7	192
教育費	教材費					0	199
	部活動費					0	199
	資格取得等特別加算費					0	199
	自転車等購入費					0	199
	入学時特別加算費	42, 600		42, 600	42, 600	1	198
特別育成費	入学時特別加算費					0	199
	資格取得等特別加算費	56, 820		56, 820	56, 820	1	198
	医療費	4, 250	1, 061	3, 500	5, 000	2	197
	夏季等特別行事費	3, 000		3, 000	3, 000	1	198
	期末一時扶助費	8, 940	2, 567	5, 280	10, 660	6	193
	就職支度費					0	199
	大学進学等自立生活支度費					0	199
	入進学支度金	242, 988	372, 495	40, 600	801, 200	4	195
	見学旅行費	71, 240	70, 781	21, 190	121, 290	2	197
	葬祭費					0	199
	里親受託支度費	43, 820	0	43, 820	43, 820	2	197
	その他の補助金など	41, 680	71, 043	1, 340	166, 820	5	194

表 2-2-49 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人とも未就学、n=6）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当					0	6
教育費	教材費					0	6
	部活動費					0	6
	資格取得等特別加算費					0	6
	自転車等購入費					0	6
	入学時特別加算費					0	6
特別育成費	入学時特別加算費					0	6
	資格取得等特別加算費					0	6
	医療費					0	6
	夏季等特別行事費					0	6
	期末一時扶助費	6, 000		6, 000	6, 000	1	5
	就職支度費					0	6
	大学進学等自立生活支度費					0	6
	入進学支度金					0	6
	見学旅行費					0	6
	葬祭費					0	6
	里親受託支度費					0	6
	その他の補助金など	2, 000		2, 000	2, 000	1	5

表 2-2-50 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人とも保育園、n=13）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当					0	13
教育費	教材費					0	13
	部活動費					0	13
	資格取得等特別加算費					0	13
	自転車等購入費					0	13
	入学時特別加算費					0	13
特別育感費	入学時特別加算費					0	13
	資格取得等特別加算費					0	13
	医療費					0	13
	夏季等特別行事費					0	13
	期末一時扶助費					0	13
	就職支度費					0	13
	大学進学等自立生活支度費					0	13
	入進学支度金					0	13
	見学旅行費					0	13
	葬祭費					0	13
	里親受託支度費					0	13
	その他の補助金など	166, 820		166, 820	166, 820	1	12

表 2-2-51 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人とも幼稚園、n=6）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	43, 120		43, 120	43, 120	1	5
教育費	教材費					0	6
	部活動費					0	6
	資格取得等特別加算費					0	6
	自転車等購入費					0	6
	入学時特別加算費					0	6
特別育感費	入学時特別加算費					0	6
	資格取得等特別加算費					0	6
	医療費					0	6
	夏季等特別行事費					0	6
	期末一時扶助費					0	6
	就職支度費					0	6
	大学進学等自立生活支度費					0	6
	入進学支度金					0	6
	見学旅行費					0	6
	葬祭費					0	6
	里親受託支度費					0	6
	その他の補助金など					0	6

表 2-2-52 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人とも小学校、n=32）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	73,710		73,710	73,710	1	31
教育費	教材費					0	32
	部活動費					0	32
	資格取得等特別加算費					0	32
	自転車等購入費					0	32
	入学時特別加算費	42,600		42,600	42,600	1	31
特別育成費	入学時特別加算費					0	32
	資格取得等特別加算費					0	32
	医療費	5,000		5,000	5,000	1	31
	夏季等特別行事費	3,000		3,000	3,000	1	31
	期末一時扶助費	10,520	57	10,480	10,560	2	30
	就職支度費					0	32
	大学進学等自立生活支度費					0	32
	入進学支度金	801,200		801,200	801,200	1	31
	見学旅行費					0	32
	葬祭費					0	32
	里親受託支度費	43,820		43,820	43,820	1	31
	その他の補助金など					0	32

表 2-2-54 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人とも国公立高校、n=8）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当					0	8
教育費	教材費					0	8
	部活動費					0	8
	資格取得等特別加算費					0	8
	自転車等購入費					0	8
	入学時特別加算費					0	8
特別育成費	入学時特別加算費					0	8
	資格取得等特別加算費					0	8
	医療費					0	8
	夏季等特別行事費					0	8
	期末一時扶助費					0	8
	就職支度費					0	8
	大学進学等自立生活支度費					0	8
	入進学支度金	79,030		79,030	79,030	1	7
	見学旅行費	121,290		121,290	121,290	1	7
	葬祭費					0	8
	里親受託支度費					0	8
	その他の補助金など					0	8

表 2-2-53 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人とも中学校、n=4）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-55 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人とも特別支援、n=2）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-56 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人ともその他、n=2）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-57 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（未就学と保育園、n=2）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-58 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（未就学と幼稚園、n=11）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-59 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（未就学と小学校、n=9）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-60 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（未就学と中学校、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-61 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（保育園と小学校、n=13）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
一時保護委託手当						0	13
教育費	教材費					0	13
	部活動費					0	13
	資格取得等特別加算費					0	13
	自転車等購入費					0	13
	入学時特別加算費					0	13
特別育成費	入学時特別加算費					0	13
	資格取得等特別加算費					0	13
医療費						0	13
夏季等特別行事費						0	13
期末一時扶助費		10,660	0	10,660	10,660	2	11
就職支度費						0	13
大学進学等自立生活支度費						0	13
入進学支度金		40,600		40,600	40,600	1	12
見学旅行費		21,190		21,190	21,190	1	12
葬祭費						0	13
里親受託支度費		43,820		43,820	43,820	1	12
その他の補助金など						0	13

表 2-2-62 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（保育園と中学校、n=5）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-63 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（保育園と国公立高校、n=3）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-64 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（幼稚園と小学校、n=11）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
一時保護委託手当						0	11
教育費	教材費					0	11
	部活動費					0	11
	資格取得等特別加算費					0	11
	自転車等購入費					0	11
	入学時特別加算費					0	11
特別育成費	入学時特別加算費					0	11
	資格取得等特別加算費					0	11
医療費						0	11
夏季等特別行事費						0	11
期末一時扶助費						0	11
就職支度費						0	11
大学進学等自立生活支度費						0	11
入進学支度金		51,120		51,120	51,120	1	10
見学旅行費						0	11
葬祭費						0	11
里親受託支度費						0	11
その他の補助金など						0	11

表 2-2-65 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（幼稚園と中学校、n=3）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-66 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（幼稚園と国公立高校、n=4）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-67 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（小学校と中学校、n=16）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-68 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（小学校と国公立高校、n=4）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
一時保護委託手当		19,110		19,110	19,110	1	3
教育費	教材費					0	4
	部活動費					0	4
	資格取得等特別加算費					0	4
	自転車等購入費					0	4
	入学時特別加算費					0	4
特別育成費	入学時特別加算費					0	4
	資格取得等特別加算費					0	4
医療費		3,500		3,500	3,500	1	3
夏季等特別行事費						0	4
期末一時扶助費						0	4
就職支度費						0	4
大学進学等自立生活支度費						0	4
入進学支度金						0	4
見学旅行費						0	4
葬祭費						0	4
里親受託支度費						0	4
その他の補助金など						0	4

表 2-2-69 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（小学校と私立高校、n=6）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	216, 670		216, 670	216, 670	1	5
教育費	教材費					0	6
	部活動費					0	6
	資格取得等特別加算費					0	6
	自転車等購入費					0	6
	入学時特別加算費					0	6
特別育成費	入学時特別加算費					0	6
	資格取得等特別加算費					0	6
	医療費					0	6
	夏季等特別行事費					0	6
	期末一時扶助費					0	6
	就職支度費					0	6
	大学進学等自立生活支度費					0	6
	入進学支度金					0	6
	見学旅行費					0	6
	葬祭費					0	6
	里親受託支度費					0	6
	その他の補助金など	1, 340		1, 340	1, 340	1	5

表 2-2-70 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（小学校と特別支援、n=2）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-71 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（小学校と各種学校進学、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-72 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（小学校とその他、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-73 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（中学校と国公立高校、n=4）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当					0	4
教育費	教材費					0	4
	部活動費					0	4
	資格取得等特別加算費					0	4
	自転車等購入費					0	4
	入学時特別加算費					0	4
特別育成費	入学時特別加算費					0	4
	資格取得等特別加算費					0	4
	医療費					0	4
	夏季等特別行事費					0	4
	期末一時扶助費	5, 280		5, 280	5, 280	1	3
	就職支度費					0	4
	大学進学等自立生活支度費					0	4
	入進学支度金					0	4
	見学旅行費					0	4
	葬祭費					0	4
	里親受託支度費					0	4
	その他の補助金など					0	4

表 2-2-74 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（中学校と私立高校、n=8）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-75 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（中学校と特別支援、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-76 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（中学校と各種学校進学、n=4）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
一時保護委託手当						0	4
教育費	教材費					0	4
	部活動費					0	4
	資格取得等特別加算費					0	4
	自転車等購入費					0	4
	入学時特別加算費					0	4
特別育成費	入学時特別加算費					0	4
	資格取得等特別加算費					0	4
医療費						0	4
夏季等特別行事費						0	4
期末一時扶助費						0	4
就職支度費						0	4
大学進学等自立生活支度費						0	4
入進学支度金						0	4
見学旅行費						0	4
葬祭費						0	4
里親受託支度費						0	4
その他の補助金など		6,700		6,700	6,700	1	3

表 2-2-77 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（中学校とその他、n=1）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
一時保護委託手当						0	1
教育費	教材費					0	1
	部活動費					0	1
	資格取得等特別加算費					0	1
	自転車等購入費					0	1
	入学時特別加算費					0	1
特別育成費	入学時特別加算費					0	1
	資格取得等特別加算費	56,820		56,820	56,820	1	1
医療費						0	1
夏季等特別行事費						0	1
期末一時扶助費						0	1
就職支度費						0	1
大学進学等自立生活支度費						0	1
入進学支度金						0	1
見学旅行費						0	1
葬祭費						0	1
里親受託支度費						0	1
その他の補助金など						0	1

表 2-2-78 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（国公立高校と私立高校、n=3）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-79 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（国公立高校と特別支援、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-80 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（国公立高校と各種学校進学、n=3）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-81 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（国公立高校とその他、n=2）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	150,000		150,000	150,000	1	1
教育費	教材費					0	2
	部活動費					0	2
	資格取得等特別加算費					0	2
	自転車等購入費					0	2
	入学時特別加算費					0	2
特別育成費	入学時特別加算費					0	2
	資格取得等特別加算費					0	2
	医療費					0	2
	夏季等特別行事費					0	2
	期末一時扶助費					0	2
	就職支度費					0	2
	大学進学等自立生活支度費					0	2
	入進学支度金					0	2
	見学旅行費					0	2
	葬祭費					0	2
	里親受託支度費					0	2
	その他の補助金など					0	2

表 2-2-82 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（私立高校と特別支援、n=4）

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
	一時保護委託手当	129,750	62,579	85,500	174,000	2	2
教育費	教材費					0	4
	部活動費					0	4
	資格取得等特別加算費					0	4
	自転車等購入費					0	4
	入学時特別加算費					0	4
特別育成費	入学時特別加算費					0	4
	資格取得等特別加算費					0	4
	医療費					0	4
	夏季等特別行事費					0	4
	期末一時扶助費					0	4
	就職支度費					0	4
	大学進学等自立生活支度費					0	4
	入進学支度金					0	4
	見学旅行費					0	4
	葬祭費					0	4
	里親受託支度費					0	4
	その他の補助金など	31,540		31,540	31,540	1	3

表 2-2-83 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（私立高校と各種学校進学、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-84 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（未就学と欠損値、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-85 里子2人世帯におけるその他、単発、臨時の委託費収入費（2人とも欠損値、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

【 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 】

表 2-2-86 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出（2人とも未就学、n=6）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-87 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出（2人とも保育園、n=13）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	20,250	10,960	12,500	28,000	2	11
修学旅行・遠足・見学積立費					0	13
学級・児童会・生徒会費					0	13
P T A会費					0	13
その他の学校納付金	600		600	600	1	12
教科書費・教科書以外の図書費	695	431	390	1,000	2	11
学用品・実験実習材料費					0	13
クラブ活動など教科外活動費					0	13
通学費					0	13
通学用品費					0	13
学校給食費	2,000		2,000	2,000	1	12
その他	6,900	8,849	600	20,000	4	9
寄附金					0	13
制服費	50,000		50,000	50,000	1	12
合計	80,445					

表 2-2-88 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (2人とも幼稚園、n=6)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	50,500	13,435	41,000	60,000	2	4
修学旅行・遠足・見学積立費	500		500	500	1	5
学級・児童会・生徒会費	400		400	400	1	5
P T A会費					0	6
その他の学校納付金					0	6
教科書費・教科書以外の図書費	1,000		1,000	1,000	1	5
学用品・実験実習材料費	2,000		2,000	2,000	1	5
クラブ活動など教科外活動費					0	6
通学費	7,400		7,400	7,400	1	5
通学用品費					0	6
学校給食費	7,363	3,159	4,000	10,268	3	3
その他	5,022	3,646	2,444	7,600	2	4
寄附金					0	6
制服費					0	6
合計	74,185					

表 2-2-89 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (2人とも小学校、n=32)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	32
修学旅行・遠足・見学積立費	2,732	1,314	1,000	5,000	8	24
学級・児童会・生徒会費	2,250	2,108	500	5,000	4	28
P T A会費	1,245	1,066	500	4,000	11	21
その他の学校納付金	2,753	2,592	100	8,000	7	25
教科書費・教科書以外の図書費	2,440	1,352	860	4,340	5	27
学用品・実験実習材料費	1,586	969	300	3,300	7	25
クラブ活動など教科外活動費	3,750	1,500	2,000	5,000	4	28
通学費	14,100	14,001	4,200	24,000	2	30
通学用品費	1,250	354	1,000	1,500	2	30
学校給食費	9,355	2,489	4,810	18,000	22	10
その他	9,708	9,963	600	22,510	6	26
寄附金					0	32
制服費	8,400	9,334	1,800	15,000	2	30
合計	59,569					

表 2-2-90 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (2人とも中学校、n=4)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	9,000		9,000	9,000	1	3
修学旅行・遠足・見学積立費					0	4
学級・児童会・生徒会費					0	4
P T A会費					0	4
その他の学校納付金					0	4
教科書費・教科書以外の図書費					0	4
学用品・実験実習材料費					0	4
クラブ活動など教科外活動費	13,000		13,000	13,000	1	3
通学費					0	4
通学用品費					0	4
学校給食費					0	4
その他					0	4
寄附金					0	4
制服費	10,000		10,000	10,000	1	3
合計	32,000					

表 2-2-91 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (2人とも国公立高校、n=8)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	20,000		20,000	20,000	1	7
修学旅行・遠足・見学積立費	9,500		9,500	9,500	1	7
学級・児童会・生徒会費					0	8
P T A会費					0	8
その他の学校納付金	9,700		9,700	9,700	1	7
教科書費・教科書以外の図書費					0	8
学用品・実験実習材料費					0	8
クラブ活動など教科外活動費					0	8
通学費	19,458	12,871	6,325	32,050	3	5
通学用品費					0	8
学校給食費					0	8
その他	7,700	3,253	5,400	10,000	2	6
寄附金					0	8
制服費					0	8
合計	66,358					

表 2-2-92 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (2人とも特別支援、n=2)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-93 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (2人ともその他、n=2)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-94 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (2人とも欠損値、n=1)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-95 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=2)

	未就学						保育園					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	2	2,000		2,000	2,000	1	1
修学旅行・遠足・見学積立費					0	2					0	2
学級・児童会・生徒会費					0	2					0	2
P T A会費					0	2					0	2
その他の学校納付金					0	2					0	2
教科書費・教科書以外の図書費					0	2					0	2
学用品・実験実習材料費					0	2					0	2
クラブ活動など教科外活動費					0	2					0	2
通学費					0	2	8,000		8,000	8,000	1	1
通学用品費					0	2					0	2
学校給食費					0	2	4,400		4,400	4,400	1	1
その他					0	2	3,000		3,000	3,000	1	1
寄附金					0	2					0	2
制服費					0	2					0	2
合計							17,400					

表 2-2-96 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=11)

	未就学						幼稚園					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	11	14,333	11,272	3,000	28,000	6	5
修学旅行・遠足・見学積立費					0	11					0	11
学級・児童会・生徒会費					0	11					0	11
P T A会費					0	11	1,500	1,697	300	2,700	2	9
その他の学校納付金					0	11	5,000		5,000	5,000	1	10
教科書費・教科書以外の図書費					0	11	1,350	495	1,000	1,700	2	9
学用品・実験実習材料費					0	11	1,000		1,000	1,000	1	10
クラブ活動など教科外活動費					0	11					0	11
通学費					0	11	5,000		5,000	5,000	1	10
通学用品費					0	11					0	11
学校給食費					0	11	5,175	568	4,700	6,000	4	7
その他					0	11	1,400	1,039	200	2,000	3	8
寄附金					0	11					0	11
制服費					0	11					0	11
合計							34,758					

表 2-2-97 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=9)

	未就学						小学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	9					0	9
修学旅行・遠足・見学積立費					0	9					0	9
学級・児童会・生徒会費					0	9	2,000		2,000	2,000	1	8
P T A会費					0	9	3,000		3,000	3,000	1	8
その他の学校納付金					0	9	3,110	3,974	300	5,920	2	7
教科書費・教科書以外の図書費					0	9	1,050	1,344	100	2,000	2	7
学用品・実験実習材料費					0	9	2,000		2,000	2,000	1	8
クラブ活動など教科外活動費					0	9	120		120	120	1	8
通学費					0	9	726		726	726	1	8
通学用品費					0	9					0	9
学校給食費					0	9	4,340	920	3,000	5,400	5	4
その他					0	9					0	9
寄附金					0	9					0	9
制服費					0	9	15,000		15,000	15,000	1	8
合計							31,346					

表 2-2-98 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=1)

	未就学						中学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	1					0	1
修学旅行・遠足・見学積立費					0	1					0	1
学級・児童会・生徒会費					0	1					0	1
P T A会費					0	1					0	1
その他の学校納付金					0	1					0	1
教科書費・教科書以外の図書費					0	1					0	1
学用品・実験実習材料費					0	1					0	1
クラブ活動など教科外活動費					0	1	3,000		3,000	3,000	1	0
通学費					0	1					0	1
通学用品費					0	1					0	1
学校給食費					0	1	6,048		6,048	6,048	1	0
その他					0	1					0	1
寄附金					0	1					0	1
制服費					0	1					0	1
合計							9,048					

表 2-2-99 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出（未就学、欠損値、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-100 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出（n=13）

	保育園						小学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	10,607	11,294	2,020	23,400	3	10					0	13
修学旅行・遠足・見学積立費	120		120	120	1	12					0	13
学級・児童会・生徒会費					0	13					0	13
P T A会費	800	566	400	1,200	2	11	450		450	450	1	12
その他の学校納付金					0	13	1,500		1,500	1,500	1	12
教科書費・教科書以外の図書費					0	13	3,000		3,000	3,000	1	12
学用品・実験実習材料費					0	13	1,860	981	500	2,840	4	9
クラブ活動など教科外活動費					0	13					0	13
通学費	3,250	354	3,000	3,500	2	11	1,800		1,800	1,800	1	12
通学用品費	250		250	250	1	12					0	13
学校給食費					0	13	4,225	403	3,800	4,700	4	9
その他	1,000		1,000	1,000	1	12					0	13
寄附金					0	13					0	13
制服費					0	13	15,000		15,000	15,000	1	12
合計	16,027						27,835					

表 2-2-101 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=5)

	保育園						中学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	5					0	5
修学旅行・遠足・見学積立費					0	5	3,000		3,000	3,000	1	4
学級・児童会・生徒会費	680		680	680	1	4	5,060	6,986	120	10,000	2	3
P T A会費	300		300	300	1	4					0	5
その他の学校納付金					0	5					0	5
教科書費・教科書以外の図書費					0	5	2,000		2,000	2,000	1	4
学用品・実験実習材料費	1,470		1,470	1,470	1	4	3,880		3,880	3,880	1	4
クラブ活動など教科外活動費					0	5	16,000		16,000	16,000	1	4
通学費					0	5					0	5
通学用品費					0	5					0	5
学校給食費	700		700	700	1	4	5,400	1,273	4,500	6,300	2	3
その他					0	5					0	5
寄附金					0	5					0	5
制服費					0	5					0	5
合計	3,150						35,340					

表 2-2-102 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=3)

	保育園						国公立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	3					0	3
修学旅行・遠足・見学積立費					0	3					0	3
学級・児童会・生徒会費					0	3					0	3
P T A会費					0	3					0	3
その他の学校納付金	4, 500		4, 500	4, 500	1	2					0	3
教科書費・教科書以外の図書費	2, 230		2, 230	2, 230	1	2					0	3
学用品・実験実習材料費					0	3					0	3
クラブ活動など教科外活動費					0	3	5, 060		5, 060	5, 060	1	2
通学費					0	3					0	3
通学用品費					0	3					0	3
学校給食費					0	3					0	3
その他	2, 000		2, 000	2, 000	1	2	3, 000		3, 000	3, 000	1	2
寄附金					0	3					0	3
制服費					0	3					0	3
合計	8, 730						8, 060					

表 2-2-103 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=11)

	幼稚園						小学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	23,607	8,655	6,400	35,900	8	3					0	11
修学旅行・遠足・見学積立費					0	11					0	11
学級・児童会・生徒会費					0	11	3,854		3,854	3,854	1	10
P T A会費	1,350	1,139	500	3,000	4	7	1,233	751	500	2,000	3	8
その他の学校納付金	1,000		1,000	1,000	1	10					0	11
教科書費・教科書以外の図書費	2,000		2,000	2,000	1	10	650	778	100	1,200	2	9
学用品・実験実習材料費	6,283	4,700	1,000	10,000	3	8	717	491	150	1,000	3	8
クラブ活動など教科外活動費					0	11					0	11
通学費	2,600	1,015	1,500	3,500	3	8	1,000		1,000	1,000	1	10
通学用品費	14,059		14,059	14,059	1	10					0	11
学校給食費	3,720	1,117	2,000	4,800	5	6	4,500	864	3,500	6,000	7	4
その他	33,565	47,284	130	67,000	2	9	1,032		1,032	1,032	1	10
寄附金					0	11					0	11
制服費	30,560	29,076	10,000	51,120	2	9					0	11
合計	118,744						12,986					

表 2-2-104 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=3)

	幼稚園						中学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	22,000		22,000	22,000	1	2					0	3
修学旅行・遠足・見学積立費	1,000		1,000	1,000	1	2					0	3
学級・児童会・生徒会費					0	3					0	3
P T A会費					0	3					0	3
その他の学校納付金					0	3					0	3
教科書費・教科書以外の図書費					0	3	500		500	500	1	1
学用品・実験実習材料費					0	3	3,500		3,500	3,500	1	2
クラブ活動など教科外活動費	5,500		5,500	5,500	1	2	10,706	13,726	1,000	20,412	2	1
通学費	3,000		3,000	3,000	1	2					0	3
通学用品費					0	3					0	3
学校給食費	4,870		4,870	4,870	1	2	5,750	1,061	5,000	6,500	2	1
その他	8,000		8,000	8,000	1	2					0	3
寄附金					0	3					0	3
制服費					0	3					0	3
合計	44,370					2	20,456					

表 2-2-105 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=4)

	幼稚園						国公立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	22,000		22,000	22,000	1	3					0	4
修学旅行・遠足・見学積立費	1,000		1,000	1,000	1	3					0	4
学級・児童会・生徒会費					0	4					0	4
P T A会費					0	4					0	4
その他の学校納付金					0	4					0	4
教科書費・教科書以外の図書費					0	4	500		500	500	1	3
学用品・実験実習材料費					0	4	3,500		3,500	3,500	1	3
クラブ活動など教科外活動費	5,500		5,500	5,500	1	3	10,706	13,726	1,000	20,412	2	2
通学費	3,000		3,000	3,000	1	3					0	4
通学用品費					0	4					0	4
学校給食費	4,870		4,870	4,870	1	3	5,750	1,061	5,000	6,500	2	2
その他	8,000		8,000	8,000	1	3					0	4
寄附金					0	4					0	4
制服費					0	4					0	4
合計	44,370						20,456					

表 2-2-106 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=16)

	小学校						中学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	4,530	2,164	3,000	6,060	2	14	7,930	5,558	4,000	11,860	2	14
修学旅行・遠足・見学積立費	12,720	16,836	3,000	32,160	3	13	4,400	566	4,000	4,800	2	14
学級・児童会・生徒会費	1,000		1,000	1,000	1	15	1,200		1,200	1,200	1	15
P T A会費	640	488	300	1,500	5	10	867	808	400	1,800	3	13
その他の学校納付金					0	16					0	16
教科書費・教科書以外の図書費	3,070	3,210	800	5,340	2	14	1,200		1,200	1,200	1	15
学用品・実験実習材料費	1,033	839	500	2,000	3	13	1,927	1,530	600	3,600	3	13
クラブ活動など教科外活動費	2,000		2,000	2,000	1	15	5,760	4,008	600	10,000	5	11
通学費					0	16	5,130		5,130	5,130	1	15
通学用品費					0	16	1,580		1,580	1,580	1	15
学校給食費	4,325	717	3,800	6,000	8	8	4,675	377	4,100	5,100	8	8
その他	12,960		12,960	12,960	1	15	26,390		26,390	26,390	1	15
寄附金					0	16					0	16
制服費					0	16	2,900		2,900	2,900	1	15
合計	42,278						63,958					

表 2-2-107 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=4)

	小学校						国公立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	4					0	4
修学旅行・遠足・見学積立費					0	4	11,005	1,407	10,010	12,000	2	2
学級・児童会・生徒会費	45		45	45	1	3					0	4
P T A会費	400		400	400	1	3					0	4
その他の学校納付金	500		500	500	1	3	7,800		7,800	7,800	1	3
教科書費・教科書以外の図書費					0	4					0	4
学用品・実験実習材料費	1,000		1,000	1,000	1	3					0	4
クラブ活動など教科外活動費	1,539	652	1,078	2,000	2	2					0	4
通学費					0	4					0	4
通学用品費					0	4	3,240		3,240	3,240	1	3
学校給食費	4,167	153	4,000	4,300	3	1	8,000		8,000	8,000	1	3
その他	2,000		2,000	2,000	1	3	22,500	24,749	5,000	40,000	2	2
寄附金					0	4					0	4
制服費					0	4					0	4
合計	9,651						52,545					

表 2-2-108 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=6)

	小学校						私立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	6	39,094	25,130	15,250	80,220	5	1
修学旅行・遠足・見学積立費	4,000	2,646	2,000	7,000	3	3	47,000	57,983	6,000	88,000	2	4
学級・児童会・生徒会費	500		500	500	1	5	500		500	500	1	5
P T A会費	275	177	150	400	2	4	4,300		4,300	4,300	1	5
その他の学校納付金	1,670		1,670	1,670	1	5	21,867	18,406	3,200	40,000	3	3
教科書費・教科書以外の図書費	1,500		1,500	1,500	1	5					0	6
学用品・実験実習材料費	760	834	170	1,350	2	4					0	6
クラブ活動など教科外活動費					0	6	8,170	6,794	4,000	16,009	3	3
通学費	7,000		7,000	7,000	1	5	7,150	786	6,450	8,000	3	3
通学用品費	200		200	200	1	5					0	6
学校給食費	4,100	292	3,700	4,500	5	1					0	6
その他					0	6					0	6
寄附金					0	6					0	6
制服費					0	6					0	6
合計	20,005						128,080					

表 2-2-100 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=2)

	小学校						特別支援					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	2					0	2
修学旅行・遠足・見学積立費	1,200		1,200	1,200	1	1					0	2
学級・児童会・生徒会費	350		350	350	1	1					0	2
P T A会費					0	2					0	2
その他の学校納付金					0	2					0	2
教科書費・教科書以外の図書費					0	2					0	2
学用品・実験実習材料費	1,300		1,300	1,300	1	1					0	2
クラブ活動など教科外活動費					0	2					0	2
通学費					0	2					0	2
通学用品費					0	2					0	2
学校給食費	5,000		5,000	5,000	1	1					0	2
その他	1,150		1,150	1,150	1	1					0	2
寄附金					0	2					0	2
制服費					0	2					0	2
合計	9,000											

表 2-2-110 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=1)

	小学校						各種学校進学					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	1					0	1
修学旅行・遠足・見学積立費					0	1					0	1
学級・児童会・生徒会費					0	1					0	1
P T A会費	200		200	200	1	0					0	1
その他の学校納付金					0	1					0	1
教科書費・教科書以外の図書費					0	1					0	1
学用品・実験実習材料費					0	1					0	1
クラブ活動など教科外活動費					0	1					0	1
通学費					0	1	8,840		8,840	8,840	1	0
通学用品費					0	1					0	1
学校給食費	4,000		4,000	4,000	1	0					0	1
その他					0	1					0	1
寄附金					0	1					0	1
制服費					0	1					0	1
合計	4,200						8,840					

表 2-2-111 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出（小学校、その他、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-112 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出（n=4）

	中学校						国公立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	4	17,000		17,000	17,000	1	3
修学旅行・遠足・見学積立費	10,000		10,000	10,000	1	3	10,000		10,000	10,000	1	3
学級・児童会・生徒会費	200		200	200	1	3	200		200	200	1	3
P T A会費	500		500	500	1	3	400		400	400	1	3
その他の学校納付金					0	4					0	4
教科書費・教科書以外の図書費	3,300		3,300	3,300	1	3	1,300		1,300	1,300	1	3
学用品・実験実習材料費	1,500		1,500	1,500	1	3					0	4
クラブ活動など教科外活動費	3,000		3,000	3,000	1	3	24,360		24,360	24,360	1	3
通学費	19,280		19,280	19,280	1	3	3,200		3,200	3,200	1	3
通学用品費					0	4	6,800		6,800	6,800	1	3
学校給食費	4,960	226	4,800	5,120	2	2					0	4
その他					0	4					0	4
寄附金					0	4					0	4
制服費					0	4					0	4
合計	42,740						63,260					

表 2-2-113 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=8)

	中学校						私立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	8	16,875	4,419	13,750	20,000	2	6
修学旅行・遠足・見学積立費	10,000		10,000	10,000	1	7	8,000		8,000	8,000	1	7
学級・児童会・生徒会費					0	8					0	8
P T A会費	3,000		3,000	3,000	1	7					0	8
その他の学校納付金	4,200		4,200	4,200	1	7					0	8
教科書費・教科書以外の図書費	2,500		2,500	2,500	1	7					0	8
学用品・実験実習材料費					0	8					0	8
クラブ活動など教科外活動費					0	8					0	8
通学費					0	8	4,580		4,580	4,580	1	7
通学用品費					0	8					0	8
学校給食費	5,800		5,800	5,800	1	7	2,800		2,800	2,800	1	7
その他	4,550	778	4,000	5,100	2	6	5,400		5,400	5,400	1	7
寄附金					0	8					0	8
制服費					0	8					0	8
合計	30,050						37,655					

表 2-2-114 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=1)

	中学校						特別支援					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	1					0	1
修学旅行・遠足・見学積立費					0	1					0	1
学級・児童会・生徒会費					0	1					0	1
P T A会費					0	1					0	1
その他の学校納付金					0	1					0	1
教科書費・教科書以外の図書費					0	1					0	1
学用品・実験実習材料費	160		160	160	1	0					0	1
クラブ活動など教科外活動費	750		750	750	1	0					0	1
通学費					0	1					0	1
通学用品費					0	1					0	1
学校給食費					0	1					0	1
その他					0	1					0	1
寄附金					0	1					0	1
制服費	6, 700		6, 700	6, 700	1	0					0	1
合計	7, 610											

表 2-2-115 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=4)

	中学校						各種学校進学					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	4	62,000		62,000	62,000	1	3
修学旅行・遠足・見学積立費					0	4					0	4
学級・児童会・生徒会費	20		20	20	1	3					0	4
P T A会費	5,300	6,647	600	10,000	2	2					0	4
その他の学校納付金					0	4					0	4
教科書費・教科書以外の図書費	118	139	20	216	2	2					0	4
学用品・実験実習材料費					0	4	49,600		49,600	49,600	1	3
クラブ活動など教科外活動費	4,000	2,828	2,000	6,000	2	2					0	4
通学費					0	4					0	4
通学用品費					0	4					0	4
学校給食費	4,625	177	4,500	4,750	2	2					0	4
その他					0	4					0	4
寄附金					0	4					0	4
制服費					0	4					0	4
合計	14,063						111,600					

表 2-2-116 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=1)

	中学校						その他					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	1					0	1
修学旅行・遠足・見学積立費	111,290		111,290	111,290	1	0					0	1
学級・児童会・生徒会費					0	1					0	1
P T A会費					0	1					0	1
その他の学校納付金					0	1					0	1
教科書費・教科書以外の図書費					0	1					0	1
学用品・実験実習材料費					0	1					0	1
クラブ活動など教科外活動費					0	1					0	1
通学費					0	1					0	1
通学用品費					0	1					0	1
学校給食費	5,400		5,400	5,400	1	0					0	1
その他					0	1					0	1
寄附金					0	1					0	1
制服費					0	1					0	1
合計	116,690											

表 2-2-117 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=3)

	国公立高校						私立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	3					0	3
修学旅行・遠足・見学積立費					0	3	14,887		14,887	14,887	1	2
学級・児童会・生徒会費					0	3					0	3
P T A会費					0	3					0	3
その他の学校納付金					0	3					0	3
教科書費・教科書以外の図書費	4,600		4,600	4,600	1	2					0	3
学用品・実験実習材料費					0	3					0	3
クラブ活動など教科外活動費					0	3					0	3
通学費	25,000		25,000	25,000	1	2	17,940		17,940	17,940	1	2
通学用品費					0	3					0	3
学校給食費					0	3					0	3
その他					0	3					0	3
寄附金					0	3					0	3
制服費					0	3					0	3
合計	14,800						32,827					

表 2-2-118 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出（国公立高校、特別支援、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-119 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出（n=3）

	国公立高校						各種学校進学					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料					0	3					0	1
修学旅行・遠足・見学積立費					0	3					0	1
学級・児童会・生徒会費					0	3					0	1
P T A会費					0	3					0	1
その他の学校納付金					0	3					0	1
教科書費・教科書以外の図書費	1,000	1,000	1,000		1	2					0	1
学用品・実験実習材料費					0	3					0	1
クラブ活動など教科外活動費					0	3					0	1
通学費	7,000	7,000	7,000		1	2					0	1
通学用品費	1,000	1,000	1,000		1	2					0	1
学校給食費					0	3					0	1
その他	5,000	5,000	5,000		1	2					0	1
寄附金					0	3					0	1
制服費					0	3					0	1
合計	14,000											

表 2-2-120 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=2)

	国公立高校						その他					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	9,900		9,900	9,900	1	1					0	2
修学旅行・遠足・見学積立費	5,729	3,976	2,917	8,540	2	0					0	2
学級・児童会・生徒会費	417		417	417	1	1					0	2
P T A会費	250		250	250	1	1					0	2
その他の学校納付金	4,250		4,250	4,250	1	1					0	2
教科書費・教科書以外の図書費	1,545		1,545	1,545	1	1					0	2
学用品・実験実習材料費	4,167		4,167	4,167	1	1					0	2
クラブ活動など教科外活動費					0	2					0	2
通学費	11,820		11,820	11,820	1	1					0	2
通学用品費	2,592		2,592	2,592	1	1					0	2
学校給食費	3,000		3,000	3,000	1	1					0	2
その他	21,060		21,060	21,060	1	1					0	2
寄附金					0	2					0	2
制服費	1,184		1,184	1,184	1	1					0	2
合計	65,914											

表 2-2-121 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (n=4)

	私立高校						特別支援					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
授業料	19,800	10,041	12,700	26,900	2	2					0	4
修学旅行・遠足・見学積立費					0	4					0	4
学級・児童会・生徒会費					0	4					0	4
P T A会費					0	4					0	4
その他の学校納付金					0	4					0	4
教科書費・教科書以外の図書費					0	4					0	4
学用品・実験実習材料費					0	4					0	4
クラブ活動など教科外活動費					0	4					0	4
通学費	10,000		10,000	10,000	1	3					0	4
通学用品費					0	4					0	4
学校給食費	11,000		11,000	11,000	1	3					0	4
その他					0	4					0	4
寄附金					0	4					0	4
制服費					0	4					0	4
合計	40,800											

里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学に関する支出 (私立高校、各種学校、n=1)

全項目欠損につき、表を省略

【 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 】

表 2-2-122 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人とも未就学、n=6)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	6
家庭内学習費（図書費）					0	6
家庭教師費等					0	6
学習塾費					0	6
その他					0	6
体験活動・地域活動					0	6
芸術文化活動（月謝等）					0	6
芸術文化活動（その他）					0	6
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）					0	6
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）					0	6
教養・その他（月謝等）					0	6
教養・その他（図書費）	1,500		1,500	1,500	1	5
教養・その他（その他）	9,000		9,000	9,000	1	5
合計	10,500					

表 2-2-123 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人とも保育園、n=13)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	4,527	3,573	2,000	7,053	2	11
家庭内学習費（図書費）					0	13
家庭教師費等					0	13
学習塾費					0	13
その他	980		980	980	1	12
体験活動・地域活動					0	13
芸術文化活動（月謝等）					0	13
芸術文化活動（その他）					0	13
スポーツ・レクリエーション 活動（月謝等）					0	13
スポーツ・レクリエーション 活動（その他）	12,027	15,688	1,080	30,000	3	10
教養・その他（月謝等）	4,340	4,016	1,500	7,180	2	11
教養・その他（図書費）	4,336	939	3,672	5,000	2	11
教養・その他（その他）	3,850	1,626	2,700	5,000	2	11
合計	30,059					

表 2-2-124 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人とも幼稚園、n=6)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費 (物品費)	1,209	710	626	2,000	3	3
家庭内学習費 (図書費)	4,000		4,000	4,000	1	5
家庭教師費等					0	6
学習塾費					0	6
その他					0	6
体験活動・地域活動					0	6
芸術文化活動 (月謝等)					0	6
芸術文化活動 (その他)					0	6
スポーツ・レクリエーション 活動 (月謝等)	3,600		3,600	3,600	1	5
スポーツ・レクリエーション 活動 (その他)					0	6
教養・その他 (月謝等)	10,000		10,000	10,000	1	5
教養・その他 (図書費)					0	6
教養・その他 (その他)	1,600		1,600	1,600	1	5
合計	20,409					

表 2-2-125 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人とも小学校、n=32)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費 (物品費)	2,862	2,780	500	8,320	9	23
家庭内学習費 (図書費)	2,350	731	1,500	3,000	6	26
家庭教師費等	7,318		7,318	7,318	1	25
学習塾費	19,385	10,434	6,480	36,000	11	21
その他	9,160	1,022	8,000	10,000	5	27
体験活動・地域活動	2,000		2,000	2,000	1	32
芸術文化活動 (月謝等)	12,013	9,931	3,000	30,010	10	22
芸術文化活動 (その他)	3,863	2,434	400	7,000	5	27
スポーツ・レクリエーション 活動 (月謝等)	7,621	4,776	2,000	15,120	14	18
スポーツ・レクリエーション 活動 (その他)	13,800	20,315	2,000	50,000	5	27
教養・その他 (月謝等)	7,528	3,697	4,320	14,000	6	26
教養・その他 (図書費)	3,064	3,156	550	8,000	5	27
教養・その他 (その他)	3,441	2,746	324	5,500	3	29
合計	94,405					

表 2-2-126 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人とも中学校、n=4)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費 (物品費)					0	4
家庭内学習費 (図書費)					0	4
家庭教師費等					0	4
学習塾費	27,233	17,229	14,800	46,900	3	1
その他					0	4
体験活動・地域活動					0	4
芸術文化活動 (月謝等)					0	4
芸術文化活動 (その他)					0	4
スポーツ・レクリエーション 活動 (月謝等)					0	4
スポーツ・レクリエーション 活動 (その他)					0	4
教養・その他 (月謝等)					0	4
教養・その他 (図書費)					0	4
教養・その他 (その他)					0	4
合計	27,233					

表 2-2-127 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人とも国公立高校、n=8)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費 (物品費)	7,500	3,536	5,000	10,000	2	6
家庭内学習費 (図書費)					0	8
家庭教師費等					0	8
学習塾費	30,780	9,928	23,760	37,800	2	6
その他					0	8
体験活動・地域活動					0	8
芸術文化活動 (月謝等)					0	8
芸術文化活動 (その他)	5,000		5,000	5,000	1	7
スポーツ・レクリエーション 活動 (月謝等)					0	8
スポーツ・レクリエーション 活動 (その他)					0	8
教養・その他 (月謝等)					0	8
教養・その他 (図書費)					0	8
教養・その他 (その他)	5,000		5,000	5,000	1	7
合計	48,280					

表 2-2-128 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人とも特別支援、n=2)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-129 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人ともその他、n=2)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-130 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (2人とも欠損値、n=1)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-131 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=2)

	未就学						保育園					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	2					0	2
家庭内学習費（図書費）					0	2					0	2
家庭教師費等					0	2					0	2
学習塾費					0	2					0	2
その他					0	2	2,000		2,000	2,000	1	1
体験活動・地域活動	300		300	300	1	1	1,300	1,414	300	2,300	2	0
芸術文化活動（月謝等）					0	2					0	2
芸術文化活動（その他）					0	2	3,000		3,000	3,000	1	1
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	2					0	2
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	2					0	2
教養・その他（月謝等）	2,036		2,036	2,036	1	1	2,036		2,036	2,036	1	1
教養・その他（図書費）					0	2					0	2
教養・その他（その他）					0	2					0	2
合計	2,336						8,336					

表 2-2-132 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=11)

	未就学						幼稚園					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	3,800		3,800	3,800	1	10	2,000	1,414	1,000	4,000	4	8
家庭内学習費（図書費）					0	11	2,000		2,000	2,000	1	10
家庭教師費等					0	11					0	11
学習塾費					0	11	6,480		6,480	6,480	1	10
その他					0	11					0	11
体験活動・地域活動					0	11	1,000		1,000	1,000	1	10
芸術文化活動（月謝等）					0	11					0	11
芸術文化活動（その他）					0	11					0	11
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）	5,000		5,000	5,000	1	10					0	11
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	11					0	11
教養・その他（月謝等）	500		500	500	1	10	13,250	9,546	6,500	20,000	2	9
教養・その他（図書費）					0	11	800		800	800	1	10
教養・その他（その他）					0	11	5,000		5,000	5,000	1	10
合計	9,300						30,530					

表 2-2-133 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=9)

	未就学						小学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	9	2,650	2,616	800	4,500	2	7
家庭内学習費（図書費）	2,000	1,414	1,000	3,000	2	7	1,833	764	1,000	2,500	3	6
家庭教師費等					0	9					0	9
学習塾費					0	9					0	9
その他					0	9	4,590	2,249	3,000	6,180	2	7
体験活動・地域活動					0	9					0	9
芸術文化活動（月謝等）					0	9	7,560		7,560	7,560	1	8
芸術文化活動（その他）					0	9					0	9
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	9	6,953	546	6,500	7,560	3	6
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	9					0	9
教養・その他（月謝等）					0	9					0	9
教養・その他（図書費）	1,500		1,500	1,500	1	8					0	9
教養・その他（その他）					0	9					0	9
合計	3,500						23,587					

表 2-2-134 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=1)

	未就学						中学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	1					0	1
家庭内学習費（図書費）					0	1					0	1
家庭教師費等					0	1					0	1
学習塾費					0	1					0	1
その他					0	1					0	1
体験活動・地域活動					0	1					0	1
芸術文化活動（月謝等）					0	1					0	1
芸術文化活動（その他）					0	1					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	1					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	1					0	1
教養・その他（月謝等）					0	1					0	1
教養・その他（図書費）					0	1					0	1
教養・その他（その他）					0	1	12,000		12,000	12,000	1	0
合計							12,000					

表 2-2-135 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（未就学：1人、欠損値、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-136 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（n=13）

	保育園						小学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	1,150	495	800	1,500	2	11	1,378	1,185	540	2,216	2	11
家庭内学習費（図書費）	1,620		1,620	1,620	1	12	2,250	1,061	1,500	3,000	2	11
家庭教師費等					0	13					0	13
学習塾費	8,500		8,500	8,500	1	12	9,000		9,000	9,000	1	12
その他					0	13					0	13
体験活動・地域活動					0	13	800		800	800	1	12
芸術文化活動（月謝等）	6,000		6,000	6,000	1	12	5,000	1,414	4,000	6,000	2	11
芸術文化活動（その他）					0	13					0	13
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）	8,000		8,000	8,000	1	12	5,464	3,405	2,000	10,000	5	8
スポーツ・レクリエーション活動（その他）	5,250	6,718	500	10,000	2	11	4,900	4,498	1,500	10,000	3	10
教養・その他（月謝等）					0	13	10,000		10,000	10,000	1	12
教養・その他（図書費）	1,000		1,000	1,000	1	12	2,250	354	2,000	2,500	2	11
教養・その他（その他）					0	13	1,425	1,520	350	2,500	2	11
合計	31,520						42,467					

表 2-2-137 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=5)

	保育園						中学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	5					0	5
家庭内学習費（図書費）					0	5					0	5
家庭教師費等					0	5	50,000		50,000	50,000	1	4
学習塾費					0	5	34,487	29,152	15,000	68,000	3	2
その他					0	5					0	5
体験活動・地域活動	5,000		5,000	5,000	1	4					0	5
芸術文化活動（月謝等）	6,000		6,000	6,000	1	4					0	5
芸術文化活動（その他）					0	5					0	5
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	5					0	5
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	5					0	5
教養・その他（月謝等）					0	5	7,000		7,000	7,000	1	4
教養・その他（図書費）	2,000		2,000	2,000	1	4					0	5
教養・その他（その他）					0	5					0	5
合計	13,000						91,487					

表 2-2-138 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=3)

	保育園						国公立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	3					0	3
家庭内学習費（図書費）					0	3					0	3
家庭教師費等					0	3					0	3
学習塾費					0	3					0	3
その他					0	3					0	3
体験活動・地域活動					0	3					0	3
芸術文化活動（月謝等）					0	3	19,000		19,000	19,000	1	2
芸術文化活動（その他）					0	3					0	3
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	3					0	3
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	3					0	3
教養・その他（月謝等）					0	3					0	3
教養・その他（図書費）					0	3					0	3
教養・その他（その他）					0	3					0	3
合計							19,000					

表 2-2-139 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=11)

	幼稚園						小学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	4,550	71	4,500	4,600	2	9					0	11
家庭内学習費（図書費）					0	11	4,000		4,000	4,000	1	10
家庭教師費等					0	11					0	11
学習塾費					0	11	15,155	4,023	12,310	18,000	2	9
その他					0	11	3,200		3,200	3,200	1	10
体験活動・地域活動					0	11	29,000		29,000	29,000	1	10
芸術文化活動（月謝等）	5,000		5,000	5,000	1	10	10,510	4,936	7,020	14,000	2	9
芸術文化活動（その他）					0	11					0	11
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）	12,850		12,850	12,850	1	10	12,255	3,882	9,510	15,000	2	9
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	11					0	11
教養・その他（月謝等）	7,356	628	6,912	7,800	2	9	12,750	10,253	5,500	20,000	2	9
教養・その他（図書費）	2,000		2,000	2,000	1	10					0	11
教養・その他（その他）					0	11					0	11
合計	31,756						86,870					

表 2-2-140 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=3)

	幼稚園						中学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	300		300	300	1	2					0	3
家庭内学習費（図書費）	1,500		1,500	1,500	1	2	6,101		6,101	6,101	1	2
家庭教師費等					0	3					0	3
学習塾費					0	3	31,293		31,293	31,293	1	2
その他					0	3					0	3
体験活動・地域活動					0	3					0	3
芸術文化活動（月謝等）					0	3					0	3
芸術文化活動（その他）					0	3					0	3
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	3					0	3
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	3	8,000		8,000	8,000	1	2
教養・その他（月謝等）					0	3					0	3
教養・その他（図書費）					0	3					0	3
教養・その他（その他）					0	3					0	3
合計	1,800						45,394					

表 2-2-141 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=4)

	幼稚園						国公立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	300		300	300	1	3					0	4
家庭内学習費（図書費）	1,500		1,500	1,500	1	3	6,101		6,101	6,101	1	3
家庭教師費等					0	4					0	4
学習塾費					0	4	31,293		31,293	31,293	1	3
その他					0	4					0	4
体験活動・地域活動					0	4					0	4
芸術文化活動（月謝等）					0	4					0	4
芸術文化活動（その他）					0	4					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	4					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	4	8,000		8,000	8,000	1	3
教養・その他（月謝等）					0	4					0	4
教養・その他（図書費）					0	4					0	4
教養・その他（その他）					0	4					0	4
合計	1,800						45,394					

表 2-2-142 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=16)

	小学校						中学校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	847	266	540	1,000	3	13	1,731	1,795	462	3,000	2	14
家庭内学習費（図書費）	1,094	133	1,000	1,188	2	14	1,272	385	1,000	1,544	2	14
家庭教師費等					0	16	13,440		13,440	13,440	1	15
学習塾費	9,143	4,008	4,968	12,960	3	13	23,370	10,694	6,458	36,000	5	11
その他	3,750		3,750	3,750	1	15					0	16
体験活動・地域活動	2,375	1,887	1,000	5,000	4	12	1,500	707	1,000	2,000	2	14
芸術文化活動（月謝等）	2,000	1,414	1,000	3,000	2	14	1,350		1,350	1,350	1	15
芸術文化活動（その他）	2,000		2,000	2,000	1	15					0	16
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）	8,333	8,083	1,000	17,000	3	13	4,000		4,000	4,000	1	15
スポーツ・レクリエーション活動（その他）	800		800	800	1	15	6,500	2,121	5,000	8,000	2	14
教養・その他（月謝等）	3,327	2,742	1,500	6,480	3	13	20,000		20,000	20,000	1	15
教養・その他（図書費）	1,201	517	600	1,800	4	12	2,133	2,318	600	4,800	3	13
教養・その他（その他）					0	16					0	16
合計	34,869						75,296					

表 2-2-143 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=4)

	小学校						国公立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	5,000	4,243	2,000	8,000	2	2	4,500	2,121	3,000	6,000	2	2
家庭内学習費（図書費）	1,250	1,061	500	2,000	2	2					0	4
家庭教師費等					0	4					0	4
学習塾費	11,000		11,000	11,000	1	3	25,000		25,000	25,000	1	3
その他					0	4					0	4
体験活動・地域活動	3,000		3,000	3,000	1	3	5,000		5,000	5,000	1	3
芸術文化活動（月謝等）	10,000		10,000	10,000	1	3					0	4
芸術文化活動（その他）	8,000		8,000	8,000	1	3					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）	3,500		3,500	3,500	1	3					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	4	25,000		25,000	25,000	1	3
教養・その他（月謝等）	8,000		8,000	8,000	1	3					0	4
教養・その他（図書費）	2,000		2,000	2,000	1	3					0	4
教養・その他（その他）					0	4	10,000		10,000	10,000	1	3
合計	51,750						69,500					

表 2-2-144 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=6)

	小学校						私立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	6					0	6
家庭内学習費（図書費）					0	6					0	6
家庭教師費等					0	6					0	6
学習塾費	12,960		12,960	12,960	1	5	17,000		17,000	17,000	1	5
その他					0	6					0	6
体験活動・地域活動	400		400	400	1	5					0	6
芸術文化活動（月謝等）					0	6	500		500	500	1	5
芸術文化活動（その他）					0	6					0	6
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）	2,500	707	2,000	3,000	2	4					0	6
スポーツ・レクリエーション活動（その他）	2,400		2,400	2,400	1	5					0	6
教養・その他（月謝等）	4,439	793	3,878	5,000	2	4					0	6
教養・その他（図書費）					0	6					0	6
教養・その他（その他）					0	6	324		324	324	1	5
合計	22,699						17,824					

表 2-2-145 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=2)

	小学校						特別支援					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	2					0	2
家庭内学習費（図書費）	1,280		1,280	1,280	1	1					0	2
家庭教師費等					0	2					0	2
学習塾費	10,320	2,376	8,640	12,000	2	0					0	2
その他					0	2					0	2
体験活動・地域活動					0	2					0	2
芸術文化活動（月謝等）					0	2					0	2
芸術文化活動（その他）					0	2					0	2
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）	4,200		4,200	4,200	1	1					0	2
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	2					0	2
教養・その他（月謝等）					0	2					0	2
教養・その他（図書費）					0	2					0	2
教養・その他（その他）					0	2					0	2
合計	15,800											

表 2-2-146 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（小学校、各種学校、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-147 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（n=1）

	小学校						その他					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	3,000		3,000	3,000	1	0					0	1
家庭内学習費（図書費）	1,000		1,000	1,000	1	0					0	1
家庭教師費等					0	1					0	1
学習塾費					0	1					0	1
その他					0	1					0	1
体験活動・地域活動	1,000		1,000	1,000	1	0					0	1
芸術文化活動（月謝等）	3,000		3,000	3,000	1	0					0	1
芸術文化活動（その他）					0	1					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	1					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	1					0	1
教養・その他（月謝等）					0	1					0	1
教養・その他（図書費）					0	1					0	1
教養・その他（その他）					0	1					0	1
合計	8,000											

表 2-2-148 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=4)

	中学校						国公立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	6,000		6,000	6,000	1	3					0	4
家庭内学習費（図書費）	5,000		5,000	5,000	1	3	12,000		12,000	12,000	1	3
家庭教師費等					0	4					0	4
学習塾費	52,110	45,410	20,000	84,220	2	2	25,920		25,920	25,920	1	3
その他					0	4					0	4
体験活動・地域活動					0	4					0	4
芸術文化活動（月謝等）	15,000		15,000	15,000	1	3					0	4
芸術文化活動（その他）					0	4					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	4					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	4					0	4
教養・その他（月謝等）					0	4					0	4
教養・その他（図書費）					0	4					0	4
教養・その他（その他）					0	4					0	4
合計	78,110						37,920					

表 2-2-140 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=8)

	中学校						私立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	3,253	1,893	1,500	5,260	3	5					0	8
家庭内学習費（図書費）	2,625	530	2,250	3,000	2	6	2,000		2,000	2,000	1	7
家庭教師費等					0	8					0	8
学習塾費					0	8					0	8
その他					0	8					0	8
体験活動・地域活動					0	8					0	8
芸術文化活動（月謝等）					0	8					0	8
芸術文化活動（その他）					0	8					0	8
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	8					0	8
スポーツ・レクリエーション活動（その他）	3,458		3,458	3,458	1	7					0	8
教養・その他（月謝等）					0	8					0	8
教養・その他（図書費）					0	8					0	8
教養・その他（その他）					0	8					0	8
合計	9,336						2,000					

表 2-2-150 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（中学校、特別支援、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-151 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（n=4）

	中学校						各種学校進学					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	1,000		1,000	1,000	1	3					0	4
家庭内学習費（図書費）	1,650	1,909	300	3,000	2	2					0	4
家庭教師費等					0	4					0	4
学習塾費	26,136		26,136	26,136	1	3					0	4
その他					0	4	2,000		2,000	2,000	1	3
体験活動・地域活動	4,000		4,000	4,000	1	3					0	4
芸術文化活動（月謝等）					0	4					0	4
芸術文化活動（その他）					0	4					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	4					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（その他）	3,000		3,000	3,000	1	3					0	4
教養・その他（月謝等）					0	4					0	4
教養・その他（図書費）					0	4					0	4
教養・その他（その他）					0	4					0	4
合計	35,786						2,000					

表 2-2-152 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=1)

	中学校						その他					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）	2,000		2,000	2,000	1	0					0	1
家庭内学習費（図書費）	1,000		1,000	1,000	1	0					0	1
家庭教師費等					0	1					0	1
学習塾費	100,300		100,300	100,300	1	0					0	1
その他					0	1					0	1
体験活動・地域活動					0	1					0	1
芸術文化活動（月謝等）					0	1					0	1
芸術文化活動（その他）					0	1					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	1					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	1					0	1
教養・その他（月謝等）	12,000		12,000	12,000	1	0					0	1
教養・その他（図書費）					0	1					0	1
教養・その他（その他）					0	1					0	1
合計	115,300											

表 2-2-153 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=3)

	国公立高校						私立高校					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	3					0	3
家庭内学習費（図書費）	4,000		4,000	4,000	1	2	4,000		4,000	4,000	1	2
家庭教師費等					0	3					0	3
学習塾費					0	3	9,800		9,800	9,800	1	2
その他					0	3					0	3
体験活動・地域活動					0	3					0	3
芸術文化活動（月謝等）					0	3					0	3
芸術文化活動（その他）					0	3					0	3
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）	5,400		5,400	5,400	1	2					0	3
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	3					0	3
教養・その他（月謝等）					0	3					0	3
教養・その他（図書費）					0	3					0	3
教養・その他（その他）					0	3					0	3
合計	9,400						13,800					

表 2-2-154 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（国公立高校、特別支援、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-155 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（n=3）

	国公立高校						各種学校進学					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	3					0	1
家庭内学習費（図書費）					0	3					0	1
家庭教師費等					0	3					0	1
学習塾費					0	3					0	1
その他					0	3					0	1
体験活動・地域活動					0	3					0	1
芸術文化活動（月謝等）					0	3					0	1
芸術文化活動（その他）					0	3					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	3					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	3					0	1
教養・その他（月謝等）	5,000		5,000	5,000	1	2					0	1
教養・その他（図書費）					0	3					0	1
教養・その他（その他）					0	3					0	1
合計	5,000											

表 2-2-156 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=2)

	国公立高校						その他					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	2					0	1
家庭内学習費（図書費）					0	2					0	1
家庭教師費等					0	2					0	1
学習塾費	21,060		21,060	21,060	1	1					0	1
その他					0	2					0	1
体験活動・地域活動					0	2					0	1
芸術文化活動（月謝等）	19,000		19,000	19,000	1	1					0	1
芸術文化活動（その他）					0	2					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	2					0	1
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	2					0	1
教養・その他（月謝等）					0	2					0	1
教養・その他（図書費）					0	2					0	1
教養・その他（その他）					0	2					0	1
合計	40,060											

表 2-2-157 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出 (n=4)

	私立高校						特別支援					
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
家庭内学習費（物品費）					0	4					0	4
家庭内学習費（図書費）					0	4					0	4
家庭教師費等					0	4					0	4
学習塾費					0	4					0	4
その他					0	4					0	4
体験活動・地域活動					0	4					0	4
芸術文化活動（月謝等）					0	4					0	4
芸術文化活動（その他）					0	4					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（月謝等）					0	4					0	4
スポーツ・レクリエーション活動（その他）					0	4					0	4
教養・その他（月謝等）	3,000		3,000	3,000	1	3					0	4
教養・その他（図書費）					0	4					0	4
教養・その他（その他）	14,580		14,580	14,580	1	3					0	4
合計	17,580											

表 2-2-158 里子2人世帯における委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出（私立高校、各種学校、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

【 お住まいに関して 】

表 2-2-159 お住まいの住宅形態

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	賃貸住宅	23	11.6	12.8	12.8
	持ち家	156	78.4	87.2	100.0
	合計	179	89.9	100.0	
	欠損値	20	10.1		
	合計	199	100.0		

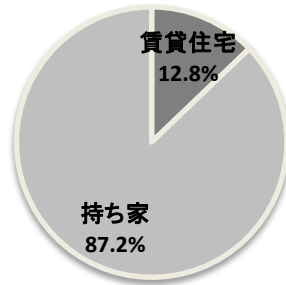


図2-2-1 お住まいの住宅形態

表 2-2-161 引っ越し時期（当時の長子の年齢）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	3	1	0.5	20.0	20.0
	4	1	0.5	20.0	40.0
	7	1	0.5	20.0	60.0
	8	1	0.5	20.0	80.0
	10	1	0.5	20.0	100.0
	合計	5	2.5	100.0	
	欠損値	194	97.5		
	合計	199	100.0		

表 2-2-160 引っ越しの有無

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	引っ越しをした	5	2.5	22.7	22.7
	していない	17	8.5	77.3	100.0
	合計	22	11.1	100.0	
	欠損値	177	88.9		
	合計	199	100.0		

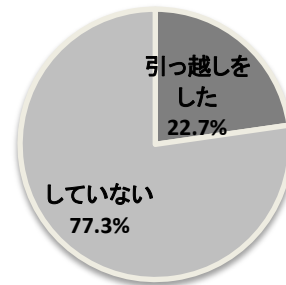


図2-2-2 引っ越しの有無

表 2-2-162 設備投資の有無

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	設備投資をした	52	26.1	35.4	35.4
	していない	95	47.7	64.6	100.0
	合計	147	73.9	100.0	
	欠損値	52	26.1		
	合計	199	100.0		

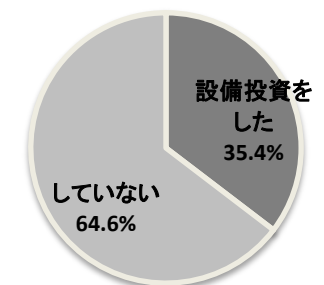


図2-2-3 設備投資の有無

表 2-2-163 設備投資の時期（当時の長子の年齢）

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	1	0.5	2.0
	1	2	1.0	6.0
	2	2	1.0	10.0
	3	1	0.5	12.0
	4	2	1.0	16.0
	5	5	2.5	26.0
	6	7	3.5	40.0
	7	3	1.5	46.0
	8	1	0.5	48.0
	9	3	1.5	54.0
	10	4	2.0	62.0
	11	5	2.5	72.0
	12	3	1.5	78.0
	13	1	0.5	80.0
	14	1	0.5	82.0
	15	3	1.5	88.0
	16	2	1.0	92.0
	17	1	0.5	94.0
	20	1	0.5	96.0
	27	1	0.5	98.0
	34	1	0.5	100.0
合計		50	25.1	100.0
欠損値		149	74.9	
合計		199	100.0	

【 里子 2 人世帯における通信関係に関する金額 】

表 2-2-164 里子 2 人世帯における通信関係に関する金額（全体）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	5,557	7,619	82	40,052	48	151
児童用携帯電話利用料	9,326	7,225	1,000	39,304	41	158

表 2-2-165 里子 2 人世帯における通信関係に関する金額（2 人とも未就学、n=6）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-166 里子 2 人世帯における通信関係に関する金額（2 人とも保育園、n=13）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	82		82	82	1	12
児童用携帯電話利用料					0	13

表 2-2-167 里子 2 人世帯における通信関係に関する金額（2 人とも幼稚園、n=6）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	14,000		14,000	14,000	1	5
児童用携帯電話利用料					0	6

表 2-2-168 里子 2 人世帯における通信関係に関する金額（2 人とも小学校、n=32）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	2,702	3,995	152	12,000	10	22
児童用携帯電話利用料	1,800		1,800	1,800	1	31

表 2-2-169 里子 2 人世帯における通信関係に関する金額（2 人とも中学校、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等					0	4
児童用携帯電話利用料	3,000		3,000	3,000	1	3

表 2-2-170 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (2人とも国公立高校、n=8)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等					0	8
児童用携帯電話利用料	18,038	3,724	15,000	23,000	5	3

表 2-2-171 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (2人とも特別支援、n=2)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等					0	2
児童用携帯電話利用料	39,304		39,304	39,304	1	1

表 2-2-172 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (2人ともその他、n=2)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-173 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (未就学と保育園、n=2)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	2,101	2,686	202	4,000	2	0
児童用携帯電話利用料					0	2

表 2-2-174 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (未就学と幼稚園、n=11)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	4,000		4,000	4,000	1	10
児童用携帯電話利用料					0	11

表 2-2-175 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (未就学と小学校、n=9)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等					0	9
児童用携帯電話利用料	2,450	2,051	1,000	3,900	2	7

表 2-2-176 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (未就学と中学校、n=1)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	2,000		2,000	2,000	1	0
児童用携帯電話利用料					0	1

表 2-2-177 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (保育園と小学校、n=13)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	300		300	300	1	12
児童用携帯電話利用料					0	13

表 2-2-178 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (保育園と中学校、n=5)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	82		82	82	1	4
児童用携帯電話利用料	4,850	3,041	2,700	7,000	2	3

表 2-2-179 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (保育園と国公立高校、n=3)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-180 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (幼稚園と小学校、n=11)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	13,000	16,971	1,000	25,000	2	9
児童用携帯電話利用料					0	11

表 2-2-181 里子2人世帯における通信関係に関する金額 (幼稚園と中学校、n=3)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	5,000		5,000	5,000	1	2
児童用携帯電話利用料					0	3

表 2-2-182 里子2人世帯における通信関係に関する金額（幼稚園と国公立高校、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	5,000		5,000	5,000	1	3
児童用携帯電話利用料	10,000		10,000	10,000	1	3

表 2-2-183 里子2人世帯における通信関係に関する金額（小学校と中学校、n=16）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	5,854	3,965	200	10,000	6	10
児童用携帯電話利用料	7,440	2,313	5,500	10,000	3	13

表 2-2-184 里子2人世帯における通信関係に関する金額（小学校と国公立高校、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等					0	4
児童用携帯電話利用料	6,500	4,950	3,000	10,000	2	2

表 2-2-185 里子2人世帯における通信関係に関する金額（小学校と私立高校、n=6）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等					0	6
児童用携帯電話利用料	12,000	3,808	8,000	15,500	4	2

表 2-2-186 里子2人世帯における通信関係に関する金額（小学校と特別支援、n=2）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	40,052		40,052	40,052	1	1
児童用携帯電話利用料	1,047		1,047	1,047	1	1

表 2-2-187 里子2人世帯における通信関係に関する金額（小学校と各種学校進学、n=1）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	3,000		3,000	3,000	1	0
児童用携帯電話利用料	6,000		6,000	6,000	1	0

表 2-2-188 里子2人世帯における通信関係に関する金額（小学校とその他、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-189 里子2人世帯における通信関係に関する金額（中学校と国公立高校、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	4,280		4,280	4,280	1	3
児童用携帯電話利用料	13,000		13,000	13,000	1	3

表 2-2-190 里子2人世帯における通信関係に関する金額（中学校と私立高校、n=8）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	2,141	2,485	400	5,736	4	4
児童用携帯電話利用料	7,351	4,965	1,980	13,422	4	4

表 2-2-191 里子2人世帯における通信関係に関する金額（中学校と特別支援、n=1）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等					0	1
児童用携帯電話利用料	2,000		2,000	2,000	1	0

表 2-2-192 里子2人世帯における通信関係に関する金額（中学校と各種学校進学、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	5,333	577	5,000	6,000	3	6
児童用携帯電話利用料	10,500	6,364	6,000	15,000	2	7

表 2-2-193 里子2人世帯における通信関係に関する金額（中学校とその他、n=1）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	10,000		10,000	10,000	1	0
児童用携帯電話利用料	8,000		8,000	8,000	1	0

表 2-2-194 里子2人世帯における通信関係に関する金額（国公立高校と私立高校、n=3）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	23,000		23,000	23,000	1	2
児童用携帯電話利用料	4,000		4,000	4,000	1	2

表 2-2-195 里子2人世帯における通信関係に関する金額（国公立高校と特別支援、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-196 里子2人世帯における通信関係に関する金額（国公立高校と各種学校進学、n=3）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等					0	1
児童用携帯電話利用料	4,000		4,000	4,000	1	0

表 2-2-197 里子2人世帯における通信関係に関する金額（国公立高校とその他、n=2）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	7,439	6,278	3,000	11,878	2	0
児童用携帯電話利用料	7,400	3,677	4,800	10,000	2	0

表 2-2-198 里子2人世帯における通信関係に関する金額（私立高校と特別支援、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
電話・インターネット・郵便等	10,575	5,664	6,570	14,580	2	2
児童用携帯電話利用料	8,292	2,416	6,583	10,000	2	2

表 2-2-199 里子2人世帯における通信関係に関する金額（私立高校と各種学校進学、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-200 里子2人世帯における通信関係に関する金額（未就学と欠損値、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-201 里子2人世帯における通信関係に関する金額（2人とも欠損値、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

【アフターケアにむけて】

表 2-2-202 アフターケアに向けての預貯金有無

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	預貯金をして いる	99	50	56
	して いない	78	39	100
	合計	177	89	100
欠損値		22	11	
合計		199	100	

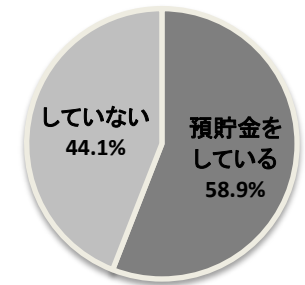


図2-2-4 アフターケアに向けての貯金有無

表 2-2-203 預貯金の金額（全体、n=199）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	40,351	66,223	3,000	500,000	77	122

表 2-2-204 預貯金の金額（2人とも未就学、n=6）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-205 預貯金の金額（2人とも保育園、n=13）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	106,857	177,579	3,000	500,000	7	6

表 2-2-206 金額 (2人とも幼稚園、n=6)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	20,000		20,000	20,000	1	5

表 2-2-207 預貯金の金額 (2人とも小学校、n=32)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	25,000	27,716	5,000	100,000	12	20

表 2-2-208 預貯金の金額 (2人とも中学校、n=4)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	73,333	46,188	20,000	100,000	3	1

表 2-2-209 預貯金の金額 (2人とも国公立高校、n=8)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	15,000	7,071	10,000	20,000	2	6

表 2-2-210 預貯金の金額 (2人とも特別支援、n=2)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-211 預貯金の金額 (2人ともその他、n=2)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	10,000		10,000	10,000	1	1

表 2-2-212 預貯金の金額 (未就学と保育園、n=2)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	10,000		10,000	10,000	1	1

表 2-2-213 預貯金の金額 (未就学と幼稚園、n=11)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	23,000	16,432	5,000	40,000	5	6

表 2-2-214 預貯金の金額 (未就学と小学校、n=9)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	29,333	29,269	5,000	86,000	6	3

表 2-2-215 預貯金の金額 (未就学と中学校、n=1)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	108,000		108,000	108,000	1	0

表 2-2-216 預貯金の金額 (保育園と小学校、n=13)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	30,000	17,321	10,000	60,000	9	4

表 2-2-217 預貯金の金額 (保育園と中学校、n=5)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	36,667	37,859	10,000	80,000	3	2

表 2-2-218 預貯金の金額 (保育園と国公立高校、n=3)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	100,000		100,000	100,000	1	2

表 2-2-219 預貯金の金額 (幼稚園と小学校、n=11)

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	200,000		200,000	200,000	1	10

表 2-2-220 預貯金の金額 (幼稚園と中学校、n=3)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-221 預貯金の金額 (幼稚園と国公立高校、n=4)

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-222 預貯金の金額（小学校と中学校、n=16）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	14, 000	5, 477	10, 000	20, 000	5	11

表 2-2-223 預貯金の金額（小学校と国公立高校、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	40, 000	28, 284	20, 000	60, 000	2	2

表 2-2-224 預貯金の金額（小学校と私立高校、n=6）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-225 預貯金の金額（小学校と特別支援、n=2）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-226 預貯金の金額（小学校と各種学校進学、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-227 預貯金の金額（小学校とその他、n=1）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	20, 000		20, 000	20, 000	1	0

表 2-2-228 預貯金の金額（中学校と国公立高校、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	10, 000		10, 000	10, 000	1	3

表 2-2-229 預貯金の金額（中学校と私立高校、n=8）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	17, 500	9, 574	10, 000	30, 000	4	4

表 2-2-230 預貯金の金額（中学校と特別支援、n=1）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	30, 000		30, 000	30, 000	1	0

表 2-2-231 預貯金の金額（中学校と各種学校進学、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	52, 500	67, 175	5, 000	100, 000	2	2

表 2-2-232 預貯金の金額（中学校とその他、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-233 預貯金の金額（国公立高校と私立高校、n=3）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-234 預貯金の金額（国公立高校と特別支援、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-235 預貯金の金額（国公立高校と各種学校進学、n=3）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	22, 500	3, 536	20, 000	25, 000	2	1

表 2-2-236 預貯金の金額（国公立高校とその他、n=2）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	20, 000		20, 000	20, 000	1	1

表 2-2-237 預貯金の金額（私立高校と特別支援、n=4）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	10, 000	0	10, 000	10, 000	2	2

表 2-2-238 預貯金の金額（私立高校と各種学校進学、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-239 預貯金の金額（未就学と欠損値、n=1）

全項目欠損につき、表を省略

表 2-2-240 預貯金の金額（2人とも欠損値、n=1）

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効回答	欠損値
毎月の金額	200,000		200,000	200,000	1	0

第2章 里親養育の実態と支援ニーズに関するインタビュー調査

1. 調査の目的

第1章で報告した、全国の里親を対象としたアンケート調査では、現在、里子の養育を受託している里親の養育実態や支援ニーズ、満足度に加えて、経済的支援ニーズの全体像について明らかにした。

この結果を踏まえ、里親の養育プロセスにおける困難を含む里親養育の実態や支援ニーズについてより具体的に明らかにすることを目的としてインタビュー調査を行った。調査結果の分析を通して、今後必要となる里親支援のあり方について具体的かつ多角的に検討したい。

2. 調査の方法

1) 調査対象と方法

まず、本調査研究事業の一環として立ち上げた「里親家庭における養育実態と支援ニーズに関する検討会」において、里親が直面しやすい困難や支援ニーズについてブレインストーミングを行い、インタビュー調査を通じて収集したい事例のテーマや内容について検討した。

そこでの意見を踏まえて、検討会メンバーである児童相談所職員および施設の里親支援専門相談員の協力を得て、インタビュー調査に協力可能な里親の方をご紹介いただき、2017年11月～2018年1月の期間にインタビュー調査を実施した。得られた28事例は、再度、検討会メンバーで内容について検討を重ね、表2-1のようにまとめた。

なお、インタビュー調査は複数の研究協力者で分担して実施した。インタビュアー担当者は以下のとおりである。

- ・ 福田 公教（関西大学 准教授）
- ・ 石田 慎二（帝塚山大学 准教授）
- ・ 小池 由佳（新潟県立大学 准教授）
- ・ 千賀 則史（名古屋大学ハラスメント相談センター 講師）
- ・ 安藤 藍（首都大学東京 助教）
- ・ 伊藤嘉余子（大阪府立大学 教授）

表 2-1：インタビュー調査として収集した事例の分類表

類 型	サブカテゴリー	事例番号	事例の概要(執筆担当者)	里親種別
Ⅰ. 里子の特性に起因する養育支援ニーズ	発達障がい	事例 1	実親への思いが強い発達障がいの年長児の養育 (伊藤)	養育里親
		事例 2	共働き里親による発達障がいの子どもの養育 (伊藤)	養育里親
		事例 3	発達障がいと愛着の問題を抱える子どもの養育 (千賀)	専門里親
	不登校や非行など	事例 4	学習面でのつまずきから不登校になった子どもの養育 (伊藤)	養育里親
		事例 5	不登校や非行などの行動上の問題のある子どもの養育 (千賀)	専門里親
		事例 6	試し行動や反社会的行動が多い里子の長期養育 (伊藤)	養育里親
	委託前の生育歴	事例 7	性的虐待の被害による影響を抱えた子どもの養育 (千賀)	専門里親
		事例 8	不十分な生活力、人間関係形成力への働きかけ (安藤)	養育里親
Ⅱ. 里親家族内の関係性に起因する支援ニーズ	複数の里子や実子の養育	事例 9	同じ年齢の里子養育で生じる子ども同士の葛藤 (小池)	専門里親
		事例 10	愛着障がいと思われる幼児と実子の子育ての両立 (伊藤)	養育里親
	実親との交流や親子関係調整	事例 11	委託後に実親との交流が始まった里子の養育 (伊藤)	養育里親
		事例 12	里子受託から実親との信頼関係構築、支援の展開 (小池)	養育里親
		事例 13	長期養育前提で受託した里子への真実告知と親子関係構築 (伊藤)	養育里親
		事例 14	実母との交流、委託解除後も親子との関係を継続した養育 (福田)	養育里親
Ⅲ. 里親種別に起因する支援ニーズ	親族里親	事例 15	他施設や里親家庭からの措置変更を経験した親族の子の養育 (伊藤)	親族里親
		事例 16	里親として育てることへの決断から生じた葛藤 (小池)	親族里親
		事例 17	複数の子どもを養育する養育 (親族) 里親 (小池)	親族里親
	一時保護	事例 18	一時保護委託を長期間に渡って定期的に受託 (石田)	養育里親
Ⅳ. 経済的支援ニーズ		事例 19	大学進学を目指す里子の養育 (石田)	養育里親
		事例 20	子どもの器物破損により弁償が必要な状況での養育 (千賀)	養育里親
Ⅴ. 委託のプロセスで発生するニーズ		事例 21	登録からマッチング期間における時間/経済/心理的負担 (小池)	養子縁組里親
		事例 22	激しい子どもの試し行動と向き合い育てるための支援ニーズ (伊藤)	養子縁組里親
		事例 23	里親から里親への措置変更で生じる支援ニーズ (小池)	養育里親
		事例 24	「里親養育」と「子育て」の間で生じる葛藤 (小池)	養育里親
		事例 25	短期の乳児の養育から特別養子縁組に至った里子の養育 (福田)	養子縁組里親
Ⅵ. 委託解除後の支援ニーズ		事例 26	里親不調で委託解除になった後の支援ニーズ (安藤)	養育里親
		事例 27	委託解除後の里親の感情のコントロールや里子ロスへのケア (安藤)	養育里親
		事例 28	委託解除後の里子へのアフターケア、実家役割 (安藤)	養育里親

2)調査内容

インタビュー調査に際しては、作成したインタビューガイドをあらかじめ、インタビューである里親に届け、話していただく内容をご準備いただいた。主な調査項目については、表 2-2 に示したとおりである。なお、インタビューガイドの詳細については巻末資料「インタビューガイド」をご参照いただきたい。

表 2-2：主なインタビュー項目

○ある里子の養育プロセスの中で、特に印象に残っているエピソードについて、詳しく語ってください。

- (1) その里子の養育における困難や葛藤の概要
- (2) 困難や葛藤に直面した際に、里親として行った対応や工夫の概要
- (3) 困難や葛藤に直面した際に、周りに求めた支援
- (4) 対応や工夫、支援の効果やその後の状況の変化
- (5) このエピソードが里親/里子に与えた示唆（意味/意義/教訓など）

3)倫理的配慮

インタビューに先立って、インタビュー協力者である里親に、まず文書にて、インタビューの録音データおよび記録メモの保管と破棄、調査結果公表時に個人が特定されないよう十分配慮すること、インタビューは途中でいつでも中断できること等を含めた倫理的配慮に関する説明を行い、インタビュー当日も口頭および文書によって説明を行い、承諾を得た。

本調査は、大阪府立大学人間社会システム科学研究科に設置された倫理審査委員会において、倫理的に配慮がなされたものであるとの承認を受けている。

なお、報告書内で里親の発言を引用しているが、地域や個人が特定されないよう、方言にあたる部分を修正する等の一定の加工を加えている。

3. 調査結果

Ⅰ. 里子の特性に起因する養育支援ニーズ

事例1 養育里親

実親への思いが強い発達障がいのある年長児の養育

(伊藤嘉余子)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 中学生男児を受託。
- 最初に発達障がいだとは聞いていなかった。
- 里母や里父が注意をすると暴力的な反応を示した。自傷行為もあった。
- 中学校でも教師や他の生徒に暴力を振るう等のトラブルを起こした。
- 身体接触を嫌がるほか、髪型や食事等に強いこだわりがあった。
- 思い通りにならないとパニックのようになって暴れまわったりした。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 里親夫婦で話し合い、役割分担をしながら里子に関わった。
- 他の里子や実子に危害が及ばないよう配慮した。
- 中学校の先生との連携や情報共有に努めた。
- 中学校の先生の薦めで、週に1日、精神科に通院し始めた。
→薬で症状は落ち着いたが、朝起きるのが大変そうだった。
- 途中から、里親もカウンセリングに同席するよう医師に言われ、参加し始めた。
→カウンセラーの話し方等を参考にして、里子への関わり方を変化させた。
→里親への反抗的・暴力的な言動は減っていった。
- カウンセリングの中で、里子の中にある実母への思いが浮かび上がってきた。
- 毎週のカウンセリングを通して、里子理解が深まるとともに、どう対応すべきかが少しずつわかるようになってきた。

<カウンセリングを通して深まった里子理解>

- 実母と似たタイプの大人の女性が苦手であること。
- 実母へのアンビバレントな思い（会いたい・好き⇔会ったら殺したい）。
- 絵や工作などが本当は好きで得意である。

<里親さんの語りより> 例えば車を見てそれを絵に描いて、描くだけやなしに平面図みたいのを描いて、パパッと折り曲げたら立体的に車になる、みたいな。お前すごいなって褒めて…（略）でも、お母さんが実は絵が上手だったっていうのを知って意識し始めたというか。

3. その後の変化と里親としての対応

- 実母を求めてしばしば家出をするようになった。
→実母に連絡を取って、形見になるような物を送ってもらった。
- 実母への思いや思い出を里親家庭でも自由に話せるような雰囲気作りを心がけた。
→里子は実母に対する様々な思いをたくさん口にするようになった。

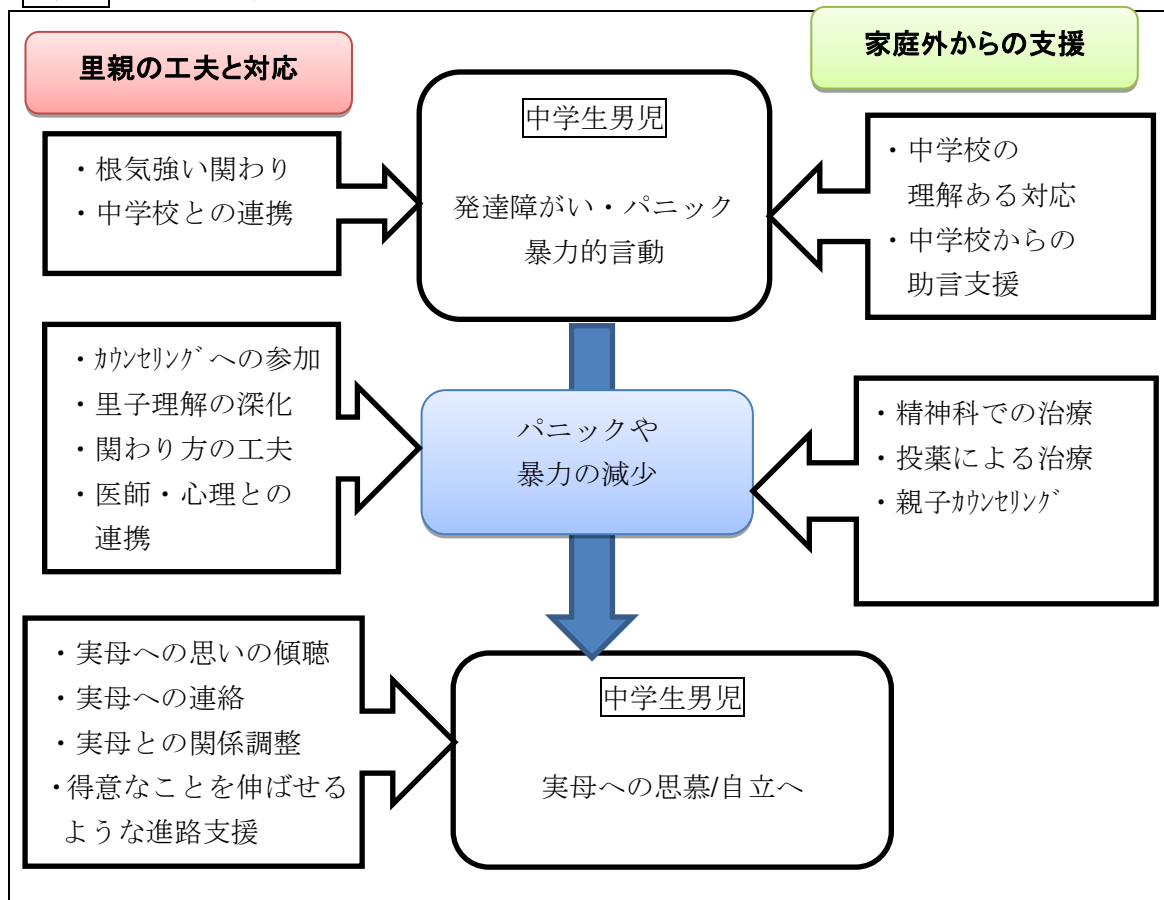
→里親子間の信頼関係は深まったような気がする。

＜里親さんの語りより＞ ○○市のあたりを車で走ってたら、お母さんと一緒に来たとか、ここ知ってる、お母さんと来たことあるとかよく言うんです。で「お母さん、すらっとしたきれいな人だね」って言うたら否定しない、っていうかちょっとうれしそうな顔する。だからいろいろと言っても本人は恋しい、会いたいんだと思います。

○実母と時々連絡を取り、里子の成長の様子を伝えるようにしている。

→いずれ一緒に住みたいという里子の願いをかなえてやりたい。

事例1 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○里親支援機関としての児童相談所の役割。

→以前、児童相談所に相談した時に、有効な助言支援をもらえなかった。

→相談すると「困っている」と思われて上から目線の助言支援になるという印象がある。

○里親と実親が直接連絡を取り合うことのメリットとリスク。

○里子の生い立ちの整理（ライフストーリーワーク）の計画的実施。

○通院治療を必要とする里子を養育できる里親に必要な条件や資質。

→定期的と一緒に通院できる生活スタイル（共働き等だと難しい）。

→他の里子や実子の有無など、マッチング時に十分な配慮が必要。

事例2 養育里親

共働き里親による発達障がいの子どもの養育

(伊藤嘉余子)

1. 養育する中で直面した困難の概要

○3歳男児の養育を受託。

○マッチングのプロセスでの不信感や違和感があった。

→「共働きはダメだ」という趣旨のことを言われたりした。

→関係機関は里子の発達障がいを知っているような雰囲気だったが、マッチング時には何も言われなかった。

＜里親さんの語りより＞ ちょっと気になるころはあったけど、ずっと乳児院育ちだからかな、社会性がちょっとないのかな、障がいかどうかはまだわからないって感じだったんです。でもワーカーさんとかはたぶん薄々感づいておられたのではないかと。だからずっとマッチングの間「迷惑かけてませんか、ちゃんということ聴けてますか」ってものすごい心配されてたんで。

○保育所に通い始めて発達相談を受けるよう保育所から助言。

○発達検査でADHDとの診断がついた。

○保育所とは別に療育を受けられるセンターに通うことになった。

○保育所で他のお友達に手が出てしまう等のトラブルが続いた。

2. 困難に対する対応や工夫等

○子どもに里母の手作りのバッチを持たせ「怒りそうになった時、嫌なことがあった時、これを触りなさい」と言ってきかせた。

○保育所の先生がクールダウンさせたり、上手に関わってくれた。

→常に「一緒に頑張っていきましょう」という姿勢でいてくれた。

○発達障がい児のための通園施設に週3日通い始めた。

→通うために里父は仕事を短時間勤務に変更した。

○里父の母親（里子にとっての祖母）がよく支えてくれている。

○母親仲間はとても理解があり、ありがたかった。

＜里親さんの語りより＞ 子ども会の同じ母親同士で「男の子だったらそんなもんだよ」「うちの子もそんなことあったよ」等と慰めたり励ましてくれたりしたのがあったかくて、ありがたかったと（妻は）言っていました。また、実際にうちの子がパニックになったのを見た時は「うわ、これは大変だね、手に負えないね」と大変さをわかってくれた上で、それでもあたたかく見守ってくれて。

3. その後の変化と里親としての対応

○里子も年齢を重ね、また里親家庭での生活を重ねる中で、落ち着いてきたと思う。

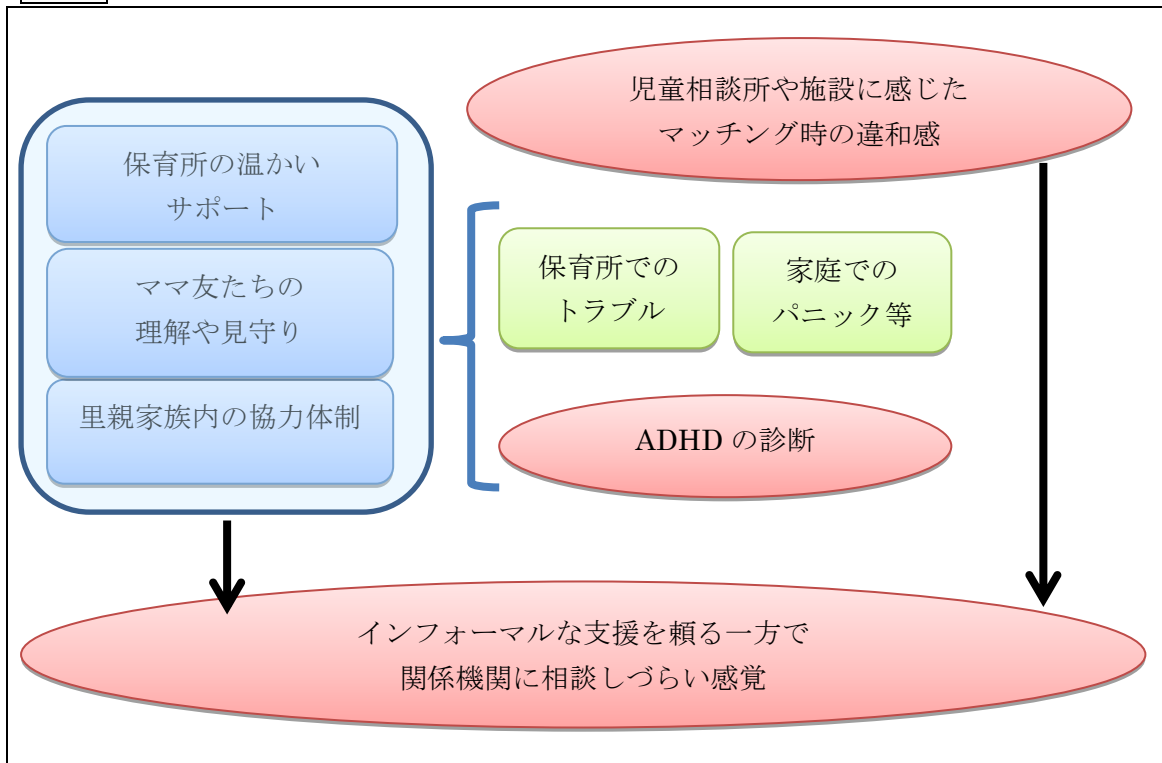
○実子と里子の関係も安定して、本当のきょうだいみたいになってきた。

○小学校は普通学級でお願いすると決め、今は入学準備を進めている。

- 里親会に一度行ってみたが、スケジュールがなかなか合わず、それ以降行けていない。
- 最初の印象もあって「誰かに相談しながら子育てする」という感覚がつかめずにいる。

＜里親さんの語りより＞ 実子の子育てでもそうですけど、我が子のことですんなりにいろいろなところに相談しないでしょ、たぶん。自分たちであれこれ考えてすると思うんですよね。里子だからってって特別なものじゃなく、実子と変わりなく育てるものだと思うので、特別誰かに相談したいとか話を聴いてほしいとか、あまり思わないです。最初にあまり良い印象をもてなかったというのもあるんですけど。

事例2 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 共働き里親家庭へのアセスメント・マッチング・支援などのあり方。
 - 共働き里親夫婦と児童相談所等との事前協議の大切さ。
 - 多様な里親家庭にあった支援や関係機関の姿勢が問われる。
- 発達障がいのある子どもの里親委託時の情報提供。
 - 施設や児童相談所の所見等をどこまで伝えるか。
- 「相談や支援を利用しながら養育してほしい」ことをどう伝えられているか。
- 専門里親と養育里親の棲み分けはどこか。
 - 委託する子どもの違い、アセスメントの違いは明確かどうか。

事例3 専門里親

発達障がいと愛着の問題を抱える子どもの養育

(千賀則史)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 乳児院から措置変更で2歳の時に受託。
- 他の里親に特別養子縁組を2回ほどチャレンジしたが失敗。そのまま長期養育となった。
- 里子は3歳の時にADHDの診断を受けた。警戒心が強く、大人になつかなかった。
- 奇声があり、スイッチが入ると1時間ぐらい頭を激しく打ちつける自傷行為があった。
→里子の行動を理解できず、「これは何?」「わからない」という戸惑いが大きかった。
- 自傷行為は最初だけと思ったら半年以上続くので「里親に向いていないかも」と思った。

＜里親さんの語りより＞ 最初は、これいつ終わるかなっていう感じで(略)想像した以上にちょっとひどいので、ちょっと驚いたって言うか(略)抱っこしたりすると興奮状態になって(略)フローリングでうちら寝てるんで、頭打ちするとすごい音するんですね。だから乗り越えないようにクッションあれするんですけど、夜中そこを乗り越えてまた頭打ちをするっていう感じで睡眠不足にもなりますし、こちらもね。で、なんかそんな状態がずっと続きましたね。頭打ちが。

2. 困難に対する対応や工夫

- 受託後、半年の時に子育て支援センターに相談した。
→週1回の通所。受託後1年ぐらいの時に児童デイサービスを紹介してもらった。

＜里親さんの語りより＞ やっぱり児童デイですね。ありがたいですね。最初のうちは遠慮してそうやって2、3回しか行ってなかったんで(略)里親としたらね、ぶっちゃけの本音として、預かってんのに、何そこに丸投げしてるというふうに思われやしないかっていう(略)遠慮があるんですよね(略)でも担当の方が「全然そんなのいいですよ」って言うてくれて。「あ、そうなんだ」って思って(略)別に里親が一人で必死で育てなくてもいいんだっていう社会的養護なんだっていうのが、ちゃんと、すとおさまったので、もう、社会的にみんなで見よう(略)甘えてもいいんだっていう気持ちかね、できましたね。

- 発達障がいや子育ての本を読んだ。また、ペアレント・トレーニングについて学んだ。
→専門里親になるための講習で学んだことが勉強になった。
- 里母が大変なのは分かっていたので、家族みんなで協力して支え合った。
→当時、高校生と大学生だった実子が里子を遊びに連れて行ってくれたのが助かった。
- 里子が参加できる里親会のレクリエーションや、他の里親からの言葉がありがたかった。

＜里親さんの語りより＞ 里親会の会長さんなんかも、すごい変わったねって(略)成長したねって、すごい会うたびに言うてくれるんで、やっぱりそうやって、援助の言葉がけだけでもね、こちらとしたらすごい喜びに。あの、目つきが変わったねとか、目の動いてたのが、ちゃんと一点見れるようになったねとか、育てているあたし自身は気づかないことを気づいてくれるんで、すごい。涙出そうだけど、なんかね、褒めていただけると。

3. その後の変化と里親としての対応

○里親自身は本当に変わった。視野が広がり、思い詰めなくなった。

→一人で抱え込まなくなり、いい意味で手抜きすることができるようになった。

○里子も変わった。行動に落ち着きが出てきて、学校からの苦情がなくなった。

○里親家族にとっても成長することができ、家族が一つにまとまることができた。

＜里親さんの語りより＞ 良く見られようとは思わなくなりましたね。里親さんだから、なんかね、立派な人だって、世間の人はどうしても見るんですよ。「私にはできないわ」とか。だからそれを演じなきゃいけないの（略）まあ最初から思っていないんですけど、まあ多少はね。だけど、それが全くなくなりましたね。一緒にご飯食べて、一緒にゲラゲラ笑って過ごしたら、別にいいじゃんぐらいの気持ちになってますね、今はね。

4. 事例から見てきた課題

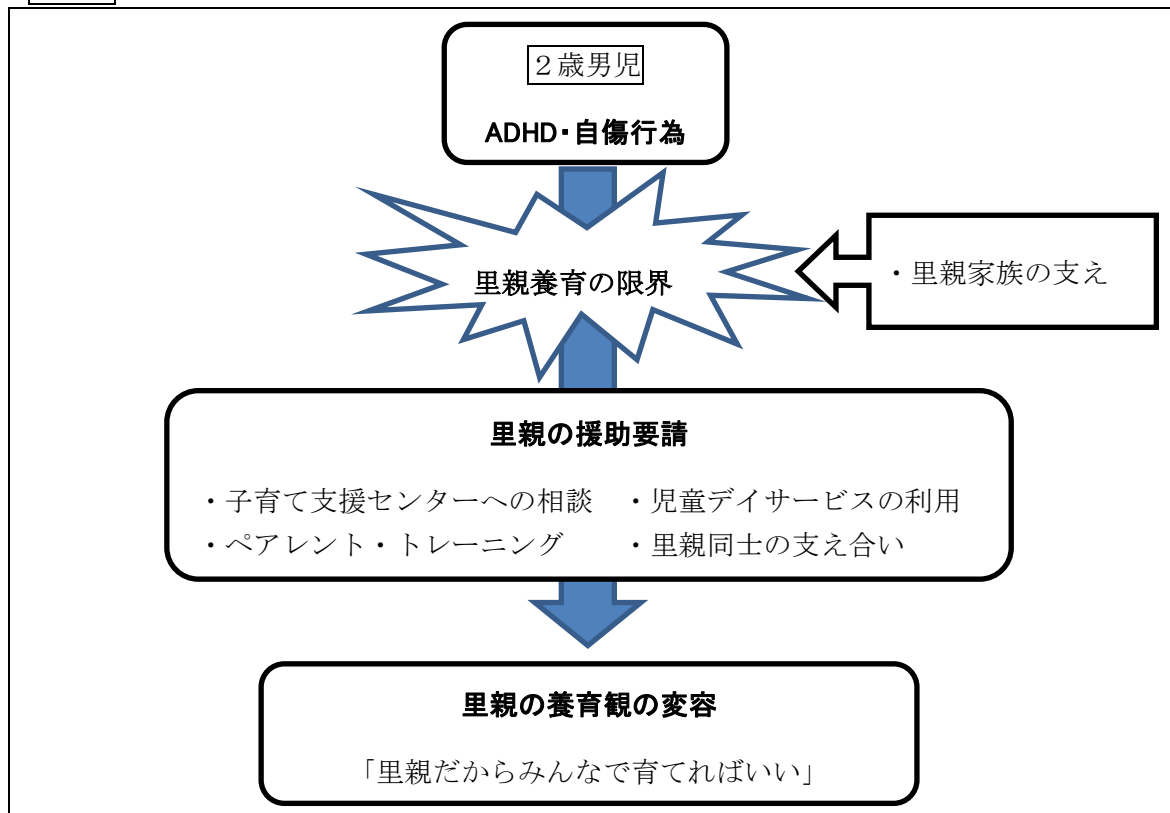
○障がいを抱える子どもの里親養育における福祉サービス利用の重要性。

→発達障がいだけでも大変だが、里親養育の場合、愛着の問題も加算されており、里親だけで対応することは困難。本事例では、「里親だから一人でしっかりやらないといけない」という内的語りが「里親だからみんなで育てればいい」に変化したことが転換点であった。こうした考えがあることで里親子は生きやすくなると思われる。

○里親研修をより魅力的なものに改善することの必要性。

→里親研修では教科書的な内容よりも、生々しい話を聞きたいという要望が語られた。

事例3 イメージ図



事例4 専門里親

学習面でのつまずきから不登校になった子どもの養育

(伊藤嘉余子)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 被虐待経験のある小学2年生女兒の養育を受託。
- 里親委託前の家庭での生活でも、家族への反抗や触法行為があったと聴いていた。
- 受託から2年目、新しいクラスメートから嫌なことを言われると訴えるようになった。
- 同じ頃から、無断外出、宿題をしない等、生活がルーズになってきた。
- 「学校へ行きたくない」という訴えが激しくなっていく。その後、不登校に。
- 里親の家からお金を持ち出すようにもなった。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 学校での様子や地域での様子など里子の話を一生懸命に聴くようにした。
 - 本人の頑張りを褒め、認めるとともに、困っていることは一緒に解決を考えた。
 - 算数は苦手だが音読は得意だったので、それを何度も褒めるようにした。
- 算数の授業でのつまずきを男子からからかわれるようだったので、学校の先生に連絡し、情報共有しながら、この子にあった宿題や教材について考えた。

＜里親さんの語りより＞ 学校の先生としても「ここまで覚えてほしい」というのはわかるんですけど、休み時間とか下校時刻の後に残り学習してたみたいなんですね。本人にしたら、そういうのも嫌だったんじゃないかなと。だって休み時間がみんなと遊びたいし、放課後もお友達と一緒に帰りたいじゃないですか。(略) そうやって「みんなと違う扱い」というのが、だんだん嫌になってきたんじゃないかと。

- 里親会の人に話を聴いてもらった。
- 施設の里親支援専門相談員に相談し、アドバイスをもらった。
- 発達や知能に関する再検査を依頼、実施した。
- 再検査の結果、支援学級か普通学級か迷ったが、答えを出せず葛藤したまま、普通学級に通わせ続けた。

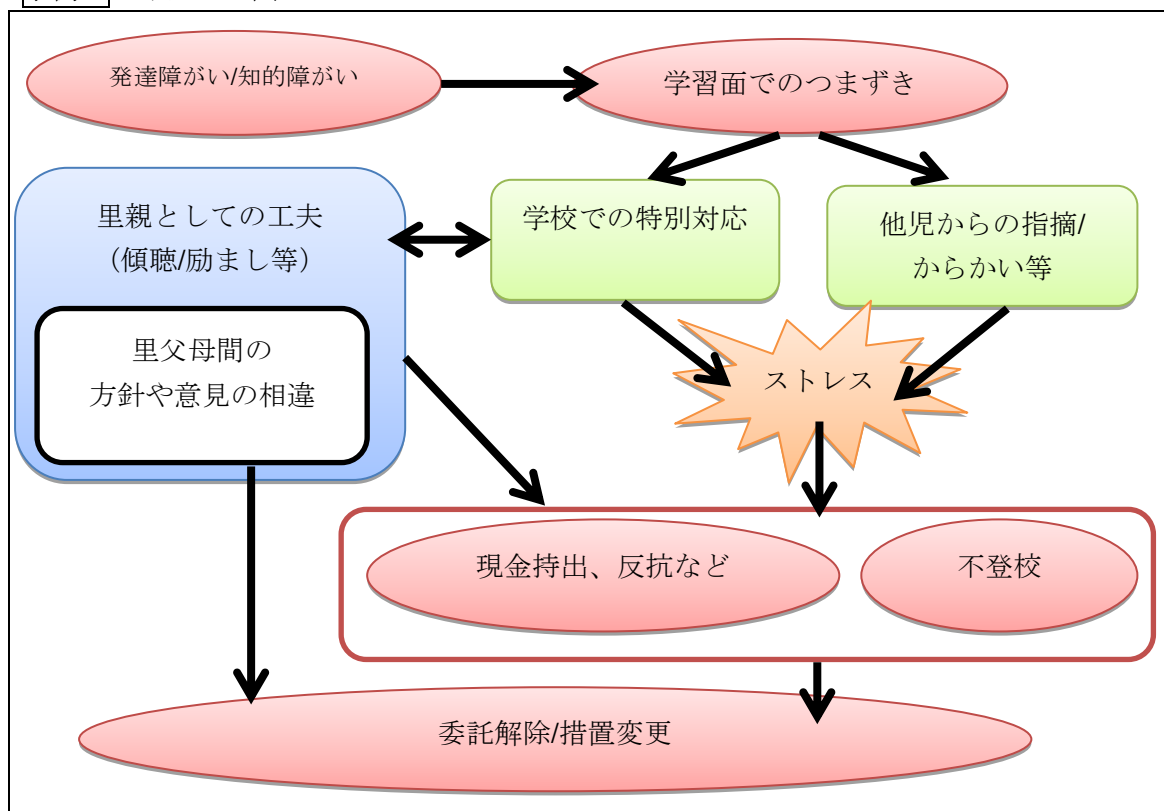
＜里親さんの語りより＞ 普通学級の方がこの子にはいいだろうと思ってそのままにしましたが、それが本当に良かったのか。(略) 前の担任の先生が支援学級の担任に替わってからは、しょっちゅう支援学級の教室をのぞきに行っていたみたいです。

- 学校で頑張っている分、家庭では楽しく安心して過ごせるよう配慮した。
- 里親夫婦で話し合い「里母は受け止め、傾聴する」「里父は、ダメなことはダメだと厳しく言ってきた」という役割分担をし、2人同時に叱らないよう配慮した。
- 地域の保護者の方が皆、理解があり、登校時にトラブルを起こしても温かく見守ってくれて、ありがたかった。

3. その後の変化と里親としての対応

- 厳しく叱る役割を担う里父に対して反抗的な態度をとるようになった。
- ある日、里子が「自分はここに来る前の家で、〇〇をされたりして嫌だった。お父さん（里父）はどうしてここでも自分の実父と同じことをするのか」と泣きながら訴えた。里親家庭に来て初めて里子が感情を爆発させた。
 - 里子が大人不信・人間不信にならないよう、もっと安心できる居場所にならなくてはと里親夫婦で話し合った。
- 里父と里母で、子育てやしつけについて意見が分かれ、調整が難しかった。
- 不登校が続いたこともあって、委託解除。児童心理治療施設に措置変更となった。

事例4 イメージ図



4. 事例から見えてきた課題

- 発達障がいのある子どもの養育や関わりに関する研修や相談支援の充実。
 - 里親の自己研鑽や里親間の経験に基づく相談支援だけでは不十分。
- 里子に関する情報提供と検査結果のフィードバックのあり方。
 - 知能検査、発達検査結果を踏まえ、里親として具体的にどうするべきかの助言・指導がなかったという振り返り。
- 里親家庭と学校との連携、担任教師の理解や柔軟な対応の重要性。
 - 発達障がいのある子のケアや里親家庭での養育への理解を広げる必要性。
- 児童心理治療施設の通所機能の活用の可能性。
 - 里子が児童心理治療施設や児童自立支援施設の通所機能を利用可能にする必要性。

事例5 専門里親

不登校や非行などの行動上の問題のある子どもの養育

(千賀則史)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 児童養護施設から措置変更で中学2年生の時に受託。
- 療育手帳は所持しているが、見た目は普通で知的障がいとは思えなかった。
- 普通学級で学習についていくことができず中学2年の2学期から不登校。
→里親支援専門相談員の支援などもあり、3学期から不登校は徐々に改善。
- 部屋に所持品が増えていることから万引きしていることが発覚。

＜里親さんの語りより＞ 最初の一学期は頑張りましたが、二学期、夏休み明けてから全く行かなくなりましたね。(略) 勉強がついていけないとか、友達が覚えきれないとか、それはもう彼女にしてみたらね、すごい大変な激動の1年、(略) 里親支援専門相談員さんといろいろ関わってもらう中で、じゃあ学校も支援クラスはないけども、特別支援クラスにいていいよとか(略) 学校も歩み寄ってくれたので、三学期からちょっと行ったり行かなかったりしましたね。

2. 困難に対する対応や工夫

- 里親による万引きに対する対応

→「絶対に万引きをさせてはいけない」という気持ちで、里子にお小遣い帳をつけさせる、所持品を写真で記録するなどの対応を行ったが、改善しなかった。

＜里親さんの語りより＞ 小遣い帳つけさせたり、写メ撮ったり、(略) これは小遣い帳に載ってないから取るねとか。でも取られても痛くもかゆくもないんですよね。なんか、取られていることも気づかない時もあるんじゃないかなと思いますね(略) 私が没収したのを、またこっそり使うてる時もあるし。(略) 万引きしたのをお母さんが(略) ほしかったら買うてあげるって言って、したことも、いろんなことはしましたね。(略) でもほんとに心に響いてないです、はっきり言って。だから、私たちの感性とは違うんだなって。

- 定期的な児童相談所と里親支援専門相談員への相談

→月1回の児童心理司によるカウンセリング、定期的な児童福祉司による指導。

- 里子の希望で入った個別指導の塾の先生、特別支援学校高等部の先生に相談

＜里親さんの語りより＞ 今はもう児相と(略) 高校にもぶっちゃけ全部言ってるんで、逐一相談してます。何でも。もうね、実の親だったらここまで、たぶん隠すだろうなと思うんですけど、でもこれはもう(略) 抱え込んだらしんどいんで、全部相談してます。

3. その後の変化と里親としての対応

- 「健全な諦め」と里親子関係の変容

→児童相談所や学校などと連携したにもかかわらず、万引きについては改善しなかったが、里親だけで抱え込むのではなく、みんなで一緒になって困ったことで、「無理だよな」という「健全な諦め」が生じた。その結果、里親は問題を直そうとするのではなく、見守る姿勢で対応するように変化した。里子の問題ではなく、よいところに注目

するようになったことで、里親子関係は安定していった。

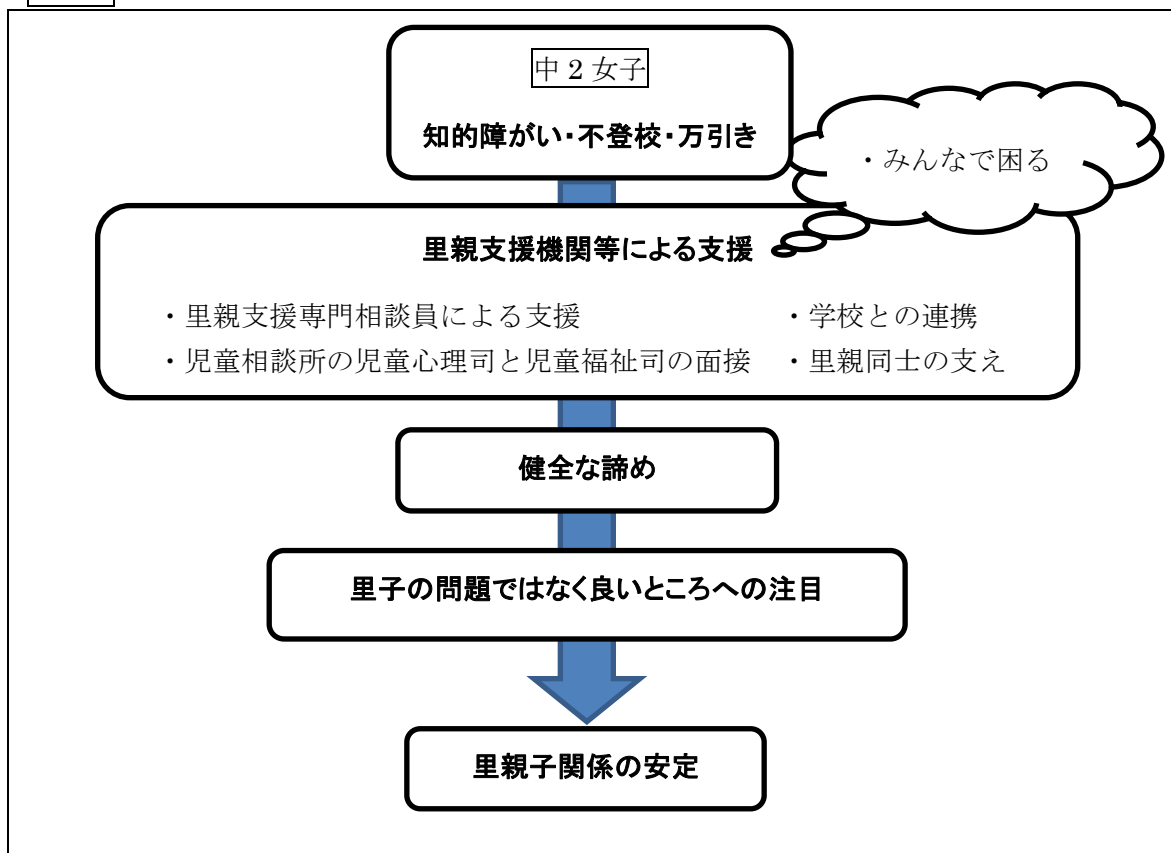
＜里親さんの語りより＞ 最初はね、こっちも治さなきゃとか思ってましたけどね。(略) 児相の人言うし、友達とかも言うし。それは治らないよとか (略) あ、そうなんだって感じですね。どうしてもうちにいる間に治してあげたいなっていう気持ちはありますよ、すごくて。(略) そういうベースはあるけど、そればかり考えると、彼女のいいところも見落としてしまうようになるので。この子は万引きする子だっていう目でしか見えなくなっちゃうんで、まあそれは嫌なので、すごいあの子のいいところっていっぱい、かわいらしいところいっぱいあるんで。

4. 事例から見えてきた課題

○里親子を支える保護的ネットワークの構築の重要性。

- 里子の行動上の問題の背景には、発達に加えて、生育歴などの根深い問題があるため、病院受診をしたり、カウンセリングを受ければ解決するような簡単な話ではない。
- 児童相談所の関与は必須であり、里親を支える保護的なネットワークの構築が重要。
- 問題を解決しようと介入することで新たな問題が発生する悪循環パターンに陥ることがある。そのため、「解決しようとしなない」という姿勢が大切。

事例 5 イメージ図



事例6 養育里親

試し行動や反社会的行動が多い里子の長期養育

(伊藤嘉余子)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 乳児院で生活していた5歳の女の子の養育を受託。
- 来た当初は、里母に激しい赤ちゃん返りをしていた。
- 小学生になると、万引きや近所の物を壊す等の行為が出てきた。
- 里親の年齢が、里子の同級生の両親の年齢よりも随分上であり、また名字も違ったため、そのことを学校等でからかわれて、しばしばクラスメートとトラブルになっていた。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 里子が学校のお友達と仲良くできるよう、家でおやつを出す等、友達作り・関係作りを手助けしようとした。

＜里親さんの語りより＞ 学校で友達から、お前お母さんいないのか、おばあちゃんと住んでるのかって言われてて、それは嫌だったみたいです。でもどうすることもできません。で、帰ってくる頃にたこ焼き焼いたり、お好み焼きやケーキやパン焼いたりしてました。そしたらみんな学校の帰りにうちに寄ってくれますでしょ。そうして、近所の中で、里子の居場所っていうか仲良くやれるきっかけを作れたらと。

- 近所の人は里親子に対して一定の理解を示してくれ、温かく見守ってくれていた
- 里子がお店の物を盗ったり、近所の物を壊したりした時は、里子と里親と一緒に謝りに行った。しかし、里子を厳しく叱りすぎないように気をつけていた。
- 児童相談所に相談したが、雑談のような形になり、具体的な助言はもらえなかった
- 学校には、理解のある先生が多かった。個別の時間をとってくれる先生もいた。

3. その後の変化と里親としての対応

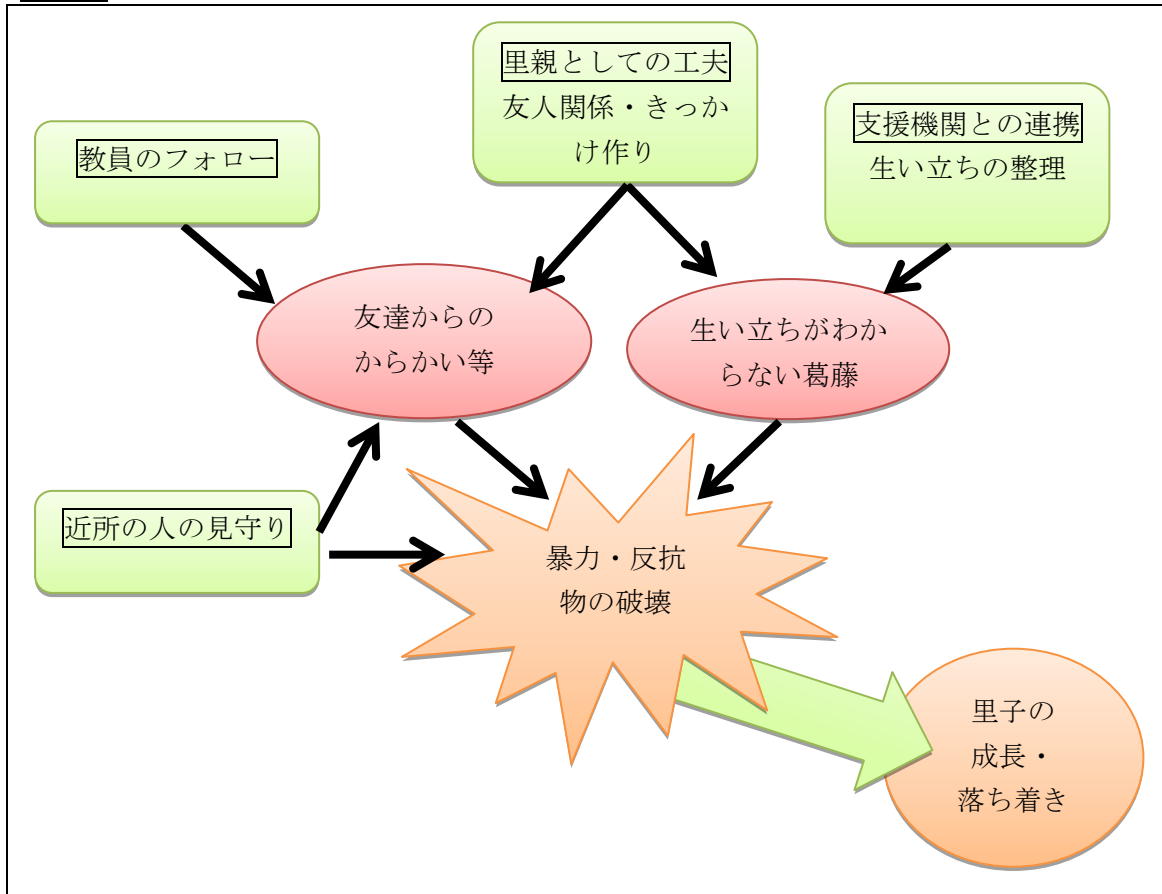
- 里子自身、生い立ちのこと等で同級生からからかわれて嫌な思いをしたので、正義感の強い子どもに育っていった。

＜里親さんの語りより＞ 生い立ちのことでいろいろといじめられたけど、ウジウジするよりも立ち向かっていくタイプ。クラスで体型のことでいじめられて学校に来られなくなった子がいたから、里子が毎朝誘いに行っていました。3か月くらいして、最終的には一緒に登校してくれた。それをその子のお母さんがすごく喜んでくれて遊園地に連れて行ってくれた。それが里子はうれしかったようです。

- 大きくなって、きちんとした生い立ちを知りたいと言い出したので、児童相談所等を通じて生い立ちを調べて真実を里子に伝えた。
 - 育てられなかった理由を知ったら知ったで複雑そうだった。
 - 実親を探し出して、何度か会いに行ったが会うことはできなかった。

＜里親さんの語りより＞ 自分はなぜ里親の元で暮らしているのか。なぜ自分には親がいないのか。理由がわからない、説明できないモヤモヤみたいなのを暴力とか物を壊すとかで発散していたんだと思います。知ったからといってどうにかなるものでもないかもしれませんが、生い立ちとか本当のことを話すということは小さいうちから大事なことだと思います。

事例6 イメージ図



4. 事例から見えてきた課題

○里子のライフストーリーワークや真実告知の重要性。

→真実告知とともにカバーストーリーも必要（里親家庭で生活していること等について友達等に説明できる話を児童相談所等と一緒に考える）。

→カバーストーリーは里親にとっても意義あるものになる可能性がある。

○施設等がない校区の学校・教員に対する里親制度の周知と連携関係の構築。

事例7 専門里親

性的虐待の被害による影響を抱えた子どもの養育

(千賀則史)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 児童自立支援施設からの措置変更で高校1年生の女子を高校入学と同時に受託。
- 知的障がいがあり、特別支援学校高等部に通う。幼くてかわいらしいという第一印象。
- 性的虐待などの性被害の影響からか受託1年目の秋に性非行が発覚した。
- 里親は被被害を受けた人が性非行に走る心理を理解することができずに戸惑った。
- 里親の同居家族からは、性非行に対する生理的な嫌悪感が生じた。

2. 困難に対する対応や工夫

- 児童相談所、学校、里親の三者での話し合いの機会を持ち、里子の一時保護を行った。
- その間、里親家庭では家族同士で話し合い、本人を引き受ける覚悟を再確認した。
- 高校は、特別支援学校ということもあり、懲罰的ではなく教育的な対応がなされた。
- 里親からの依頼もあり、児童相談所から本人に対する治療プログラムが実施された。
→表2-2のような里親子に対する総合的な支援が行われた。
- 普段は里親同士で相談するが、このケースは深刻なため専門家への相談のみにした。

表2-2 里親子に行われた支援内容

支援内容	実施者	概要
里子への心理療法	医師 児童心理司	<ul style="list-style-type: none">・ 子どもの性的虐待の影響によるトラウマや対人関係を扱うため、EMDR（眼球運動による脱感作と再構成法）と認知療法を実施した。・ 子どもへの定期的なカウンセリングを実施した。
里親への養育支援	医師	<ul style="list-style-type: none">・ 性的虐待や知的障がいに関する理解の共有を行った。・ 里親に対して、褒めることを重視した養育方法を学ぶためのペアレント・トレーニングを実施した。
里子への性教育	児童福祉司 児童心理司 里親担当	<ul style="list-style-type: none">・ 児童相談所の女性職員による「女子会」を定期的を開催し、お菓子を食べながらの自然な会話の中で性的知識や社会的スキルを学ぶ機会を設けた。

3. その後の変化と里親としての対応

- 里子の一時保護中に里親としての原点に立ち戻り、気持ちを切り替えることができた。
- 児童相談所の支援を受けて里親は知的障がいや性的虐待の子どもへの理解が深まった。
- 里子のよいところに注目するようになり、関係性が改善していった。
- 里子にとっては性的虐待の治療プログラムを受けたことが精神的安定へとつながった。
また、対人的な距離がとれるようになり、社会性を身につけることができた。
- 里親家庭でプログラムの内容を踏まえた対応をすることで連続性のある支援を行った。

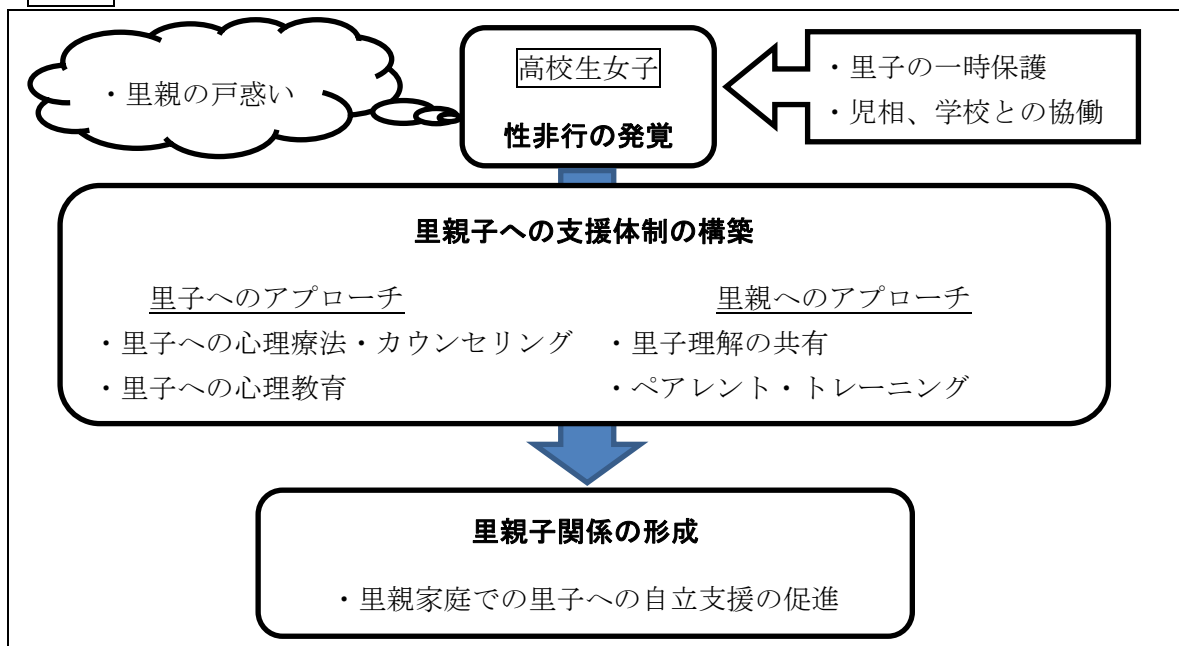
＜里親さんの語りより＞ まだまだ足りない部分もたくさんありますが、やっぱり私たちがそのプログラム後もそれを踏まえて、事あるごとに伝えていったりとか、あるいは、一緒に事をやってみたりとかということによって、入っていった身についてきているかなという気はしますよね。

4. 事例から見てきた課題

- 性的問題は、里親だけで自主解決することは困難であるため、専門家の支援は必須。
→本事例は、児相による手厚い支援体制が組まれていたが、自ら相談できずに問題を抱え込んでしまう里親もいることが想定されるためアウトリーチ型の支援が求められる。
- 里子の心理治療は、本来は施設等に入っている間に行われていることが望ましい。
→児童相談所、病院、施設、里親等が協働し、連続性のある支援を提供していく。
- 医師や心理職の重要性。
→児童福祉司は、様々な関係者との板挟みになりながら、全体をマネジメントしていくことが求められる。だからこそ医師や心理職が子どもに寄り添い橋渡しする代弁者や通訳としての役割を果たす役割分担を行うことが重要。
- 新しい支援スタイルの模索。
→上記の支援を児童相談所などが単独で行うことは非現実的であるため、今後は、病院や民間団体との協働など新しい支援のあり方を検討することが必要。

＜里親さんの語りより＞ やっぱり里親さんならではの専門性ってあると思うんですね。例えば 365 日 24 時間ずっと里子と接していく中に関係が構築されるっていうのあるんですけども、やっぱり虐待とか、今はなかなか養育の難しい子どもたちが多いと思うんです。だから、それに対する専門性を持った支援がやっぱりいるんじゃないかなと思うんですよ。

事例 7 イメージ図



事例8 養育里親

不十分な生活力、人間関係形成力への働きかけ

(安藤藍)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 高校1年生男児を受託。私立高校合格だが施設は金銭的な理由から受入に難色を示し、子ども自身の強い希望もあって、里親委託となった。
- 受託に際して、子どもは高校生活への思いを語り、それなら協力したいと引き受けた。
- 寝る前はパジャマに着替える、お風呂では体を洗う、といった基本的な生活習慣が身についておらず、当初語った勉強や部活への思いもみえてこない。
- 小遣い帳の記録を発端に子どもの度重なる嘘が顕在化し、不信感が芽生えた。

＜里親さんの語りより＞ 一体何が本当なの、これ、どうやって何を信じればいいのか。 (略) 今までずっと私たちをごまかして、だまして生活してたの、と。それっておかしいんじゃないのっていうことになったわけですよ。で、子担さん呼んで話をして。子担さんがこれで前のうち(里親家庭)も、あなたの言うことは何一つ信用できないって言って、もう一緒に生活できないって言われたんだよねって。(略) ○○さんそこ行ったらもうそういうことはしないっていう約束で、自分は里親さんを探したんだと。全然変わってないじゃないかと、子担さんは言うわけですよ。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 児童相談所の子ども担当職員(以下、子担)と協力して、子どもがこの里親家庭での生活を望むのであれば、いくつか生活のルールを守るよう示した。数日間一時保護所を利用した。
 - 子どもは他の里親を探すよう子担に言ったようだが、既に今までの経緯をわかっている子担は応じず、最終的にこの里親家庭で暮らすことになった。
- 基本的な生活習慣をきちんとつけさせた。
 - 里父と一緒に風呂に入り体の洗い方から教えた。
 - 運動部に入り、朝練などもきちんと出るようにした。
- 実父のDVをみてきた上、元来頭の回転の早い賢い子どもであり、周りの人を見下すようなところがあった。
 - 友達関係や夫婦関係などの関係性をみてほしい。夫婦げんかしてもそのうちに普通に話したり、里父が里母である自分を大切にしている様子を学んでほしいと思った。

3. その後の変化と里親としての対応

- 子どもの内面的成長がみられた。2年生の保護者面談では、担任教諭からは学校で勉強も部活もとても頑張っており、友達関係も良好で、本当に期待していると言われた。
 - この頃から自発的に勉強に向かうようになった。いい自己肯定感が育めた。

＜里親さんの語りより＞ こういうふう(担任に)すごい褒められて帰ってきたけれども、あなた自身は今の、この1年の生活をどういうふう(担任に)考えてるんだというふう(担任に)言っ

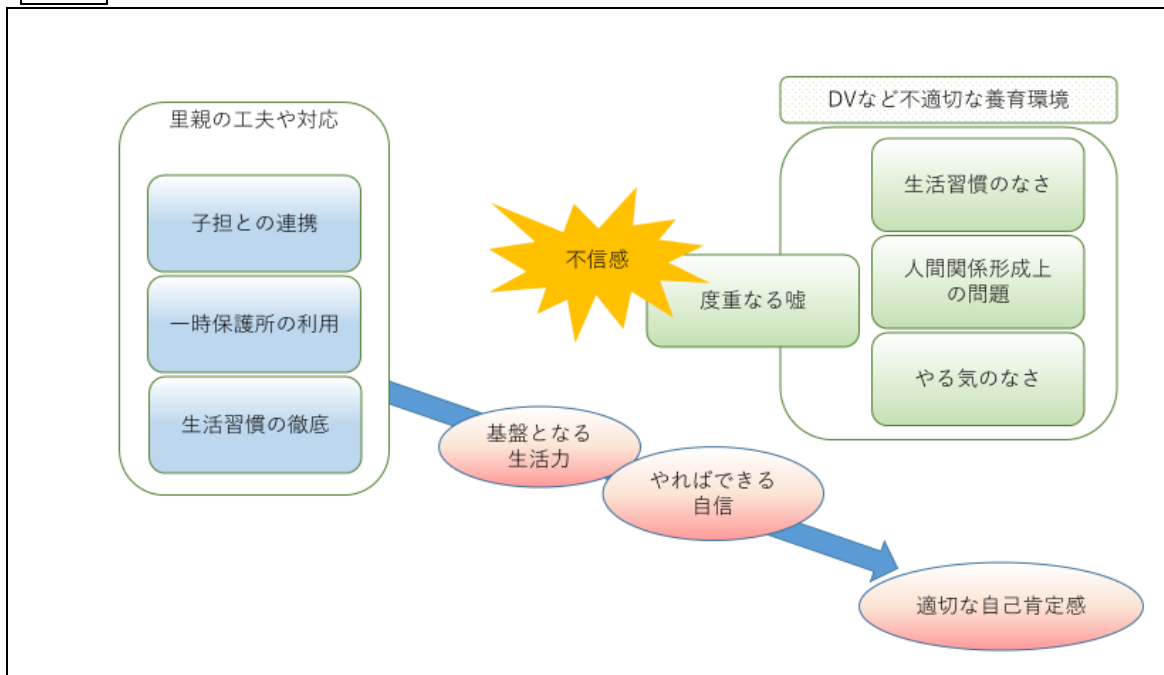
たら、「最初はもうすごい嫌だった」と。「だけど今では感謝してる」と言ったんです。その時に。自分はやっぱりやればできるという、やればやっただけ結果が出てくるし、自信もついてきたんでしょね。やりがいもあるし。

○現在子どもは進学し一人暮らしをしているが、生活習慣は継続できている。年末年始などに里親宅に帰ると、生活習慣の大切さを口にするという。

<里親さんの語りより>「〇〇（里母）さんがいつも、規則正しい生活をしなきゃいけないって言ってた意味がやっと分かったよ」って。大学で生活が崩れていくというんな面で崩れていくって。（略） そうだよって言って。そういう土台があるからこそ勉強とかが伸びていくんですよ。（略） 家庭における基本的な生活習慣ですね、本当に。でも皆そう。養育家庭で育たなきゃならない子たちっていうのはやっぱりそこが欠落してるんですよ。

○里親家庭にきた頃は、目つきが怖いと周囲に言われたりしていた。今は全くなく、人にらみつけたり馬鹿にしたりもせず、人間関係を築くことができている。

事例 8 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 子どもなりに選択、納得するプロセスを踏むこと。
 - とりわけ年長児は、なぜ自分がここにいないか理解している。
 - 「ここに来ていることが、どれだけ自分にとってメリットがあって、それが将来につながっていったらいいことを自覚させてあげられたら一番いいのかな」。
- それまでの不適切な養育環境を背景とした生活力の乏しさへのアプローチは、単に生活上必要なだけでなく、その後の自己肯定観ややる気を育む土台になる。
- 子担などとの意思疎通に基づいたチームでの対応。
- 子どもが得意なことで自信をつけてあげること。

Ⅱ. 里親家族内の関係性に起因する支援ニーズ

事例9 専門里親

同じ年齢の里子養育で生じる子ども同士の葛藤

(小池由佳)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 夫婦で里親登録。5年前に里父は死去。その後は里母のみで養育。
- 一時保護の受託を継続的に実施してきた里母。
- 小学校低学年（同学年）の里子2名、幼児1名の計3名を養育。いずれも一時保護委託からの受託。小学校低学年の上の子（誕生日が早い子）と幼児は将来的に養子縁組の予定。
- 事例は小学校低学年の里子2名のケース。里子それぞれの個性に加えて、同じ学年であることの難しさ（特に学力の差）が生じている。
- 上の子が下の子のより学力があることで、下の子に対して、馬鹿にしたような発言をすることがある。下の子はおっとりした性格で、言い返すことができないため、手が出たりすることがある。

＜里親さんの語りより＞同じ学校行ってクラスは違うけど同じ勉強してるわけじゃないですか。学力の差が。（中略）一つでも二つでも学年が違えば、またちょっと違うのかなって。同じ九九をやっても、同じ内容じゃないですか。一人はできない、できる。できる子を2回で、こっちだと3、4回教えないといけないことってあるじゃない。うっかり教えてると、なんであいつに4回だったのとかね。うるさいんですよ、上が。

- 小学校入学後このようなトラブルが増えてきた。学年が進むにつれて、下の子が「どうせ自分は」と言った卑下するような発言をするようになってきた。
- 里母は小学校での役割など二人分をこなすことになる。学校行事で一人しか対応できないと言うと「親戚等を連れてきて対応してください」と言われてしまう。同じ学年だと行事も重なることから難しさが生じる。
- 複数の里子を養育することで、子ども同士が互いの状況の違いがわかるようになってくると、その違いを里子自身が受け止めることが難しいことが生じる。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

- 学校行事は、里母の職場の知人を連れて行って対応。また児相職員の協力もあった。
- 児相との強固な連携がある。里母のみで養育のため、里子の入院等、緊急時に対応してもらうことができる体制を整えてもらっている。
- 里親から児相に積極的に問い合わせることが大切と認識。「児相は何もしてくれない」ではなく、里親側から困っていることを伝えていくことで、児相も解決案を示してくれる。

＜里親さんの語りより＞やっぱり情報もほしいので、子どもを育てていくうえでね。だから、児相とほんとに壁があるようにしてる人は、え、そんな制度もあるの、え、そんな

なこともあるの、私は教えてもらってないって言うんだけど、私は自分でぶつかって行って、これだとどうなるのって質問するんですね。すると、こういう制度があるよって。

○この密な児相との連携は「僻地だから」と理解している。

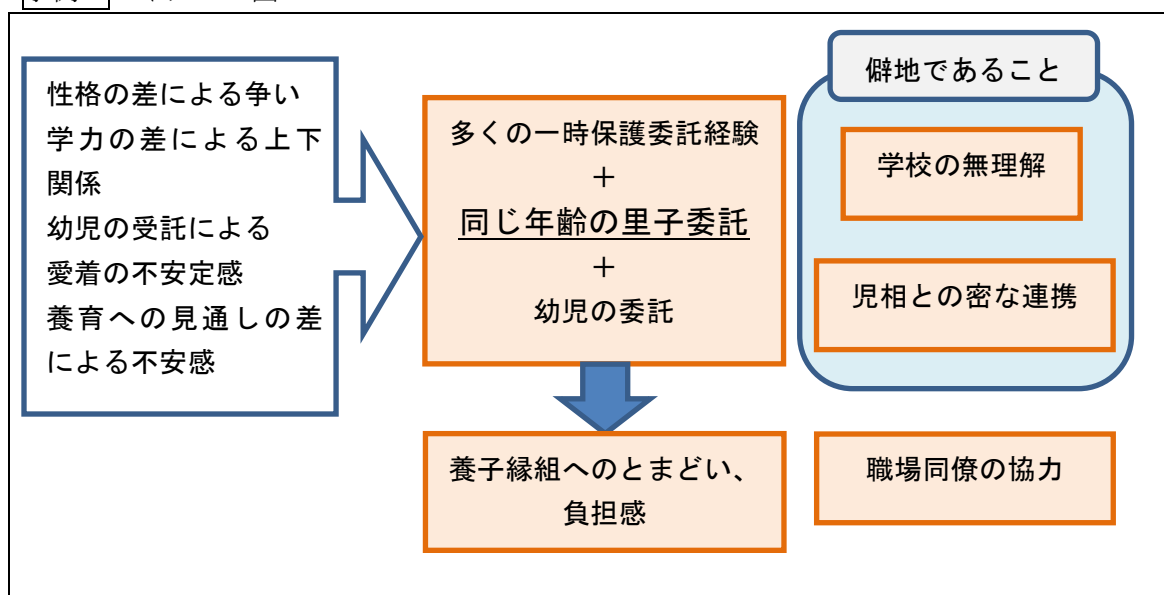
3. その後の変化と里親としての対応

○上の子と幼児は養子縁組の申請中。下の子だけが未定であるが、養子縁組となると、経済的な負担が生じてくることへの不安がある。

<里親さんの語りより>（僻地で里親養育している人が）きょうだいでもう十年近く見て、養子縁組の話が来た、と。そしたら、しちゃったよって言うの。だけど、（あなた）いくつって聞いたら、そうなのよね、学校出せるのかなって心配してました。だって養子縁組したら、中学校で終わりってわけじゃないじゃないですか。

○里母は定年のない職のため、受託中の里子の養育は可能と判断。ただ、小学生の二人は、何でも同時期に2倍にかかってくることへの負担は感じている。

事例9 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○地域に社会的養護を担う社会資源がない（乳児院、児童養護施設）、少ない（里親）ことにより、一人の里親にかかる委託が高くなる（一時保護委託等）。

○同じ学年の里子委託。

○里親としての養育は可能でも、養子縁組となると僻地のため、経済的負担が高くなることへの不安（特に進学）。

○地方ならではの密な児相との連携。一方で学校の理解が低い。

事例 10 養育里親

愛着障がいと思われる幼児の養育と実子の子育ての両立

(伊藤嘉余子)

1. 養育する中で直面した困難の概要

○それまで乳児しか受託したことがなかったが、きょうだいケースということで、1歳半と4歳のきょうだいの養育を3か月受託。

○4歳の里子が大人の気をひくことに全力を尽くしてきた。

○これまでみてきた乳児とは全く違うため、最初は戸惑った。

＜里親さんの語りより＞ 大人が通りかかると「〇〇(弟の名前)、〇〇」って弟を呼んで急に面倒をみ始めたり、すごく上手に洗濯物を畳んでみせて「△△ちゃん(里母の名前)、助かる？助かるでしょ？うれしい？」ってやたらお手伝いしてきたりとか…(略) そんなに頑張らなくていいよ、自分のことだけしてたらいいよって何度も言ってきた。きっとこれまでお母さんのためにいっぱい頑張ってきたんだろうなと。その子の中にお母さんとの生活が入ってるんですね。生活とか習慣とか、話す言葉も。

○悲しい時、悔しい時など脈略なく「ママに会いたい」と大泣きするようになった。

○4歳児のペースにのまれて、実子を含め、家族内の雰囲気が悪くなった。

＜里親さんの語りより＞ 実子が里子にバチバチの対抗意識をもつようになって。私は(里子のことを)かわいそうだなって思って優しく接しているのに、実子が私と同じように里子に優しくしてくれないことに私は苛立ってしまってた。

2. 困難に対する対応や工夫等

○実子と里子の折り合いをつけるため、里子の個室を用意した。

○寝る前や登園中の車中など、里子が里親と二人でたくさん話せる時間を確保するようにした。

→いずれ家庭復帰すること等も考え、委託前に通園していた保育園に通い続けた。

→毎日の送迎は大変だったが、車中でゆっくり話せる良い時間をもてた。

○里母が里子の言動に巻き込まれすぎないように、里父が冷静かつ客観的に助言したりした。

＜里親さんの語りより＞ 主人が外から見てる分、冷静で「実子の方が分が悪いぞ」って。里母の思いと一緒に乗っかるなんて難しい話やと…(略) 母親に会いたがって泣く里子にも冷静に話をして「ママに会いたい」以外の言葉で自分の気持ち(悔しい、悲しいなど)を伝えられるようになって言ってきた。それから里子も変わりましたね。

○児童相談所に、この子の言動の背景にあるもの等について相談し助言を得た。

→里親宅に来るまでの生活をリアルに想像できたわけではないが、資料や情報を見せて頂けたことによって、どう関わるべきかしっかり考えることができた。

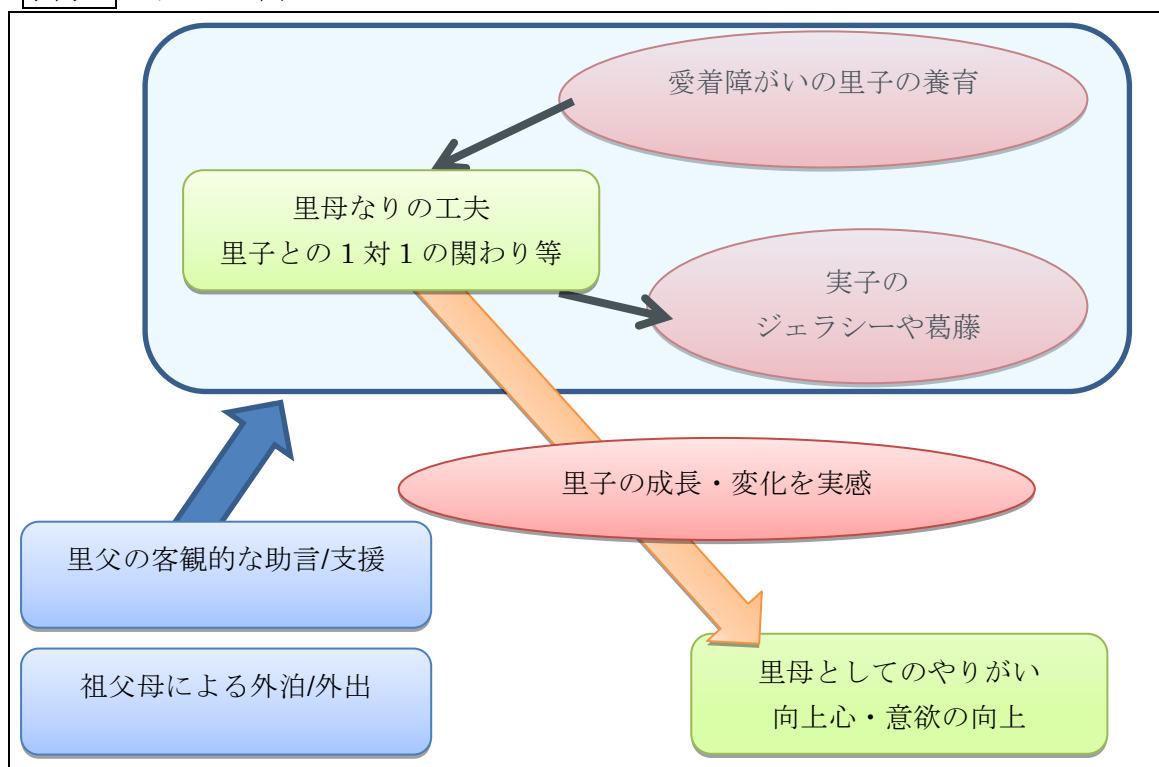
○祖父母に実子とのお出かけや、里子のお泊り等のフォローをお願いした。

○外遊びやプール等を通じて頑張る気持ちや成功体験を育めるよう工夫した。

3. その後の変化と里親としての対応

- 短期間の養育だったが、里子が生活習慣を身につけ、ハツラツとした子どもに変化する様子をみられてうれしかった。改めてやりがいを感じた。
- 以前、研修で学んだ「愛着障がい」や「ネグレクトによる影響」等について興味をもつようになって、自分でも調べたり勉強したりするようになった。今後、同じような背景の子どもがやってきた時、もっと理論的に根拠を持ってアプローチ、関わりをもちたいと思う。里親としての向上心が芽生えた。
- 里父母間の会話が増え、実子との会話も増え、家族間のつながりや「里親家庭として生活すること」への意識や認識が改めて深まった気がする。

事例 10 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 実子の年齢や性別等に配慮したアセスメントや委託の重要性。
 - 実子のフォロー役を果たせる人の存在が必要。
 - 里親子関係だけでなく実親子関係への支援という視点の必要性。
- 愛着障がい等に関する研修・学習機会の重要性。
- 委託児童に関する適切かつ十分な情報提供の重要性。
- 里親家庭を支えるインフォーマルな支援の必要性。
 - レスパイト機能を果たす資源の大切さ。
 - 祖父母宅や関係の良い里親家庭同士のつながりの大切さ。

事例 11 養育里親

委託後に実親との交流が始まった里子の養育

(伊藤嘉余子)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 小学4年生の女兒と小学2年生の男児の姉弟の養育を受託
- 最初は28条による委託だったが、その後保護者の同意を得ての委託になる。
- 実母の希望で交流が開始されたが、その経緯は里親には知らされない。

＜里親さんの語りより＞ そのへんのプロセスが里親には伝わってこない。いや、伝えてくださっているのかもしれないけど、たぶんズレがある。児童相談所は伝えたつもり、私としては伝えてほしいことは聴けていないとか。(略) こんなことを聴いていいのか、児童相談所が言葉を濁すってことは聴いてはいけないのかもと付度してしまったというか。

- 最初は児童相談所での面会だったが、土日の外出をすることになり、里親と実母が直接メールや電話のやりとりをするよう児童相談所から促された。
- 交流を始めてしばらくした後、子どもの情緒や言動が不安定になっていった。
 - 最初からこのお家良かったと言い、誕生ごっこをしたがるようになった。
 - どうしてこの家に来ることになったのかを説明するように何度も言われた。
 - 外出先で実母とけんかしたり、姉弟でけんかしながら帰って来たりするようになった。
 - 実母との外出に行きたくないと言うようになった。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 実母から里親に頻繁にメールや電話が来るようになったため児童相談所に相談した。
 - 「必要以上のことは連絡しないでって言ってもらっていいんですよ」と児童相談所からアドバイスを受けた。その時はそれ以上は介入してもらえなかった。
- 実母からのメールや電話について、先輩里親に相談した。
 - 「力のある里親って思われたのではないか」と言ってもらえた。
 - それでも負担の時は児童相談所にそう言えばいいと具体的な言い方も助言してもらえたので、そのとおり児童相談所に伝えたら、児童相談所が実母との間に入ってくれるようになって、負担は減った。
- 子どもの不安・不満に向き合い、必要な説明等を行った。

＜里親さんの語りより＞ どうして産んでくれなかったのと言われたら、産んではいけないけどすごく大事に思ってるよと言ったり。(略) 子どもが育てたいなと思ったら児童相談所が「かわいい子がいますよ」って教えてくれて、そしたらすごくかわいい子がいたので、絶対うちで育てさせてくださいってお願いしました、みたいな。

- 子どもの不安・不満に児童相談所からも説明をしてもらった。

＜里親さんの語りより＞ 児童相談所のワーカーさんがきちんと説明したんだと思います。お母さんがどうしてあなたたちと離れて暮らすことになったか。お母さんは親子とし

て仲良くなりたいと思ってるので、あなたたちに無理はさせたくないけど、できる範囲で仲良くしてほしい、みたいな。

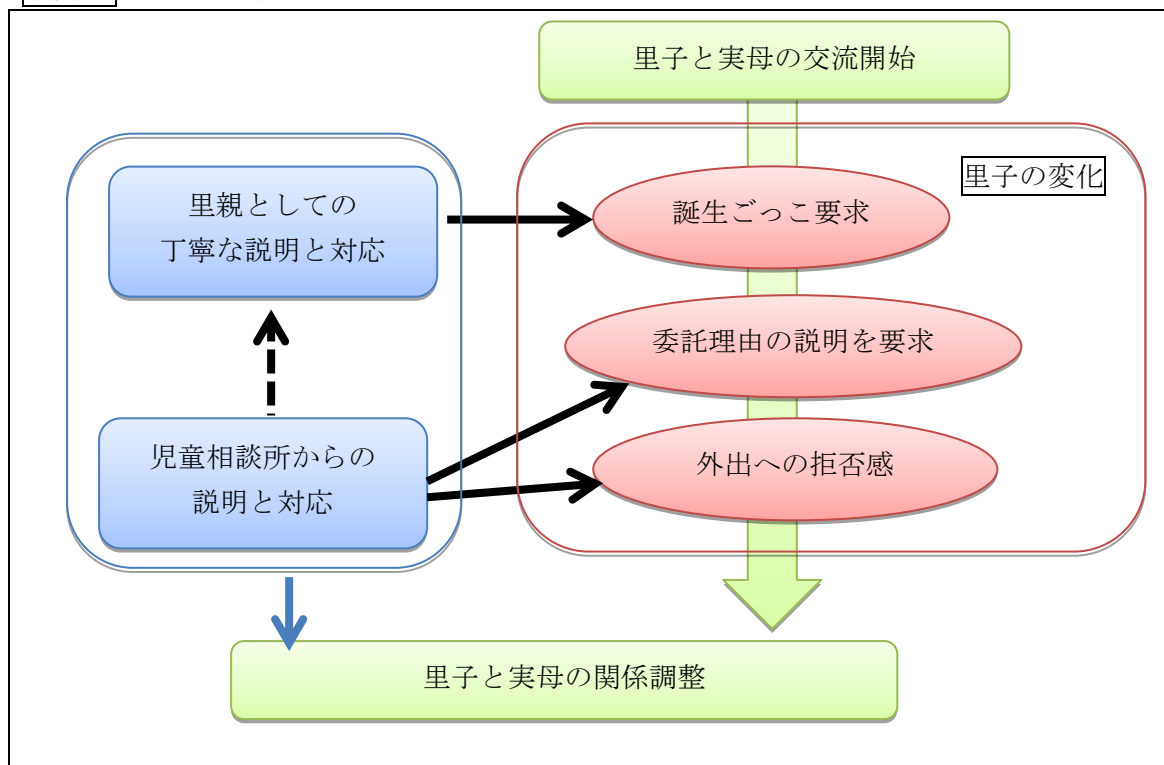
3. その後の変化と里親としての対応

○外出・外泊で交流したい実母と、あまり気が進まない里子の間に入って、日数の調整や交流の条件などの交渉を行った。

＜里親さんの語りより＞ お母さんが4泊5日を希望、子どもたちは3泊4日。そしたら4泊5日だけど夕方行って午前に帰してくれとか。(略) 子どもたちは、外出や外泊はいいけど、運動会とか参観は絶対に嫌だと。自分たちの日常に入って来てほしくないんでしょうね。しぶしぶOKしたピアノの発表会でも一言も口をききませんでした。

○月に2回の実母と里子との面会に加えて、里親として実母の気持ちを聴いたりして、実母と里子の間に入り、児童相談所とも情報共有しながら関係調整をしている。

事例 11 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 里親と里子の実親との直接交渉のあり方とそこへの児童相談所からの介入や支援。
- 実親と里子との交流プロセスにおける里子ケアの必要性。
 - 里子と実親との間における、交流に対する意欲や気持ちのズレへの配慮。
 - 里子に対する精神的ケアと里親・児童相談所の連携。
- 里子のライフストーリーワークや真実告知の重要性。

事例 12 養育里親

里子の受託から実親との信頼関係構築、支援の展開

(小池由佳)

1. 養育する中で直面した困難の概要

○家庭と一時保護を繰り返していた男児を受託。

→実親に怒られて、家を飛び出し、児相に駆け込むことを繰り返す。

→子どもの様子から虐待が疑われていた。

○里親が、受託をきっかけに実母の子育てや生活に不安を抱く。

○実母は子育てについての知識がない、実母自身も十分な養育環境で育っていない。

＜里親さんの語りより＞彼女はわからないことがいっぱいあるわけ。子どものランドセルを開けて、ほら、こんな手紙とかも来てるよ、って言ったら、そんな子どものランドセルとか開けていいんですかって言った。当たり前だよ、私は毎日でも開けるよって。まだ子どもなんだから、ランドセルを見なきゃ何の手紙が入ってるかわからないでしょ、時々見てあげないと言って。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

○里子が帰省する時には、食料や衣服等を持たせるようにしている。

→帰省時、実親家庭でも里子が困らないように配慮している。

＜里親さんの語りより＞うちの子が好きなお菓子とか朝ごはんとかにできるスープとかを持たせます。お金渡すわけにもいかないし、細かく言うと、その期間の分の食費は出てるわけじゃないですか。だからうちの子に不自由な思いをさせたくないという思いがあります。

○里子の行事等には参加するよう声かけをしている。

→あまり頻回になると実母が負担を感じるようなので、バランスを見ながら声かけ。

→お弁当など必要なものは実母の分も含めて里親が用意。

→下準備はするが、実母ができることはしてもらうよう配慮（配膳等）。

○実母を育てる必要性を感じている。

→里子の幸せと同時に、里子をしっかり育てることが母親を支えるとも感じている。

＜里親さんの語りより＞あの人のことをお母さんって最初の頃思ってたから、お母さん友達なら絶対嫌。今は、子どもって思っている。ここを育てないとうちの子は幸せになれないと思ってる。最近はうちの子をしっかり育てて、お母さんが後で頼るっていうパターンかなとも思っています。

○実母の相談相手になることにより、実母との信頼関係が構築。

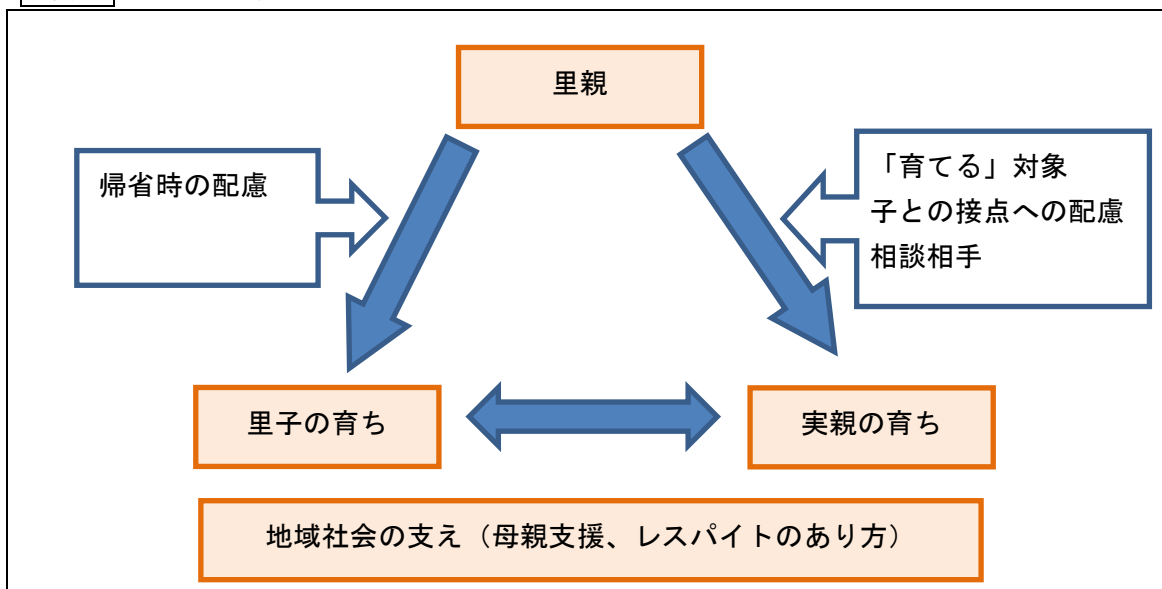
→母親支援の必要性を感じるようになる。

＜里親さんの語りより＞（里親さんは）何もしなくていいとか言うから、あんまり行政には頼らないことにして、言いたいことだけ言ってるけど。やっぱり難しい。子どもの支援はしてくれるけど、母親にする支援はきちんとしてない。そこら辺は思いますね。そういう母親だけでも集めて、支援をしたい、将来。もう少し。

3. その後の変化と里親としての対応

- 実母から信頼される存在として認識されるようになる。
 - 他に信頼できる相談相手がいないことにも気づく。
- 実母への支援はかまわないが、それに見合う立場や支援の必要性を感じている。
- レスパイト先として里親や施設だけでなく、日頃、子どもが親しい友人の家庭なども含めてほしい、その担い手に手当が出るようにしてほしい。

事例 12 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 里親の役割の明確化。
 - 実親支援にどこまで関与するのか。
 - 「共同親」としての里親の存在。
- 子どもを保護している期間に実親を育てる必要性。
- 地域で要保護家庭を支える仕組み。
- レスパイト先の拡大。
 - 里親ではなく、里親の親族や地域の人（子どもの同級生の親等）にも広めてほしい
 - 実際、子育てではお互いさまで支え合っている部分もあり。

事例 13 養育里親

長期養育前提で受託した子どもへの真実告知と親子関係構築

(伊藤嘉余子)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 長期養育を前提に3歳児の養育を受託
- 4～5歳から真実告知を少しずつ始めた。子どもの理解に時間がかかった。
 - 里母以外の女性から自分が生まれたということを理解するのが難しかった。
 - 小学校に入ってから理解が進み、今度は実母に会いたいと言うようになった。
- 3歳まで生活していた乳児院が協力的ではなかったため、生い立ちの整理に苦労した。
 - マッチング期間や委託初日にも、乳児院職員の発言に違和感を覚えた。
- 真実告知のプロセスで里親として知り得た、子どもの実親のプロフィールについて、子どもとの生活の中で、気になりすぎてしまう場面が出てきた。

＜里親さんの語りから＞ 母親がちょっと知的障がいがあるっていうこと。その人から生まれたということで、勉強はできるようになるのかなあとか、お友達とけんかして手が出てしまったりすると、ああ知能的なことも関係あるのかなあとか、気になってしまって。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 生んでくれたお母さんが別にいることを根気よく話すとともに、感謝の気持ちを育めるような話をした。
 - 実母に会いたいと言うようになったので大きくなったら探そうと約束した。
- 学校の先生にも事情などを毎年きちんとお話して、学習のほか様々な面で配慮してもらうようにした。
- 日頃から「もし友達から生い立ちのこと等を言われたら、〇〇って堂々と答えるんだよ」と言い聞かせるようにしていた。
 - 家に遊びに来た友達が「〇〇ちゃん、捨てられたん？」と言った時、里子が「違う。育てられなかっただけ。だからここで育ってる」ときちんと堂々と言えていた。
- 里親会の集まりには必ず子どもたちを連れて行って、同じ境遇の子どもたちがたくさんいること、血のつながらない家族は自分だけではないことを伝えるようにした。
 - 里子同士の友達もできて、支え合う関係を築けたようである。
 - 自分より年齢が下の里子の世話をしたりして、自分の居場所を見つけたようだった。

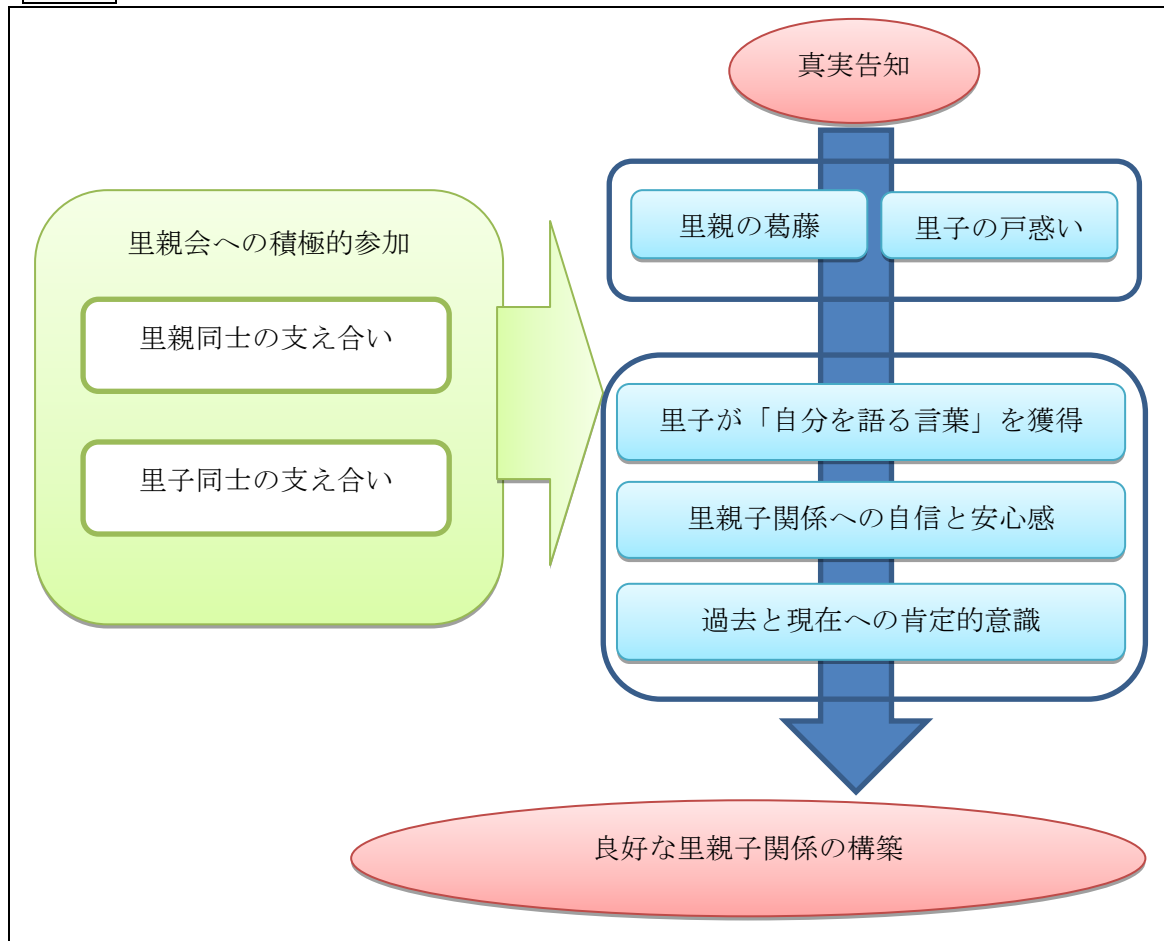
＜里親さんの語りから＞ 自分と同じ境遇の子どもたちと話をする中で「うちはよそと比べて親子の会話が多い方」など、里親子関係に自信や安心をもてたようです。自分を生んだお母さんには会ってみたいし、育ててもらえなかったのは残念だけど「でも、ここに来て良かった」と言ってくれるようになりました。

- 里親自身も里親仲間に相談したりしながら、抱え込まない、開かれた養育を心がけた。

3. その後の変化と里親としての対応

- 年齢を重ねてきて、性教育も必要になる。子どもの生い立ちも踏まえ、男女交際、妊娠などについて慎重に丁寧に、でもしっかりと伝えなければと考えている。
- 里父母が話し合いをされていて少しでも言い合いのような雰囲気になると、過度に心配をしてくるため、子どもが起きている時間は里父母で意見交換や相談などをしないようにして「仲の良い夫婦の姿」を見てもらえるよう工夫している。

事例 13 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 乳児院の里親支援専門相談員の役割の明確化と委託後の支援・連携関係。
- 真実告知プロセスにおける「里子支援」と「里親支援」。
- 学校教員との連携や情報共有と里親家庭への理解が深まるような取り組みの必要性。
- 里親・里子の双方にとってのセルフヘルプグループとしての里親会の意義と役割。
- 里子が里親家庭に肯定的な帰属意識をもつために必要な支援や関わりの検証。

事例 14 養育里親

実母との交流、委託解除後も親子との関係を継続した養育

(福田公教)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 母子家庭、母親就労希望のため、2歳の女儿を受託。
- マッチング期間なしでの委託。

＜里親さんの語りより＞（母親が）仕事を探さないといけないということで、児童相談所へ行ったら、「この子です」言うて「連れて帰ってください」っていう感じで。で、連れて帰ってきました。

- 里子の実母への強い思慕。
- 受託後、表情が硬く、1か月以上も夜泣きが続いた。
- 実親の子育てへのアドバイス。
- 実母とのやりとりは、里親主導で行う（児童相談所の介入の度合いは弱い）。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

- 里子の興味・関心をひく物事との引き合わせ。

＜里親さんの語りより＞委託後2～3日後に、お祭りに連れて行ったのです。歩かんとね、引きずって。歩かないんですもん。（略）金魚すくいの金魚見てね、キョロキョロしてね、初めて、あっ、この子の表情が変わったな思って。生き物触ったりとか、そういうのね、触れないけど、お姉ちゃんが一生懸命すくってるのを見てね、気持ちがね。そしたら無表情な子が金魚すくいやったね。

- 里子のニーズに沿った丁寧な関わり。

＜里親さんの語りより＞おんぶしてね、外行ったりもするんです。お巡りさんが一緒に付いて歩いてくれたりとかね。今日も泣いてんのか言うてね。

- 実母との関係の調整

＜里親さんの語りより＞もう親の愛情に飢えてたんです。もう急にその委託だから。（委託後数日して）お母さんが来た時、ウワッって泣いた。その時、もう本当に。着替え持って来られたんです。そしたらもう、初めて泣きましてね。夜は泣くんですけど、昼間はもうじっとしてね、ものも言わないんですけど。お母さんの顔見たら泣いて、それでお母さんが抱っこして。お母さんのほうがつらいですよ。（略）

- 1か月に1回の里親宅での母子の面会の後、委託後1年経過した頃から週末に1泊の実母宅への宿泊を月に1～2度行う。

＜里親さんの語りより＞一泊連れて帰るんやけど、すぐに（里子が里親宅に）帰りたがるんですよ。〇〇（里親）へ帰る、お姉ちゃんのとこ帰る言うてごねるらしい。

○宿泊から帰宅すると、たくさん食べさせすぎたり、遊びすぎたりして、疲れや体調不良になることが多くなる。

→食生活や子どもの睡眠時間についての実母へのアドバイス。

○引き取りたい実母の思いを児童相談所に連絡。

3. その後の変化と里親としての対応

○実母の複雑な思いから、当初は3年の養育の予定が2年で終了し、4歳で委託解除。

→委託解除に当たっては、里親宅近隣のアパートに実母が引っ越してきた。

○委託解除後の喪失感。

＜里親さんの語りより＞そんな子が今度いなくなってしまうってね、うちに慣れてしまって、慣れたと言うか、もう家族になってしまいましたから。私らも。

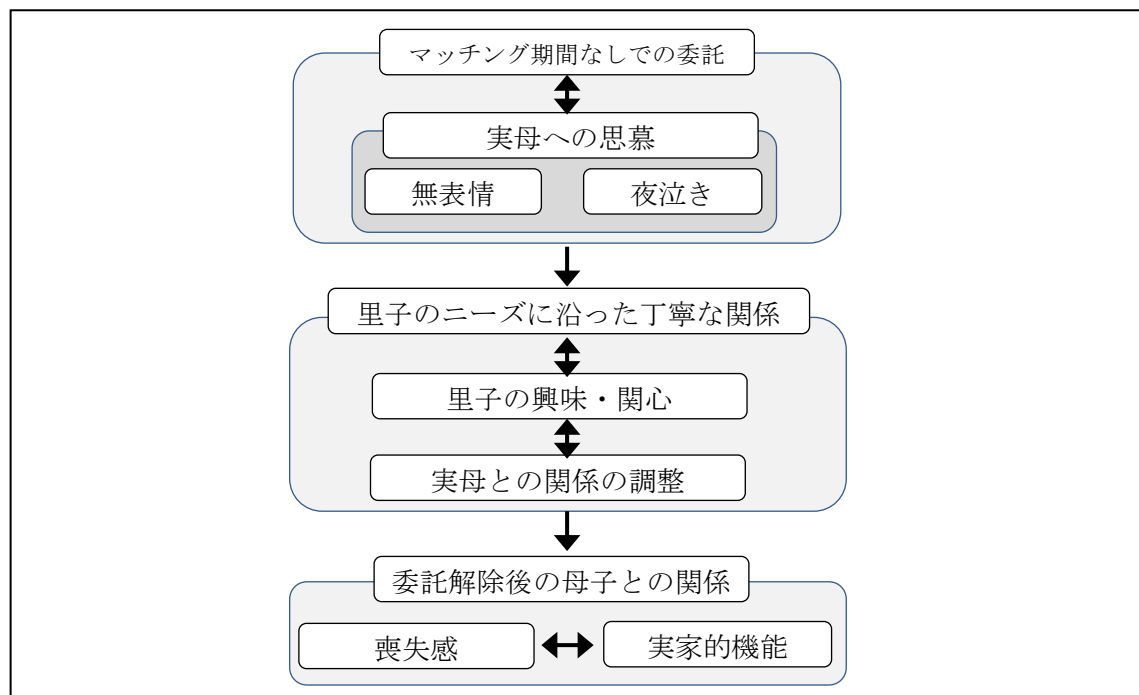
○解除後1か月ほどして、実母より幼稚園への送迎を依頼される。

→幼稚園で荒れていた子どもが里親宅にも通うようになり、生活が安定した。

○小学校に上がってからも、時間があれば里親宅に遊びに来る関係を継続。

→母子の実家的存在としての里親宅。

事例 14 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○里親と委託児童の丁寧なマッチングの必要性。

○親子の交流のあり方、見立ての方法論の確立。

○引き取り後の地域での見守り体制の構築の重要性。

○実母との交流のあり方についての児童相談所および里親支援機関のイニシアティブ。

Ⅲ. 里親種別に起因する支援ニーズ

事例 15 親族里親

他施設や里親家庭からの措置変更を経験してきた親族の子の養育

(伊藤嘉余子)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 里親家庭に金銭的・精神的・身体的に迷惑をかけてきた親族（子の実父）の子どもを親族里親として養育受託することにした。
- 当該児童は、里親宅に来るまでに、別の養育里親家庭、児童養護施設での生活を経験。
 - 里親の事情による不調・委託解除になったが子どもは里親のことが好きだった。
 - その後、複数回の里親マッチング不調を経験。
 - 児童養護施設では、子ども間の暴力の被害者になった。
- 当該児童の両親との確執から、当初はひきとる気はなかったが、面会・交流を重ねる中で気持ちが変わり、養育することを決めた。
- 施設生活の影響かわからないが、片付けが苦手、すぐ嘘をつく等といった傾向があり、どこまでしつけとして厳しく接していいのか悩んだ。
 - 我が子ならきちんと育ててほしいとしつけけるものだが、どこまで配慮していいのか。

＜里親さんの語りから＞ 施設の子は片付けが苦手だと聞いたことがあって。だからあんまり言ったらかわいそうなのかなとか、でも大きくなったら困るの自分だよ。洋服とかもぐちゃぐちゃって入れるので「しわになるよ」って教えるんですけど、そういうのがちよっとわからないみたいで。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 新しい生活を整えるために転居した。

＜里親さんの語りから＞ その子のために部屋を作ってやりたかったっていうのもあります。あと急に子どもが来たっていう感じにもしたくなかったので。だから転校して新しいお友達と全く違和感なくスタートできるようにと。

- 里父母で話し合って、役割分担をし、夫婦同時に叱らないようにした。
- 里父は専らフォロー役にまわり、里子と2人でよく出かけるようにしている。
 - 様々な自然体験をすることを大切にしている。
 - 里父と二人でゆっくり話ができる時間を大切にしている。
- 料理や手芸など里子が好きでやりたがることを積極的にやらせるようにしている。
- 前の里親家庭や実親との生活で経験したことに配慮しながら関わるようにしている。
 - 里親の呼び方は「おばちゃん」「おじちゃん」。

＜里親さんの語りから＞ 私は「お母さん」でもいいって思ったけど、あの子がおばちゃんていって言うから。でもお友達の前では絶対におばちゃんって呼ばない。たぶん友達から「お母さん、どうしたの」って言われるのが嫌なんだろうと思います。大きくなるにつれてお互いに話せることも増えていくだろうからと、あえて何も言いません。

3. その後の変化と里親としての対応

○児童相談所と相談しながら順調に養育できていると思う。

＜里親さんの語りから＞ 児童相談所の方は 3 か月に 1 回ほど訪問してくれるんですけど、児童養護施設の人是一次も来ません。まあいいんですけど。

○児童相談所の薦めもあって里親会に参加してみたが、あまり必要性を感じていない。

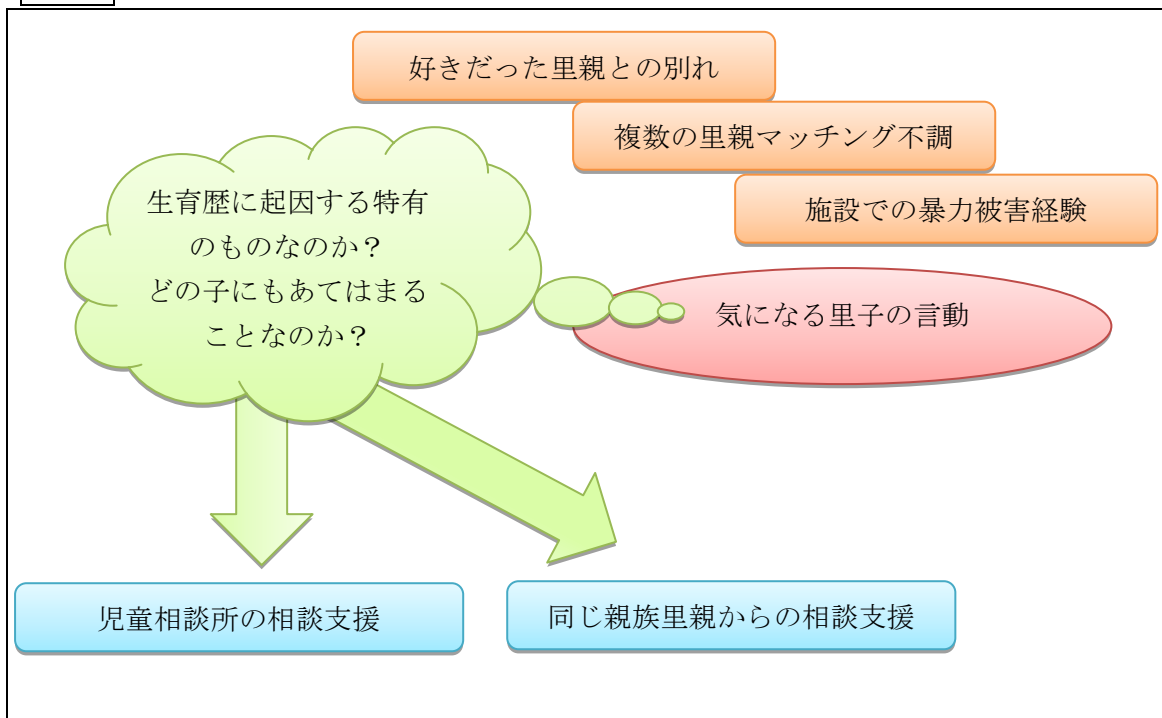
→親族里親と養育里親の違いを強く感じた。

→親族里親ならではの悩みや葛藤がわかりあえる人が親族内にいて貴重だと思う。

＜里親さんの語りから＞ 自分と似たような環境で、主人の親戚にきょうだいの子どもを引き取って育てた経験のある人がいて。困った時はその人に相談します。手続きのこととか、引き取って育てる大変さとかいろいろ。心強いです。

○今後は、実母との交流の可能性が課題。本人は会いたそうにしている。

事例 15 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○親族里親固有の相談支援ニーズへの対応。

→里親養育というよりは、実子の子育て支援ニーズと似ているのではないか。

→親族ならではの葛藤や悩みの言いづらさへの配慮の必要性。

○会わせたくない親族がいる場合の対応。

事例 16**養育(親族)里親****里親として育てることへの決断から生じた葛藤****(小池由佳)****1. 養育する中で直面した困難の概要**

- 里親登録は里母のみ。里母のいとこの子を受託。いとは死去。里子は2名。
- 里子の父親が体調不良のため入院の際、一時保護所に子どもを連れて行く。
 - その時の様子をみて、自分が養育することを決心。
- 実父の体調があまりよい状況ではない一方で、快復して親子で暮らす希望もあった。
 - 養育が長期となるか一時的となるか、不安定な中での里親養育の開始
- 里子たちの住んでいた家が残っているので、長子にはその家を継ぐよう言っている。
 - 長子にとって負担になっているのではないか。
- 里子（特に長子）に対して、きちんとした大人になってほしいという思いが強い。
 - 里子に対して過度な負担になっているのではないかという不安。

＜里親さんの語りより＞うちにしたら、とにかく早く大人にしたいというか、一人でも生きていけるようになってほしいという気持ちがすごくあって。ちゃんと仕事する人間になるんだとか、(元の家)も●●(長子)にかかっているんだよって、そんな感じでちょっと話す時もあったりすると「うん」なんて言うけど、でも、やっぱりそれはまだちょっと不安の材料でしかないのかなとかって思ったりして。

○親族であるが故に、勢いで子どもを引き受けたことへの疑問

＜里親さんの語りより＞自分の中では覚悟がなかったというか、勢いに乗って預かったというか。今になると、この家族、私だけじゃない、主人がいて、お姑さんがいてっていうのを考えた時に、私のこの判断が、この二人にとってよかったのかなと思います。子どものことも、割と軽くじゃないですけども、それこそ、いる場所も困らないし、ご飯を食べさせて、お洗濯してあげて、それでいいかなぐらいの気持ちがどっかにあって。もっとあの子たちについてくるいろんなことが、学校のこととか、友達関係のこととか、これからもっともっといろんな何かがついてくるってことを、どっかにぽーんと置いてたというか、そこまで深く考えてなかったというか。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

- 子どもたちが暮らしていた家については、借り手を探している状況でもある。
 - 子どもにとっては「根っこ」となる家の存在。簡単に手離すことへの抵抗。
- 同居家族と里子との仲介。
 - 里子たちに「気にかけてくれている大人の存在」を伝える。

＜里親さんの語りより＞朝になると「このふすまがいつも開いてるんだけど」とか言うから「それはね、ばあちゃんが夜中にのぞいてね、いるかなと思ってね、腹出してないかなと思って、のぞいてるんだよ」とかって言うと「ふーん」なんか言って。だから、みんなが気にかけているっていうのをね。

3. その後の変化と里親としての対応

○「子どもがいる生活」を実感するようになる。

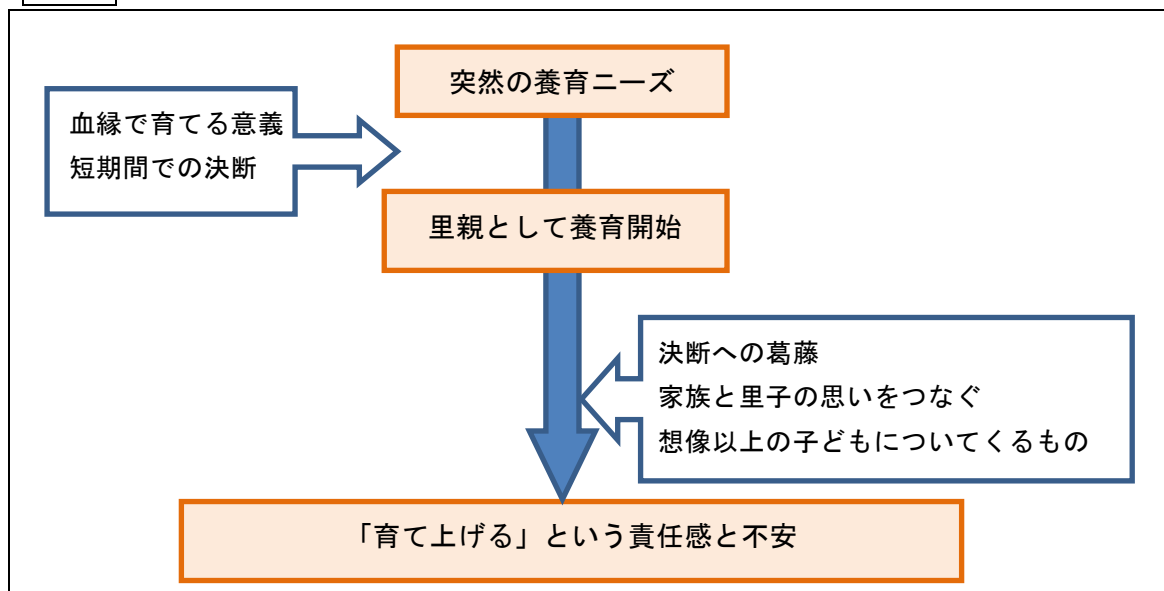
○里親手当の存在。

→手当がなくても預かったであろうが、手当があることのありがたさ。

○養育を引き受けたものの、里親の年齢と子どもが成人した時に、子どもにかかってくるであろう負担への心配がある。

＜里親さんの語りより＞自分が 70 になって、このうちに養子にもらいましょってなった時も、まだ、それでも 20 歳ぐらいでしょう？20 歳ぐらいで、この 1 軒のうちを切り盛りっていうのは絶対難しいわけじゃない？それこそ、血縁がごっそりついてまわってるわけだから。なんかそんなこと、そんな負担をこの子にかけていいのかなとか。また、違ういろんな先の心配事が増えてくるわけですよ。

事例 16 イメージ図



4. 事例から見えてきた課題

○養育里親と違い、ある日突然やってくる「子どもの養育」。

→チャンスと勢いであると同時に親族ならではの葛藤が生じている。

○引き取りたい家族と同居家族との関係。

○里親手当があることの周知。

→経済的支援がなくても養育していたと思うが、厳しい状況になることが推察。

事例 17**養育(親族)里親****複数の子どもを養育する養育(親族)里親**

(小池由佳)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 里親登録は里母のみ。妹の子2人を里親として養育。妹は疾病から要介護状況。
- 里母も登録当時、2人の子がいる母子家庭。そこに妹の子2人を引き取っての生活は難しいため、一軒家を購入。その上で2人を引き取って生活を始める。
- 里親登録の理由「それしか選択肢がなかった」

＜里親さんの語りより＞いろんなことを考える余裕もなかったっていう。妹の面倒見なきゃいけないっていう。面倒っていうほどでもないけれども、朝から夜中近くまで仕事して、休みの日には病院に行ってるっていう生活ばかりだったので、考えてる暇なくて、もうどうにか今から脱出しないかっていうぐらいでしか考えてられなかったっていうか。それ（里親登録）があるんだったら、それでいいかって。

- 将来、実母の面倒をみることができるよう育てなければ、という思いがある。
→里母も妹と同じ疾病を抱えていることから、自身の身に何かあった時の不安が高い。

＜里親さんの語りより＞やっぱり今、自分の母親を面倒見ていかなきゃいけないっていう将来的なものを踏まえて、それに対応できるように育てなきゃいけないっていうふうには思ってますけど。その二人はもう、やっぱりどうなるのかなんていうのが、今からもうほんとにしっかりしておかないと。なんか不安でしょうがないです、もう、そこが。

- 考える余裕もないままに子どもたちを引き取る決心をした。
→子どもにとっていい選択だったかどうか、疑問が生じている。

＜里親さんの語りより＞施設に行くよりも、ここで生活したほうが、本人たちにとってみれば、いいことだとは思ってるのは、私だけ？かなあと思ったり。本人たちによかれと思ってしてきたことが、本人たちにとってどうだったんだろうっていうのがあります。施設のほうが、何だろうな、一人ひとりに手厚く関わってもらえたのかなっていうのもあるだろうし。うちだともう、集団生活で。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

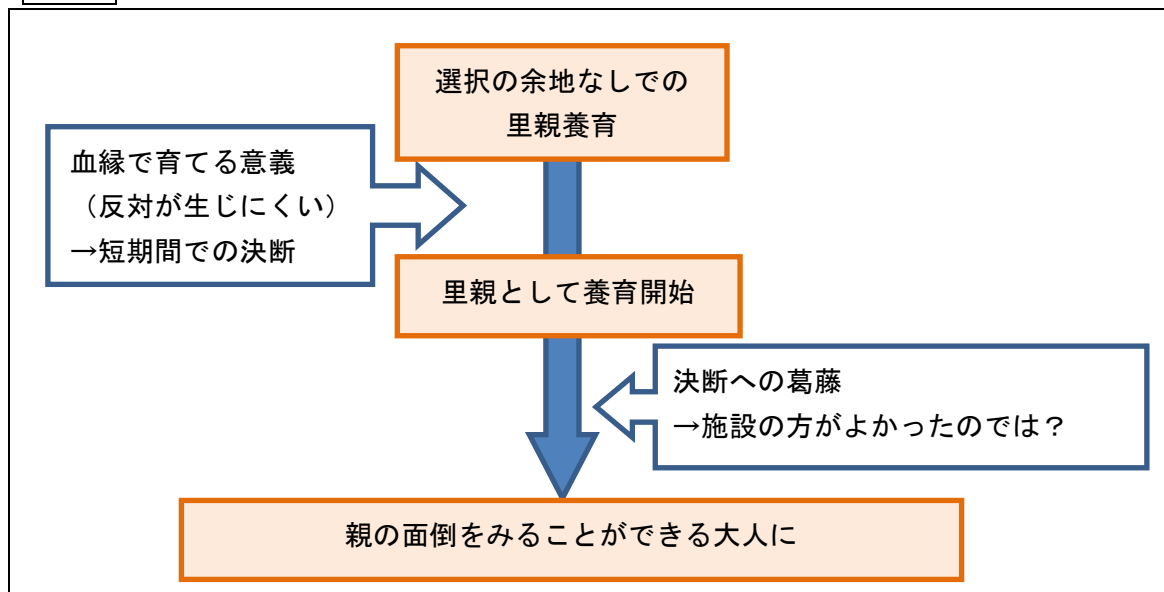
- 妹の子の養育が生じた時、児相に相談に行くことができた。
→周りの人から児相に相談に行くことを進められた。
→親族里親の制度がなければ、養育することが難しかった。
- 自らが育てることを選択したことへの葛藤は感じているが、結果、子どもたちを妹に会わせることができています。

- 学校では、PTA 役員を免除してもらっていて助かっている。
→PTA 役員からの配慮。
- 近隣とのつながりはあまりないものの、子ども会に積極的に参加。
→子どもを通じた地域の人たちとのつながり。

3. その後の変化と里親としての対応

- 十分に関わることができないことへの葛藤。

事例 17 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 親族として自分しか子どもを育てる人がいないという中での選択。
- 親の面倒をみることができるように育てなければという責任感。
- 施設入所という選択もある中で、本当に里親として自分が育てる選択がよかったのかどうかの葛藤。
- 児相が遠いことによる相談の困難さ。
- 地域に同じような立場の人がいない（親族里親はもちろん、養育里親も含めて）ことによる支援機関の理解の低さ（児相は遠い、市町村は十分に理解していない）。

事例 18 養育里親(短期里親)

一時保護委託を長期間に渡って定期的に受託

(石田慎二)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 2歳の女儿を受託。
- 母親が病気の治療をしている間、月1回、10日程度。約1年、定期的に受託。
- 時々、母親を思い出して泣くことがあった。
- 母親の事情により、1週間と言っていたのが10日に延びたりすることもあった。
- トイレトレーニングはできているはずなのに、たまに大便を漏らしてそれを取らせてくれないなかったりした。また、朝の支度などをわざとゆっくりしていることもあった。
- 鼻水や咳が出た時に、どの時点で医者連れて行けばよいか分からなかった。

＜里親さんの語りより＞ 日曜祭日にもし病気になったりとか、どう対応していいかわからない時にどうしたらいいのだろうってすごい不安だったんですけどね。まあ「そういう時は、この緊急の連絡先にかけてください」って言われたんですけど、なんか事情も分かっていないのではないかとか、一から十まで説明しないとイケないかなと思ったりした。

- 医者連れて行った時に女儿との関係を説明するのが難しかった。

＜里親さんの語りより＞ その今後の治療方針とかを聞かれたので、「ちょっとお母さんいないからわからない」って言って。「あなたはなんなんだ」みたいな話になって。「じゃあそういうことやったらお母さんに説明します」って言ってくれたので。「とりあえず一時的にこれだけ飲みなさい」って。お薬もらってきてとりあえずおさまったって感じで。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

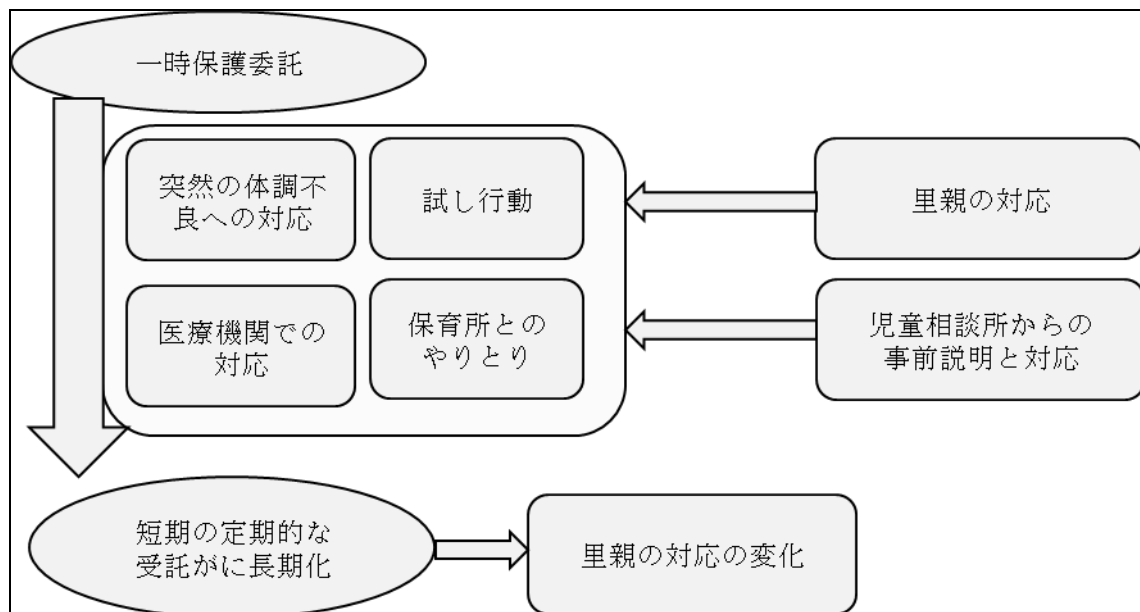
- たまに大便を漏らしてそれを取らせてくれないかったりするの試し行動ではないかと言われた。それでも朝、保育所に送っていかないとイケないので一方的に大便を処理して着替えさせて送っていったという感じで対応していたら、2、3回でなくなった。
- 医者連れて行くことについては、最初に預かった時だったのでたまたま児童相談所の人が個人的に「大変ではないですか」と電話をかけてきてくれた。
- 保育所には児童相談所から説明してくれており、また児童相談所の職員と保育所の園長先生や担任の先生と面談も行い、事情が伝わっていたので最初からスムーズに進んだ。
- 時折、母親から直接、次に依頼したい日の連絡が来ることがあったが、その時は児童相談所に母親からこのような連絡がありましたと連絡して児童相談所から母親に確認してもらうようにしていた。

3. その後の変化と里親としての対応

- はじめは母親が迎えにきた時、こっちを振り向かずには帰って行くので寂しいと思っていたけれど、次第に「〇〇さん（里親の名前）も好き」と言ってくれるようになってうれしかった。
- はじめは2歳の女兒だけであったが、最近、家庭の事情で小学生と中学生のきょうだいも来るようになった。
- 1回の受託は短期であるが、定期的に長期間に渡ると、叱ったりすることも必要と思うようになった。

＜里親さんの語りより＞ 最初、里親をしようと思った時は短期なんで、もうおばあちゃんちに来てみたいに怒ったりしないでおこうと思ってたんですけど、こうやって長期に来られるとやっぱりね、ダメなこともダメって言わないといけないし、やっぱり怒ることは怒るとなってきたりして、ちょっとそれは工夫って言うか、怒らないようにしようと思ってたんですけど、最近は怒りますね。「早くしなさい」とか「食べなさい」とか「着替えなさい」、怒りますね。工夫、まあ明るくしようとは思ってますけどね。

事例 18 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 些細なことを相談できる体制（特に土日、祝祭日、夜間）。
- 児童相談所から関係機関への丁寧な説明。
- 医療機関等の里親制度に対する理解。

IV. 経済的支援ニーズ

事例 19 養育里親

大学進学を目指す里子の養育

(石田慎二)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 両親は離婚して母親と暮らしていたが母親と死別して施設入所。
- 週末里親で来ていた女兒を、高校1年次に養育里親として委託。
- 委託直後は試し行動のようなものがありしんどかった。
- 大学受験前はびりびりした雰囲気はあった。
- 大学進学後は20歳まで措置延長。
- 親が残している金銭は弁護士が管理。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

- 里親の大学進学に対する前向きな考え方。

＜里親さんの語りより＞私が大学を出ていて、将来的なことを考えて、自分もそうですけど、やっぱり経済的に苦勞せずにすんでいますのでね。だから子どももやっぱり何か技術や資格的なものを活かせる仕事を。(中略) いちおう大学は週末里親で来ている時から、里子には頑張ればできる分だけちょっと上を目指すように言ったつもりです。(中略) だから私のところに来た時は、進学専門の塾にずっと行かせましたね。

- 大学進学のために塾に行かせた。塾代はすべて里親負担。

＜里親さんの語りより＞塾は通いました。本人はお母さんの生命保険があったのですが、弁護士さんも入ってちゃんときっちり管理してもらっていたので、私の気持ちの中では大学から使わせてもらおうと思って。だから高校までは全部、塾代を出していましたね。

- 委託直後の試し行動に対しては、児童相談所の職員や里親支援相談員、児童養護施設の職員が訪問してくれていたので、いろいろと話を聞いてもらったが、大学進学については児童相談所の担当者等と話し合ったことはなかった。

＜里親さんの語りより＞(進学についての話は) たぶん来られた時にしたりはしたと思うのですが、基本的に全部家庭の中で決めていくという、お母さんがいないというのも保護者がいないというのも関係するのだと思います。たぶん保護者がいる場合は、保護者さんの了解を得てというようなのがありますからね。そのへんもちょうとケースが特殊だったのかもしれません。(中略) いちおう決定権は児童相談所にあるのですが、まあ基本やっぱり一緒に暮らしている私の意見を尊重してくださいますね。

○ぴりぴりした雰囲気受験生に対する対応。

＜里親さんの語りより＞かなり神経質ですね。だから英語を聞いている時に入ったら怒られていました。(中略) すごいけんかもしましたね。まあ一方的ですけどね。向こうが一方的に怒って。大変だったですね。

○大学選択について話し合い。

→里子と将来設計について話し合う。

→高校の先生との進路の三者面談に出席。

3. その後の変化と里親としての対応

○高校に進学した時には大学進学を目指していた。

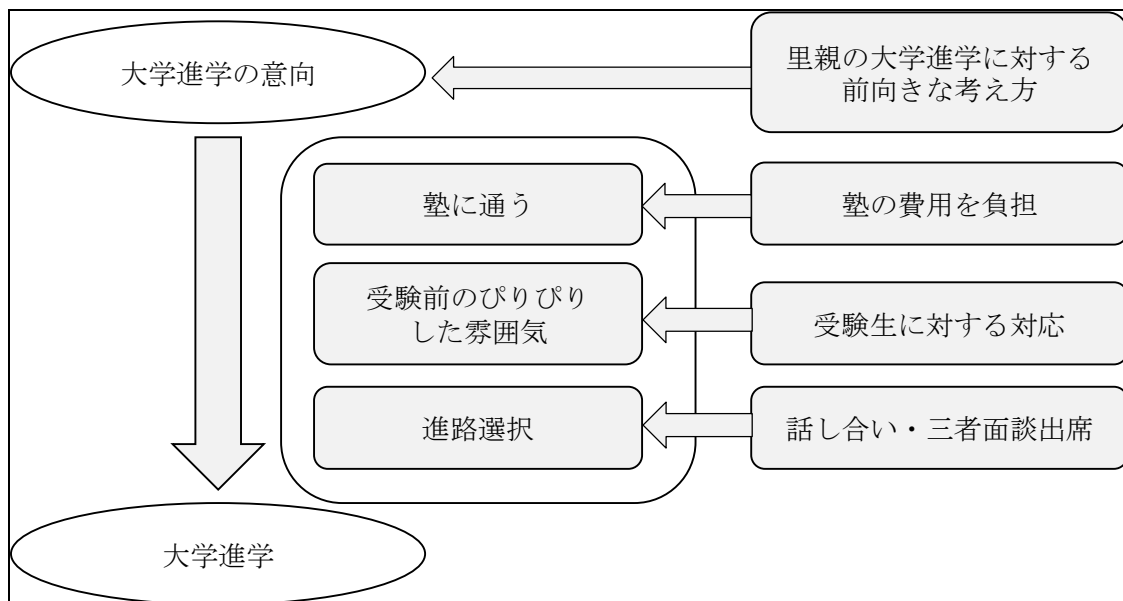
○頑張って勉強して大学合格。

＜里親さんの語りより＞(志望校は) ちょっとレベル的にはしんどいのはあっていうところがあったのですが、まあ本人の頑張り次第で。だからかなり本人は頑張ったと思います。

○大学進学後の授業料等は親が残した金銭から負担。

○20 歳まで措置延長後は大学近くに部屋を借りて自立。

事例 19 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○大学進学に対して前向きな里親とのマッチング。

○塾代などの金銭面の負担。

→里親にある程度の経済的余裕が必要。

→大学進学後の入学金・授業料・生活費の見通し。

○親がいる場合は進路選択や金銭面の負担などについて話し合いが必要となる可能性。

事例 20 養育里親

子どもの器物破損により弁償が必要な状況での養育

(千賀則史)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 3歳の男児を受託。人懐っこい子だという第一印象だった。
- 人あたりがよくて憎めない子だが、落ち着きがなくて常に動き回っていた。
- 受託してから約半年後に里子が高額な大切な物を壊してしまった。
- 自分の子どもが人の物を壊したから弁償しないといけないという里親の気持ち。
→でも高額なもののため、どうしたらいいのか不安になった。

＜里親さんの語りより＞ そんな安い物でもないし。そして、保険のうんぬんっていう知識がなかったので、これはもう実の自分の子どもがこんなことしてしまったら、お返ししてもらわなくちゃいけないってこと、ぱっと頭によぎって、すぐこれは弁償してもらわなくちゃいけない。すごい高い物なので、どうしようっていうのが正直な気持ち。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 本当に救われたのが相手の「子どもがやったことだから」という寛容な対応。
- 里親としては、けじめとして里子にしっかりと注意をした。
→里子は大変なことをしてしまったことを理解したが、すぐにケロッとしていた。
- 成人し独立している実子から保険があるのではないかと助言があった。
→以前に児童相談所から説明があったことを思い出して、児童相談所に相談した。
→里親保険があるということが里親にとっての安心へとつながった。
- 物であれば何にでもぶつかっていくので怪我につながる危険な行為だと繰り返し伝えた。
- 家族が協力し合い、叱る人が感情的になった時は他の家族がフォローするようにした。

＜里親さんの語りより＞ 同じことの繰り返しですね、日々。(略) 注意しない日はないんじゃないかっていうぐらい、朝から晩まで常に彼の名前を呼んでますね。(略) やっぱ絶対これ、里親やってたら、一人で。家内が一人でやってるとかね。僕が一人でやってるとか。そういうふうな状況を作ってしまうと、すごくしんどい。(略) だから、かーっとなってしまう時にどちらかが冷静で笑いの方向に持っていくとか。

3. その後の変化と里親としての対応

- この件だけで変わったわけではないが、里子は少しずつ落ち着いてきている。
→今までは声をかけても反応がなかったのが返事をするようになった。
→少しだけじっとしてられる時間が増えた。
- 里子の保育園での行動が改善し、周囲に対してもよい影響を与えている。
→送迎の時に里子が率先して挨拶をするため、保護者同士がよく話すようになった。
→里親はママ友とのつながりができて、楽しく過ごすことができています。
- 一緒に暮らす実子にとってもよい経験になっている。家族全体の連帯感も強まった。

＜里親さんの語りより＞ ママ友会みたいなのがあって、LINEでのつながりとかで。私なんか年齢、彼女たちはもうはるかに。20ぐらい上なんですけれども、何々ちゃんのママみたいな感じで結構声もかけていただいたり、誘っていただいたりっていう。そういう若い母親とのつながりっていうのができてきて、すごい新鮮というか楽しいというか。

4. 事例から見てきた課題

○里親保険があることが里親にとっての安心感になっている。

→説明を受けていても忘れてしまうもの。より周知を徹底する必要がある。

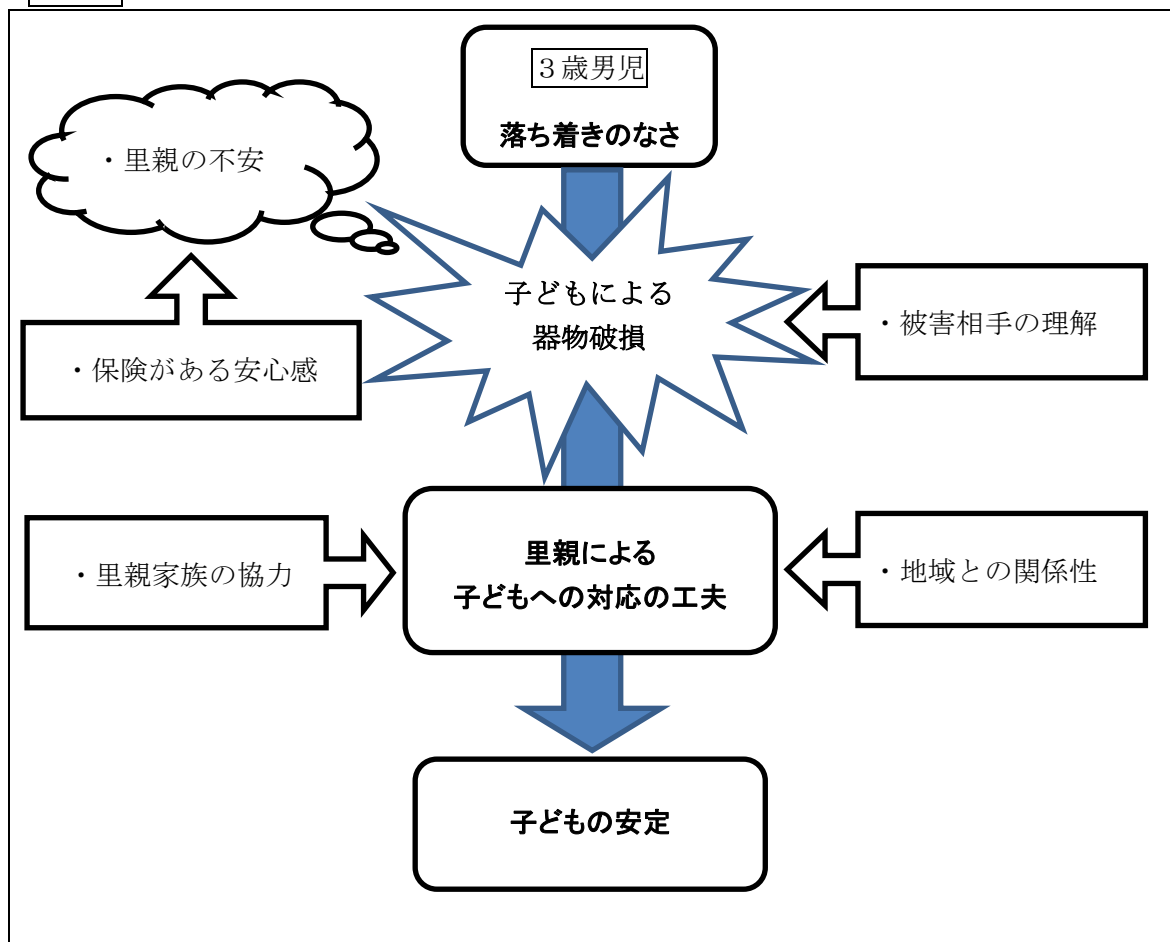
○地域との関係性が良好であれば、養育が大変な里子であっても前向きに子育てできる。

○家族みんなで協力していることが里子との適切な距離を持つての養育につながる。

→実子の存在は大きいですが、それがいない場合にはレスパイトを有効活用する必要がある。

＜里親さんの語りより＞ 今、里子がいなかったら、さみしくてたまらないんじゃないかなと思うぐらいです。(略) たまには、ほっとしたい時間ありますけど。(略) そういうほっとした時間も、子どもたちがまた作ってくれるんですね。実子が。お母さんたち大変だから、たまにはあれしなよみたいな感じで時間も作ってもくれたりするのですね。

事例 20 イメージ図



V. 委託のプロセスで発生するニーズ

事例 21 養子縁組里親

登録からマッチング期間における時間的・経済的・心理的負担の存在

(小池由佳)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 2歳6か月の女子を委託。現在は特別養子縁組、成人して自立。共働き家庭。
- マッチング時、児童相談所や乳児院まで距離がかなりあること、交通手段が不便なことにより、時間的・経済的制約が大きい。
- 里親受託のためには、週末里親等里親活動に積極的に取り組むことが必要と言われていたが、上記の理由から引き受けることができなかった。
- 里親として意欲的にみられなかったためか、受託まで複数年がかかった。
- 登録解除を考え始めた時に、委託候補児の連絡があった。
- 自分たちより先に受託されている里親の存在を知り、資格がないのかと悩む。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

- 受託のみに執心すると気持ちが折れそうになるので、気を紛らせられるようなこともしていた。
- 共働きが未委託につながっているのではないかという不安を感じていた。しかし、その判断基準がわからないため、仕事を優先することとなる。

＜里親さんの語りより＞ どういうシステムで子どもたちがマッチングされているのかわからないわけですから。自分より後から入った人のところにもう既に子どもが行った情報がある、里親会の研修に出るとそういう情報が回ってくるので、なんとなく、人としてダメって言われてるような感じがすごくありましたね。あなたはふさわしくない、みたいな。働いてるからかなとか、その頃、そういうこと言っていましたからね。

- 委託候補児が決まってから半年間、施設に通うことになる。最初は電車で通うが時間的なロスが大きいため、車を一台購入し、最寄りの公共交通機関に近い知人宅で預かってもらい、そこから施設に通った。
- 面会時、子どもがなついてくれない。仕方なく、他の子どもたちの世話ばかりしていた。施設長から「なつかなければ委託できない」と言われて、心が折れそうになる。

＜里親さんの語りより＞ その当時の園長先生は、子どもが「お母さん」って走ってこなければ出せないって言われて。半年ぐらい通って。もう通えない、疲れるし、心が折れちゃうので、もう無理なんで、諦めますって、私が泣きながら。そしたら先生たちが、「いやいや、●●さんなら大丈夫だから、私たちが園長に進言するからね」って言って、それで。

3. その後の変化と里親としての対応

○委託前の施設での宿泊体験で、子どもと一緒に寝ること等を通して「親としての心構え」の時間の大切さを実感している。

＜里親さんの語りより＞ 私、10 か月は、せめて半年、親業をやってからじゃないと、要するに妊娠期間を経ないと、親の第一歩にはなれないよって。大人だから親になれるんじゃないって、親になっていくんだからっていうの、いつもね、児相に言ってるんです。

○委託決定後、施設から里親宅への移動の時には大泣きだったが、里親宅に来てからは泣くこともなく過ごすことができた。

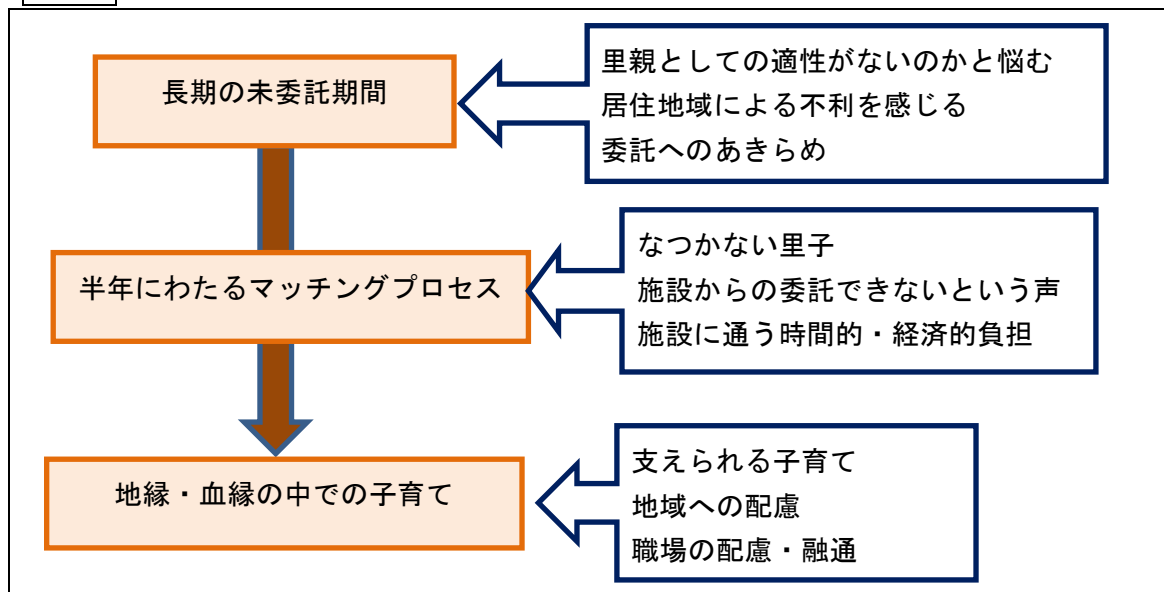
○委託時、近隣にお披露目の会をしている（地域で子どもが生まれた時に行うもの）。

○地域内にある実家や親戚等からの子育てのフォロー。

○実家等で里子を見てもらっている時、不安を感じた里子がよく職場に電話をかけてきていた。職場の理解があり、こまめなフォローをすることができた。

○地域に里親が増えることを期待しているが、あまり勧めることはできないという認識。

事例 21 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○登録から委託までの期間の長さ。

→里親としてのモチベーションの維持、「子を育てる心づもり、覚悟」の準備期間。

○委託候補児との面会にかかる時間的・経済的負担。

→里親宅から児童養護施設や乳児院等との距離、交通手段の有無。

→経済的ゆとりのある里親でなければ登録から委託のプロセスを乗り越えることができない一方で、ゆとりを生み出す共働きだと、里子とのマッチングの時間を作り出すことが難しい。

○地縁・血縁がある中での里親養育。

事例 22**養子縁組里親****激しい子どもの試し行動と向き合い育てるための支援ニーズ****(伊藤嘉余子)****1. 養育する中で直面した困難の概要**

- 2 か月のマッチングを経て、乳児院で生活していた2歳児を受託。
- 体格も良く健康そうで愛らしい笑顔の子で、マッチング時の関係性はとても良かった。
- 家に来て10日目頃から、里母にだけ否定的・反抗的な反応を示すようになった。
- 里父には否定的・反抗的な反応は一切示さない。
- 平日は里母と里子の2人きり。里親の両親は既に他界しており頼れる親族はいない。

＜里親さんの語りより＞ 何を話しかけても「いや」「きらい」「あっち行って」と繰り返すばかり。土日、夫の仕事が休みの日、3人で散歩に出かけると、夫の手だけをとり「走ろう！」って。私をおいて。で、私が追いかけると「来ないで！」ってすごく怖い顔してにらむんです。平日は里子と2人きり。「〇〇さん（乳児院職員）は好き、お母さんは嫌い」と毎日のように言われました。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 自分で「試し行動」について調べて、関わり方を工夫した。
 - 怒ったり、大きな声を出さずに、穏やかな声と表情で、理由を尋ねたりした。
 - 「そんなことされたら悲しい」とアイ・メッセージで気持ちを穏やかに伝えた。
- 子どもが育った乳児院に電話して相談した。
 - 「答えを言うのは簡単だけど、子育てでは自分で考えて試行錯誤しながら子どもとの関係を作っていくプロセスが大事」との理由で、具体的な助言はもらえなかった。
- 里親支援機関には電話できなかった。
 - マッチング時に相談した時、厳しく指導されたことを思い出したため。
- 里父母で話し合い、役割分担や関わり方の工夫を行った。
 - 里子が里父に頼みごとに来た時、里母の意見を聞いたり里母に頼ったりできる機会を意図的に作るように心がけた。
 - 里子が好きなおもちゃを多くそろえて、里母と楽しい時間を共有できるようにした。

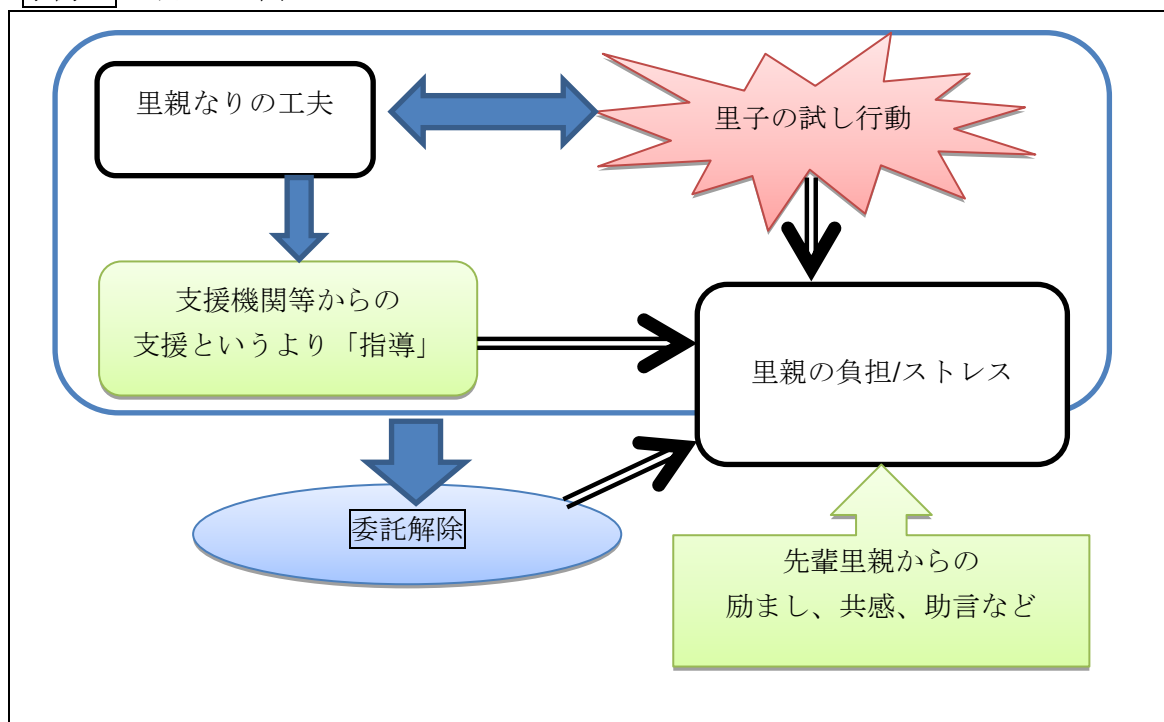
3. その後の変化と里親としての対応

- 里子の試し行動はエスカレートすることもなかったが、おさまることもなかった。
 - 里母はストレスで時々眠れない日がでてきた。

＜里親さんの語りより＞ 乳児院や里親支援機関に電話するたび「もっと勉強/努力しなさい」と言われました。里子からの暴言もおさまらず、子どもからも施設からも「お前はダメだ、お前はダメだ」と毎日責められているような気がして本当に辛かった。でもせっかく委託された子どもとの生活を何とかしたいという思いは強かったんです。

- 里子が育った乳児院にはしばしば電話した。
- 里親支援機関にも電話で相談した。
- 児童相談所から「乳児院の皆さんがあなたたち親子を心配している」と電話があった
→委託解除となった。
- 委託解除から 2 か月後、里親サロンに出かけ、この話をしたところ、「自分も同じ乳児院から同じようなことを言われた経験がある」という複数の里親さんがいた。
→自分が特に無力な里親だという訳ではないのだと安心できた
- 話の続きで、先輩里親から「気持ちの切り替え方のコツ」等、経験に基づくアドバイスをもらえた。

事例 22 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 里親委託後の相談支援体制の確立。
 - 子育て経験のない里親への助言支援の必要性の周知徹底の必要性。
 - 乳児院の里親支援専門相談員の役割の明確化と支援内容の標準化。
- 里親支援を担うワーカーの相談支援スキル向上に向けた取り組みの必要性。
- 里親サロンなど里親同士の支え合いの仕組み作りの重要性。
- 里親登録前研修の内容の充実を含めたあり方の検討。
 - 試し行動に関する理解（知識/対応スキルなど）が習得できる登録前研修の必要性
 - 里親のメンタルヘルスに関する内容の充実。
 - 子育てスキル（ペアレントトレーニング）習得につながる実践的な内容の充実。

事例 23**養育里親****「里親」から「里親」への措置変更の事例****(小池由佳)****1. 養育する中で直面した困難の概要**

- 里子は実親に戻る予定で A 自治体の里親に委託されていた。
- その後、実親の養育環境が整わないことから、特別養子縁組の検討がはじまる。当時委託されていた里親が高齢のため、別候補となる里親を探す。
- 里親と里子との関係が良好だったため、離れた地域で里親を探すこととなり、B 自治体在住の現里親家庭に委託となる。その後特別養子縁組成立。

＜里親さんの語りより＞預かってた里親さんがもうずっとかわいがって、3年ぐらい預かってますよね。で、うちで養子でもいいですよってことになってたらしいんだけど、年齢がやっぱりうちより少し高かったんで、子どもが成人する時にはきついかもしれないねっていうことで、じゃあ特別養子縁組に出そうってことになって。ただ記憶もしっかりしているし、年齢もしっかりしてるから、近いと逆に新しい親御さんになじまないだろうからって言って、こっちの児相のほうに相談が来て、で、ちょうど私がこちらに所属してたから、どうですかっていう話がきて。

- 前の里親家庭のことも里子の記憶にあり「お父さん」「お母さん」と言っている。時々会話の中に出てくることがある。里子はこの里親のことを実親と認識している可能性もあり。

＜里親さんの語りより＞前のうちだったら、こうだったとか、前のお母さんがあの車乗ってたとか。車の車種とかをよく覚えてますよ。里親さんのところにきょうだい3人ぐらいいて、一番上のお兄ちゃん、お姉ちゃん、どうのこうのというような話が出てきます。ひとりが働いているお店を覚えていて、そのお店の車を見るたび、あ、お兄ちゃん、お兄ちゃんっていつも言ってますね、今でも。

- マッチングの期間、一時保護所で面会を重ねた。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

- 委託後すぐの時期は、前の里親家庭の話がよく出ていた。
 - 時間が経つにつれて、話題にあがる機会は減っている。
 - 印象的なことは今でもよく話をしている。
- 前の里親家庭の話に対しては、里子が話した時、自然な形で話を促したり、尋ねたりすることもある。
 - 何でも話せる環境を作りたいことなので、話を引き出してあげてもいいかとも思う。
- 他の里親の話から、措置変更前の里親家庭が変更後の子のことを心配していることがわかる。

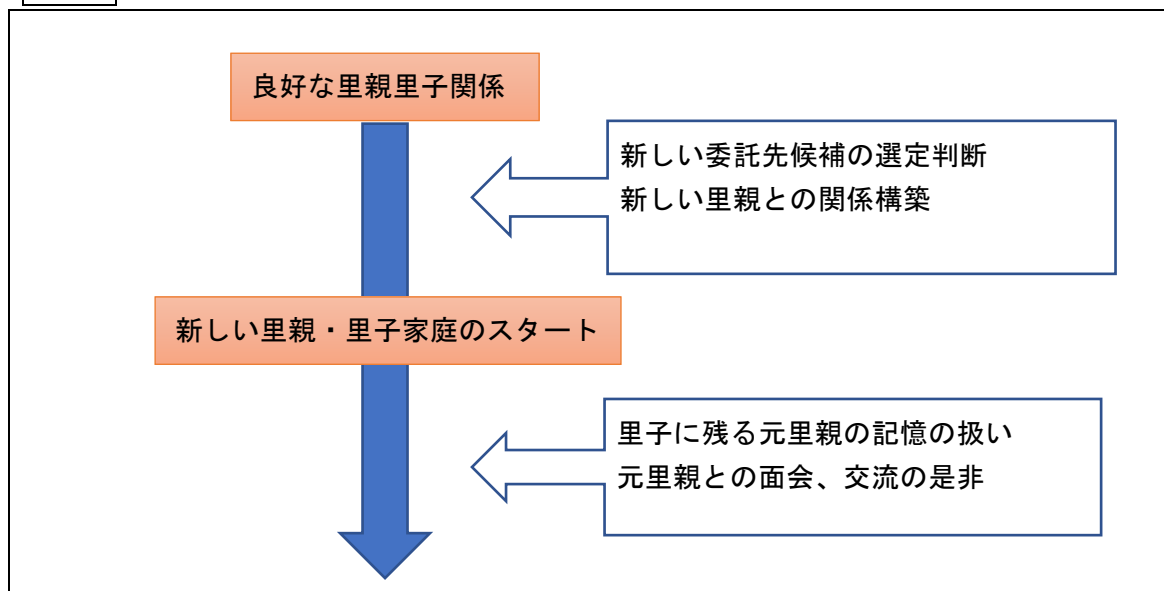
- 里子がもう少し成長したら、元里親家庭に連れて行こうかと思っている。
- そのことが里子にとっていいことか悪いことか、悩んでいる。

＜里親さんの語りより＞うちの子どももそういう状況で来て、里親さんもその後どうしてるかなって心配してるんじゃないかと思って。元気でやってますよって、なるべく早く伝えるのが本当はいいのかなとか思いながらも、子どもにはそれがいいのか悪いのかちょっとわからないので、とりあえずはもう少し本人がしっかりしてからの方が良いかなとか思ってますけどね。

3. その後の変化と里親としての対応

- 特別養子縁組が成立し、子どもとの関係も良好な状況である。
- 里親会では特別養子縁組の里親が少ない。同じ立場の者同士で交流する機会を作りたい。

事例 23 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 自治体を越えた里親委託の検討。
 - 子どもの年齢や里親との関係性を配慮した委託のあり方。
 - マッチングの時期をどう支えるか。
- 里子の元の里親（子どもの生活の場）の記憶や思いをどう支えるか。
 - 子どもの思いを言葉にする、行動を支える営みの必要性。
 - その際の現里親へのフォロー。

事例 24

養育里親

「里親養育」と「子育て」の間で生じる葛藤

(小池由佳)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 夫婦で養子縁組を希望しての里親登録。生後2か月から養育。特別養子縁組手続き完了。
- 職場にも近隣にも「養子を育てる」ことを早い段階から公言。その方が、周りからの理解も得やすく、自分たちも気持ちが軽くなると思つてのこと。
- 里親登録を決めてから、里母は退職。その理由として養子を迎えるためと説明。受託の時には、職場から実子出産と同じように祝ってもらった。
- 近隣には、里子を迎える前日、近隣に子どもが来ることを伝えるための挨拶まわりを行った。その際、養子というより、自分の子どもとして育てることを助言される。

＜里親さんの語りより＞「これからこうやって周りにみんなに挨拶しに行くの？」って言われて、そうなんですって言ったら、「あなたの子どもとして育てるんだから、そんな周りにみんなに言う必要ないと思うよ」って言われたんですよ。(中略)確かにそういう部分もあるのかなっていうのは思ったんですけどね。

- 実際、育て始めると、実子の子育てとの違いは何もないことに気づく。そのため「普通に接してもらう」ことが大切なのではと思うようになる。

＜里親さんの語りより＞(私たちが)安心感をもらうために伝えるのはいいことかもしれないけど、あえてそんなに言わないで、ただの子育て家庭として付き合ってもらいたいこともこの子にとってはいいことなのかな、すぐく見守ってもらうのとまた別に、普通に接してもらうというか、そういうこともいいのかなと思ったりして。

- 里親の両親は、里親登録時から全面的にサポートしているため、子の存在を喜ぶ一方で「養子であること」を意識する場面では寂しそうな様子を見せることがある。

＜里親さんの語りより＞告知とかしようと思うんだよねとか、例えばここの里親カフェっていうのに行くとかいう話をすると、そういえば養子だったみたいな感じで、ああそうなの、みたいな、ちょっと寂しそうというか、私たち以上に両親のほうが養子というワードを使いたくないというか、受け入れたくないところがあるみたいで。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

- 子どもを迎えたタイミング等、生活での変化が生じた時には養子であることを周りに伝えたと、それ以降は改めて伝えることはしていない。
- ママ友として出会った人たちとの会話では、今の子育て(例：離乳食、夜泣きなど)が中心的話題となるため、あまり困ることはない。産院等を尋ねられた時には、実家の方といって個別医院名を出さない、実家近くにある医院の名前を出す等で答えることとしていて、それ以上話を深めないようにしている。また、それ以上の話をするような友人たちには養子であることを伝えてあるので、困ることは生じていない。
- 一方で、養子であることを隠しているわけではないため、伝えてはいないものの、今後

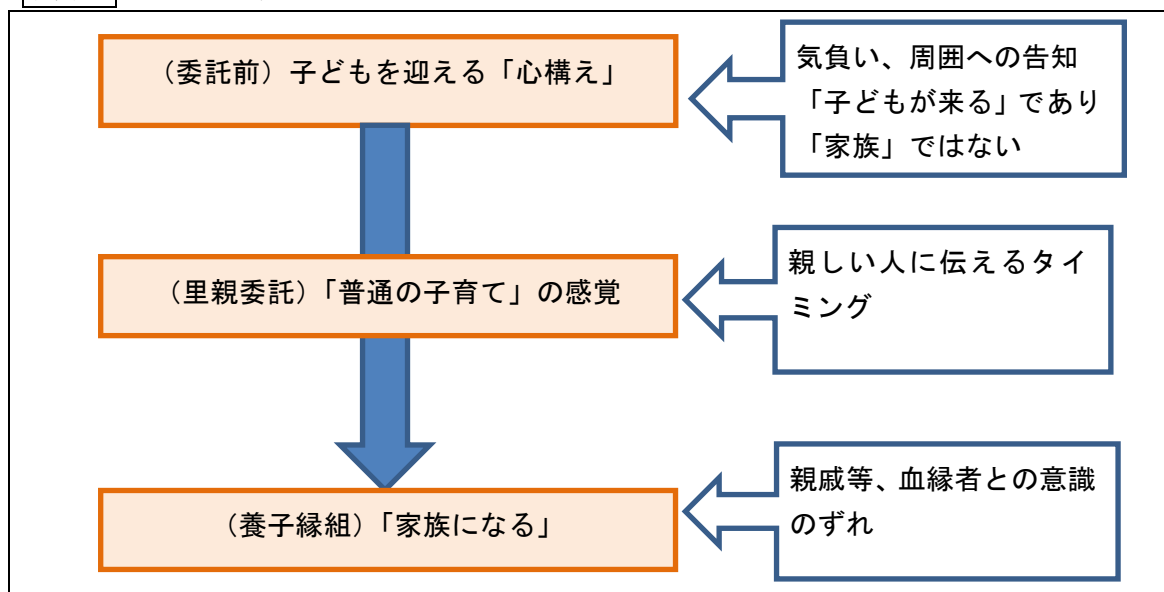
も継続的な関係を持ち続けたい人たちにどう伝えるかは課題である。

＜里親さんの語りより＞そのママ友さんとはこれからもずっと長く付き合いたいなと思ってるので、告知をするタイミングかなんかに改めて言おうかなとは思ってるんですけど、今のところ養子じゃないのかなっていうふうに思われてる感じはないですね。

3. その後の変化と里親としての対応

○現状では、子育てでの悩みも、周りのママ友や実家に相談することが多く、児相に相談することは少ない。里親委託時は児相の充実したサポートが心強かった分、不安なこともあったが、里親交流会に積極的に参加することで、つながっている安心感を持つことができています。

事例 24 イメージ図



4. 事例から見えてきた課題

- 乳児からの委託は「里親・養子」と「実子」の子育ての差が生じにくい。
 - 周囲の告知そのものや周知のあり方も検討が必要。
 - 「伝える」「隠していないが特別には伝えない」「伝えない」ことの違い。
 - 里親と他の親族、近隣との意見の相違、ギャップ。
- 「隠していないが特別には伝えていない」人たちへの告知の方法、タイミング
- 養子縁組里親にとって「家族になる」＝「特別養子縁組」が成立すること。
 - 里親から親子になる間の葛藤への支援。

事例 25 養育里親(養子縁組里親)

短期の乳児の養育から特別養子縁組に至った里子の養育

(福田公教)

1. 養育する中で直面した困難の概要

○1歳4か月の女兒を受託。

○最初は養育里親として、1か月を目処にした委託だったが、その後特別養子縁組を結ぶ。

＜里親さんの語りより＞（母親が）1か月ぐらいで帰ってくるから、まあ、1か月見てくれたらっていう、最初そなん。で、（略）児童相談所、嘘つきっていつも言うんですけどね。（略）別に向こうは嘘つくつもりは当然ないんですけどね。

○実親との面会は一度もなかった。

○当該児童の実親やきょうだいの状況など、委託を受けてから分かることが多々あった。

○他の里子（実親との交流あり）との対応の違いに直面した。

○実子に我慢させてしまうことがあった。

○里親の種別は養育里親であり、養子縁組里親として、改めて審査を受ける必要に直面した。

2. 里親がおこなった対応や工夫等

○実の父母と住むことができていて実子には、里子との関係で負けてあげてと話すが、それでも実子も我慢できない時が出てくる。

○委託から1年を経過し、実親からの養育が見込めないと考え、養子縁組をする意向があることを児童相談所に申し出る。

＜里親さんの語りより＞やっぱり子どもは親がいないのは当然不安な部分もあるだろうし、それが実子になることで完全に〇〇さん（里親）の娘、お父さん、お母さんがおってっていうのになれば安心するやろう、安定するやろうというようなことも。（略）だから、それやったら、そうしようかっていう話で。

○一度も面会ができず、実親の顔を見ていないことで、特別養子縁組を結ぶことに前向きになれた。

＜里親さんの語りより＞まあ、逆に、だから面会がなかったから養子縁組できたんですけどもね。面会あったら、ちょっと、やっぱ情はあってね、そんな簡単にいかなかったと思うけども。

○まず、里親のきょうだいと祖父母に事情を説明し、了解を得た。次いで、他の里子（名字は本名で通す意向）や実子に戸籍上もきょうだいになるとの話をした。

3. その後の変化と里親としての対応

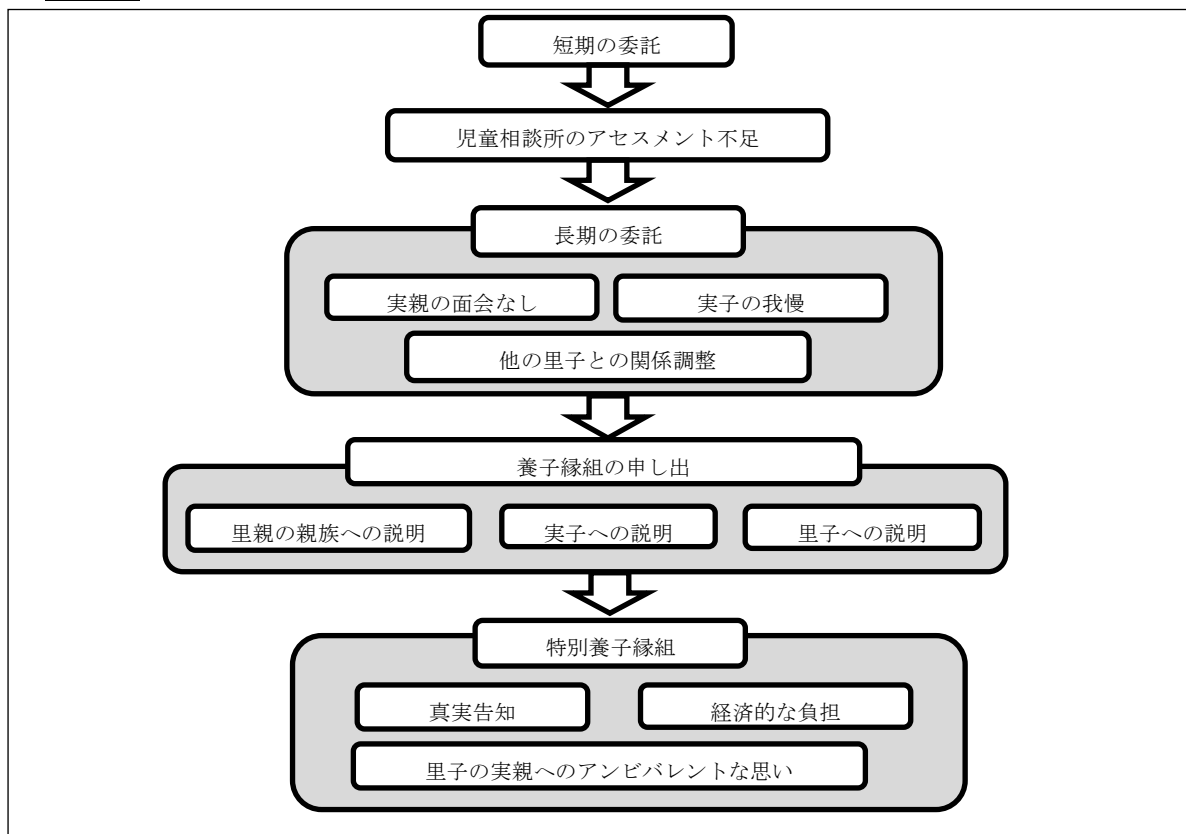
○真実告知は、小1の誕生日に3人でお風呂に入って話すと、「小1の時は、まだやっぱり、

その『へえ』みたいな」。2年生の時は、「もう『わかった』みたいな感じで」。里親に関するテレビドラマの視聴も状況の理解を助けた。

＜里親さんの語りより＞（ドラマ）で、なんか「出産ごっこみたいのをやってた」って言うから、それなら、お母さんも、あんた、出産ごっこしようと言って、お腹の上乗らして、ふうーっとかってやって、私。

- 他の委託児の親とメールで連絡を取り合っていると、「なんで〇〇（当該児童）のママとはメールできへんの。交換できへんの」と、「いやいや、会ったことないって言うてでしょ」と、わかっているのに聞いてくる。
- 実母に「いっぺんは会ってみたいなあ」と言ったり、「もうでも、〇〇（里親）のお母さんだけでいい」と言ったりするのをその都度受け止める。
- 特別養子縁組後は、里親手当の支給が打ち切られ、経済的な負荷がかかったが、他の里子がいることもあり、児童相談所とは、本児童の件も気にかけてくれたことで、何とか相談ができ、助かっている。

事例 25 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

- 実子、里子、特別養子縁組里子の関係調整。
- 児童相談所のアセスメント・見立てと積極的な里親ソーシャルワークの展開。
- 特別養子縁組里親への経済的、ソーシャルワーク支援の必要性。

VI. 委託解除後の支援ニーズ

事例 26 養育里親

里親不調で委託解除になった後の支援ニーズ

(安藤藍)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 里親登録後まもなく、初めての里子として小学校 1 年女児を預かる。虐待歴あり。
- 登録後すぐ、かつ登録前研修の義務化以前の委託で、社会的養護の知識は不十分だった。
- 里子は、里親との交流自体はうれしそうだったが、里親宅で暮らす気持ちはないと明言。
- 児童養護施設の考え、通園中の幼稚園の考え、里親の考えや相互のコミュニケーションに齟齬があり、子どもの受託に違和感や不安があったが口にできなかった。

＜里親さんの語りより＞ その子と関わって交流している間に、どうしても私には違和感があった。で、その子もそこ（児童養護施設）に居続けたいって言うので、私は何度も「この子はここ（施設）にいたほうがいいんじゃないですか」ということを、その園長さんとか担当の職員さんに何度も。（略）初めてで里親っていうこともよくわからない。里親の、今だったら仲間たくさんいるんですけど仲間もいない。相談するところもない状態の中で。その方たちは「いや、絶対●●さんのうちに行ったほうがその子は幸せなんだ」と言う中で、私には無理ですと言えなかった。

- 里親委託後、里子の暴力的な言動は激しくなった。里母は体調を崩し、半年をまたず委託解除となった。
- 小学校の担任からも、「大変ですね」と言われた。学校でも大変だったのだと思う。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 里子の暴力的な態度にどうしていいかわからずにいた。
 - 当時同居していた高校生の実子は、子どもの里親に対する乱暴を見て、ぼそっと「虐待する親の気持ちが分かるような気がする」と言ったのがショックだった。

＜里親さんの語りより＞ やっぱりどうしていいかわからない状況で、私が熱を出したり。体調の方がね、悪くなって。で、もう 40 度ぐらいの熱を出して、寝込んだりするわけですよ。そうすると〇〇（実子）は心配しますが、その子（里子）は、布団かぶって寝てる私のところに馬乗りになって、「なんで寝てんだよ」って言うわけじゃないですか。（実子は）もう泣くしかないみたいな感じなんですよ。

- どうにもならないので、助けを求めて児童相談所に電話をしたり出向いて訴えた。
 - ギブアップし措置解除になるまで、一度も来てくれなかった。児相の担当者には「でもかわいいと思うこともあるでしょ」などといわれ、何を言っても無駄に思えた。
- 里親登録したばかりで、里親仲間はいなかったのでそこに相談することはなかった。
- 里子が元にした児童養護施設に里父が相談に行った。
- 愛着関係のプログラムに参加するなどの勉強をした。
- 里親自身の親やきょうだいには話をしており、里子にも自然に接してくれた。

3. その後の変化と里親としての対応

○引っ越しで地域に里親会がかわり、雰囲気も支援体制も全く違った。

→仲間がたくさんでき、いろいろなところに助けを求めるすべを知った。今なら、違った養育ができたかもしれない。自分の手に負えなければ受託を断ることも考えられる。

○自分はダメな里親、里子に新しい傷をつけてしまった、里親やらなきゃよかった…。

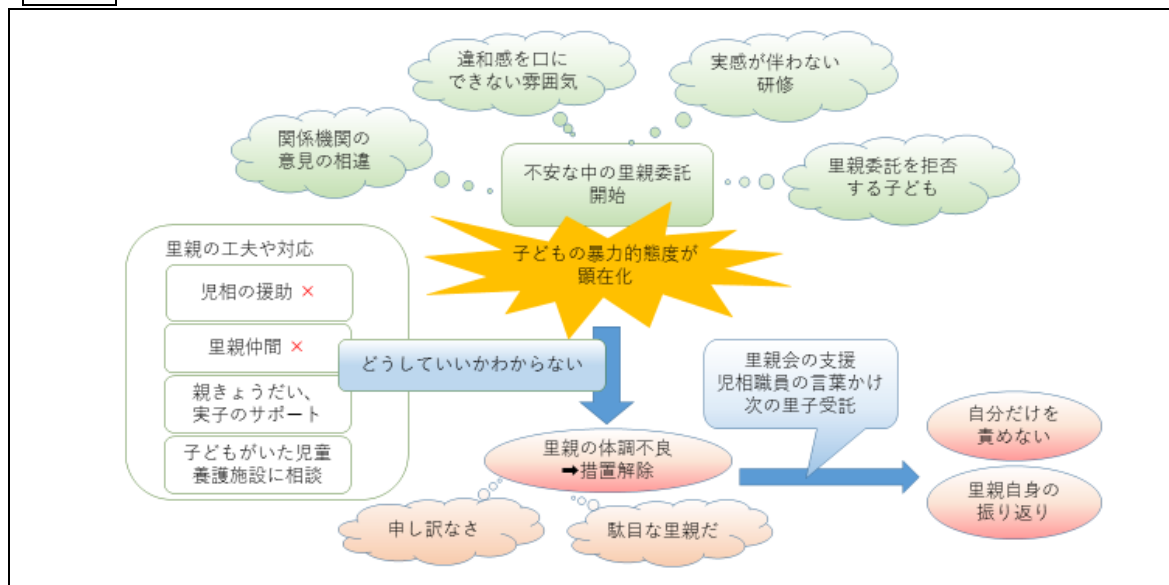
- 児相職員の一人は「あなたのせいではない」「申し訳ない」「あなたが心配」と言ってくれた。少しわかってくれる人もいるのかなとは思えた。
- 大分後になって、その子どもの虐待の重さを知る機会があった。マッチングにも問題があったと思えるようになった。
- 次の短期の養育で少し自信を取り戻せた。

○里母は実子の子育てや子どもに関わる職歴等もあり、子ども一般のことは自分なりにわかっていると思っていた。

→自分の今までのやり方がダメなのではなく、社会的養護の特徴や知識を踏まえた養育をすることに気づいた。

<里親さんの語りより> うち来てから、あまりにも暴れたりとかすごかったので、一緒にね、交流してる時はこんなことなかったじゃないって言ったら、(子どもは)「当たり前じゃない」って。(略) 私その時にね、私の方が人生経験この子よりもないんだなって思った。

事例 26 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○マッチングの妥当性。

○委託直後のこまめな訪問支援、養育困難時の相談支援体制の重要性。

→現在の制度は当時よりも「制度的には手厚くなってると思う」。

→里親支援にあたる複数の機関、立場の人の一体感のあるケースワークが鍵。

○里親会等の体制や雰囲気。

→先輩里親の押しつけにならない見守り、声かけは効果的。

○里親のきょうだいやインフォーマルな人間関係、実子のフォロー役の存在。

事例 27 養育里親

委託解除後の里親の感情のコントロールや里子ロスへのケア

(安藤藍)

1. 養育する中で直面した困難の概要

○これまで幼児から小学校低学年、短期養育を中心に約 20 名を受託。

○子どもの措置解除にともなう里親、実子の喪失感。

＜里親さんの語りより＞ 全然そんなに急に委託が解除になってとかいうわけではなくて、子どもたちにとってはすごく喜ばしいことなんですけど、…略…親元に戻ってしまうと、もうその子が何もないから、なんかすごく、どの里親さんも持たれるものだと思うんですけど、喪失感っていうのがすごく大きくなって。…略…（実子も）子どもたちが帰って行く時に、息子（実子）自体、気持ちが追いつかないっていうのもあったりはしてたんですよ。勝手に来て、勝手にかき回されて、慣れてきて、もう家族って思ってたのに、勝手に帰ってって。息子もよくさみしいっていうのは言ってて。

○「いい別れ方ができていない」と感じている。例えば、家庭復帰できることが決まっただけからの接し方など。

2. 困難に対する対応や工夫等

○「さみしさ」「喪失感」について。

→委託解除後も積極的に情報がほしい、関わりたいというよりは「自分の心の問題」だと思っている。夫婦で泣いたりたくさん話して、「それで落ち着くところに落ち着く」。

→里子でも実子でも、親は目の届かないところに子どもがいくことは似た種類の心配かもしれないと思う。

＜里親さんの語りより＞
切なさはずっと残っちゃうけど、でもそれが親なんだって言われたら、そうなのかもっていう気もしないでもないの。だから解決策はなくていいんだと思っているんですけど。

○別れ方について。

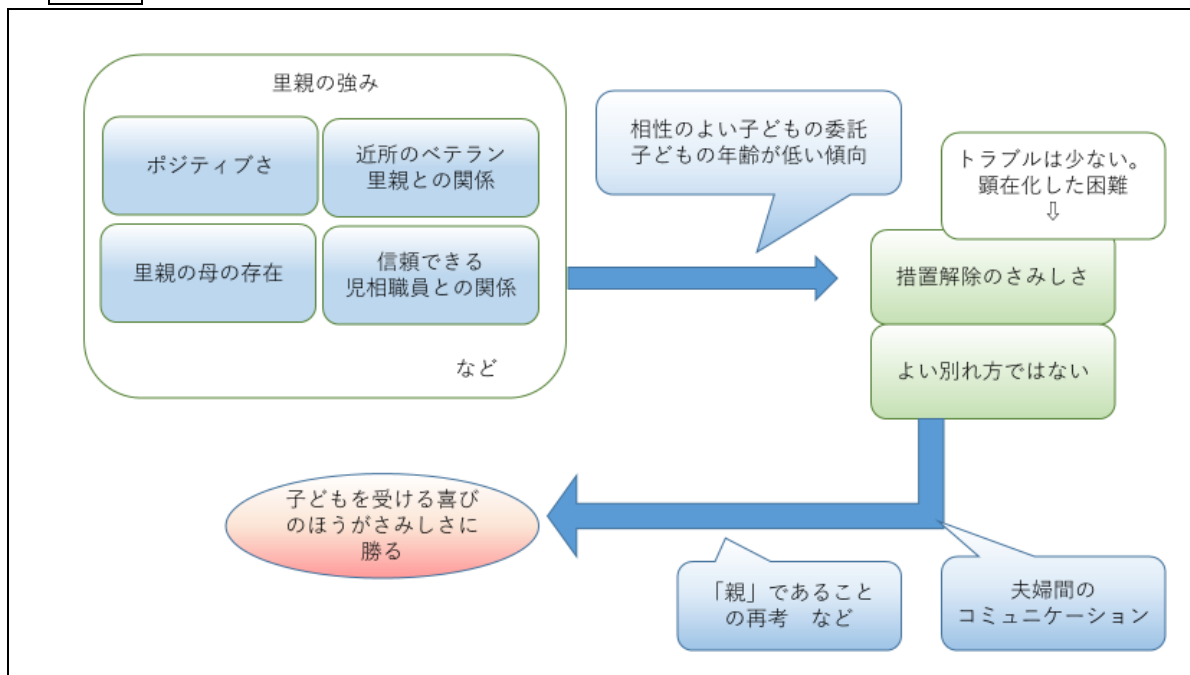
→お別れ会のような改まったことはできず、その子どもの好きなものを食べさせるくらいで、いつものように寝るまでそばにいてあげることが最後の日には逆にできないなど、淡泊な別れしかできないでいるという。

＜里親さんの語りより＞ 子どもたちも切り替えが、その、（家に）帰るよって言ってあげた時点で、もうついてると思うので、そこで、なんか変なやさしさかもしれないですけど、居心地がいいものじゃないほうがいいのかなって思ってしまう私もいると思うか。今までには、帰るってなるまではやっぱり居心地のいいところにいさせてあげたいと思うし、自分がいる所は居心地がいい所なんだって思ってもらえたほうがって思うけど、でも帰るって決まった日からは、…略…よけいな気づかいなのかもしれないんですけど。…略…あんまりぬくぬく引っ張るようなことしてもなっていうか。

3. その後の変化と里親としての対応

○別れ方のしこりや委託解除後の喪失感は重なっていくが、一方で「元気をもらっている」、「(自分たちも) 心豊かになっていってる気がする」、「いろんなことあったけど、でもあの時楽しかったよなって思える、…略…そういえば母ちゃん(里母) 元気にしてるかなとかって、ふと思ってもらえたら、なんかちょっとうれしいな」と思っている。子どもにとって居心地のいい空間を与えてやろうとあれこれ考えたりすると、子どもたちを通して自分たちのためになっていると感じている。

事例 27 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○感情のコントロール。

→里親は「自分の心の問題」であり明確な支援課題として措置解除後の喪失感を位置づけてはいなかった。子どもへの思いと、子どもと実親家庭とをつなぐ役目との間で感情をコントロールする必要があるが、夫婦間の気持ちの共有以外に方法はないか。

○子ども—実親—里親の距離感。

→家庭復帰の見込める子どもの委託が増え、実親の影響を受けつつ委託が継続することの難しさが顕在化する。実親、子どもとの距離感の取り方が難しいことがある。

○実子のケア。

→既に 10 代後半である実子は自宅にいない時間が多いものの、子どもの委託解除の過程で気持ちの追い付かなさを口に出している。

事例 28 養育里親

委託解除後の里子へのアフターケア、実家役割

(安藤藍)

1. 養育する中で直面した困難の概要

- 就学前から 19 歳まで(1 年措置延長)の長期委託の女兒。実親とは直接連絡できる関係。
- 措置解除後は、実親の元に戻る方向だった。
- 措置延長してから、交際相手との間に妊娠がわかった。措置延長を年度末まで継続したのちに結婚し、出産後は新婚夫婦と赤ちゃんの 3 人で暮らしている。
- 最も困ったのは金銭的負担。50 代で就学前の子どもが(結果的に)長期委託になったので、私立学校進学や携帯電話費用など、お金がかかる頃には年金生活になった。

＜里親さんの語りより＞ うちに(結婚し引っ越していった元里子の)国民健康保険の請求が来て、(略)どうするって、うちもお金ないじゃない、年金生活だから。でも、(略)国民健康保険だと、普通のお産の費用のなんか 40 万ぐらいかね、今出る。それを産院に直接払うのよね。で、オーバーした分だけ自分で払う。じゃ、しょうがない、払うか、お金がないんだろうから。

- 現在は実家のような役割であり、互いに頻繁に行き来する。日常的な世話も行う。「●●(元里子)はきっと実家みたいな感じで来てる」「孫ではないけど、孫的な。(略)里孫、里子の子ども」。

2. 困難に対する対応や工夫等

- 貯金を崩して対応している。
- 里父は定年後も、再就職やアルバイトで最近まで働いていた。現在里親夫婦は年金生活。
- 養育中より、里母には複数の相談相手がいたことで、金銭的負担以外の、精神的負担はある程度軽減されていたことが推察される。

→ある児相職員とは、異動等で当該児相を離れても何でも言い合える関係が続いている。出産に際しても赤ちゃんのものを手作りしてくれた。

＜里親さんの語りより＞ 結構言ってたもん、ギャーギャー、私。(略)話を聞いてくれて、「そうだね。そういうこともあるよね」とか。で、ちょこっとこっちのふうにしたほうが楽かもしれないよとかって、そういうアドバイスみたいなのがあって。話を聞いてくれる人がいるとすごく気持ちが楽になる。

- 里母は子ども関係の資格をもって働いていた経験もあり、子育てについて話せる友人も多かった。
- 地域の里親会に限らない里親仲間の存在があった。
- 児相の里親担当とは話はできる。

3. その後の変化と里親としての対応

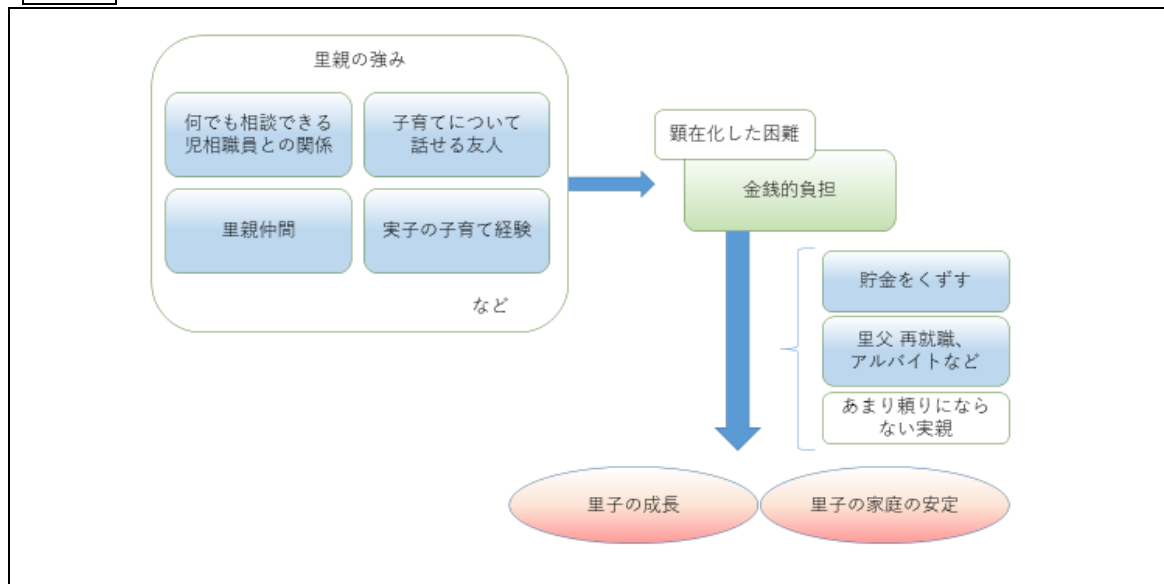
○元里子の成長がみてとれている。多少主婦の会話もできるようになった。

＜里親さんの語りより＞（出産後里親宅にしばらくいてから帰ったのだが、またすぐ来た際に）手紙書いてみたいで、ママとパパへって。それで、要約すると、ここにいたかったと、ずっと自分は。いろんな反抗してて、で、自分は子どもを産んでちょっとの間だけど、短い間だけど育ててみたら、他人の子どもを育てるって大変なことがよく分かったと。

○子どもの自立後について、（公的な）金銭的支援の希望は言えないと思っている。

→アフターケアのやり方は自分の方針ともいえるため。里親手当等を全体的に底上げすると、お金儲けをするケースが出ることを懸念する。かかった実費を負担してくれたほうがよいのではないか。

事例 28 イメージ図



4. 事例から見てきた課題

○アフターケア、実家機能を支える金銭的負担・精神的ケアのあり方。

→措置解除後も帰ることのできる家になることが期待されているが、それが実現するための金銭的支援は国の制度として行うべきか、どのように行うのがよいか。

→措置解除後に起こる様々な問題についても相談できる体制の確保が肝要。

○実親との関係に里親がどこまで負うかという問題。

○マッチング時の里親・里子の年齢の考慮。

→思いがけず長期委託になることもしばしばで難しいが、高齢里親に乳幼児を委託することのリスクにどう向き合うか。

○養育中から複数の社会資源とつながっていること。

4. インタビュー調査結果の考察

1) 事例の分類ごとにみえてきた課題

(1) 里子の特性に起因する養育支援ニーズ(千賀則史)

本章の里親へのインタビュー調査では、事例 1「実親への思いが強い発達障がいのある年長児の養育」、事例 2「共働き里親による発達障がいの子どもの養育」、事例 3「発達障がいと愛着の問題を抱える子どもの養育」、事例 4「学習面でのつまずきから不登校になった子どもの養育」、事例 5「不登校や非行などの行動上の問題のある子どもの養育」、事例 6「試し行動や反社会的行動が多い里子の長期養育」、事例 7「性的虐待の被害による影響を抱えた子どもの養育」、事例 8「不十分な生活力、人間関係形成力への働きかけ」を取り上げて、里子の特性に起因する養育支援ニーズについて検討を行った。これらの事例に共通していたのは、発達や愛着の問題を複合的に抱えており、二次障がいとして、不登校や暴力、非行などの行動上の問題を呈している困難ケースばかりであるということであった。

こうしたケースにおいては、児童相談所等によるアセスメント能力がより重要となる。発達障がい児や被虐待児に共通する特徴の一つは、環境の変化などの刺激に弱く、対人関係の不安定さがあることがあげられる。このような背景を持つ子どもは、里親委託前後の状態像のアセスメントに大きな齟齬が生じることが想定される。例えば、施設から「特に問題はない子です」と言われてきた子どもであっても、里親家庭では様々な試し行動を示すことは決して珍しいことではない。したがって、アセスメントに際しては、子ども個人の特性だけではなく、委託後の里親家庭や学校での適応などを考慮するなど、「人と環境の適合性」を重視する生態学的な視座が欠かせない。

アセスメントにおいて大切なのは、これからの見通しを共有することである。子どもの特徴から新しい環境で生活する中で起き得ることについて児童相談所等と里親が共通理解を持ち、養育プロセスでどのような支援メニューが必要となるのかプランニングを行うところまで行う必要がある。特に、里親の場合、自ら相談できずに問題を限界まで抱え込んでしまう傾向があるため、どういったことが起きたら、誰にどのように助けを求めればいいのかを具体的に話し合っておくことは有効かもしれない。

アセスメントとプランニングとは、里親支援のすべてのプロセスで常に修正しながら行い続ける必要があるものである。さらには、そうしたアセスメントは、児童相談所等だけで行うのではなく、地域の支援者や里親と協働的に進めていくことが望ましい。このような支援を具現化するためには、協働的なアセスメントを促進する『三つの家』(ウェルド・パーカー・井上, 2015) などのツールが役に立つと思われる。

これから里親委託が推進される中で、被虐待児や障がいのある子どもを里親が養育する機会は、ますます増えていくと思われる。そうした場合、里親支援の質が問われることになると考えられる。より良質な支援を行うために基礎となるものがアセスメントであり、自立支援計画の策定および活用の具体的な方法を含めて検討していく必要がある。

(2) 里親家族内の関係性に起因するニーズ(伊藤嘉余子)

本調査においては、里親家族内の関係性に起因する支援ニーズについて、「複数の里子や実子の養育にともなうニーズ」と「実親との交流や親子関係調整にともなうニーズ」の二つに大別することができた。以下、それぞれの事例ごとに若干の考察をおこないたい。

まず「複数の里子や実子の養育にともなうニーズ」についてである。事例 9 では、専門里親であることも関係しているかもしれないが、同じ年齢の里子が委託されることによって、学校行事の時の対応の困難さといった里親側の負担とともに、学校でも家でもライバルとして意識し合わざるを得ない里子同士の葛藤が語られていた。現在、里親委託などの家庭養育が推進されている背景のひとつとして「里親養育では、集団生活である施設とは異なり、子ども一人ひとりに丁寧に個別的な関わりが可能になる」という点があげられる。しかし、里親家庭に同じ年齢の子どもを複数委託すると、そうした里親養育の良さやメリットは少なくなるのではないだろうか。委託できる里親が少ない中、長期養育ケースと短期養育ケースなど組み合わせを工夫しながら年齢の近い子どもを同一里親家庭に委託することもやむを得ない状況にあるのかもしれないと推察するが、子どもにとっての影響を考えた時、必ずしも望ましくないマッチングではないかと懸念する。

また、事例 10 では、実子と年齢の近い里子を受託したことによって実子の情緒が不安定になり家族関係がやや悪くなりかけたが里親夫婦の工夫によって乗り越えたという経験が語られた。事例 10 の里親家庭のストレングスの一つは、近隣に住む里親の両親の存在であった。少し心配なケースを里親家庭に委託する際、里親の同居家族だけでなく、近隣にインフォーマルな支援資源があるかどうかについてもアセスメントした上で、里親だけで負担を抱え込むのではなく、児童相談所をはじめとする公的機関やインフォーマルな支援を活用しながら養育できることを委託時に改めて強調して伝えることも重要になると考える。

次に「実親との交流や親子関係調整にともなうニーズ」についてである。事例 11 と事例 12 の里親はいずれも、里子と実親の交流に積極的に参与し、時には里親が実親に直接助言支援をしたりすることもあると語られた。里親養育でも施設養育でも、実親と一緒に子育てするという社会的養護（養育）の理念が掲げられており、また、里親と実親が交流しているという状況は里子にとってもプラスに影響する面も少なくないであろう。しかし、すべての里親が実親と直接交流したり、実親の相談に応じたりすることができるわけではない。里親と実親との間に児童相談所が適切に介入し、両者の調整や仲介を図ることは重要である。また、もし今後、里親が実親支援に関与するケースが増えるようであれば、里親養育ガイドラインの中に一定の基準や内容について盛り込む必要がある。

最後に、真実告知やライフストーリーワークの必要性について述べたい。事例 11 と事例 13 では、里子が「自分は里親（里母）から生まれたのではない」という真実を知った後の葛藤や戸惑いが語られた。また、事例 13 では、里親が実親の状況を知った後の葛藤についても語られた。児童相談所は、適切な真実告知のプロセスを支えとともに、子どもの実親に関する情報を共有した後の、里親・里子の双方へのフォローについてもしっかり行う必要がある。

(3) 里親種別に起因するニーズ(小池由佳)

本調査による里親インタビュー調査では、里親種別に起因するニーズを明らかにすることを目的に「親族里親（親族による養育里親を含む）」および「一時保護委託里親」を対象として事例 15～17 の「親族里親（親族による養育里親を含む）」と事例 18「一時保護委託里親」に調査を行った。結果に基づいた考察は以下のとおりである。

まず「親族里親」についてである。親族里親は委託前から里子の実親である親戚、そして里子との接点があることが多い。それが、プラスとなる点とマイナスとなる点が生じている。プラス面は、実親・里子への共感性が高いことである。事例 16 では、昔から顔見知りであったとこの体調を案じ、一時的であれば自分が代わって養育するという思いがみられる。事例 17 では妹を案じる思いから養育を引き受けている。一方、事例 15 でみられるように、実親との不和が親族里親になることを妨げる要因となることもある。親族であるということは、実親のこれまでの子育てや生活状況を熟知していることも多く、そのことがプラスにもマイナスにも働く可能性を含んでいることがわかる。里子との接点があることも、子どもに対する共感につながっている。事例 16、17 でみられるように、甥や姪を知っているからこそ、その子たちの人生や生活を心配して養育者となる決心をしている。

また、養育里親や養子縁組里親が里親登録に至る前に「親になる」決心を経験するのとは違い、親族里親は里子となる子どもがいる状況が目の前にあり、「親になる」ことを選択することとなる。今回の 3 事例はいずれもそのような経緯を経て里親となっていた。事例 15 では、里親不調を繰り返し、施設で生活をしていた里子がいて、里親として養育するに至った。事例 16 では「勢いだった」という表現が出てくる。事例 17 でも「それしか選択肢がなかった」という里親登録理由であった。

この養育里親等との里親登録に至るプロセスの違いが、その後の里親としての迷いや不安につながるることとなる。特に面会や交流の機会がなかったと思われる事例 16、17 で見られた「この選択でよかったのか」という迷いである。事例 16 では里母自身が里親として養育することを決心したが、他の家族がそのことをどのように受け止めていたのか、また子どもを育てることに付随してくる様々なことへの自身の備えが十分ではなかったことを感じている。事例 17 では自身が里親として養育する決心をしたが、「施設の方が子どもたちにとってよかったのでは」という葛藤を抱えている。この里親登録に至るプロセスの違いを踏まえた支援が必要である。

次に「一時保護委託里親」の事例である。事例 18 は一人の子に対して一時保護委託を継続的に繰り返す事例であった。一時保護委託は、この事例のように、実親家庭のみでの生活は維持できないが、里親との生活があることで実親との生活を可能とする貴重な社会資源の側面を持つ。里親がこのような役割を果たす事例 18 では、実親家庭との生活の行き来の中で生じるニーズが明らかとなった。一点目は、日常の生活が見えないことである。養育里親等では、一度里子が受託されれば、日常の生活のすべてを里親が把握することが可能である。しかし一時保護委託の場合、里親宅に委託される前の日常生活が見えにくい。子どもの体調の変化等も日常的なことなのか、通院を要する状況なのかがわかりづらくなってしまふ。そのため、通院のタイミングに悩む様子がみられた。二点目は、里子との関係の説明の難しさである。特に子どもの心身に関わる医療機関での説明に苦心している。三点目は、子どもが里親を受け入れるプロセスである。一時保護委託は里子にとって、二

人の養育者がいることとなる。事例では、預かり始めた当初、実親を恋しがって泣いていたこと、試し行動があったこと、10日間一緒に過ごした里子が振り返りもせずに実親のところに向かっていくことに寂しさを感じている。しかし、回数を重ねることで里親に慣れ親しむ様子がうかがえる。里子にとっても、二人の養育者を自身の中で受け止めていくプロセスがあることが推察される。このプロセスがあることを踏まえて里親支援を行うことが必要と言える。

(4)経済的支援ニーズ(石田慎二)

本章の里親へのインタビュー調査では、事例 19「大学進学を目指す里子の養育」、事例 20「子どもの器物破損により弁償が必要な状況での養育」を取り上げて、経済的支援ニーズについて検討を行った。

まず、事例 19 では、大学進学という里子のライフイベントにおいて必要となる経済的支援ニーズを取り上げた。大学進学には、進学後の入学金・授業料・生活費だけでなく、進学に向けての塾代なども必要となる。事例 19 では、大学進学後の授業料等は亡くなった親が残した金銭から出していたが、塾代などは里親が全額負担している。しかしながら、これに対して国からの経済的支援を要望するというような語りはなかった。これは、里親の大学進学に対する意識の高さとある程度の経済的余裕があることが関係していると思われる。

第1章のアンケート調査の結果によると、里親世帯は平均月収が 40 万円以上の世帯が約3分の1を占めており（「40～50 万円未満」16.9%、「50 万円以上」18.0%）、高所得の世帯が多いことが示唆された。そのため、里親に大学進学に要する費用を負担できる経済的余裕があり、大学進学に必要な経済的支援ニーズが表面化してきていない可能性がある。その一方で、事例 26 のように金銭面の負担が大きいという語りもあり、大学進学後も含めたアフターケアや実家機能を支える経済的支援のあり方については今後検討していく必要がある。

次に、事例 20 では、里子の日常の養育において起こり得るリスクに対する経済的支援ニーズを取り上げた。子どもの器物破損による弁償額が少額の場合は大きな問題とならないが、事例 1 のように高額なものとなると経済的負担のみでなく、どうしたらいいのかという不安も大きくなる。そうしたリスクに備えるための里親保険は里親にとっての安心感になる。

このような里親保険の存在については「以前に児童相談所から説明があったことを思い出して、児童相談所に相談した」と述べられているように、児童相談所から説明されていないわけではない。しかしながら、説明を受けていても里子の委託時にはそこまで気が回らず、養育が落ち着いてきた頃には忘れてしまっていることもあるため、委託時の説明だけでなく、より周知を徹底できるような方法を検討していく必要がある。

(5)委託のプロセスで発生するニーズ(小池由佳)

この項目は、本調査全体の事例を整理する上で新たに生じた類型である。事例 21～25 を通して委託のプロセスで発生するニーズについて検討を行う。

事例 21 では里親登録から委託に至るまでの時間的、経済的、心理的負担について示され

た。里親登録をしてから委託までの期間の長さ、マッチングのための時間的、経済的負担、そして未委託であること、後から登録した里親に先に委託されることによる自己への否定感がある。特にここではマッチングのための時間的、経済的負担について取り上げたい。マッチングは里親にとっても里子にとっても、里親不調、措置変更を生み出さないために必要な時間と機会である。しかしながら、本事例のように、マッチング期間にかかる諸経費はすべて里親候補者の負担となる。回数の多さやアクセスの悪さによって負担感はお高くなるだろう。さらに共働き家庭という時間的制約がかかることで、なお負担感は増す。この事例では、負担感を乗り越えたのは、子どもを育てたいという強い思いがあったからであるが、それでも、子どもの性質や施設からの声かけにより、心が折れそうになっている。マッチング期間に対する多様な支援の検討が必要である。

事例 22 では、委託直後から里子との生活が安定するまでの時期に生じたニーズである。子どもを育てるという営みは、里親であれ実親であれ、養育者が頑張れば何とかなるものではない。他者からの助言を受け、子どもと向き合いつつ、経験を積み重ねることで成り立つものである。子育て支援の観点では、第一子の子育てに対する丁寧な支援が必要なことは周知の事実である。この事例では、養育者を「里親」として捉えることによる過度な期待があり、その結果が措置解除という結果につながっている。里親養育も子育ての一つであり、子育てで生じるニーズは里親家庭でも同様に生じるという理解が必要ではないか。

事例 23 は、里親から里親という措置変更のプロセスで生じるニーズである。この事例では、現在の里親が、里子が元里親家庭のことを話すことをどう支え受け止めていくかに心を砕いている。現在の里親家庭との生活が長くなるにつれ、話す機会は減少傾向にあるが、里子の語りを妨げないような子どもへの関わり方が支援ニーズとしてあるだろう。また、他の里親との交流から、子を委託されていた里親が、その後のことを心配していることを知り、もう少し落ち着いたら会わせてやりたいという思いと、そのことの是非に悩んでいる。ケースバイケースではあるだろうが、子の育ちに関わった人のことを子どもに伝えること、養育者に伝えることは、双方にとってプラスの面もあるだろう。子どもにとっては、多くの人があなたを育てたという肯定的な面につながる。元里親は安心につながる。

事例 24 では、里親から特別養子縁組へのプロセスの中で生じるニーズである。事例 24 のように特別養子縁組を目的とした里親は、縁組が成立することによって家族となること大きな目的であり、目標となる。そのため、そこに至るプロセスでは里親だけでなく、近親者も含めて葛藤が生じることになる。里子との生活が始まる時には、子どもが来たことを周りに伝え、これから家族になることを周知する。養育が始まれば、実子の子育てとそう変わらないのではないかと思うようになり、里親であることをあまり意識しないようになる一方、法律上も親子になることができるかどうかの不安を抱えながら過ごし、縁組成立後は「隠す」わけではないが、周りには「あえて伝えない」という選択をする。養育里親と違い、「親子である」ことや「家族である」ことを意識するスタートが違うこと、この親子となることを期待しながらも、親子であることを意識しきれない時期をどう支援するかがニーズとしてあるだろう。なお、この傾向については、特別養子縁組をしている事例 21、事例 23 でも同様のプロセスを経ていることを付け加えておく。

(6) 委託解除後の支援ニーズ(安藤藍)

ここではインタビュー事例分類のうち「VI 委託解除後の支援ニーズ」1)～4)に該当する事例 26「里親不調で委託解除になった後の支援ニーズ」、事例 27「委託解除後の里親の感情のコントロールや里子ロスへのケア」、事例 28「委託解除後の里子へのアフターケア」と、委託解除を経験した事例 22「激しい子どもの試し行動と向き合い育てるための支援ニーズ」も参考に、養育の不調、委託解除後のニーズならびに実家役割に若干の整理を行う。

まず養育の不調について、第 1 章のアンケート調査の結果「10) 里親不調」では、一度でも不調になった経験があるのは 17% (1117 人中 190 人) であった。インタビュー事例 26 と事例 22 では、「委託から解除までの期間の短さ (委託後 2～半年未満で解除)」「里親仲間がいない」「児童相談所、子どもが入所していた施設等による適切な支援の欠如」「里親なりの工夫が中心」「里母の体調不良」などである。委託解除後の共通点は、「里親サロンでの共感」によって無力さや自責の念が軽減されている。たとえ研修で学んでいても、試し行動や暴力的な言動に実際に向き合って困惑することもしばしばある。委託前研修に体感的に子どもの理解ができるような研修や、里親自身のメンタルケアを取り上げる研修も検討できよう。

また、里親会や関係諸機関の連携の質に、個人差はもとより地域差・施設差が大きいことが改めて浮き彫りになった。連携の仕方は多様であってよいが、関係諸機関のメンバーが互いに子どもと養育家庭のニーズを把握・共有し、ケースワークの質を担保することが課題と思われる。そうしたことは、事例 26 で問われたマッチングやアセスメントの妥当性の問題ともつながるものである。未委託の頃から、里親会や里親支援機関等による受託の素地作りが日常的に望まれる。

さて養育不調は、かねてよりたびたび議論されてきたテーマでもある。宮島清 (2011, 「特集 1 養育の不調をどう防ぐか 特集にあたって」『里親と子ども』Vol. 6 : 6-8) は、不調が起こる様々な要因は 1 要因だけによって生じるのではないことを踏まえつつ、便宜上 5 つに分類している。少々省略しているが、以下の 5 つである。

- ①子どもの状況や実親の状況が適切に把握されず、児相・里親・支援機関の間で共有されないため生じる不調
- ②里親の強みと弱さが、里親自身にも、関係諸機関にも適切に把握されず、共有されないため生じる不調
- ③①、②のため、両者のマッチングが適切に行われなかったため生じる不調
- ④子どもの状況、里親の状況も適切に把握され、マッチングも適切だったが、子どもと里親への支援が適切に行われなかったために生じる不調
- ⑤①～④がなされても、子どもの状況の変化、里親の病気や死亡などの不可抗力によって避けがたい不調

ひるがえって本調査の結果とつきあわせてみると、事例 21 では、乳児院等に相談できるのは里親の強みのひとつであるものの、求める支援は受けられず④の比重が大きかった。事例 24 はそもそも③のマッチングが問題の引き金であることがうかがえる一方、解除後に里親自身が自分の固定的な子ども観を見直すなど②に部分的に通ずる変化がうかがえる。社会的養護の社会資源や理解の乏しさを背景に①～③の上に適切な支援がなされなかった複合的なプロセスがみてとれる。

また、不調ではなく家庭復帰をしていく子どもたちを見送るにあたっての、感情のコントロール（喪失感など）を取り上げた事例 27 は、事例 24 『里親養育』と『子育て』の間で生じる葛藤」と通じる点がある。子どもも、里親や同居する実子などの間に親密な関係を築きつつ、実親家庭への思いを大切に抱き、揺れ動いていることが確認される。子どもたちが年齢に応じて感じていることをありのままに話せる場や関係性も必要と思われる。

委託解除後のアフターケア、実家役割もながらく大きなテーマである。里親による委託解除後の有形無形の支援は、「家族」「親子」として過ごした時間をもとに子どもが成人後もしばらくの間行われることも少なくないと思われる。事例 28 もこの一例とみてよいだろう。ここから見えてくるのは、養育中から子どもが望めば委託解除後も安心して里親や人間関係のつながりを維持して生きていけることであるが、その保障の仕方が困難という点である。インタビューの里親さんが述べたように、アフターケアや実家的な役割は自分の方針として行われている。例えば（4）経済的支援ニーズでも触れられたように、里親の平均所得の高さや意欲がそろえば可能になりやすい。実家役割は制度的にも期待されているが、学費や生活上の世話のほか、仕事の行きづまりや病気等様々な事態が起き得る中で、里親が子どもを支援し続けるための体制、保障はないといってよい。インタビューの案のように、かかった実費のみ負担してくれる形は一案でもある。

2) インタビュー調査全体の考察

(1) 里親に委託される子どもの抱える課題の深刻さ(千賀則史)

インタビュー調査で得られた「里子の特性に起因する養育支援ニーズ」の8事例に焦点をあててみると、事例1は発達障がい、事例2、3はADHD、事例4は知的障がい・発達障がい、事例5、7は知的障がいというようにほとんどの事例で発達障がいの診断がついていた。発達障がいというだけでも養育の負担は非常に大きいですが、これらの事例では、不適切な養育環境での育ちに起因する愛着の問題がさらに加算されているため、受託される里子の養育は、より大変なものになることが容易に想像できる。実際に、暴力(事例1、2)、自傷(事例1、3)、無断外出(事例4)、不登校(事例4、5)、金銭持ち出し(事例4)、万引き(事例5、6)、器物破損(事例6)、性非行(事例7)、虚言(事例8)といった行動上の問題への対応が求められ、里親養育という枠組みで対応することが難しいと思われる事例ばかりであった。

これらの事例は、いずれも発達障がい児や被虐待児への心理的ケアに苦慮しており、養育プロセスにおいて、里親家庭になんらかの危害が及ぶこともあった。このように深刻な課題を抱える子どもを受託したにもかかわらず、里親養育を継続することができたケースは、里親家族の協力、学校や病院との連携、里親支援専門相談員や児童相談所等による支援、里親仲間や地域の支え、福祉サービスの利用などの支援がそれなりに機能していたと捉えることもできるだろう。これらの対極例は事例26であり、里親家庭が危機的な状況に陥った時に里親からSOSが出されたが、児童相談所等による適切な介入は行われず、里親不調による措置解除となってしまった。

発達や愛着に深刻な課題を抱えた子どものケアには、生物・心理・社会的な側面から多面的・統合的にアプローチしていくことが必要なため、多機関・多職種連携は必須である。さらには、様々な要因が輻輳して生じる子どもの行動上の課題に対しては、具体的な処方箋があるわけではなく、個々の事例の支援ニーズに応じて粘り強く対応していくことが求められる。

こうした困難ケースへの対応で大切なのは、「みんなで困ること」だと思われる。象徴的なのは事例5であり、子どもの万引きへの対応のために、学校や児童相談所等と協働して取り組んだが、専門家の介入によって問題が解決したわけではなかった。分岐点は、里親に「健全な諦め」が生じた時であり、「うちにいる間に治してあげたいって気持ちはありますよ(略)(でも)そればっかり考えると、彼女のいいところも見落としてしまうようになるので」という語りが生まれたように、みんなで一緒になって困りながら最善を尽くすことによって、見えてくるものもあると考えられる。

深刻な課題を抱えた子どものケアは、一筋縄ではいかないものであり、里親支援で必要なのは、目の前の課題の具体的な解決の方法ばかりに目を向けるのではなく、みんなで困り、みんなで支え合うことだと思われる。そうした関係性が生まれることで、里親は養育を継続することが可能となり、結果として、里親子関係の安定へとつながっていくと考えられる。

(2) 里親研修や里親類型の見直しの必要性(伊藤嘉余子)

インタビュー調査全体を通して、発達障がいや知的障がい、愛着障がいなど、子育てにおいて特別な配慮や支援を必要とする子どもが養育里親に委託されるケースが少ないことがうかがえた。制度上、そうした特別な配慮を必要とする子どもの養育は専門里親に委託することとなっているが、どの自治体においても専門里親の数が不足している現状にある。こうした中、本来、専門里親に委託されるべき子どもが養育里親に委託されるケースが増えていると考えられる。つまり、制度の内容と里親委託の実態の間に大きな隔たりがあるといえる。

現在、日本の養育里親は「養育里親」と「専門里親」の2種類しか設定されていない。そして専門里親が圧倒的に不足している現状である。これでは、子どもの支援ニーズに応じた丁寧なマッチングがしづらいつつ同時に、里親自身の率直な感覚として「自分は養育里親のはずなのに、どうしてこんなに難しい子どもが委託されるのか」「専門里親のところに委託されてもおかしくない大変な子どもを養育しているのに、手当は専門里親よりも少なく、児童相談所からも評価されていないのではないのか」といった違和感を覚えるのではないかと懸念する。子どもの状態にあった丁寧なマッチングを実現するには、養育里親の類型の見直し、ひいては養育里親を細分化したり、レベルシステムを導入したりする必要があると考える。

まず、養育里親の細分化については、大阪府や滋賀県など自治体独自で「一時保護専門」や「乳幼児短期養育を専門」といった形で里親を募集・登録、分類しているところもある。そうすると里親自身も「自分は乳幼児専門だから必要な物品を用意しよう」とか「自分は一時保護専門だから24時間緊急対応できる態勢や心づもりで」といったように、委託後の自分たちの生活をイメージしながら様々な準備をすることができる。里親として、里子をどのような形で迎えるか、迎えた後の生活がある程度イメージできているかは重要だと考える。

また、カナダのブリティッシュ・コロンビア州(以下、BC州)では、養育里親についてレベル1～レベル5までのレベルシステムを設けている。レベル5が日本で言う「専門里親」にあたる。レベルによって委託される子どもの背景や支援度が異なるとともに、支払われる手当や必要とされる研修内容も異なる。カナダBC州の里親は「自分はレベル2の里親だから、これくらいの子どもは養育できるけど、それよりも重度の障がいの子どもは無理」といったように、自分の養育レベルを自覚している。また日本の児童相談所にあたる機関が「力量がある」と認めた里親には、レベルアップ研修を受講するよう依頼することである。

里親の養育環境や生活スタイルを含めた「養育力」に焦点をあてた分類か、あるいは子どもの支援ニーズに応じた分類にするかはもう少し丁寧な議論が必要であるが、現行の「養育里親か専門里親か」の二つしかない現状は改善すべきであると考えられる。

さらに、委託前および委託後の研修内容についてもより充実させていく必要がある。先述したように、被虐待経験や障がいのある子どもが委託されるケースが増えてきていることもあり、そうした子どもたちを養育するにあたって理解しておくべきことや配慮すべきことについて具体的に理解できるようなきめ細やかな研修が求められる。

(3) マッチングから委託後支援までのケースワークの課題(小池由佳)

調査全体を通して、里親登録後のマッチングから委託後の支援に至るまで、里親の種別やその流れに応じた、より丁寧なケースワークの必要性がうかがえた。以下、ケースワークのプロセスに従って、課題を整理する。

まずインテークである。里親委託では、委託候補児との出会いから委託に至る時期であるマッチングが該当する。委託児に障がいのある子が多くなっている今日、その子を養育する力のある里親を選択することができているか、その子の委託を里親が肯定的に捉えているか、その里親に委託することが子どもに家庭養育を保障するものとなっているか、といった里親からの観点と子どもからの観定の双方から検討し、そこにミスマッチが生じていないかを確認する必要がある。適切なマッチングのためには、現状の里親登録数ではまだ不足していると言える。里親登録を増やし、よりよいマッチングにつなげるためにも、この時期の心身両面からの支援が必要と言える。また、今回の調査では、親族里親ならではのプロセスの特徴（まず候補となる子どもがいることで、里親登録となる）から、マッチングの位置づけが違うことも明らかになった。自身が引き受けなければ子どもたちはどうなるのか、という差し迫った状況の中で判断していることを配慮する必要もあるだろう。一方で、親族に育てられるメリットもある。里親委託率の向上のひとつとして、親族里親が期待されている今日、親族里親ならではの特徴を踏まえたマッチングを行うことが求められる。

次にアセスメントおよびプランニングである。アセスメントで大切なことは「見通しの共有」であると、上記考察 2) (1) で示されている。里親家庭での養育が始まることによって、里子がどのような行動を起こすか、里親自身の生活がどのように変化するかといった見通しを、里親と児相はもちろん、里親委託前の施設や学校や保育所等、子どもが利用すると思われる地域資源とも共有することで、里親養育で生じる親子関係の課題や子どもの問題行動への対応に対し、連携をもって支援することが可能となる。このことは、里親が地域で孤立することを防ぐことにもつながる。

委託後は、モニタリングとフォローアップが欠かせない。いずれも里親種別やそのプロセスで特徴がみられた。モニタリングには、すべての里親に共通するモニタリングの内容がある一方で、里親家庭で暮らすことで生じる課題という観点と、委託のプロセスで生じる課題という2点からのモニタリングの必要性が推察された。フォローアップのあり方も児童相談所や里親交流の場など社会的養護に関する資源を活かすと同時に、地域資源にいかにつなげるか、近親者の存在も含めて、個別ニーズに合わせたフォローアップ体制を組むことで課題の解消につなげることができると考えられる。

最後にアフターフォローである。インタビューでは、里親委託解除後であっても、里親が実家役割を果たしていることが明らかとなった。一度里親として子どもと縁が生じると、制度上での委託が終わったとしても、その後の拠り所として存在し続ける里親が多い。一方で、そうなることが予見されるため、里子との養育縁組に二の足を踏んでいる里親もインタビューで明らかとなった。里親の善意に依存した支援ではなく、里親が育てた子どもたちを今度は社会がどう受け止めていくか、拠り所としての里親の役割を認めつつ、元里子、里親の双方にとって望ましいあり方の構築が求められる。

(4) アウトリーチ型の委託後支援の重要性(安藤藍)

インタビュー調査結果を概観すると、子どもの特性や生育歴、マッチングやケースワークの課題が挙がってきた。特に(1)「里親に委託される子どもの抱える課題の深刻さ」では、改めて子どもたちの愛着障がいや発達障がい、暴力行為等による困難さが浮かび上がった。そこでは「みんなで困る」ことが提案されたわけだが、ひとつのやり方としてアウトリーチ型支援の重要性を考えてみたい。

アウトリーチ型支援で発揮される強みは、在宅での支援が可能である点、自覚していない支援ニーズを認識できる点、以上がチームで行なわれる点等が挙がるだろう。在宅支援では、家庭にいる時の子どもや里親たちの様子がわかる利点もある。例えば、事例6「(子どもは)モヤモヤみたいなのを暴力とかものを壊すとかで発散していたんだと思います」という経緯や状況など、相談機関に出向くよりも丁寧にみてとることができるだろう。事例24や21のように、里母が委託直後の試し行動などに困っている時も、里親会に出向くほかに、家庭でくつろいで話せる機会があれば心理的負担は軽減され得る。ほかにも、里親会にスケジュールが合わず行けない(事例3)、共働きであるといった場合には、休日や夜間に時間を設定することも考えられる。

また、困っていても相談に行く必要性を感じないケースもあるだろう。相談に行って「困っていると思われて上から目線の助言」(事例1)など、相談という形以外にも日頃から安心して話せる環境を用意する中で、自覚していなかった思い込みや困り感に気づくことがあるかもしれない。そのほかにも、本調査で複数の事例にみられた、支援の網の目からこぼれがちな実子のニーズにも気づきやすいことが想像される。ただ、養子縁組里親や親族里親は、アウトリーチ型支援といってもその特性に応じたあり方を検討する必要がある。事例23(養子縁組里親)の場合、「(地域に)ただの子育て家庭として付き合ってもらいたいこともこの子にとってはいいことなのかな」と実子として育てることに意味を見出している。「『伝える』『隠していないが特別には伝えない』『伝えない』ことの違い」のような微妙な違いのどのあたりにはアウトリーチが活きるのか、いかなるタイミングやペースが適当なのかといった論点が生じると思われる。アウトリーチ型支援にも多様な人材とメニューをそろえていかなければ、個々の家庭のニーズを捉えきれない。

最後に、チームでのアウトリーチ型支援の可能性についてである。精神障がい者の地域移行のような先行領域が既にあるが、社会的養護においても先輩里親によるメンター制度のような形で、NPO団体や複数の自治体で行われてきた。里親子支援のアン基金プロジェクトが実施していた家庭訪問事業は、メンターとソーシャルワーカー、スーパーバイザーがチームとなって行っていた。ケースについてチームで共有しており、記録の管理も徹底する。こうした「チーム」でのアウトリーチが民間機関の協力によって行われれば、里親仲間との談話やワーカーによる訪問とは違う形での多層的な支援につながり得る。

もちろん、以上のようなフレキシブルな支援ができるためには、支援者のスキルアップ、支援者同士の情報共有のほか、その雇用や労働環境が整えられなければならない。アウトリーチ型支援は、里親サロンへの参加やレスパイトケア、定期的な助言などほかの支援方法の活用を併用することが望まれることは付言しておきたい。社会資源が不足する地域もあるが、子育て支援事業一般との接続も視野に入れつつ行われれば、地域における子どもの育ちを支える支援の一端になるだろう。

(5) レスパイトケアの周知と活用(石田慎二)

インタビュー調査全体を俯瞰してみると、レスパイトケアの重要性が浮かび上がってきた。事例7「性的虐待の被害による影響を抱えた子どもの養育」、事例8「不十分な生活力、人間関係形成力への働きかけ」では、一時保護を利用しており、里子の一時保護を通して「里親としての原点に立ち戻り、気持ちを切り替えること」につながっていた。

今後、里親委託が増えてくると里親が養育において困難に直面するケースも増えてくることが考えられる。このように里子の養育に困難を感じた際に一時保護などのレスパイトケアを利用することは、里親のバーンアウトによる委託解除を避けるために有効である。しかしながら、困難を感じた際に自ら相談できずに問題を抱え込んでしまう里親もいることが想定されるため、このようなレスパイトケアを効果的に活用していくためには児童相談所や里親支援機関から里親へレスパイトケアを勧めるなどの積極的なアプローチも必要となる。

「里親の一時的な休息のための援助（レスパイト・ケア）実施要綱」では、レスパイトケアの実施施設として「乳児院、児童養護施設等又は里親」があげられているが、里親の「一時的な休息」「リフレッシュ」という意味では、レスパイトケアをもう少し広く捉えて検討することも必要である。例えば、障がいのある子どもの養育においては、事例3の「発達障がいと愛着の問題を抱える子どもの養育」のように児童デイサービスを活用することもレスパイトケアとして効果的であると思われる。したがって、レスパイトケアを「乳児院、児童養護施設等又は里親」で実施するだけでなく、里親や里子のニーズによって利用できるサービスをレスパイトケアの視点から活用していくことも必要である。

また、このようなフォーマルなサービスだけでなく、祖父母（里父母の親）のサポートなどのインフォーマルな支援が里親のレスパイトケアとして機能していることがうかがえた。とりわけインフォーマルな支援として大きな役割を果たしているのは里親会である。里親会は里子を一時的に預かるなどのレスパイトケアの実施施設として役割を果たしているわけではないが、里親会の集まりで話を聴いてもらうなど、先輩里親の押しつけにならない見守り、声かけが里親のレスパイトケアとしても効果的に機能していると思われる。里親会がセルフヘルプグループとしての支援体制をさらに検討していくとともに、里親会の活動を周知していくことが必要である。

(6) 保護的なセーフティ・ネットワーク(千賀則史)

改めてインタビュー調査の結果と考察を全体的に振り返ってみると、里親支援でキーワードとなるのは、「人と人とのつながり」だと思われる。ここでいう「つながり」とは、一本の糸のようなものではなく、網目状に広がる複数の糸のようなものであり、こうしたつながりが安全網や頼みの綱となることで、たとえ危機的な状況に陥ったとしても、里子や里親のことを守ってくれる。このような保護的なセーフティ・ネットワークが形成されることで、里親子は成長することができ、不適切な養育の影響によって滞っていた子どもの発達動き出すと考えられる。

インタビュー調査の中で、印象的だったのは、事例3の「別に里親が一人で必死で育てなくてもいいんだ」「社会的養護なんだ」「社会的にみんなで見よう」「甘えてもいいんだ」という語りである。「里親だから一人でしっかりやらないといけない」という価値観が「里親だからみんなで育てればいい」という考え方に变化したことで、里親は一人で抱え込まなくなり、よい意味での余裕が生まれたことで、里親子関係にプラスの影響が生まれたと思われる。特に「里子の特性に起因する養育支援ニーズ」の事例からは、里親が困難に直面したことを契機に、様々な支援が関わるようになり、里親自身が周囲に支えられることで、里親子関係が安定化していくプロセスが示唆された。

その一方で、事例2では、「実子の子育てでもそうですけど、我が子のことでそんなにいろいろなところに相談しないでしょ、たぶん」と、誰かに相談しながら子育てをすることに対する抵抗が語られていた。これにはマッチングのプロセスで「共働きはダメだ」という趣旨のことを言われたことも少なからず影響していたと思われる。現代社会では、共働きがあたり前になっているにもかかわらず、里親が共働きをすることに対しては未だ否定的な意見があることは否めない。実際に事例24のように、里子を迎え入れるために仕事を辞める里親も少なくないだろう。

こうした背景には、母子関係が人間関係の基礎となるため、それが十分に形成されるまでは、里親は養育に専念しなければならないという考え方があると思われる。しかし、近年のアタッチメント（愛着）理論では、母親中心の1対1の子育ては幻想であり、協働繁殖という考え方が一般的になってきている。すなわち、母親でなくとも別の養育者がアタッチメントの対象になり得るし、さらには複数の人が養育に関わり、子どもが複数のアタッチメント対象を得ることで、子どものアタッチメント形成が総合的に育まれるという集団子育てに関連する研究が行われている。

母親任せの養育は、母親の子育てのストレスを高め、虐待発生のリスク要因になるのと同じように、里親任せの養育の問題性は大きい。ましてや前述したような深刻な課題を抱える子どもを里親任せで養育するとなれば、一部の特別な人にしか里親は務まらないだろう。様々な支援者が里親子に積極的に関わり、子どもの養育を補い合えるネットワーク型の養育環境を用意することができれば、共働きの里親はもちろん、様々な人が里親として、その強みを発揮することができるようになる可能性を秘めている。

以上のように、里親支援を閉ざされたものではなく、社会に開かれたものにしていくことが重要であり、保護的なセーフティ・ネットワークの構築を促進するような支援のあり方について、これから考えていく必要がある。

終 章 本研究の結論と今後の課題

1. 本調査研究の総合考察

本研究では、現在、養育を委託されている里親を対象としたアンケート調査とインタビュー調査の結果を通して、里親養育の実態と支援ニーズについて考察してきた。これら二つの調査を通して、本研究の結論としていえることや、今後の課題について 4 点に示唆して述べる。

1) 高齢児童を養育する里親に対する支援の充実の必要性

アンケート調査結果から、里親に現在委託されている児童の年齢は 0 歳から 18 歳まで、特定の年齢層に偏りがなかったことが明らかになった。その一方で、経済的負担、精神的負担ともに、委託児童の年齢が高いほど負担が大きいことも調査結果から明らかになっている。

インタビュー調査でも、大学進学という里子のライフイベントを迎えるにあたって、塾の授業料、大学受験料、入学金、大学の授業料など里親にかかる経済的負担の大きさが明らかになった。また家計調査でも、中高生の学費や自立に向けた準備に関する経済的負担の多き朝が示唆された。

また、アンケート調査でもインタビュー調査でも、思春期や非行といった高齢児童ならではの養育支援ニーズの高さが示唆された。経済的支援だけではなく、専門的な相談支援の拡充も重要な課題のひとつといえよう。

さらに、高齢児童を育てる里親への支援については「支援の継続性」という視点も重要になる。つまり、委託する時点での年齢が中高生のケースだけではなく、委託時に幼児や小学生だった場合も、長期養育ケースであれば、数年後には高齢児童になり、委託時とは支援ニーズが異なってくるという点を意識した「継続的な支援」が展開される必要がある。アンケート調査結果をみても、里親家庭には長期養育が見込まれる子どもが多く委託されていることが示唆される。養育期間が長期になると、それだけ里親子関係も安定してきていると考えられるが、中高生ならではの新たな支援ニーズが発生することも視野に入れた支援が必要である。

2) 委託期間外(委託前/委託解除後)の支援の充実の必要性

インタビュー調査から、委託中の支援はもちろんのこと、委託前や委託解除後の支援ニーズが高いことが示唆された。

まず、委託前のインテークやマッチングのプロセスにおける里親に対する丁寧な説明や情報提供が必要であるが、この点については、アンケート調査結果から、里親自身はあまり不満を感じていないことが明らかになっている。しかし、インタビュー調査で収集した事例の中には、マッチング期間の面会等にかかる費用（交通費など）が里親の自己負担であることへの葛藤が語られた事例もあった。緊急性の高いケースを除き、多くのケースでは委託前に一定期間、面会や外泊などの交流（マッチング）の期間を設定する。その期間の里親の経済的負担については、これまであまり注目されてはこなかったように思われる。今回の調査結果が、マッチング期間の経済的支援を含めた里親支援のあり方について検討

する契機になればと考えている。

またあわせて「委託前の支援」として「未委託里親への支援の充実」も今後の課題といえる。アンケート調査では、登録には至ったものの「自分たちには養育はまだ無理だと児童相談所から思われていたため（未委託の期間が1年以上になった）」と考えている里親が31人いた。里親支援機関事業の一つとして、未委託里親を対象として「里親トレーニング事業」が予算化されているが、この事業の実施状況は必ずしも高くないことが昨年度の調査によって明らかになっている。本事業の充実が必要である。

次に、委託解除後の支援ニーズについてである。インタビュー調査では、不調によって委託解除になったか否かにかかわらず、里親の感情のコントロールや里子ロス等といった委託解除後の里親の精神面のフォローに関わる支援ニーズが明らかになっている。

アンケート調査によると、里親不調の経験者は190人（17%）で、その原因としては「障がい児や被虐待児などのケアに対応しきれなかったため」が最も多く、次いで「里親家庭に危害（暴力、器物破損、性被害など）が及んだため」であった。こうした里子の特性や行動上の問題から不調となり委託解除に至った里親の中には、自身の無力感や途中で養育をやめてしまった罪悪感に苛まれる人も少なくないと考えられる。不調による委託解除を経験した里親へのフォローや振り返りの儀式、次の委託に向けた意欲喚起などのケアをしっかりと行っていく必要がある。

また、不調ではなく委託解除となるケースでも里親へのアフターフォローは重要である。円満な家庭復帰であっても、それまで家族として愛情を注いで養育してきた子どもがいなくなった後の寂しさに悩む里親もいることがインタビュー調査でも明らかになっている。里子の意思や里親の思いを尊重しながら、委託解除後の里親子の交流のあり方や、解除後の里親の精神的ケアについても丁寧に検討していく必要がある。

さらに、委託解除後も里親が、里子や場合によってはその実親にとっての「実家機能」を果たし続けている事例もインタビュー調査で明らかになっている。里子の実家機能を果たす里親に対する支援のあり方についても、今後検討する価値がある。里親の善意にのみ依存するのではなく、里親が実家・拠り所としての機能を担いながら、社会全体で里親家庭を巣立った若者の自立生活を支えていくことのできる仕組み作りが必要である。

3) 委託前の里親/子どもに関するアセスメントのあり方の検討

先述したような不調による委託解除を防ぎ、安定した里親養育を保障するためには、委託前の丁寧なアセスメントが重要になる。丁寧なアセスメントやマッチングには、里子の受入先である里親家庭に多彩なレパートリーがあることが大切になる。しかし、現実には、多くの自治体で里親は不足している現状で、子どもの養育ニーズにあった里親をマッチングするということが必ずしもすべてのケースで実現できるとは限らないところも多い。

厚生労働省の『児童養護施設入所児童等調査結果』（2013（平成25）年2月1日現在）によると、里親委託児の約20%に障がい、約30%に被虐待経験があると報告されているが、本調査でも同様の傾向が見られた。第1章のアンケート調査の結果によると、これまでの里親経験を含めると、34.4%（399名）が障がいのある里子を受託したことがあり、障がいの種類については、発達障がいが52.9%（281名）、次いで知的障がい32.2%（171名）であった。また、42.2%（494名）が被虐待体験のある里子を受託したことがあり、性的虐

待を受けた子どもを受託した里親数についても53名にも及んでいた。これから里親委託が推進される中で、被虐待経験や障がいのある子どもを里親が養育する機会は、ますます増えていくと思われる。

あわせて、里親不調を経験した里親の多くが、上記のような障がいや被虐待経験のある里子の養育に苦慮して委託解除に至ったとアンケート調査では回答されていた。マッチングの問題だけではなく、委託後支援の充実の必要性があることは当然であるが、委託時のマッチングやアセスメントの段階で工夫できる部分もあるだろう。インタビュー調査の考察でも述べたが、丁寧なマッチングを行うには、現行の「養育里親か専門里親」という類型のみでは限界があり、養育里親を細分化してアセスメントを行う必要があるだろう。例えば、長期養育が可能な里親、緊急一時保護が可能な里親、短期養育が可能な里親、どのようなケースでも対応できる里といったように、あらかじめ類型化しておいた上で、里子の背景や支援ニーズを踏まえてマッチングを行う。このような仕組みを採用すれば、里親に対しても「なぜあなたにこの子どもを委託するのか」の理由を説明しやすくなる。

また、アセスメントやマッチングにおいては、里親自身が、自分たち家族の養育力や受けることのできるケースについてある程度適切に自己理解ができていることも重要である。児童相談所には、里子のアセスメントと同時に里親家庭のアセスメントを的確に行うことと、その内容を可能な範囲で里親と共有することが求められているのではないだろうか。

4) 里親が支援を活用しながら里子の養育を続けられるような仕組み作り

最後に、委託後支援の充実と、里親が感じる「支援を利用することへの抵抗や葛藤」を軽減する必要性について述べる。

アンケート調査では、家庭訪問による支援や、委託予定児童に関する情報提供といった里親への養育支援について、多くの里親がおおむね満足しているという結果になった。しかし「状態の把握」「養育状況の評価」「委託後の相談支援」については、やや満足度が低いという結果になっており、今後改善していく必要性が示された。

インタビュー調査では、困難に直面した際の里親の思いとして「児童相談所等に相談しづらい気持ち」を語る里親が複数いた。相談しづらい背景としては、「力が足りない里親と思われるのではないかという不安」のほか、「委託前のマッチング時に抱いた違和感や不信感」をあげる里親もあり、委託前からの里親と担当ワーカーとの信頼関係作りの重要性が示唆された。

その一方、里親同士のつながりや、近隣や学校などで出会った、里親養育に理解ある人の支えによって、困難を乗り越えた経験についても多く語られた。里親が里親だけで養育を抱え込まないためには、児童相談所だけでなく、地域社会に多くの理解者や応援団が存在する必要がある。理解者や支援者を地域に増やすためには、里親（制度）について広く知ってもらえるような広報・啓発の取り組みの拡充が重要になってくる。

また、里親自身に対しても、委託前あるいは登録前から「支援を利用しながら子育てすることの大切さ」についてしっかりと伝えていく必要がある。レスパイト、里親サロン、専門的な相談支援、里親保険など、里親が直面する困難に応じて多様な支援があるということを里親が理解できるような働きかけが大切である。

2. 本調査研究の限界と今後の課題

1) 本調査研究の限界

まずアンケート調査においては、回収率が低かった点は課題のひとつである。この点については、調査の依頼方法、調査時期、調査票の内容など、いくつか反省すべき課題がある。こうした調査に対して「回答する価値や意味がある」と里親自身が感じてくれるような調査のあり方について、今後さらに検討を重ねていきたい。

また、アンケート調査の第2部である家計調査については、第1部よりもさらに回収率が低く、回答内容に欠損値も多く、分析する際に苦慮した。今回、里親養育における経済的負担の実態について明らかにすることを目的として家計調査を実施したが、調査時期や1か月の収支を回答してもらうという方法の妥当性等について省察していく必要がある。

インタビュー調査では、なるべく多くのパターンの「養育上の困難とそれを乗り越えたプロセス」について聞きとることによって、里親養育の実態と支援ニーズについて明らかにしようとした。その結果、28事例を収集することができたが、あらゆる支援ニーズについて網羅できたとはいえず、今後さらに事例を収集して、支援ニーズの内容と必要な支援のあり方についてさらに考究していきたい。

特に、経済的支援ニーズについてはあまり明らかにすることができなかった。これはアンケート調査結果にもあらわれているが、今回の調査に回答してくれた里親は、比較的経済的に余裕のある里親が少なかった。そのため「大変だったけど、里親が経済的に負担することによって困難を解決した」という経験を語る里親が複数いた。

経済的に余裕があるということは当該里親にとって大きなストレングスではあるが、経済的に余裕がないと里親にはなれないということではない。また、里親の経済力のみに依存して、国・行政が経済的支援を拡充する必要性はないという話でもない。里親の経済的支援ニーズについては「里親手当の増額ではなく、必要なお金（実費）をしっかりと払ってもらえる方が大切」との回答や「自分の意思で好きで里親をしているのに、お金のことは言いづらい」といった回答もあったことから、里親の経済的支援ニーズについては、当事者ではない立場の人間が代弁していく必要がある。

2) 今後の課題

今回の調査研究事業では、全国の里親を対象としたアンケート調査とインタビュー調査によって、現在養育受託中の里親の養育実態や支援ニーズを明らかにしようとした。その結果、特にインタビュー調査結果からは、実際には、それぞれの自治体の地域特性によって、養育のしやすさ/しづらさや支援ニーズは異なるであろうことが示唆された。例えば、当該自治体における児童相談所の数や里親支援機関の数、公共交通機関のレパトリーによる社会資源へのアクセスのしやすさ、里親の数や委託率などによって、里親としての活動/養育のしやすさは異なると考えられる。今後は、そうした地域特性にも強く着目しながら、里親の支援ニーズや里親支援のあり方について検討していきたい。

また、今回は、里親種別による支援ニーズについて十分明らかにすることができなかった。インタビュー調査では、親族里親の特殊性、養育里親と養子縁組里親との「家族になる」の定義の差異について、一定の示唆が得られたため、これらの点をさらに掘り下げる

ことによって、必要としている支援や研修の共通点と相違点について一定の整理ができるようなさらなる調査を続けていきたい。

3. 本調査研究事業の成果の公表方法

1) 報告書の印刷・製本・配付

まず、この報告書を調査にご協力頂いた全国里親会と各支部、インタビューにご協力いただいた里親家庭、児童相談所、里親支援機関等に配付する。なお、印刷・製本費が限られていることもあり、不足分については、CD-ROM 版の報告書を配付する。

2) 大阪府立大学 HP における公開

本事業実施主体となった大阪府立大学のホームページ及び事業担当者が所属する「大阪府立大学教育福祉研究センター」のホームページにおいて、本報告書のデータを約 1 年間公開し、誰でもアクセスできる状態にする。

3) 関連学会における研究発表やシンポジウムの開催

事業担当者及び検討会メンバーの所属する関連学会等において、研究発表やシンポジウムの形式で、本研究事業の成果を広く公表していく予定である。

<文献>

- ・ 社会保障審議会児童部会（2016）「新たな子ども家庭福祉のあり方に関する専門委員会報告（提言）」（2016（平成 28）年 3 月 10 日）厚生労働省
- ・ 新たな社会的養育の在り方に関する検討会（2017）「新しい社会的養育ビジョン」（2017（平成 29）年 8 月 2 日）厚生労働省
- ・ 厚生労働省（2011）「里親委託ガイドライン」
- ・ 厚生労働省（2013）「児童養護施設入所児童等調査結果」（平成 25 年 2 月 1 日現在）
- ・ ニキ・ウェルド、ソニア・パーカー著、井上直美編著（2015）『「三つの家」を活用した子ども虐待のアセスメントとプランニング』明石書店
- ・ 宮島清（2011）「特集 1 養育の不調をどう防ぐか 特集にあたって」『里親と子ども』（6）
- ・ 伊藤嘉余子ほか（2017）「厚生労働省：平成 28 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：里親支援にかかる効果的な実践に関する調査研究事業報告書」

謝 辞

本調査研究事業にご協力賜りました、すべての自治体、里親会、里親、児童相談所、里親支援機関等の皆様に、心より御礼申し上げます。大変お忙しい中、快く、アンケート調査やインタビュー調査にご協力下さいましたことに深謝します。おかげさまをもちまして、こうしてここに調査研究結果をお届けすることができました。

調査結果の内容につきまして、ご意見ご指摘等ございます場合は、下記までご連絡下さい。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、皆様方のますますのご健勝と、里親の皆様の充実した生活と、子どもたちの笑顔と安心が守られる生活を心より祈念いたします。

ありがとうございました。

厚生労働省：平成 29 年度「子ども・子育て支援推進調査研究事業」
「里親家庭における養育実態と支援ニーズに関する調査研究事業」

事業担当責任者
大阪府立大学 教授 伊藤 嘉余子

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1
大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科
tki23040@osakafu-u.ac.jp

巻末資料

1. アンケート調査票
2. インタビューガイド

里親家庭における養育実態と支援ニーズに関するアンケート調査

この調査は全国で実際に里子の養育を受託している里親家庭を対象に、里親家庭における養育の実態把握および支援ニーズの把握と分析を目的とするものです。これからの里親支援制度・政策に反映させることを目的として実施するアンケート調査ですので、どうか本調査研究の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートは2部構成になっております。

第1部は里親家庭の状況(里親・子の年齢、里親の就労状況、委託期間、里子の障害や被虐待体験の有無など)やその里親支援の状況、および、満足度を尋ねるものです。

第2部は家計の収支の状況を尋ねるものです。2017年11月1日から11月30日までの1か月あたりの収支の状況をお答えいただくものになっております。家計の状況など、プライバシーにかかわる内容を具体的にお伺いするものとなっており、また、集計等、煩雑な作業をお願いすることになりますが、当該調査の意義をご理解の上、ぜひご協力いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

個人情報保護の方法について

回収されたデータは記号化し統計処理を施し、個人を特定できないようにいたします。
回収されたデータは、研究や政策への反映以外の目的では使用いたしません。

ご記入にあたってのお願い

1. ご記入の際には、質問文をよくお読みいただき、なるべく全ての項目にお答えください。
どの回答にあてはまるのかははっきりしない場合は、最もあてはまるものを選択してください。
2. ご記入がお済になりましたら、同封の返信用封筒に封入の上、ポストにご投函ください。
3. 誠に恐縮ですが、このアンケートは 平成29年12月10日(日)までにご提出をお願いいたします。

アンケートのお問い合わせ先

このアンケートに関するご質問等がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。

大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 教授 伊藤嘉余子(研究代表者)

(TEL) 072-254-9796 (Email) tki23040@osakafu-u.ac.jp

それでは次ページからのアンケートにご記入をお願いいたします。

第1部 里親家庭の状況

1. 里親の状況について

問1.このアンケートのご記入者〔1つだけ〇〕

1. 里母 2. 里父 3. その他

具体的に

問2.現在、同居している家庭構成〔各数値回答〕

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
合計	里母	里父	実子 18歳未満	実子 18歳以上	里子	その他
人	人	人	人	人	人	人

「里母」のご年齢と就労状況、最終学歴をお尋ねします。（里母がおられる場合にご記入ください）

問3-1.里母の年齢〔1つだけ〇〕

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70歳以上

問3-2.里母の就労状況〔1つだけ〇〕

1. 正社員 2. パート・アルバイトなどの非正規雇用 3. 自営業 4. 無職（専業主婦を含む）
5. 学生 6. その他

具体的に

問3-3.里母の最終学歴〔1つだけ〇〕

1. 中学校 2. 高等学校 3. 短期大学（専門学校・高等専門学校を含む） 4. 大学
5. 大学院 6. その他

具体的に

「里父」のご年齢と就労状況、最終学歴をお尋ねします。（里父がおられる場合にご記入ください）

問4-1.里父の年齢〔1つだけ〇〕

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70歳以上

問4-2.里父の就労状況〔1つだけ〇〕

1. 正社員 2. パート・アルバイトなどの非正規雇用 3. 自営業 4. 無職（専業主夫を含む）
5. 学生 6. その他

具体的に

問4-3.里父の最終学歴〔1つだけ〇〕

1. 中学校 2. 高等学校 3. 短期大学（専門学校・高等専門学校を含む） 4. 大学
5. 大学院 6. その他

具体的に

問5.里親登録年とその時の里親の年齢について

	里親登録年 (西暦)	登録時の里親の年齢〔各1つだけ〇〕					
		20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
里母	年	1	2	3	4	5	6
里父	年	1	2	3	4	5	6

問6.現在、登録されている里親種別〔複数回答可〕

1. 養育里親 2. 専門里親 3. 親族里親 4. 養子縁組里親

問7.これまで登録されたことのある里親種別〔複数回答可〕

1. 養育里親 2. 専門里親 3. 親族里親 4. 養子縁組里親

問8.現在、受託している里子の人数、性別・年齢等について

里子の総人数		人	
--------	--	---	--

	性別		年齢	受託時の年齢	障害の有無		被虐待経験の有無		所 属
	男	女			ある	ない	ある	ない	
①	1	2	歳	歳	1	2	1	2	
②	1	2	歳	歳	1	2	1	2	
③	1	2	歳	歳	1	2	1	2	
④	1	2	歳	歳	1	2	1	2	

問9.これまで養育を受託した里子の人数(受託の種類別)〔各数値回答〕

①	②	③	④	⑤
合計	養育里親	専門里親	親族里親	養子縁組里親
人	人	人	人	人

問10.これまで養育を受託した里子の障がいの有無〔1つだけ○〕

障がいの種類〔複数回答可〕

1. 障がいがあった → 1. 身体障がい 2. 知的障がい
3. 精神障がい 4. 発達障がい (LD、ADHD、アスペルガー等)
2. ない

問11.これまで養育を受託した里子の疾病の有無〔1つだけ○〕

1. 疾病があった → 病名:

2. ない

問12.これまで養育を受託した里子の被虐待の経験の有無〔1つだけ○〕

虐待の種類〔複数回答可〕

1. 経験があった → 1. 身体的虐待 2. 心理的虐待 3. ネグレクト 4. 性的虐待
2. ない
3. わからない

問13.世帯の平均月収について(手当等の国や地方公共団体からの補助金は除外)〔1つだけ○〕

1. 10万円未満 2. 10～20万円未満 3. 20～30万円未満
4. 30～40万円未満 5. 40～50万円未満 6. 50万円以上

問14.里親になろうと思った動機について〔複数回答可〕

1. 子どもが欲しかったため（養子の希望あり）
2. 子どもが欲しかったため（養子の希望なし）
3. 実子にきょうだいがあった方がよいと思ったため
4. 周囲（知人・友達など）にすすめられたため
5. 養護問題（虐待・孤児など）に関心があったため
6. 社会的に意義があると思ったため
7. 特別な理由はなく、子どもが好きだから
8. 実子の子育てがひと段落したため
9. 周りに里親をしている方がいたため

10. その他

具体的に

問15.里親の登録から初めての委託児までの期間(未委託期間)〔数値回答〕

未委託期間	年	ヵ月
-------	---	----

未委託里親の期間が、1年以上だった方にお聞きします

問16.未委託期間が長かった原因は何ですか。〔複数回答可〕

1. 里親として受託可能な子どもが、中々見つからなかったため
2. 養育したい里子が、中々見つからなかったため
3. 里親側の受入れ体制が、中々整えられなかったため
4. 里親や家族の急な事情で、受託できない時期があったため
5. 自分たちには養育はまだ無理だと児童相談所などから思われていたため
6. 里親養育が想像とは違い、戸惑った時期があったため
7. 面会交流や受託の打診があまりなかったため
8. 里子の実親との調整に時間がかかったため

9. その他

具体的に

2. 里親支援の状況について

問17.里子が委託される前の里親への支援状況についてお聞きます。〔各1つだけ○〕

※項目1～11は、複数名の里子が委託されている場合は、直近に委託された里子の支援状況について、ご回答ください。

以下の1～15の項目について、右の1～5の番号に各1つ○をしてください		全 く な か つ た	あ ま り な か つ た	少 し あ つ た	十 分 あ つ た	非 該 当
1	実子と委託予定児童との関係調整への配慮がありましたか	1	2	3	4	5
2	委託予定児童と既に委託されている児童の関係調整への配慮がありましたか	1	2	3	4	5
3	マッチング中に起こる様々な課題に関する相談に応じる支援がありましたか	1	2	3	4	5
4	マッチング過程における、里子との関係を構築するための助言支援がありましたか	1	2	3	4	5
5	里親宅に状況に応じて家庭訪問し、里子との関係を確認する支援がありましたか	1	2	3	4	5
6	委託前に里親と里親支援機関等との良い関係を築く支援がありましたか	1	2	3	4	5
7	里親家族全員の思いを確認する支援がありましたか	1	2	3	4	5
8	委託予定児童の生育歴についての情報提供がありましたか	1	2	3	4	5
9	委託予定児童への、里親委託に向けての気持ちを確認する支援がありましたか	1	2	3	4	5
10	里親委託の理由について、児童の理解を促す支援がありましたか	1	2	3	4	5
11	マッチングの前に、委託予定児童に里親宅での生活について説明する支援がありましたか	1	2	3	4	5
12	未委託里親のとき、実習する機会がありましたか	1	2	3	4	5
13	未委託里親のとき、養育を学ぶ研修の機会がありましたか	1	2	3	4	5
14	未委託里親のとき、トレーニングを受ける機会がありましたか	1	2	3	4	5
15	未委託里親のとき、あなたへの状況確認がありましたか	1	2	3	4	5

問18.里子が委託されてからの里親への支援状況についてお聞きます。〔各1つだけ○〕

※複数名の里子が委託されている場合には、直近に委託された里子に限定するのではなく、現在の里親養育支援の状況についてご回答ください。

	全 く な い	あ ま り な い	少 し あ る	十 分 あ る	非 該 当
以下の1～35の項目について、右の1～5の番号に各1つ○をしてください					
1 里親委託児童の生活上の相談に応じる支援がありますか	1	2	3	4	5
2 里親委託児童の進路選択についての相談に応じる支援がありますか	1	2	3	4	5
3 里親委託解除に向けて、児童の思いを確認する支援がありますか	1	2	3	4	5
4 里親委託から家庭復帰する際の支援がありますか	1	2	3	4	5
5 里親委託解除後の児童への支援がありますか	1	2	3	4	5
6 里親委託児童の問題行動に対応するための具体的な目標を立てるなどの支援がありますか	1	2	3	4	5
7 養子縁組が成立した里親に対する相談支援がありますか	1	2	3	4	5
8 心理治療や療育相談など、里親委託児童が利用できる資源の紹介がありますか	1	2	3	4	5
9 里子の実親と里親との交流を促す支援がありますか	1	2	3	4	5
10 実親との関わり方への助言や支援がありますか	1	2	3	4	5
11 レスパイトケアやサポート要員など、里親の休息のための情報提供がありますか	1	2	3	4	5
12 レスパイトケアを利用しやすい体制がありますか	1	2	3	4	5
13 里親をサポートする地域の関係機関とのケースカンファレンスがありますか	1	2	3	4	5
14 里親を支えるネットワークがありますか	1	2	3	4	5
15 児童相談所や地域の関係機関などによる、情報に関する連携体制がありますか	1	2	3	4	5
16 近隣住民からの、里親への理解や協力がありますか	1	2	3	4	5
17 里子や実子が通う学校・園からの、里親への理解や協力がありますか	1	2	3	4	5
18 里親が利用できる地域の支援機関の紹介がありますか	1	2	3	4	5
19 里親が参加できるイベントの開催がありますか	1	2	3	4	5
20 里親が集まれる里親サロンの開催がありますか	1	2	3	4	5
21 里親が判断に迷ったときに里親同士で相談し合える体制がありますか	1	2	3	4	5
22 レスパイトを頼める他の里親との関係構築の支援がありますか	1	2	3	4	5
23 里親の養育技術を向上させる研修会の開催がありますか	1	2	3	4	5
24 自立支援計画の作成時に、里親の意見の反映や話し合い等がありますか	1	2	3	4	5
25 自立支援計画の目標の評価と見直しがありますか	1	2	3	4	5
26 里親を開拓するための講演会がありますか	1	2	3	4	5
27 里親を知ってもらうための講演会がありますか	1	2	3	4	5
28 現在の社会的養護の状況を学ぶ研修会の開催がありますか	1	2	3	4	5
29 発達障害について学ぶ研修会の開催がありますか	1	2	3	4	5
30 児童虐待について学ぶ研修会の開催がありますか	1	2	3	4	5
31 里親委託後、里親のニーズに合わせた研修会の開催や案内がありますか	1	2	3	4	5
32 里親不調(委託解除)への支援体制がありますか	1	2	3	4	5
33 里親不調時における、相談・助言支援がありますか	1	2	3	4	5
34 里親不調時における、里子の実親への指導や調整がありますか	1	2	3	4	5
35 里親不調時における、里子への専門的治療や支援がありますか	1	2	3	4	5

3. あなたや里子の状況について

問19.現在、あなた自身はどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。〔1つだけ○〕

	とても不幸										とても幸せ
点数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

上記の点数の理由をお書きください。

問20.あなたの現在の状況についてお聞きます。〔各1つだけ○〕

1	あなたは、現在の里親支援※に、全体的にどのくらい満足していますか （※情報提供、相談、レスパイト、緊急対応、人や地域からの理解・協力など）	全く満足 していない	満足して いない	満足して いる	とても満足 している
		1	2	3	4
2	あなたは、里親になったことに、どのくらい満足していますか	全く満足 していない	満足して いない	満足して いる	とても満足 している
		1	2	3	4
3	あなたは、子育てへの喜びを感じていますか	全く喜びを 感じない	喜びを 感じない	喜びを 感じる	とても喜び を感じる
		1	2	3	4
4	現在あなたは、里子に健全な育成のためのよい養育を行えていますか	全く行えて いない	行えて いない	行えている	とても 行えている
		1	2	3	4
5	あなたは、ご自身の現在の社会生活の状況※に満足していますか （※生活環境・生活の自立・人間関係・尊厳・平等・安全など）	全く満足 していない	満足して いない	満足して いる	とても満足 している
		1	2	3	4
6	あなたは、里子の養育に「精神的な負担」を感じていますか	全く感じて いない	感じて いない	感じている	とても 感じている
		1	2	3	4
7	あなたは、里子の養育に「経済的な負担」を感じていますか	全く感じて いない	感じて いない	感じている	とても 感じている
		1	2	3	4
8	あなたは、里子の養育に「体力的な負担」を感じていますか	全く感じて いない	感じて いない	感じている	とても 感じている
		1	2	3	4
9	あなたは、里子の養育に「あなたの自由や時間が制限される負担」を感じていますか	全く感じて いない	感じて いない	感じている	とても 感じている
		1	2	3	4
10	あなたは、里親を続けたいと思いますか	全く 思わない	続けたい と思わない	続けたい と思う	とても思う
		1	2	3	4

問21.「現在受託中の受託年数が最長の里子」の現在の状況についてお聞きします。〔各1つだけ○〕

※乳幼児等の場合、まだ分からないこともあるとは存じますが、年齢や個性、反抗期等に応じてご判断いただき、ご回答をお願いいたします。

以下の1～7の項目について、右の1～4の番号に各1つ○をしてください		全く 思わ ない	思 わ な い	思 う	と と も 思 う
1	「現在受託中の受託年数が最長の里子」が今の生活全般に満足していると思いますか	1	2	3	4
2	「現在受託中の受託年数が最長の里子」の心(感性・安心・自信・善悪・優しさなど)は、健やかに育っていると思いますか	1	2	3	4
3	「現在受託中の受託年数が最長の里子」の身体(体力、運動能力、病気への抵抗力など)は、健やかに育っていると思いますか	1	2	3	4
4	「現在受託中の受託年数が最長の里子」の愛着形成や、人間関係の形成力は、育まれていると思いますか	1	2	3	4
5	「現在受託中の受託年数が最長の里子」の自分らしさ・自己表現力・自己決定力は、育まれていると思いますか	1	2	3	4
6	「現在受託中の受託年数が最長の里子」は、将来の社会生活の自立(ルールを守る、学習・仕事・家事への意欲など)に向かって成長していると思いますか	1	2	3	4
7	「現在受託中の受託年数が最長の里子」は、良い環境(住まい・食事・人間関係・遊び場・平等・安全など)で育っていると思いますか	1	2	3	4

問22.現在までの里子で、里親不調(委託解除となった)がありましたか。〔1つだけ○〕

1. 里親不調はなかった

2. 里親不調が1回あった

3. 2回以上あった

→ 里親不調の原因となったものは何ですか。〔複数回答可〕

1. 里子が家庭復帰を強く望むようになったため
2. 里子の忠誠葛藤(里親と実親との間での迷いなど)による反抗のため
3. 里親家族に危害(暴力、器物破損、性被害など)が及んだため
4. 近隣と里子とのトラブルがあったため
5. 実親との調整上のトラブル(同意・交流など)のため
6. 障がい児や被虐待児などのケアに対応しきれなかったため
7. 里親側の養育に不適切な箇所があったため
8. マッチングの相性がよくなかったため
9. 経済的な負担が重くなったため
10. 里親や里親家族の急な事情(病気・介護・転勤など)のため

11. その他

具体的に

問23.今後、期待する里親支援の内容についてご意見等ございましたら、ご記入ください。

問24.上記の問23に書かれた内容を報告書等に掲載してもよろしいですか。〔1つだけ○〕

1. 掲載してもよい

2. 掲載してほしくない

続いて「第2部 2017年11月の収支状況調査」に進みます。

第2部 2017年11月の収支状況調査

2017年11月の収支状況の記入方法

2017年11月1日から11月30日までの1ヵ月あたりの収支の状況を以下に記入してください。記入をするにあたり、委託費収入に関しましては、12月分の措置費請求の11月分の精算額をもとに記入するようにしてください。支出につきましては、学校等から請求のあった請求書等をお取りおきいただき、11月に支払った費目ごとに合計額を記入していただきますようお願いいたします。

Q1. 委託児童と実子についてお聞きます。年齢と委託時年齢、実子年齢の関係による経済負荷を確認するため、子どもたちの状況をお教えてください。

			年 齢	委託時 年齢	現在の就学状況〔各1つだけ○〕									
					未就学	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高国公立	私立高校	特別支援	進各種学校	その他
1	委託児	1人目	歳	歳	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2		2人目	歳	歳	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3		3人目	歳	歳	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
4		4人目	歳	歳	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	実子	1人目	歳		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
6		2人目	歳		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
7		3人目	歳		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
8		4人目	歳		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
9		5人目	歳		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

「未就学」 就学していない子どものうち、保育園・幼稚園に通っていない子ども、「各種学校進学」 専門学校、短大、専修学校、大学、大学院生の子ども
「その他」 未就学以外の就学していない子ども〔以降同様〕

Q2. 2017年11月の1ヵ月に支給された里親委託にかかる委託費の収入の状況についてお聞きます。

①毎月決まって支給される里親関連の委託費

1	里親手当	円
2	一般生活費	円
3	幼稚園費	円
4	教育費	円
5	交通費	円
6	学習塾費	円
7	学用品費	円
8	学習指導費加算	円
9	学校給食費	円
10	特別育成費	円
11	学用品費、通学費等	円
12	補習費	円
13	補習費特別加算費	円
14	里親委託児童通院費	円
15	職業補導費	円
16	児童用採暖費	円
17	その他の補助金など ※1	円
18	合 計	円

※1 補助金名等をご記入ください

※2 補助金名等をご記入ください

②その他、単発、臨時の委託費収入

1	一時保護委託手当	円
2	教育費	円
3	教材費	円
4	部活動費	円
5	資格取得等特別加算費	円
6	自転車等購入費(通学用)	円
7	入学時特別加算費	円
8	育 特 別 費	円
9	入学時特別加算費	円
10	資格取得等特別加算費	円
11	医療費	円
12	夏季等特別行事費	円
13	期末一時扶助費	円
14	就職支度費	円
15	大学進学等自立生活支度費	円
16	入進学支度金	円
17	見学旅行費	円
18	葬祭費	円
19	里親受託支度費	円
20	その他の補助金など ※2	円
21	合 計	円

Q3.2017年11月の1ヵ月において、委託児童すべてにかかった就学に関する支出についてお聞きます。

		①保育園	②幼稚園	③小学校	④中学校	⑤国公立高校
1	授業料	円	円	円	円	円
2	修学旅行・遠足・見学積立費	円	円	円	円	円
3	学級・児童会・生徒会費	円	円	円	円	円
4	PTA会費	円	円	円	円	円
5	その他の学校納付金	円	円	円	円	円
6	教科書費・教科書以外の図書費	円	円	円	円	円
7	学用品・実験実習材料費	円	円	円	円	円
8	クラブ活動など教科外活動費	円	円	円	円	円
9	通学費	円	円	円	円	円
10	通学用品費	円	円	円	円	円
11	学校給食費	円	円	円	円	円
12	その他	円	円	円	円	円
13	寄附金	円	円	円	円	円
14	制服費	円	円	円	円	円
15	合 計	円	円	円	円	円

		⑥私立高校	⑦各種学校進学
1	授業料	円	円
2	修学旅行・遠足・見学積立費	円	円
3	学級・児童会・生徒会費	円	円
4	PTA会費	円	円
5	その他の学校納付金	円	円
6	教科書費・教科書以外の図書費	円	円
7	学用品・実験実習材料費	円	円
8	クラブ活動など教科外活動費	円	円
9	通学費	円	円
10	通学用品費	円	円
11	学校給食費	円	円
12	その他	円	円
13	寄附金	円	円
14	制服費	円	円
15	合 計	円	円

Q4.2017年11月の1ヵ月において、委託児童すべてにかかった就学以外の学習に関する支出についてお聞きます。

		①未就学	②保育園	③幼稚園	④小学校	⑤中学校
1	補助 学 習 費	家庭内学習費(物品費)	円	円	円	円
2		家庭内学習費(図書費)	円	円	円	円
3		家庭教師費等	円	円	円	円
4		学習塾費	円	円	円	円
5		その他	円	円	円	円
6	その 他 の 学 校 外 活 動 費	体験活動・地域活動	円	円	円	円
7		芸術文化活動(月謝等)	円	円	円	円
8		芸術文化活動(その他)	円	円	円	円
9		スポーツ・レクリエーション活動(月謝等)	円	円	円	円
10		スポーツ・レクリエーション活動(その他)	円	円	円	円
11		教養・その他(月謝等)	円	円	円	円
12		教養・その他(図書費)	円	円	円	円
13		教養・その他(その他)	円	円	円	円
14	合 計		円	円	円	円

		⑥国公立高校	⑦私立高校	⑧各種学校進学	⑨その他
1	補助 学 習 費	家庭内学習費(物品費)	円	円	円
2		家庭内学習費(図書費)	円	円	円
3		家庭教師費等	円	円	円
4		学習塾費	円	円	円
5		その他	円	円	円
6	その 他 の 学 校 外 活 動 費	体験活動・地域活動	円	円	円
7		芸術文化活動(月謝等)	円	円	円
8		芸術文化活動(その他)	円	円	円
9		スポーツ・レクリエーション活動(月謝等)	円	円	円
10		スポーツ・レクリエーション活動(その他)	円	円	円
11		教養・その他(月謝等)	円	円	円
12		教養・その他(図書費)	円	円	円
13		教養・その他(その他)	円	円	円
14	合 計		円	円	円

Q5.現在、お住まいの住宅形態についてお聞きます。〔1つだけ○〕

- ### 1. 賃貸住宅



①里親養育を行う中で養育環境の手狭感、不足感など設備変更のために引っ越しをしましたか

1. 引っ越しをした→ **長子※が何歳頃のことですか**

2. していない

歲

※長子・・・一番年上の子ども

- ## 2. 持ち家



②里親養育を行う中で養育環境の手狭感、不足感など設備変更のために設備投資をされましたか

1. 設備投資をした→ **長子※が何歳頃のことですか**

2. していない

歲

Q6.2017年11月の1ヵ月間ですべての委託児童に支出した通信関係の金額をお教えてください。

①	電話・インターネット・郵便等	円
---	----------------	---

②	児童用携帯電話利用費	円
---	------------	---

Q7.過去1年間で特別な出費があれば教えてください。

例・・・修繕、備品(10万以上の家具・電化製品、車等)、大学等への進学等

	費 目	金 額	備 考
1		円	
2		円	
3		円	
4		円	
5		円	
6		円	
7		円	
8		円	
9		円	
10		円	

Q8.措置解除に向けてなど、里親手当から委託児童の自立支援(アフターケア)用に預貯金を行っていますか。〔1つだけ○〕

1. 預貯金をしている → 月額の預貯金額 円
2. していない

Q9.その他、委託児童の養育に関して、特に各ご家庭で金銭の負担になっているもの等があればお書きください。

[illegible]

アンケートは以上で終了です。ご協力いただき誠にありがとうございました。
今一度、回答に抜け漏れ等がないかご確認いただき、同封の返信封筒にてご投函をお願いいたします。

里親養育の実態と支援ニーズに関するインタビュー調査

フェイスシート

＜事例のタイトル＞			
里親さんの年齢		職業	里親種別
・ 里父		・ 里父	・ 里父
・ 里母		・ 里母	・ 里母
里親登録年	里親経験年数	これまでの委託人数	お住まいの都道府県
・ 里父			
・ 里母			
家族構成			
() 人			
年齢 () 職業/所属 ()	年齢 () 職業/所属 ()	年齢 () 職業/所属 ()	
年齢 () 職業/所属 ()	年齢 () 職業/所属 ()	年齢 () 職業/所属 ()	
年齢 () 職業/所属 ()	年齢 () 職業/所属 ()	年齢 () 職業/所属 ()	
里親になろうと思ったきっかけ			

インタビューガイド

ひとりの里子さんの、
印象に残っている特定のエピソードについて詳しくお話を伺います。

1) 今日お話して頂く エピソードの 里子さんに ついて	年齢と性別	
	委託の種類	
	委託の期間	
	委託理由	
	健康状態	
	第一印象	
	実親との関係	
	どんな お子さん でしたか	

2) 今日語って頂く エピソード について	それは いつから ですか	(里子の年齢やきっかけ等)
	どんな困難や 葛藤でしたか	(その時の状況を具体的に) (里親としての気持ちなど)
	その困難や葛藤の 背景や原因として 考えられるものは 何ですか	
	里子さんは どのような反応を 示しましたか	(印象に残っている行動や発言など) (どうしてそれが印象的だったか等)
	周りの人は どのような反応を 示しましたか	(家族、地域、学校など) (またそれらの反応に対する里親の感想)

3) 直面した困難や葛藤に対しておこなった工夫や対処など	里親個人としての工夫や対処	(自分の言動や発想の工夫など)
	家族としての工夫や対処	(里親家庭内での工夫や対処など)
	周りに求めた支援	(児相等フォーマルな支援)
		(親族や友人などインフォーマルな支援)
	工夫や対処の手ごたえや感想	(ありがたかった支援、苦勞したこと等) (なるべく具体的に)

4) おこなった工夫や 対処による 変化や効果	里子との 関係性	
	周囲との 関係性	
	里子自身の 変化や成長	
	里親としての 変化や成長	
	その他 気づいたこと	

5) 里親子にとって このエピソードの 意味や意義	里親にとっての 意味や意義	
	里子にとっての 意味や意義	
	家族にとっての 意味や意義	
	周囲にとっての 意味や意義	
	その他	

6) このエピソードを通しての学びや気づき	里親である 自分に対して	
	「里子養育」 プロセスの特徴 などについて	
	家族のあり方 について	
	里親支援の あり方について	
	地域社会全体 について	
	その他	
7) 最後に何か 言い足りないことや 補足など	(これから里親になる人や地域社会へのメッセージ等)	

ご協力まことにありがとうございました

平成 29 年度 厚生労働省「子ども・子育て支援推進調査研究事業」
課題番号 14「里親家庭における養育実態と支援ニーズに関する調査研究事業」
報告書

発行日 2018 年 3 月 28 日

発行者 伊藤 嘉余子

(大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類 教授)

(大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 教授)

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科

TEL&FAX 072-254-9796

e-mail tki23040@osakafu-u.ac.jp